

英文契約書翻訳

Legal Transer 2010

ユーザーズ・ガイド

開封前に必ずお読みください。

本ソフトウェアは、お客様が下記のソフトウェア使用許諾契約にご同意いただいた場合にご提供いたします。このパッケージを開封する前に、下記の契約条項を十分にお読み下さい。

本ソフトウェアのパッケージを開封された場合は、勝手ながら、お客様が下記契約に同意いただいたものとし、本契約は成立します。パッケージ開封後は本契約に基づき直ちにユーザー登録を行ってください。ご登録ユーザー様に限り、バージョンアップその他のサポートをさせていただきます。

なお、本契約条項にご同意いただけない場合は、未開封のまま、速やかに本製品をお買い上げの販売店にご返却ください。

ソフトウェア使用許諾条項

株式会社クロスランゲージ（以下、クロスランゲージという）が作成したソフトウェア（以下、製品という）のご使用に当たり、お客様は以下の条項にご同意いただきます。

1. 本契約はお客様がパッケージを開封したときから発効します。
2. 製品の著作権などすべての権利は、明示的に付与したものを除きクロスランゲージに帰属します。クロスランゲージはお客様に対して、本条項に従って非独占的に使用できる譲渡不能の制限付き使用権を許諾します。
3. お客様は一台のコンピュータシステムでお客様自身に限り製品を使用することができます。なお、本ソフトウェアの使用者がお客様ご自身に限られている場合は、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件で、お客様のみが使用する他のコンピュータにインストールすることができます。
4. クロスランゲージはお客様に対して、以下のことを禁止します。
 - (1)お客様が製品を改変あるいはプログラムの解析(リバースエンジニアリング)をすること。
 - (2)お客様が第三者に対して、製品を譲渡または貸与すること。
5. お客様は製品の受け渡し日から一箇月以内にディスクや印刷物の物理的な障害を発見したときには、交換を要求することができます。
6. クロスランゲージは製品を使用した結果に関しては、いかなる保証もおこないません。また翻訳成果物を何がしかの編集をせず公表・販売・頒布することは著作権法に抵触する恐れがありますのでお止めください。
7. お客様が本条項に違反した場合は、クロスランゲージからの使用許諾権は、自動消滅するものとします。この場合、お客様は受領した製品の全て（バックアップを含めて）をクロスランゲージに返却していただきます。なお、返却のための費用はお客様で負担していただきます。

■ 著作権

本製品の仕様は、改良のために予告なく変更することがあります。

本製品を日本国外に携行するには、輸出貿易管理令等の関係法令にご留意ください。

Windows®, Microsoft Word, Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

本マニュアルおよび製品で使用している社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

CorrectEnglish English As a Second Language Writing System Copyright© 1995 by Learnout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

English Electronic Thesaurus© 1993 by Learnout & Hauspie Speech Products N.V. Adapted from the Oxford Thesaurus© 1991 by Oxford University Press and from Roget's II: The New Thesaurus© 1980 by Houghton Mifflin Company. All rights reserved. Reproduction or disassembly of embodied program and databases prohibited.

DMC TextFilter Ver.3.2 Copyright(c)1999-2001 Antenna House,Inc.

本製品には、内閣官房ホームページで公表された法令翻訳データ（2007年6月時点）を収録しています。

本製品の著作権：©株式会社クロスランゲージ

■ はじめに

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。本書では、製品の使い方や使用上の注意事項について記載しています。ご使用前に本書を一読の上、正しくお使いください。

■ 本書の構成

本書では「Legal Transer 2010」（以降、「Transer」と表記します）の機能を説明しています。Transerをはじめてお使いになる方は、ユーザーズ・ガイドの「基本操作編」を一読ください。「応用編」では、英→日、日→英翻訳の機能と操作方法をより詳しく説明しています。ユーザーズ・ガイドの最後には索引があります。

■ 翻訳結果について

基本語辞書や文法ルールは逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果は、本書の画面や説明文中にある翻訳結果とは必ずしも一致しません。翻訳結果は、翻訳に関する設定や学習機能によって訳語を変更している場合にも異なります。

■ 本書で使用している記号やマークについて

本書で使用している記号やマークは次のとおりです。

・ 記号について

[ファイル]	メニュー名を示します。
[ファイル]－[開く]	「ファイル」メニューの「開く」コマンドを選択することを示します。
〈登録〉	ダイアログボックスにあるボタン名を示します。
『 』	参照ページのタイトルを示します。（例）『1.2 動作環境』を参照してください。

・ マークについて



注意事項です。



ヒント

備考事項や補足説明です。

目 次

基本操作編	1
Transterについて	3
Transterの機能	4
Transterの起動	6
デスクトップのショートカット	6
「スタート」メニュー	9
Transterの終了	9
Transter入門	11
Transterを使った翻訳の流れ	12
テキストファイルの翻訳	13
ファイルの読み込みと翻訳	13
単語の対応と訳語の変更	15
訳語の学習	16
ユーザー辞書に単語を登録する	17
単語の登録	17
ユーザー辞書を使用して翻訳	18
翻訳結果を印刷する	18
翻訳結果の保存	19
翻訳メモリを使った翻訳	20
翻訳メモリの設定	21
翻訳メモリへ対訳文を登録する	22
ホームページの翻訳	26
Wordの翻訳	27
応用編	29
第 1 章 基本操作と画面	31
1.1 基本操作	32
1.1.1 マウスの操作	32
1.1.2 カーソルの移動と文字列の選択	33
1.1.3 各種機能の実行	34
1.2 キーボードから入力して翻訳する	37
1.2.1 文の入力	37

1.2.2 一文翻訳	38
1.2.3 文の分割	39
1.2.4 文の結合	39
1.3 Transer画面の表示	40
1.4 編集機能	42
1.4.1 元に戻す	42
1.4.2 切り取り・コピー・貼り付け	42
1.4.3 前処理貼り付け	43
1.4.4 片側改行挿入と結合	43
1.4.5 すべて選択	44
1.4.6 検索	45
1.4.7 置換	46
1.4.8 文番号へジャンプ	48
1.4.9 ブックマーク	49
1.4.10 オリジナル文	52
第 2 章 いろいろな翻訳機能	53
2.1 翻訳	54
2.1.1 一文翻訳	54
2.1.2 文書翻訳	55
2.1.3 翻訳できないケース	55
2.2 訳語対応と訳語変更	56
2.2.1 訳語対応	56
2.2.2 訳語変更	57
2.2.3 学習機能	59
2.3 品詞変更 英→日のみ	61
2.4 シソーラス 日→英のみ	63
2.5 ファイル翻訳	64
2.6 フレーズ翻訳	67
2.6.1 フレーズ指定と解除	67
2.6.2 一括フレーズ指定	69
2.6.3 英→日 フレーズ翻訳例	70
2.6.4 日→英 フレーズ翻訳例	72
2.7 英→日 オプション翻訳	73
2.7.1 タイトル翻訳	73
2.7.2 箇条書き翻訳	74
2.7.3 通常翻訳	74
2.8 日→英 オプション翻訳	75

2.8.1	主語を補う.....	75
2.8.2	受け身にする.....	76
2.8.3	主語を省略する.....	76
2.8.4	通常翻訳.....	76
2.9	別解釈 英→日のみ.....	77
2.10	ホームページの翻訳.....	78
2.10.1	翻訳の前に.....	78
2.10.2	ホームページを翻訳する.....	79
2.10.3	ホームページの翻訳検索.....	82
2.10.4	ホームページ翻訳の設定.....	85
2.10.5	アドイン機能の有効と無効.....	87
2.11	Microsoft Officeアドイン翻訳.....	88
2.11.1	Microsoft Officeの起動と翻訳.....	88
2.11.2	Wordの翻訳.....	89
2.11.3	Excelの翻訳.....	90
2.11.4	PowerPointの翻訳.....	91
2.11.5	辞書引き.....	92
2.12	メール翻訳.....	93
2.12.1	メールを翻訳する.....	93
2.12.2	メール翻訳の設定.....	95
2.13	PDFダイレクトファイル翻訳.....	96
2.13.1	PDFダイレクトファイル翻訳の実行.....	96
2.13.2	PDFダイレクトファイル翻訳の設定.....	96
2.13.3	PDFダイレクトファイル翻訳の有効と無効.....	97
2.13.4	PDFダイレクトファイル翻訳の制限事項.....	98
第 3 章	翻訳メモリ.....	99
3.1	翻訳メモリとは.....	100
3.1.1	翻訳メモリとは？.....	100
3.1.2	翻訳メモリの検索機能.....	101
3.1.3	ファイルの入出力.....	101
3.2	翻訳メモリの基本操作.....	102
3.2.1	翻訳メモリペイン.....	102
3.2.2	翻訳時に翻訳メモリを使用する.....	103
3.2.3	対訳文の登録.....	105
3.2.4	対訳文の検索.....	111
3.2.5	ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示.....	114
3.2.6	検索結果を翻訳エディタへ反映.....	114

3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択	115
3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する.....	120
3.4.1 対訳文の登録方法.....	121
3.4.2 対訳文の削除.....	122
3.4.3 完全一致文の登録.....	123
3.4.4 文型とタグ.....	123
3.4.5 英→日 名詞をタグにした文の登録.....	128
3.4.6 英→日 動詞をタグにした文の登録.....	129
3.4.7 英→日 形容詞をタグにした文の登録.....	130
3.4.8 英→日 副詞をタグにした文の登録.....	131
3.4.9 英→日 節や文をタグにした文の登録.....	132
3.4.10 日→英 生成情報を含む文型の登録.....	133
3.4.11 対訳文の一括登録.....	134
3.5 翻訳メモリの環境設定.....	136
3.5.1 検索オプション.....	136
3.5.2 登録情報.....	140
3.6 インポート.....	142
3.6.1 インポートできるファイルの種類.....	142
3.6.2 対訳ファイルの作り方.....	144
3.6.3 翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）.....	147
3.6.4 TMXファイルのインポート.....	149
3.6.5 翻訳メモリのマージ.....	150
3.6.6 ntm形式ファイル.....	151
3.7 エクスポート.....	152
3.7.1 エクスポートできるファイル形式.....	152
3.7.2 翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）.....	153
第 4 章 辞書の活用.....	155
4.1 辞書の構成.....	156
4.2 翻訳辞書の参照.....	157
4.3 外部辞書.....	160
4.4 未知語検索機能.....	161
4.4.1 未知語検索.....	161
4.4.2 未知語リスト出力.....	163
4.5 ユーザー辞書の作成と選択.....	165
4.6 専門語辞書の設定.....	174
4.6.1 辞書設定ダイアログから指定する.....	174
4.6.2 専門語辞書自動選択機能で指定する.....	175

4.6.3 英→日専門語辞書の優先順位	177
4.7 用語の表示と訳語の変更	178
4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する	182
4.8.1 辞書登録ダイアログ	183
4.8.2 詳細登録モード	186
4.8.3 見出し語、訳語が記号を含む場合	187
4.8.4 名詞の登録	187
4.8.5 動詞の登録	192
4.8.6 形容詞の登録	213
4.8.7 副詞の登録	221
4.8.8 従属接続詞の登録	223
4.8.9 前置詞の登録	224
4.8.10 単位の登録	226
4.8.11 固有名詞の登録	227
4.8.12 「登録内容」を直接編集する	229
4.8.13 登録内容に対する自動処理	230
4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する	231
4.9.1 辞書登録ダイアログ	231
4.9.2 詳細登録モード	235
4.9.3 名詞の登録	236
4.9.4 動詞の登録	247
4.9.5 形容詞および形容動詞の登録	254
4.9.6 副詞の登録	259
4.9.7 格助詞の登録	266
4.9.8 連体助詞の登録	267
4.10 ユーザー辞書ブラウザ	268
4.11 ユーザー辞書の一括登録と変換	270
4.11.1 CSVフォーマットとTSVフォーマット	270
4.11.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する	271
4.11.3 ユーザー辞書をテキストファイルに変換する	277
4.11.4 Excelを利用したユーザー辞書の作成	278
4.11.5 英⇄日変換	284
4.11.6 辞書変換の制限	286
4.11.7 エラー情報ファイル	288
第 5 章 文書の入出力	289
5.1 文書の入力	290
5.1.1 ファイルを開く	290

5.1.2	ファイルを開く際の注意事項	293
5.1.3	新規文書の作成	294
5.1.4	文書の挿入	295
5.1.5	英→日 文の基準	296
5.1.6	日→英 文の基準	298
5.2	保存	299
5.2.1	ファイルの保存	299
5.3	フィルタ	302
5.3.1	フィルタファイルの準備	302
5.3.2	フィルタを利用してファイルを読み込み	303
5.3.3	フィルタを利用してファイルを保存	304
5.3.4	フィルタの新規作成	305
5.3.5	フィルタファイルの書式	305
5.4	印刷	307
5.4.1	プリンタの設定	307
5.4.2	ページ設定	308
5.4.3	印刷プレビュー	310
5.4.4	印刷	310
第 6 章	環境の設定	311
6.1	翻訳に関する設定	312
6.1.1	翻訳設定	313
6.1.1.1	翻訳設定ダイアログ	313
6.1.1.2	英→日 翻訳	314
6.1.1.3	英→日 訳の指定	317
6.1.1.4	日→英 翻訳	320
6.1.1.5	英文チェック	323
6.1.2	スタイルの作成と更新	325
6.2	環境設定	327
6.2.1	フォントと配色	328
6.2.2	書式	330
6.2.3	ブックマーク	331
6.2.4	訳振り/逆翻訳	332
6.2.5	Web検索	333
6.2.6	システム共通	335
6.2.7	一括設定	337
6.3	ツールバーカスタマイズ	338
6.4	アクセラレーターキー	341

第 7 章 その他の機能	343
7.1 翻訳パレット	344
7.1.1 翻訳パレットの起動と終了	344
7.1.2 翻訳エディタ	345
7.1.3 キャプチャ翻訳	347
7.1.3.1 キャプチャ翻訳の実行	347
7.1.3.2 キャプチャ翻訳の編集作業と表示機能	349
7.1.4 ワンポイント翻訳	350
7.1.5 辞書参照ツール	351
7.1.6 ロボワード辞書検索	352
7.1.7 ロボワードワンタッチ翻訳	353
7.1.8 ロボワードスピーチ	354
7.1.9 OCR	355
7.1.10 翻訳パレットの設定	355
7.1.10.1 パレットの設定	356
7.1.10.2 その他の設定	357
7.1.11 ツールの設定	357
7.1.11.1 OCR設定 キャプチャ翻訳のみ	358
7.1.11.2 常駐機能	359
7.1.11.3 フォント	360
7.1.11.4 その他	360
7.2 訳振り	361
7.3 逆翻訳	362
7.4 Web検索	363
7.4.1 検索エンジンの指定	363
7.4.2 キーワードを指定してWeb検索を実行する	363
7.4.3 Web検索の翻訳／辞書	365
7.4.4 Web検索ページを開く	365
7.5 定義語	366
7.6 頻度リスト出力	369
7.7 英文チェック	372
7.8 翻訳ロックとロック解除	374
7.9 ユーザーロックとロック解除	374
7.10 スクリプト	375
7.10.1 スクリプトのタイプ	375
7.10.2 スクリプトの実行	376
7.10.3 英→日 前処理と後処理スクリプト	377

7.10.4 日→英 前処理と後処理スクリプト	379
7.11 アップデート.....	380
7.12 ヘルプ	382
第 8 章 翻訳文の作りかた	383
8.1 原文編集と制御コード	384
8.1.1 ファイルを読み込むときに使われる制御コード.....	384
8.1.2 翻訳エディタで使える制御コード	387
8.2 構文解析情報の表示	389
8.3 文の解析と括弧の処理について	390
8.3.1 一般規則	390
8.3.2 括弧書きの処理	390
付録.....	391
付録1 Officeの起動時に「セキュリティの警告」.....	392
付録2 辞書と翻訳メモリの共有	396
付録2.1 共有とは	396
付録2.2 共有設定の流れ.....	398
付録2.3 ユーザー辞書・翻訳メモリを共有ファイルとして公開する.....	399
付録2.4 共有ファイルを使用して翻訳	401
付録2.5 共有ファイルの更新	403
付録2.6 共有ファイルの再読み込み.....	404
付録2.7 共有ファイルの確認	404
付録2.8 共有ファイルの共有解除	406
付録2.9 辞書の保存場所の変更と削除	406
付録2.10 管理者と利用者.....	407
付録2.11 注意事項	409
付録3 HTMLファイルの翻訳	410
付録3.1 HTMLファイル読み込み時の処理	410
付録3.2 HTMLファイルを開く	411
付録3.3 タグフレーズ	412
付録3.4 HTMLファイルの翻訳	413
付録3.5 タグフレーズの編集	413
付録3.6 HTMLファイルの翻訳結果.....	414
付録3.7 HTMLファイル読み込み時の基本設定.....	415
付録3.8 HTMLファイル読み込み時のエラー	417
付録4 フォルダ構成とホームディレクトリ.....	418
付録5 Transerが作成するファイル	420

付録5.1 英→日が作成するファイル	420
付録5.2 日→英が作成するファイル	422
付録6 CROSS OCR	424
付録6.1 CROSS OCRの準備	424
付録6.1.1 CROSS OCRの概要	424
付録6.1.2 認識可能なデータ	425
付録6.1.3 CROSS OCRの起動と終了	425
付録6.1.4 CROSS OCRの画面	426
付録6.1.5 CROSS OCRの操作の流れ	427
付録6.1.6 CROSS OCRをはじめる前に	428
付録6.2 CROSS OCRの基本操作	428
付録6.2.1 スキャナから原稿の読み込み	428
付録6.2.2 文字認識の実行	432
付録6.2.3 認識結果の修正	433
付録6.2.4 認識結果の保存	434
付録6.3 リファレンス	435
付録6.3.1 画像の読み込みと編集	435
付録6.3.1.1 スキャナから原稿の読み込み	435
付録6.3.1.2 画像ファイルの読み込み	438
付録6.3.1.3 画像の編集	442
付録6.3.2 画像の領域解析	450
付録6.3.2.1 手動で領域を設定する	450
付録6.3.2.2 自動領域解析	450
付録6.3.2.3 領域のプロパティ	451
付録6.3.2.4 テンプレートファイルの読み込みと保存	452
付録6.3.2.5 認識領域の編集	453
付録6.3.2.6 領域設定	455
付録6.3.3 文字認識	456
付録6.3.3.1 認識	456
付録6.3.3.2 バイリンガル認識	458
付録6.3.3.3 連続認識	459
付録6.3.3.4 認識ウィザード	463
付録6.3.3.5 印刷	464
付録6.3.4 保存と転送	466
付録6.3.4.1 認識結果の保存	466
付録6.3.4.2 認識結果の転送	467
付録6.3.4.3 画像ファイルの保存	468
付録6.3.5 認識結果の編集	469

付録6.3.5.1	候補文字に置き換える.....	469
付録6.3.5.2	文字分割	472
付録6.3.5.3	文字結合	475
付録6.3.5.4	一括置換	476
付録6.3.5.5	その他の編集機能.....	477
付録6.3.5.6	パターン登録.....	479
付録6.3.6	環境の設定.....	481
付録6.3.6.1	環境設定ダイアログ	481
付録6.3.6.2	表示タブ	482
付録6.3.6.3	領域処理タブ	483
付録6.3.6.4	認識処理タブ	484
付録6.3.6.5	編集書式設定タブ.....	486
付録6.3.6.6	その他タブ.....	487
付録7	エラーメッセージ	488
付録8	インストール時のエラーについて	490

基本操作編

基本操作編では、Transerの特徴、機能、基本的な操作方法について説明しています。操作手順については例文を用いて説明していますので、実際にTranserを操作しながら本編をご一読ください。

Transerについて

この章の内容

この章では、Transerの機能、起動と終了方法について説明します。

Transerの機能

Transerは、契約書用の英日・日英翻訳ソフトです。契約書用にチューニングした翻訳エンジンと基本語辞書、契約書翻訳に関わる専門語辞書を搭載しています。また、訳語変更、フレーズ単位の翻訳、ユーザー辞書の構築など翻訳結果を修正する機能も提供しています。

Transerの特徴は以下のとおりです。

機能	内容	参照先
契約書翻訳用辞書	契約書に特化して作成した「基本語辞書」と「契約書専門語辞書」、「法律専門語辞書」、「ビジネス専門語辞書」を標準搭載しています。	4.1 辞書の構成
契約書用前処理／後処理	文書を読み込む際の文の分割と、ファイルに保存する際の文の結合など契約書に特化した処理が搭載されています。	7.10 スクリプト
翻訳エディタ	翻訳エディタでは、テキストファイルの翻訳、翻訳結果を適切な訳語に変更する訳語変更、変更した訳語を学習して次の翻訳に活用する学習機能、辞書に登録のない単語や訳語に登録するユーザー辞書登録などを実行できます。	Transer入門
翻訳メモリ	翻訳資産を活用する「翻訳メモリ」機能が搭載されています。 翻訳メモリとは、よく使われる表現を対訳文で登録し、人による翻訳資産と機械翻訳を融合させる技術です。Transer独自の文型一致文も登録されており、タグ部分に異なる語句が含まれると機械翻訳で補います。 本機能は、プロフェッショナルのみに搭載されています。	第 3 章 翻訳メモリ
ファイル翻訳	「ファイル翻訳」機能を使うと、複数ファイルを連続して翻訳できます。テキストファイルのほかにHTMLファイルとPDFファイルも翻訳できます。	2.5 ファイル翻訳
Microsoft Office アドイン翻訳	Microsoft Office 2007に対応したアドイン翻訳では、アプリケーションに登録されたボタンをクリックするだけでWord, Excel, PowerPointに読み込んだ文書を翻訳したり、辞書引きを行うことができます。	2.11 Microsoft Office アドイン翻訳
ホームページの翻訳	Internet Explorerで表示したWebページを、レイアウトはそのまま、本文のみを翻訳して、翻訳結果のWebページを作成します。	2.10 ホームページの翻訳

機能	内容	参照先
メール翻訳	Windowsメール（Vista）またはOutlook Express（XP）で受信した英文メールを日本語に翻訳、また、返信用に作成した日本語メールを英語に翻訳することができます。	2.12 メール翻訳
PDFダイレクトファイル翻訳	PDFファイルのアイコンを右クリックし、英日/日英翻訳を選択するだけで、オリジナルPDFのイメージを保ってダイレクトに翻訳します。	2.13 PDFダイレクトファイル翻訳
辞書参照	TranSerが起動している場合は翻訳エディタで、TranSerが起動しないときは辞書参照ツールで、基本語辞書や翻訳で使用している専門語辞書の辞書引きを行えます。 翻訳パレットでは〈ロボワード辞書検索〉や〈ロボワードワンタッチ翻訳〉でWebページや他のアプリケーションにある語句を調べたり翻訳することができます。	4.2 翻訳辞書の参照 7.1.5 辞書参照ツール 7.1.6 ロボワード辞書検索 7.1.7 ロボワードワンタッチ翻訳
訳振り	語句に訳語ルビを表示するので、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。	7.2 訳振り
逆翻訳	翻訳結果を逆方向に翻訳します。逆翻訳を実行することにより翻訳結果の精度を確認することができます。	7.3 逆翻訳
キャプチャ翻訳	画像化された文字部分を文字認識して、翻訳を同時に実行するツールです。	7.1.3 キャプチャ翻訳
文字認識	OCRソフトではスキャナから取り込んだ画像ファイルの文字認識を実行することができます。	7.1.9 OCR
読み上げ	ロボワードスピーチでは「文章読み上げウィンドウ」に入力した文章を、読み上げます。	7.1.8 ロボワードスピーチ

Transerの起動

ここでは、Transerに搭載されているアプリケーションの起動方法を説明します。

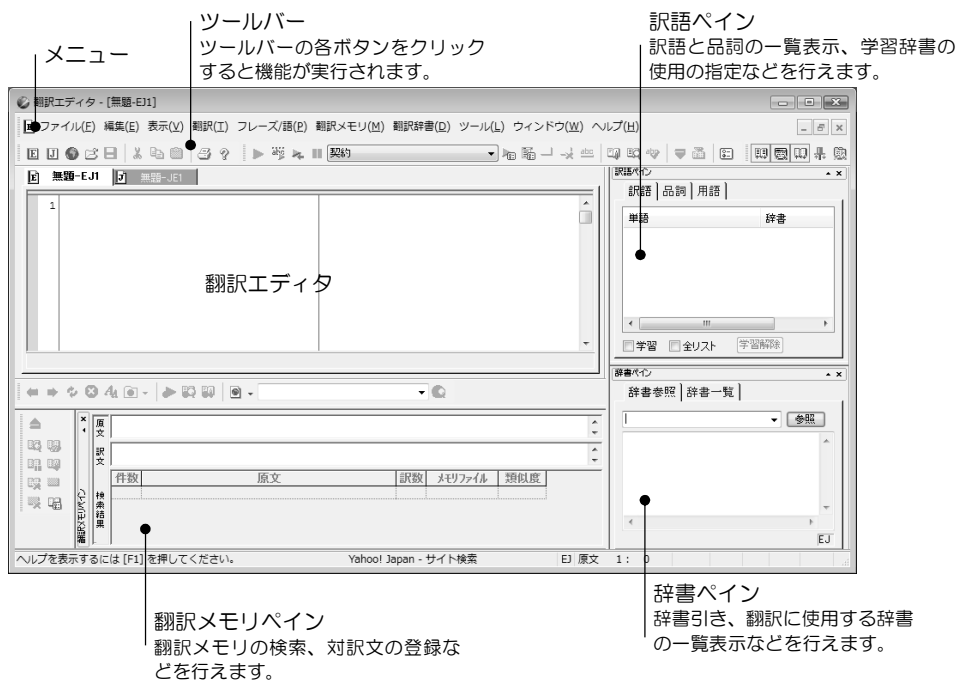
デスクトップのショートカット

デスクトップには、以下のショートカットが作成されます。各アイコンをダブルクリックすると対応するアプリケーションが起動します。

- Legal Transer 2010 
- Legal Transer 2010 翻訳パレット 

● Transerの起動画面

Transerが起動すると次の翻訳エディタが表示されます。



● 翻訳エディタ

英→日翻訳は、次の翻訳エディタで行います。



翻訳エディタでは、左に原文、右に訳文が表示されます。
ここでは、英→日を例にしていますが、日→英の翻訳エディタも名称は同様です。

- 翻訳パレット

翻訳パレットが起動すると、次のツールバーが表示されます。



翻訳パレットには、以下の機能があります。

① 翻訳エディタ

翻訳エディタを起動し、英→日翻訳、または日→英翻訳を実行します。
任意のアプリケーションの文章を選択してこのボタンをクリックすると、
Transerが起動して、自動的に文書が貼り付き、翻訳が実行されます。

② キャプチャ翻訳

画像データを文字認識し、抽出した文章を翻訳します。

③ ワンポイント翻訳

Transerを起動しないで、翻訳を実行できます。

④ 辞書参照ツール

辞書参照ツールを起動して、翻訳で使用する辞書の辞書引きを行います。

⑤ ロボワード辞書検索

ホームページページや他のアプリケーションにわからない単語があった場合、このボタンで簡単に辞書が引けます。

⑥ ロボワードワンタッチ翻訳

ホームページページや他のアプリケーションにある語句の辞書引きや文の翻訳を実行できます。

⑦ ロボワードスピーチ

「文章読み上げウィンドウ」に入力した文章を、スピーカーから読み上げます。

⑧ OCR

OCRソフト「CROSS OCR JE」を起動し、英語と日本語の文字認識を実行します。

⑨ 設定

翻訳パレットに表示するボタンの指定、翻訳パレットのバージョンの確認を行います。

「スタート」メニュー

タスクバーの「スタート」ボタンをクリックして[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]とたどると、Transer関連のメニューが表示されます。Transer、翻訳パレットはここからも起動できます。

Transerのヘルプは、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択すると起動します。

また、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[日英翻訳のコツ]を選択すると、日英翻訳の精度を向上させるための「日英翻訳のコツ」が表示されます。

Transerの終了

● Transerの終了

[ファイル]－[閉じる]を選択すると、翻訳中の文書のウィンドウを閉じることができます。[ファイル]－[アプリケーションの終了]を選択するとすべてのウィンドウを閉じてTranserを終了します。

● 翻訳パレットの終了

翻訳パレットの右上にある閉じるボタンをクリックすると、終了します。

Transer入門

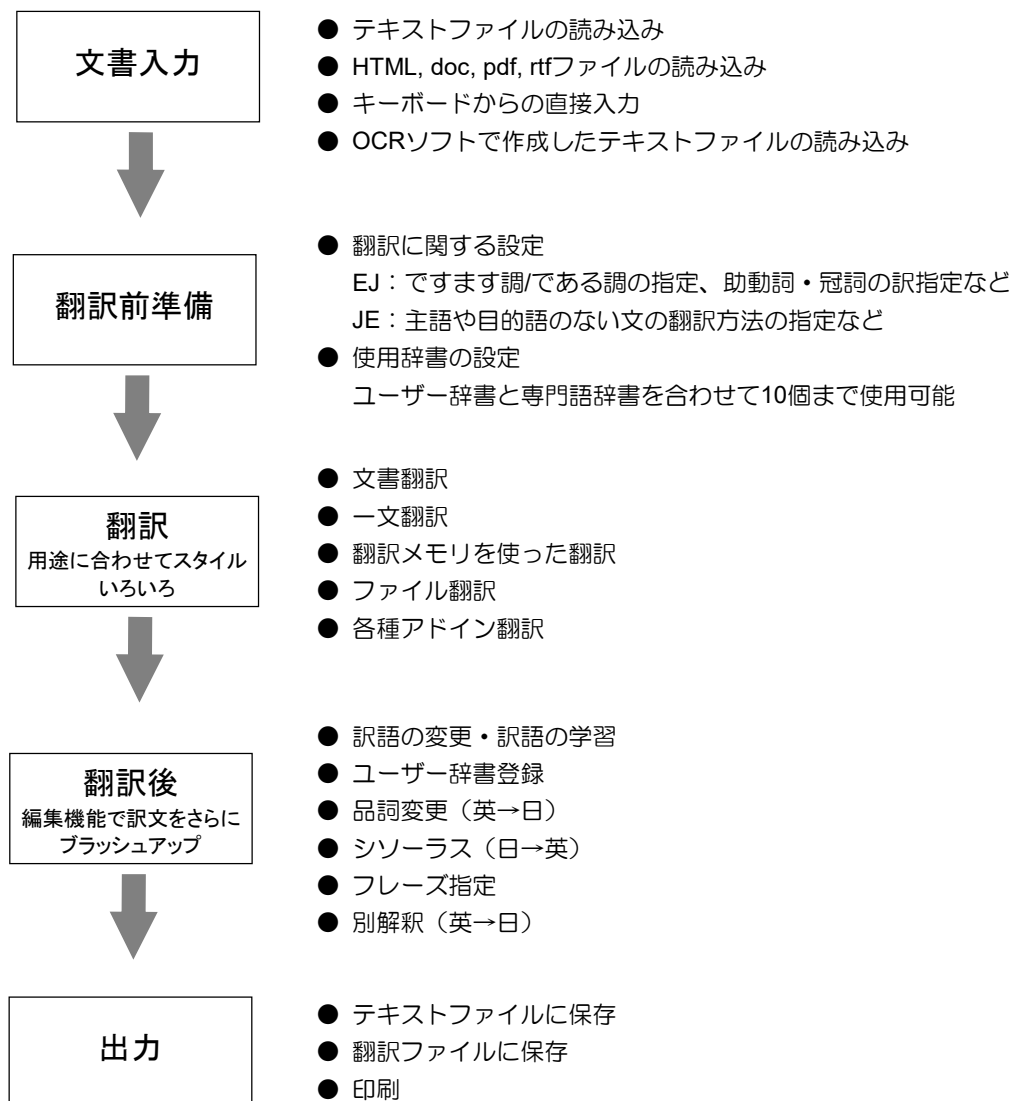
この章の内容

この章では、Transerの基本的な機能であるテキストファイルの翻訳、ホームページの翻訳、「翻訳メモリ」を使用した翻訳方法、Word文書の翻訳について例をあげて説明します。

英→日を例にして説明していますが、日→英の場合も操作は同じです。

TranSerを使った翻訳の流れ

TranSerを使った翻訳の流れは次のようになります。



テキストファイルの翻訳

Transterに添付されている練習用ファイルAgreement.txtを使って、文書ファイルを読み込み、一括で翻訳する手順を説明します。

ファイルの読み込みと翻訳

練習用ファイル「Agreement.txt」は、次の場所に保存されています。

Windows 7：[ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]→[learn]

Vista：[ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]→[learn]

XP：[マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]→[learn]

このファイルを読み込みます。

手順

1. [ファイル]ー[開く]を選択します。

開くダイアログが表示されます。

2. 「ファイルの場所」をlearnフォルダに変更します。

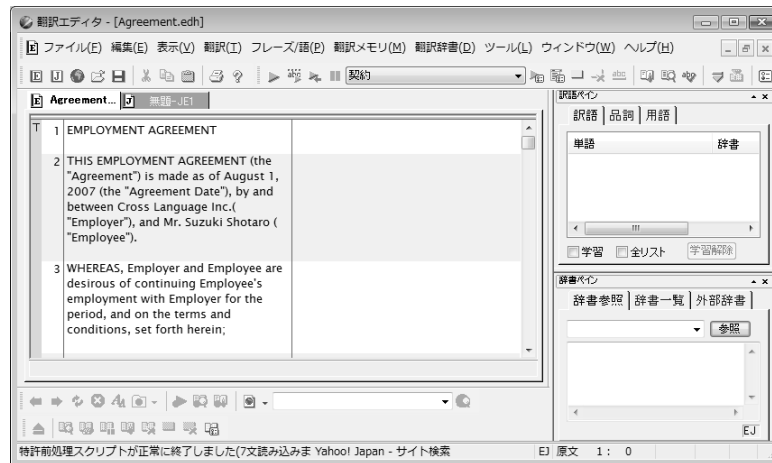
ファイル名リストの中にAgreement.txtが表示されます。



3. Agreement.txtをダブルクリックします。

Agreement.txtが翻訳エディタの左側にある原文エリアに表示されます。

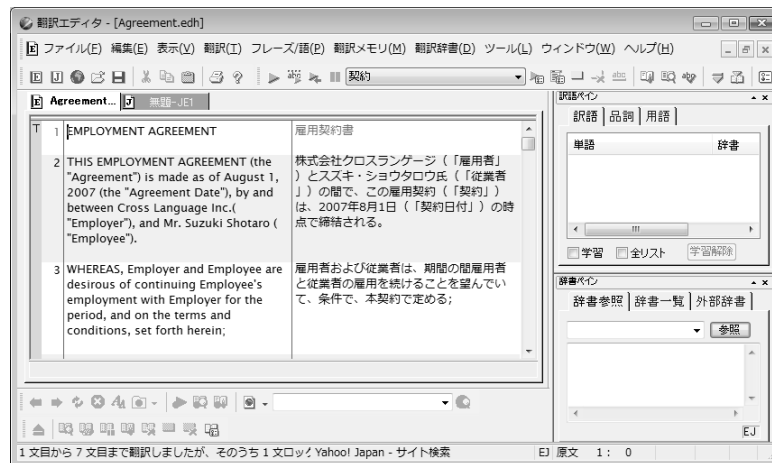
「定義語を抽出する」チェックボックスがオンの場合、翻訳するファイルで定義されている語句を抽出することができます。定義語については『7.5 定義語』を参照してください。



この文書を翻訳します。

4. カーソルが文書の先頭にあることを確認して、ツールバーのをクリックします。

翻訳が開始され、翻訳結果が訳文エリアに表示されます。



単語の対応と訳語の変更

翻訳結果を確認します。英→日には、英文の単語がどのように翻訳されたか、あるいは逆に訳語はどの単語の訳なのか簡単にかかる「訳語対応」機能と、翻訳結果の訳語をより適切な訳語に変更する「訳語変更」機能があります。はじめに「訳語対応」の機能について説明します。

手順

1. 任意の単語をダブルクリックする（マウスの左ボタンを2回続けて押す）と「訳語対応」が実行されます。たとえば、文番号2の"EMPLOYMENT AGREEMENT"をダブルクリックします。

"EMPLOYMENT AGREEMENT"が反転表示すると同時に対応する訳語の「雇用契約」も反転表示します。

2	THIS EMPLOYMENT AGREEMENT (the "Agreement") is made as of August 1, 2007 (the "Agreement Date"), by and between Cross Language Inc. ("Employer"), and Mr. Suzuki Shotaro ("Employee").	株式会社クロスランゲージ（「 雇用者 」）とスズキ・ショウタロウ氏（「 従業員 」）の間で、この 雇用契約 （「 契約 」）は、2007年8月1日（「 契約日付 」）の時点で締結される。

2. 次に訳語をダブルクリックします。たとえば、同じ文の「雇用者」をダブルクリックします。

「雇用者」が反転表示すると同時に対応する英単語の"Employer"も反転表示します。

2	THIS EMPLOYMENT AGREEMENT (the "Agreement") is made as of August 1, 2007 (the "Agreement Date"), by and between Cross Language Inc. (Employer), and Mr. Suzuki Shotaro ("Employee").	株式会社クロスランゲージ（「 雇用者 」）とスズキ・ショウタロウ氏（「 従業員 」）の間で、この雇用契約（「 契約 」）は、2007年8月1日（「 契約日付 」）の時点で締結される。

次に「訳語変更」機能を確認します。

3. 任意の単語をトリプルクリックする（マウスの左ボタンを3回続けて押す）と「訳語変更」が実行されます。たとえば、同じ文のEmployeeをトリプルクリックします。

対応する訳文エリアの「従業員」が反転し、訳語の一覧が表示されます。

Employee	字源 ON
☒ 従業員	←【法律 辞書】
☐ 被雇用者	←【法律 辞書】
☐ 従業員	←【法律 辞書】
☐ 職員	←【法律 辞書】
☐ 使用人	←【法律 辞書】
☐ 就業者	←【法律 辞書】
☐ 被用者	←【法律 辞書】
☐ 労働者	←【法律 辞書】
☐ 従業員	←【ビジネス 辞書】
☐ 被雇用者	←【ビジネス 辞書】
☐ (~の) 従業員 < (of ~) >	
☐ スタッフ < (of ~) >	
☐ (~の) 職員 < (of ORGANIZATION) >	
☐ 職員	
☐ 被雇用者	
☐ 使用人	

4. たとえばこの中から「従業員」をクリックします。

訳文エリアの「従業員」が「従業員」に変わり、訳語の文字色は濃い赤で表示されます。

Employeeをダブルクリックして変更した訳語を確認してください。

2	THIS EMPLOYMENT AGREEMENT (the "Agreement") is made as of August 1, 2007 (the "Agreement Date"), by and between Cross Language Inc. ("Employer"), and Mr. Suzuki Shotaro ("Employee").	株式会社クロスランゲージ（「雇用者」）とスズキ・ショウタロウ氏（「従業員」）との間で、この雇用契約（「契約」）は、2007年8月1日（「契約日付」）の時点で締結される。



初期状態で、学習した訳語の文字色は濃い赤で表示されます。学習した訳語の文字色は、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]の「学習辞書」で変更できます。



訳語対応を実行すると、辞書ペインには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示されます。また、訳語ペインには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。



初期状態では、マウスカーソルを置くだけで訳語対応が実行されます。この機能をオフにする場合は、[ツール]－[環境設定]－[書式]を選択し、「マウスカーソル位置の訳語対応を強調する」チェックボックスをオフにしてください。

訳語の学習

訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにして訳語変更を行うと、訳語が学習されます。次回の翻訳でその単語が同じ使われ方をした場合は、学習された訳が表示されます。

「訳語変更」で変更したEmployeeが「従業員」という訳語に学習されているかを確認します。

手順

1. 文番号2の"Employee"をダブルクリックします。

訳語ペインの先頭に訳語変更を実行した語句が表示され、辞書には「学習」と表示されます。これは、この訳語が学習されて、学習辞書から出典されていることを意味します。



文番号3にも"Employee"が使用されています。

2. 文番号の「3」をクリックします。

その文のみの翻訳が実行されます。

3. "Employee"をダブルクリックします。

対応する訳が前章で学習させた「従業員」になっていることを確認できます。



【翻訳】－【翻訳設定】－【辞書】で、「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにして訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。同様に、訳語ペインで「学習」チェックボックスをオフにしてから訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。



「学習をしない」で訳語変更をすると、文番号の前にロック（🔒）がつきます。誤って翻訳をした場合、変更した訳語が元に戻ってしまうのを防ぐためです。

ユーザー辞書に単語を登録する

「基本語辞書」にない単語や訳語を「ユーザー辞書」に登録して、翻訳結果に反映することができます。

単語の登録

ここでは、例としてユーザー辞書に"respective"を「各自の」と登録します。

手順

1. 文番号4の"respective"をダブルクリックします。

respectiveが反転表示され、ステータスバーには、respectiveの品詞が「形容詞」と表示されます。

2. ツールバーのをクリックするか、【翻訳辞書】－【登録】を選択します。

辞書登録ダイアログが表示され、「見出し語」に"respective"、「品詞」に「形容詞」が自動的に入力されます。

3. 「訳語」に「各自の」と入力します。

4. 正しく入力したら、〈登録〉をクリックし、続けて〈閉じる〉をクリックします。

これで、ユーザー辞書に登録されました。

ユーザー辞書を使用して翻訳

登録したユーザー辞書を使って翻訳を実行します。文番号の「4」をクリックし、一文翻訳を実行すると以下の結果が表示されます。

4 NOW, THEREFORE, in consideration of the premises and the <u>respective</u> covenants and agreements of the parties herein contained, and intending to be legally bound hereby, the parties hereto agree as follows.	よって、建物および本契約書に記載する両当事者および法的に縛られていることを意図すること各自の約束および合意を約因として、両当事者は以下の通り合意する：

メモ 翻訳結果の単語の場所を明確にするために上記の例では、respectiveをダブルクリックして単語の対応を表示しています。

翻訳する文書によく使われている固有名詞や言い回しを登録し専用のユーザー辞書を作成すると、翻訳精度を向上させることができます。

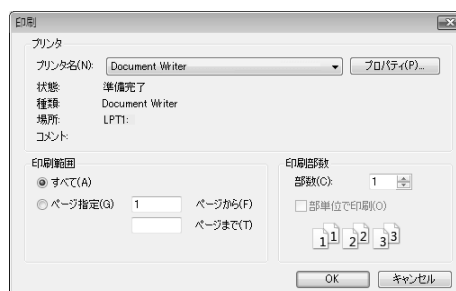
翻訳結果を印刷する

翻訳結果を印刷します。

手順

1. 【ファイル】－【印刷】を選択します。

印刷ダイアログが表示されます。



2. 〈OK〉をクリックします。

印刷が開始されます。印刷の進捗状況を示すダイアログが表示され、しばらくするとプリンタから結果が出力されます。

中止する場合は、〈キャンセル〉をクリックしてください。



初期状態のまま印刷を実行すると、翻訳エディタに表示されている対訳文が印刷されます。原文の印刷、訳文の印刷、ヘッダやフッタの変更などは、[ページ設定]で行います。印刷については、『5.4 印刷』を参照してください。

翻訳結果の保存

翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存することができます。

● 翻訳ファイルの保存

翻訳ファイルを作成する手順は以下のとおりです。

手順

1. [ファイル]－[名前を付けて保存]を選択します。

「ファイル名」にAgreement.edhと表示され、「ファイルの種類」には「翻訳ファイル」と表示されます。



2. 「保存」をクリックします。

これで、「翻訳ファイル」として保存されました。翻訳ファイルには原文と訳文だけでなく単語の対応、訳語の変更など翻訳に使用された情報も保存されています。Transer 英→日でこのファイルを開くと、翻訳作業を継続できます。

● 訳文の保存

翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存する手順は以下のとおりです。

手順

1. 「ファイル」―「名前を付けて保存」を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。
2. 「ファイルの種類」で「訳文ファイル」を選択します。



3. 「ファイル名」が「Agreement.j.txt」となっていることを確認して、〈保存〉をクリックしてください。

これで、「訳文ファイル」として保存されました。訳文ファイルはテキストファイルなので、ワープロやエディタに読み込むことができます。

翻訳メモリを使った翻訳

翻訳メモリとは、原文と訳文の対訳文を登録したもので、翻訳する原文に対して、登録されている文と完全に一致する文か、類似している文なのか、文型が同じかなどの条件を設定して、翻訳に役立てることができます。翻訳メモリには、必要に応じてユーザーが対訳文を登録することもできます。

また、定型文には、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

ここでは、翻訳メモリの登録方法とこれを使った翻訳の説明をします。翻訳メモリの詳細に関しては、『第 3 章 翻訳メモリ』を参照してください。

プロフェッショナルの機能

本機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

翻訳メモリの設定

翻訳に翻訳メモリを使うためには、翻訳メモリの設定ダイアログで使用する翻訳メモリを指定して、次に英→日の設定ダイアログで翻訳メモリをどのような検索方法で翻訳に使用するかを指定します。翻訳メモリの変更方法については、『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

● 翻訳メモリの指定

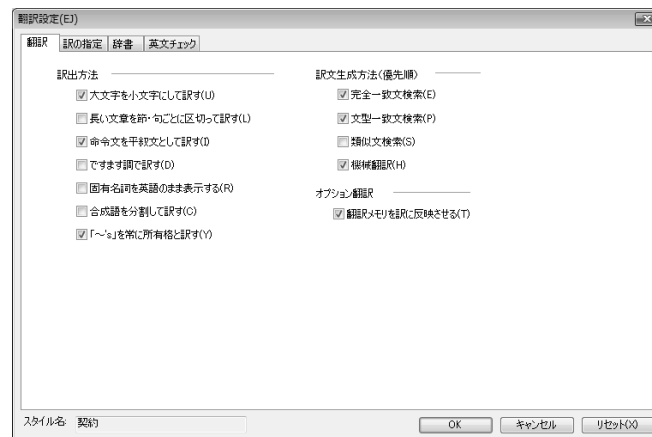
初期状態で使用する翻訳メモリには、契約翻訳メモリ、内閣官房法令翻訳データ翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリに「ユーザー翻訳メモリ」が指定されています。

● 翻訳メモリの検索方法の指定

翻訳メモリの検索方法の指定は、英→日の翻訳設定ダイアログにある「翻訳」タブで指定します。翻訳設定ダイアログは、[翻訳]―[翻訳設定]を選択すると、表示されます。翻訳設定ダイアログにある、「訳文生成方法（優先順）」のチェック項目をオンにすると、翻訳で翻訳メモリが使用されます。

初期状態では、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」がオンになっています。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

完全に一致する文が見つからなかった場合、「文型一致文検索」が実行され、文型の同じ文が見つからなかった場合は、「機械翻訳」が実行されます。



つまり、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」の順に検索が実行されます。

翻訳メモリへ対訳文を登録する

対訳文を翻訳メモリに登録する方法を説明します。

● タグを含む文

翻訳メモリでは、変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名= >」でくくって登録できます。

たとえば以下の文を機械翻訳するとその下の訳になります。

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.

訳文：私は、10月1日にファックスで2部のあなたのカタログを注文した。

この文を以下のように登録します。

I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on <\$日付=October 1>.

タグで囲まれた部分が変更された場合に、文型一致文検索を実行すると、変更された部分を翻訳してから検索結果を表示したり、翻訳結果として翻訳エディタに貼り付けることができます。

● 名詞をタグにする（もっとも基本的な形）

翻訳メモリのもっとも単純な使い方は、名詞をタグにするものです。

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のよう訳されます。

原文：It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳結果：新しい方法を提供することは、本論文のもう一つの目的である。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

It is <\$1=another object> of this paper to provide <\$2= the new method>.

登録する訳文

本紙の<\$1=他の目的>は、<\$2=新しい方法>を提供することである。

次に文型一致文検索をオンにして翻訳を実行します。

原文1

It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。

また次の例はその下のように翻訳されます。

原文2

It is another advantage of this paper to provide the connection means.

翻訳メモリを使った翻訳結果2

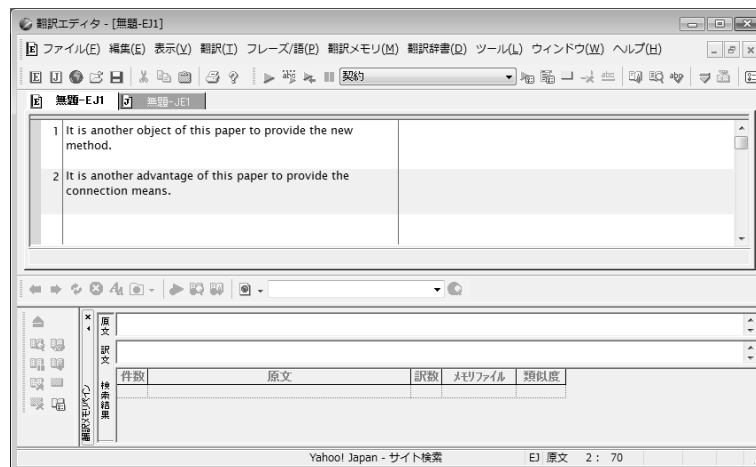
本紙のもう一つの利点は、接続手段を提供することである。

登録手順は以下のとおりです。

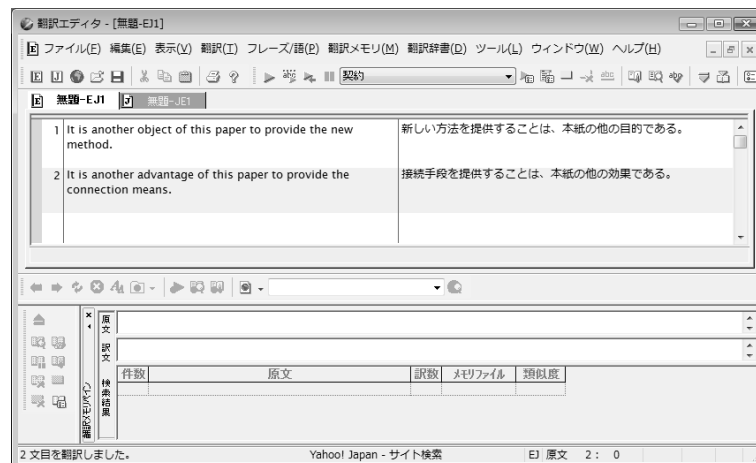
手順

1. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。

この例では、"It is another object of this paper to provide the new method."と入力してEnterを押して、新しい文番号に"It is another advantage of this paper to provide the connection means."と入力します。



2. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



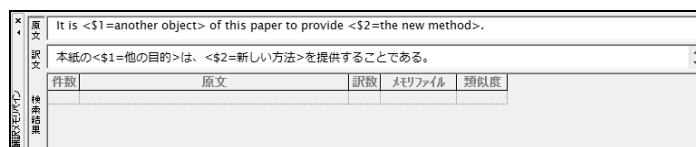
直訳なので、前述のようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

3. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてカーソルを置きます。続いて▼をクリックします。

翻訳メモリペインに、翻訳エディタのカーソル位置の対訳文が読み込まれます。



4. 原文にタグを指定します。タグ指定したい単語にカーソルを置いて〈タグ指定〉■をクリックすると、タグで囲まれます。複合語をタグ指定する場合は、文字列を選択して■をクリックします。
まず、another objectを選択して■をクリックします。次に、the new methodを選択して■をクリックします。
5. 訳文に翻訳結果を入力します。
この例では、「本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。」と入力します。次に「他の目的」を選択して■をクリック、「新しい方法」を選択して■をクリックします。



メモ 原文と訳文においてタグの数、タグ名は1対1で対応しなければなりません。

6. 原文と訳文を正しく入力したら、〈対訳文を登録〉■をクリックします。

次のダイアログが表示されます。

登録先: 【ユーザー翻訳メモリ】C:\Users\Admin\Documents\CrossLanguage\Legal\dis

原文: It is <\$1=another object> of this paper to provide <\$2=the new method>.

訳文: 本紙の<\$1=他の目的>は、<\$2=新しい方法>を提供することである。

作成者(A): CL 登録日時(D): 2009/09/08 10:19:53

文書名(F): 無題 翻訳フラグ(T): ☐ 機械翻訳(M) ☒ 人間訳(H)

コメント:

☐ 次回からこの確認画面を表示しない

登録 キャンセル

7. 〈登録〉をクリックします。

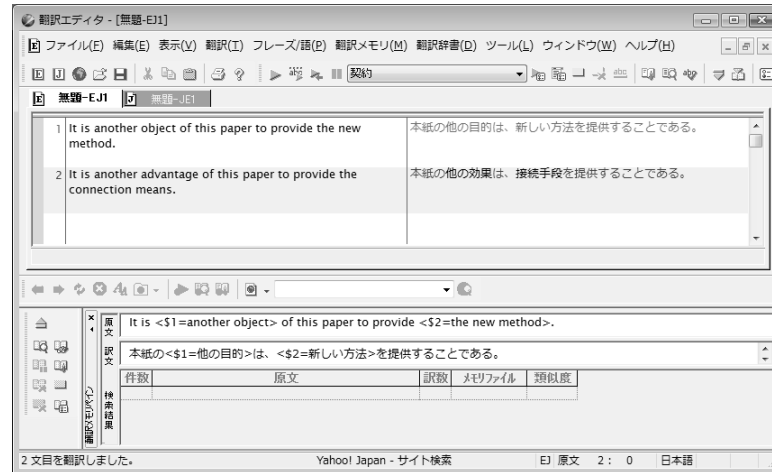
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

次に、翻訳を実行します。

8. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



文番号の色と訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に完全に一致しているため、「完全一致」文の色になります。

2番目の文は文型一致しているので、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色は「文型一致」で指定した色、タグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。

メモ 文番号と訳文の色の指定は、[ツール]—[環境設定]—[フォントと配色]で行います。



ヒント

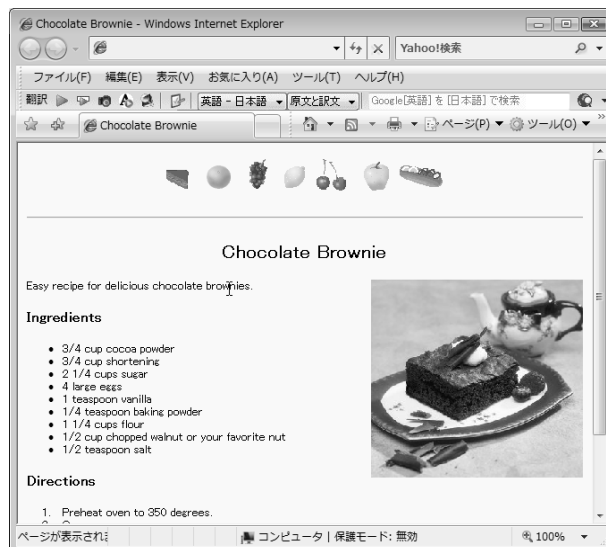
この対訳は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

ホームページの翻訳

「ホームページ翻訳」機能は、ブラウザに表示した文章を、画像や表などのレイアウトを変えないで翻訳します。



1. Internet Explorerで翻訳するページを表示します。



2. 翻訳する言語ペアを選びます。ツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから言語ペアを選びます。
3. 「原文と訳文」の横の▼をクリックし、翻訳結果の表示方法を選びます。「原文と訳文」、「訳文のみ」、「訳振り」から選択できます。
4. ツールバーの〈翻訳〉▶をクリックします。

翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、翻訳結果が表示されます。



ホームページ翻訳の詳細は、『2.10 ホームページの翻訳』を参照してください。

Wordの翻訳

Transterでは、Wordに表示されている文章を翻訳する「Wordアドイン翻訳」機能があります。この機能を実行する際に、Transterを起動する必要はありません。



アドイン翻訳の場合、「契約前処理読み込み」スクリプトを実行することはできません。契約書を翻訳する場合は、Transterでファイルを開くか、前処理貼り付けで「契約前処理読み込み」スクリプトを実行してから翻訳することをお勧めします。

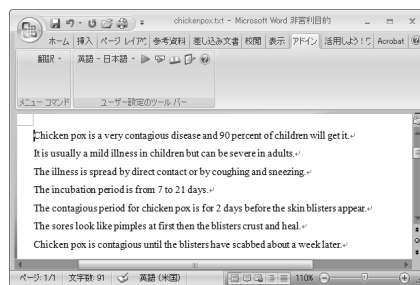
アドイン機能がインストールされると、次のアイコンがWordのツールバーに表示されます。



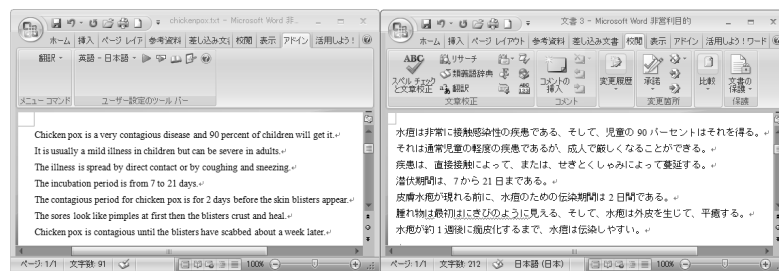
手順は以下のとおりです。

手順

1. ツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「英語－日本語」を選びます。
2. Wordで翻訳する文章を選択して〈全文翻訳〉▶をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。
元のWordウィンドウの横に翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、フィールドコードの扱いなどは、
<アドイン設定> をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで
変更できます。



ヒント

Wordアドイン翻訳の結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、フィールドコードの扱いなどについては、『2.11 Microsoft Officeアドイン翻訳』と「ヘルプ」の『連携機能』を参照してください。

応用編

応用編では、Transerの操作方法を、より詳しく説明しています。Transerをはじめてご使用の場合は、本編の前に基本操作編をご一読ください。

第 1 章 基本操作と画面

この章の内容

Transerの各ペインの操作と翻訳エディタでの基本操作について説明します。

1.1 基本操作

1.1.1 マウスの操作

- ポイント

マウスとともに移動する矢印を「マウスポインタ」、または単に「ポインタ」と呼びます。ポインタをアイコンやメニューの項目の上に置くことを「ポイントする」といいます。Transerでは、原文か訳文の単語をポイントすると、対応する単語が反転表示されます。単語がどのように翻訳されたか、翻訳された単語に対応する原文の単語はどれかを知りたい場合に便利です。

- クリック

マウスの左ボタンを1度押して離すことを「クリックする」といいます。ポインタをメニューの項目の上に移動し、マウスの左ボタンでクリックするとそのメニューが選択され、メニューに結び付けられた動作が行われます。

- ダブルクリック

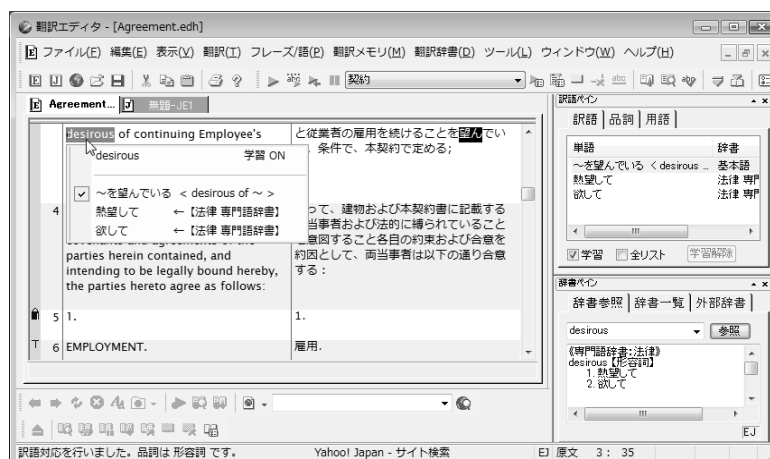
マウスの左ボタンを2度続けてクリックすることを、「ダブルクリック」と呼びます。Transerでは、原文か訳文の単語をダブルクリックすると、対応する単語が反転表示され、ステータスバーに単語の品詞が表示されます。

2	THIS [EMPLOYMENT AGREEMENT] (the "Agreement") is made as of August 1, 2007 (the "Agreement Date"), by and between Cross Language Inc. ("Employer"), and Mr. Suzuki Shotaro ("Employee").	株式会社クロスランゲージ（「雇用者」）とスズキ・ショウタロウ氏（「従業員」）の間で、この雇用契約（「契約」）は、2007年8月1日（「契約日付」）の時点で締結される。

同時に、辞書ペインの「辞書参照」タブには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示され、訳語ペインの「訳語」タブには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。

- トリプルクリック

マウスの左ボタンを3度続けてクリックすることを、「トリプルクリック」と呼びます。Transerでは、任意の単語をトリプルクリックすると、その単語の訳語の一覧が表示されます。



● ドラッグ

マウスボタンを押したままマウスを移動することを「ドラッグ」といいます。ドラッグは、通常範囲を指定する際に用いられます。Transerやワープロソフトなどでは、文字列の先頭へマウスポインタを置いて、そこでマウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、文字列の最後でボタンを離すと、その文字列が選択されて反転表示されます。この反転表示された文字列に対して、「コピー」、「切り取り」などの操作を行うことができます。

1.1.2 カーソルの移動と文字列の選択

カーソルとは、文字の挿入位置を示すI型のポインタをいいます。これによって、文字を入力する位置を指定します。

● カーソルの移動

翻訳エディタの原文エリアや訳文エリアでカーソルを移動するには、マウスポインタを移動し目的の位置でクリックするか、矢印キー（↑→↓←）を使うのが一般的です。

このほか、以下の方法でカーソルを移動することもできます。

操作	カーソルの移動
Home	文の先頭へ移動
End	文の最後へ移動
Ctrl+Home	文書の先頭へ移動
Ctrl+End	文書の最後へ移動
Tab	原文、訳文エリア間の移動
[編集]－[文番号ジャンプ]	指定した番号の文の先頭へ移動

● 選択状態

Transerでは、連続する複数の原文や訳文について、両方同時に、あるいは一方だけを選択状態にすることができます。

複数文を選択するには、指定を始める文の任意の位置から、指定を終える文の任意の位置までドラッグします。

原文と訳文をまとめて選択する場合は、指定を始める原文の任意の位置から、指定を終える訳文の任意の位置までドラッグします。

ドラッグしているポインタが原文と訳文の間にある中央ラインを越えて反対側のエリアへ移動すると、原文と訳文を同時に選択状態にすることができます。

選択をキャンセルするには、任意の位置でクリックします。

1.1.3 各種機能の実行

翻訳、文字列のコピーなどといったTranserの機能を実行するには、次の4つの方法があります。

- メニューから選択する
- ツールバーのボタンをクリックする
- ショートカットメニューから選択する
- キーボードのショートカットを使う

以下でそれぞれの方法について説明します。

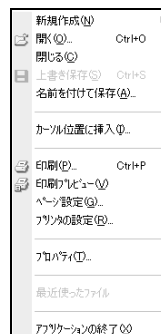
● メニューから選択

メニュー項目を選択することでアプリケーションの機能を実行することができます。

手順

1. マウスポインタをメニューに移動して左ボタンでクリックします。

たとえば、英→日のメニューの[ファイル]をクリックすると、次のメニュー項目が表示されます。



2. マウスポインタを移動し、選択したい項目が反転表示されたら左ボタンでクリックします。

これで、その機能が選択されます。
 選択したい機能がなかった場合などは、メニューの外をクリックするか、最上段をクリックします。

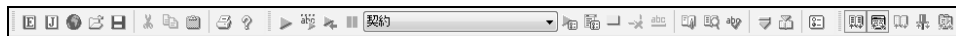


ポインタをメニュー項目に移動しても選択できない場合があります。
 これは、その機能が使用できない状態にあることを示しています。

● ツールバー

Transerの「ツールバー」はアプリケーションウィンドウの上部、タイトルバーのすぐ下に表示されます。ツールバーには、メニュー項目と同じ機能を簡単に実行できるように、各機能に対応するボタンが並んでいます。

Transerでは、[カレント文以降を翻訳]、[フレーズ指定]、[辞書登録]など、よく使われる機能を実行するボタンが並んでおり、マウスのボタンでクリックすると、対応する機能が実行されます。



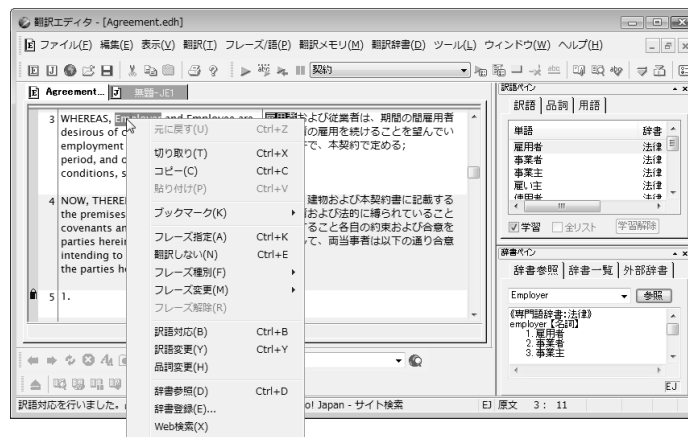
ヒント

ツールバーに表示するボタンは[ツール]—[カスタマイズ]—[ツールバー]で変更できます。

● ショートカットメニュー

翻訳エディタや各ペインでマウスの右ボタンをクリックすると、「ショートカットメニュー」が表示されます。ショートカットメニューにはその状況でよく使われる機能が登録されています。

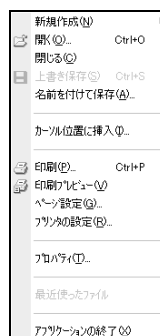
たとえば、翻訳エディタで単語の上を右ボタンでクリックした場合、次のショートカットメニューが表示されます。



ショートカットメニューの項目は、その項目にマウスポインタを移動し、左ボタンでクリックすることにより、選択できます。項目を選択せずにメニューを消す場合は、メニューの外でマウスの左ボタンをクリックします。

● キーボード

頻繁に使われる機能は、キーボードを使って実行できるようになっています。Ctrlキーを押しながら他のキーを押すと実行されます。例えばほとんどのアプリケーションでは、[ファイル]メニューの[開く]と同じ機能は、Ctrlキーを押しながら"^{オフ}O"を押しても実行できます。ただし、すべての機能をキーボードから選択できるわけではありません。キーが割り当てられている機能には、メニューの右端にキーが表示されています。次の例では、「開く」と「印刷」にキーが割り当てられています。



また、「アクセラレーターキー」コマンドで、ユーザーが独自にキーを割り当てることもできます。「アクセラレーターキー」コマンドに関しては、『6.4 アクセラレーターキー』を参照してください。

1.2 キーボードから入力して翻訳する

キーボードから英文を入力して翻訳します。Transerでは市販のワープロやエディタと同じような手順で文を編集することができます。



翻訳エディタに半角カタカナを入力することはできません。半角カタカナを入力すると、かな漢字変換後、翻訳エディタに文字が入力されるときに全角カタカナに置き換わります。また、英語を全角で入力しても翻訳されません。



キーボードから入力した場合、「契約前処理読み込み」スクリプトを実行することはできません。契約書を翻訳する場合は、ファイルを開くか、前処理貼り付けで「契約前処理読み込み」スクリプトを実行してから翻訳することをお勧めします。

1.2.1 文の入力

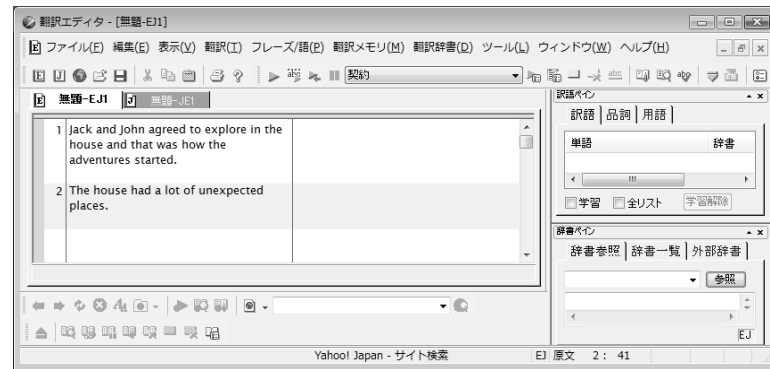
Transerを起動すると文番号1が表示され、カーソルは左側の原文エリアに表示されます。



文章を入力する方法は、以下のとおりです。



1. 翻訳を行うエディタのタブをクリックしてアクティブにします。
2. 原文エリアに"Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started."と入力します。
3. Enterキーを押します。
文番号2が表示され、カーソルが文番号2へ移動します。
4. "The house had a lot of unexpected places."と入力します。



このようにして、1つの文番号に1つの文を入力していきます。
 翻訳ソフトは文単位で翻訳を実行します。その際、1つの文番号には1つの文だけ入力されているものとして扱うので、複数文を入力する場合は、必ずEnterキーを押して、文を1つずつ分割してください。

1.2.2 一文翻訳

翻訳する文の文番号をクリックすると、一文翻訳が実行されます。ポインタを文番号へ移動すると、手の形に変わるので、文番号の「1」を、続いて文番号の「2」をクリックします。翻訳結果が訳文エリアに表示されます。



1.2.3 文の分割

1つの文が長くなると加速度的に翻訳に時間がかかり、結果も読みにくいものになります。可能な場合は、長い文（30語程度より長いもの）は前もって複数の文に分割することをお勧めします。

文番号1の文を例に分割します。

Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started.

手順

1. **"house"の後ろでクリックします。**

カーソルが"e"の直後に移動します。

2. **ピリオド(.)を入力します。**

3. **ここまでを1つの文にするため、andのaの直前をクリックし、Enterキーを押します。**

文が2つに分かれ、"and"以下が新しく文番号2の文になりました。それ以降の文番号もふり直されています。

Jack and John agreed to explore in the house.

and that was how the adventures started.

1.2.4 文の結合

文を結合するには、結合する文の先頭にカーソルを置き、Back Space (BS) キーを押します。例として先ほどの文を元に戻します。

手順

1. **2番の文の先頭にカーソルを置き、Back Space (BS) キーを押します。**

これで2つの文が、1つにつながります。

2. **ピリオドを消去します。**

1.3 Transer画面の表示

ここでは、Transer画面の表示方法について説明します。

- 表示メニュー

表示メニューのコマンドでチェックマークが付与されている項目はTranser画面で表示されています。コマンドを選択することにチェックマークのオン/オフが切り替わります。

- ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューでは、翻訳エディタが複数ある場合の表示方法を指定できます。翻訳エディタを重ねて表示する、上下または左右に並べて表示するなどの指定を行えます。

- 翻訳エディタの切り替え

Transerはマルチペイン翻訳エディタを採用しているので、ファイルを開くと翻訳エディタが次々と開いてTranser画面内でファイルを表示します。

翻訳エディタの上部には、翻訳エディタに対応してタブ   が表示されます。各タブをクリックすると対応する翻訳エディタがアクティブになります。Web検索を実行すると、  Yahoo!検索 .. タブが追加されます。Web検索のウィンドウを1つまたは複数にするかは、環境設定ダイアログで設定します。

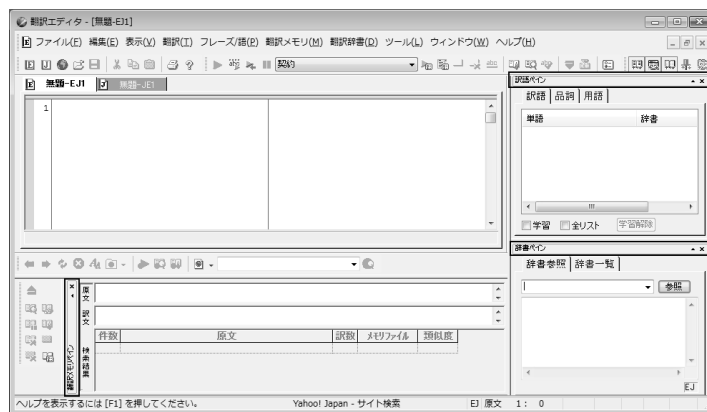
- サイズの変更

翻訳エディタと各ペインの境界線の上、マウスポインタが  に変わったところでドラッグすると境界線が移動してサイズを変更できます。

- 位置の変更

各ツールバーとペインは、ドラッグ&ドロップして、任意の場所へ移動できます。たとえば、Transer画面の外へ置くこともできます。

ペインを移動する場合は、ペインのタイトルをドラッグ&ドロップします。下記、四角で囲んだ部分でマウスボタンを押したまま任意の位置に移動してボタンを離します。



- ペインを横に広げる

ペインのタイトルの横にある▶または◀をクリックすると、ペインは横に広がります。その際、並んでいるペインが消えますが、再度▶または◀をクリックすると、元のサイズに戻り、消えたペインも表示されます。

- ペインを縦に広げる

ペインのタイトルの横にある▼または▲をクリックすると、ペインは縦に広がります。その際、並んでいるペインが消えますが、再度▼または▲をクリックすると、元のサイズに戻り、消えたペインも表示されます。

- 別ウィンドウで表示しているペインをTranser画面にドッキングする

別ウィンドウのタブを右クリックして、ショートカットメニューの[ドッキングビュー]を選択してから、ウィンドウをTranser画面上にドラッグ&ドロップします。

- 翻訳エディタと各ペインを閉じる

翻訳エディタと各ペインは閉じるボタン（⌵）をクリックすると閉じます。

- 翻訳エディタと各ペインの表示を初期状態に戻す

翻訳エディタと各ペインの配置やサイズを初期状態に戻すことができます。[ツール]－[環境設定]－[システム共通]を選択し、「画面配置情報のリセット」の「初期状態に戻す」チェックボックスをオンにします。確認メッセージが表示されるので、初期状態に戻す場合は、〈はい〉をクリックします。Transerを再起動すると翻訳エディタと各ペインの配置やサイズが初期状態に戻ります。

1.4 編集機能

Transerは、ワープロと同じように英文や訳文を編集したり、文字列を検索、置換することができます。ここでは、Transerの編集機能について説明します。

1.4.1 元に戻す

切り取り、貼り付けで行った文の編集を元の状態に戻します。
複数文に対しても切り取り、貼り付けの[元に戻す]を実行できます。



ヒント

別の文に移って新たな処理を行うと、その直前に処理した文の[元に戻す]は行われません。[元に戻す]は、同一の文番号内での処理に限られます。

1.4.2 切り取り・コピー・貼り付け

[切り取り]は、選択した範囲を切り取って、その内容をクリップボードに保管します。

[コピー]は、選択した範囲の内容をクリップボードに保管します。

[貼り付け]は、クリップボードの内容をカーソル位置に挿入（貼り付け）します。
[切り取り]、[コピー]などのコマンドにより、クリップボードにデータが保管されている場合のみ実行することができます。

[切り取り]、[コピー]、[貼り付け]は、次の手順で行います。

手順

1. 編集する文字列の先頭から最後までドラッグして選択します。

編集の対象として指定された文字列が反転表示されます。

2. [編集]－[切り取り]、[コピー]、または[貼り付け]を選択します。



ヒント

誤って[切り取り]した場合は、[元に戻す]を選択すると直前の文に戻ります。

● 1行1文貼り付け

クリップボードにある一行の文をカーソル位置の文番号へ一文として貼り付けます。

ここで一行の文とは、行の先頭から改行コードまでをいいます。

表計算ソフトなどで、各セルに一文ずつ入力されている場合、セルをコピーしてこのコマンドを実行すると、セル内では文分割せずに一文としてカーソルのある文番号へ貼り付けられます。

これにより、表計算ソフトの列をコピーして、結果を隣の列に貼り付けることができます。

1.4.3 前処理貼り付け

翻訳エディタに文章を貼り付ける際、前処理を実行して、貼り付けることができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 任意のアプリケーションにある文章を選択して、Ctrl+Cキーを押してクリップボードにコピーします。

2. [編集]－[前処理貼り付け]を選択します。

前処理操作ダイアログが表示されます。



3. 「フィルタ」と「スクリプト」を選択します。

フィルタについては、『5.3 フィルタ』を、スクリプトについては、『7.10 スクリプト』を参照してください。

4. 「定義語を抽出する」チェックボックスをオンにすると、定義語を抽出して定義語ダイアログに代入します。

定義語については、『7.5 定義語』を参照してください。

5. 〈OK〉をクリックします。

翻訳エディタに文章が貼り付けられます。

1.4.4 片側改行挿入と結合

翻訳エディタでは、原文エリアと訳文エリアが連動しています。

[片側改行挿入]では、カーソルのあるエリアだけで、カーソル位置で文を分割し以降の文番号を振りなおします。

[片側文結合]では、カーソルのあるエリアだけで、カーソル位置で文を結合し以降の文番号を振りなおします。

この機能は、翻訳メモリ用の対訳文の作成で、片方のエリアだけをずらしたい場合に使うと便利です。翻訳メモリ作成での活用方法に関しては、『3.6.2 対訳ファイルの作り方』を参照してください。



このコマンドに対して、「元に戻す」を実行することはできません。

● 片側改行挿入

手順▶

1. 改行を挿入する位置へカーソルを置きます。
2. [編集]－[片側改行挿入]を選択します。

片側改行挿入の実行を確認するメッセージが表示されます。

メモ 片側改行挿入を実行する位置以降の文章に翻訳情報がない場合、確認メッセージは表示されません。

3. 〈はい〉をクリックします。

カーソル位置に改行が挿入されて以降の文番号が振りなおされ、翻訳ロックがかかります。

● 片側文結合

カーソルのあるエリアで、上または下の文と結合することができます。

手順▶

1. 結合する文にカーソルを置きます。
2. [編集]－[片側文結合]－[上の文と結合（下の文と結合）]を選択します。

片側文結合の実行を確認するメッセージが表示されます。

メモ 片側文結合を実行する位置以降の文章に翻訳情報がない場合、確認メッセージは表示されません。

3. 〈はい〉をクリックします。

カーソル位置の文が上または下の文と結合し、以降の文番号が振りなおされ、翻訳ロックがかかります。

1.4.5 すべて選択

翻訳エディタで[すべて選択]を実行すると、選択範囲をカーソルのある原文または訳文の全体、または全文書に設定します。

● エリアの選択

手順▶

1. 選択したい原文、または訳文エリアの任意の位置へカーソルを置きます。
2. [編集]－[すべて選択]を選択します。

カーソルのあるエリアが選択状態になります。

選択をキャンセルする場合は、任意の位置でクリックします。

これで、原文エリアまたは訳文エリアの文全体が選択範囲に設定されました。

● 全文書の選択

原文エリアと訳文エリアが同時に選択状態のときに[すべて選択]を選択すると、全文書が選択されます。

原文エリアと訳文エリアを同時に選択状態にするには、原文の任意の位置から訳文の任意の位置までをドラッグして選択してください。

1.4.6 検索

[検索]は、文字列を検索ダイアログで指定した文字列を捜し出します。初期状態では、カーソルのある位置からファイルの下方向に向かって検索します。

文字列を検索ダイアログを表示したまま、[翻訳]、[すべて翻訳]、[訳語変更]などの処理ができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. [検索]を実行したいエリアの開始する位置へカーソルを移動して、[編集]―[検索]を選択します。



このコマンドは、カーソルのあるエリア内（原文または訳文のどちらか一方）で実行されます。

文字列を検索ダイアログが表示されます。



2. 「検索する文字列」に捜したい文字列を入力します。

「検索する文字列」には、改行で区切って複数の語句を指定することができます。また、各語句に正規表現を使用することができます。

既に置換や検索が行われていた場合、Ctrl+Pを押下すると直前に指定した文字列がボックスに表示されます。



翻訳エディタで検索したい文字列をあらかじめ選択しておくと、「検索する文字列」に自動的に入力されます。

3. 英語の大文字と小文字を区別して検索する場合は、「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにします。
4. カーソル位置を始点にした、検索方向を指定します。
5. すべての項目を正しく入力したら、〈次を検索〉をクリックします。
検索文字列が見つかったら、検索結果が反転表示されます。
6. 続けて同じ文字列を検索するには、〈次を検索〉をクリックします。
検索を中止するには、〈キャンセル〉をクリックします。

[編集]―[次を検索]は、「検索する文字列」で指定した文字列を下方向へ再度検索します。

[編集]―[前を検索]は、「検索する文字列」で指定した文字列を上方向へ再度検索します。

このコマンドは、[検索]コマンドで「検索する文字列」を指定した後に実行できます。

● 正規表現を使用する

「検索する文字列」に正規表現を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。正規表現を使用する場合、検索する方向は「下へ」に固定されます。正規表現に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して、『指定できる正規表現』を参照してください。

1.4.7 置換

「置換」は、指定の文字列を別の文字列に置き換える機能です。置換は、確認しながらの置換と、一斉置換ができます。文字列の検索は、カーソルがある位置からファイルの下方向に向かってカーソルのあるエリアだけで行います。手順は以下のとおりです。

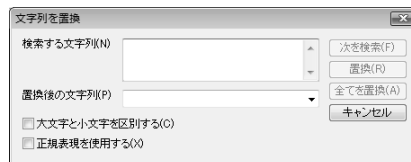
手順

1. 「置換」を実行したいエリアの開始する位置へカーソルを移動して、「編集」－「置換」を選択します。



このコマンドは、カーソルのあるエリア内（原文または訳文のどちらか一方）で実行されます。

文字列を置換ダイアログが表示されます。



2. 「検索する文字列」に置換したい文字列を入力します。

「検索する文字列」には、改行で区切って複数の語句を指定することができます。また、各語句に正規表現を使用することができます。既に置換や検索が行われていた場合、Ctrl+Pを押下すると直前に指定した文字列がボックスに表示されます。



ヒント 翻訳エディタで置換したい文字列をあらかじめ選択しておくと、「検索する文字列」に自動的に入力されます。

3. 「置換後の文字列」に置き換える文字列を入力します。

ボックスの右端にある▼をクリックすると、検索文字列の履歴リストが表示されるので、リスト中から選択することもできます。

4. 英語の大文字と小文字を区別して検索するには、「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにします。
5. 〈次を検索〉をクリックすると、「検索する文字列」で指定した文字列を検索します。
6. 〈置換〉をクリックすると、文字列を置換して、次に該当する文字列を検索します。置換しないで次に該当する文字列を検索する場合は、〈次を検索〉をクリックします。
〈全てを置換〉は、確認なしで一斉にすべての文字列を置換します。
置換を中止するには、〈キャンセル〉をクリックします。

- 正規表現を使用する

「検索する文字列」に正規表現を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。正規表現に関しては、正規表現に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して、『指定できる正規表現』を参照してください。

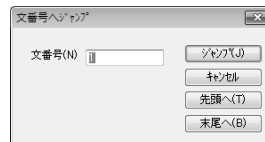
1.4.8 文番号へジャンプ

[編集]－[文番号ジャンプ]は、指定の文番号に移動する機能です。長い文書ファイルの場合には、的確に素早く移動できるので便利です。
手順は以下のとおりです。

手順

1. 「文番号」に移動先の文番号を入力します。

文番号へジャンプダイアログが表示されます。



2. 〈ジャンプ〉をクリックします。

画面がスクロールして、指定の文番号へジャンプします。

〈キャンセル〉をクリックすると翻訳エディタに戻ります。

テキストボックスにそのファイルの最後の文番号より大きい番号を入力すると、最後の文に移動します。

〈先頭へ〉をクリックすると文書の先頭へ移動します。

〈末尾へ〉をクリックすると文書の末尾へ移動します。

翻訳エディタ右側のスクロールバーにある最上段と最下段の矢印をクリックすると、表示は一文ごとに前進後退しますが、カーソル位置は変わりません。また、つまみをドラッグしてスクロールバーの相対位置に対応した文番号を表示することもできます。

1.4.9 ブックマーク

TranSerでは、再校正、再確認、再翻訳などが必要な文に、ブックマーク（付箋）を設定することができます。ブックマークを設定した文をリスト化し、リスト項目のクリックで該当文へジャンプすることができます。

また、ブックマークに種類を設定し、種類ごとにブックマークを表示することができます。

ブックマークをつけた文を翻訳メモリに一括で登録することもできます。翻訳メモリの一括登録については、『3.4.11 対訳文の一括登録』を参照してください。

ここで付与したブックマークの情報は翻訳中の文書に保持されます。文書を新規作成した場合に参照する情報については、環境設定ダイアログで設定します。詳しくは『6.2.3 ブックマーク』を参照してください。

● ブックマークの追加と削除

ブックマークの追加と削除の方法を説明します。

ブックマークを追加する文にカーソルを置いて、[編集]－[ブックマーク]－[ブックマークをつける]を選択すると、属性エリアに■が付き、ブックマークが追加されます。

[編集]－[ブックマーク]－[ブックマークをはずす]を選択すると、属性エリアの■が消えてブックマークが外されます。

● ブックマークへ移動

ブックマークの付加されている文に次々と移動することができます。

カーソル位置から後方へ移動する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[次のブックマークへ]を選択します。

前方へ移動する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[前のブックマークへ]を選択します。

● ブックマークの種類を変更する

数種類のブックマークを設定し、ブックマークの名称と記号の色で分類することができます。初期状態では、8つのブックマークが設定されています。[編集]－[ブックマーク]－[分類]を選択すると設定されているブックマークが一覧表示されます。チェックマークが付いているブックマークが属性エリアに表示され、ブックマークをつけるコマンドを実行すると、この種類のブックマークが追加されます。

ブックマークの種類を変更する場合は、[編集]－[ブックマーク]－[分類]で表示される一覧から、設定するブックマークを選択し、チェックマークを付けます。

● ブックマーク種類の追加と編集

ブックマークは、32種類まで設定できます。

[編集]－[ブックマーク]－[分類の編集]を選択します。次のダイアログが表示されます。



ブックマークの種類を追加する場合は、〈追加〉をクリックして分類の追加ダイアログを表示します。すでに設定されているブックマークの種類を変更する場合は、一覧にあるブックマークを選択して〈変更〉をクリックするか、名称をダブルクリックして分類の変更ダイアログを表示します。

「名称」にブックマーク種類の名称を入力します。名称は、半角で128文字または全角で64文字までを指定します。

記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

● ブックマークペインから実行する

ブックマークペインには、ブックマークが付与された文が一覧表示されます。ブックマークペインでも、指定したブックマークへ移動したり、ブックマークの種類を追加することができます。

ブックマークペインが表示されていない場合は、[表示]－[ブックマークペイン]を選択します。

• ブックマークの追加

ブックマークペインでは、ブックマークを追加する際、ブックマークの種類を指定したり、新規にブックマーク種類を設定することができます。

ブックマークペインの〈追加〉をクリックします。ブックマークを追加ダイアログが表示されます。



文番号

ブックマークを付与する文番号を指定します。ブックマークは、「先頭」と「末尾」で指定した連続する文に付与されます。

分類

ブックマークの種類を指定します。

すでに設定されているブックマーク種類を指定する場合は、「既存の項目」をオンにして、下部の▼をクリックして表示されるブックマークの一覧から、変更するブックマークを選択します。

新しいブックマークの種類を追加する場合は、「分類」の「新規作成」をオンにして、「名称」に半角で128文字または全角で64文字まででブックマークの名称を指定します。記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

• ブックマークの削除

ブックマークを削除する場合は、ブックマークペインで削除する文を選択して、〈削除〉をクリックします。

• ブックマークへ移動

ブックマークペインにある文をクリックすると対応する文番号へ移動します。

• ブックマーク種類の編集

ブックマークペインで種類を編集するブックマークを選択して、⋮をクリックします。分類の変更ダイアログが表示されるので、「名称」と「色」を指定します。

1.4.10 オリジナル文

Transerは、テキストファイルを読み込むときに文の分割を実行して、文ごとにその元の文をオリジナル文として保持します。オリジナル文の作成はテキスト読み込み時のみ、自動的に行われ、作成されたオリジナル文情報を変更することはできません。この機能は、編集作業を行った後、元の原文に戻したい場合に利用します。一度作成されたオリジナル文は、翻訳ファイルに情報として付加されます。したがって、オリジナル文情報のある翻訳ファイルを読み込んで、元の文を表示することができます。

手順は以下のとおりです。



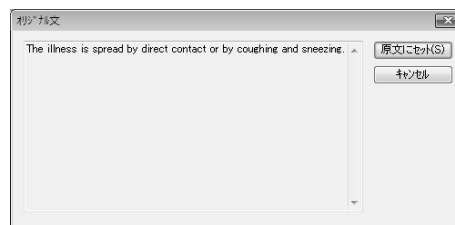
新規に入力した文の場合、オリジナル文はない状態になります。

● メニューから実行する



1. 元の文に戻したい文へカーソルを置きます。
2. [編集]－[オリジナル文]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



3. 表示されているオリジナル文を原文に戻す場合は、〈原文にセット〉をクリックします。

〈キャンセル〉をクリックすると、元の画面に戻ります。

第 2 章 いろいろな翻訳機能

この章の内容

Transerlには、文書の一括、一文翻訳のほかに、翻訳結果を修正するための便利な機能が備わっています。

この章では、Transerlの翻訳機能の操作方法について説明します。

2.1 翻訳

翻訳には、一文翻訳、文書翻訳、指定した範囲の翻訳があります。翻訳処理は、[翻訳]－[翻訳設定]の翻訳に関する設定に従って実行されるので、必要であれば、翻訳の前に設定を行ってください。

メモ 以下で説明する翻訳操作をShiftキーを押しながら実行すると、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブの「訳文生成方法」の設定にかかわらず、翻訳メモリを使用せずに機械翻訳します。

2.1.1 一文翻訳

「翻訳」コマンドは、指定された文番号の文の翻訳だけを行います。英文を翻訳しやすい形に変更したり、ユーザー辞書に新しく単語を登録した後で再翻訳するなど、対話形式の処理に適しています。

- マウス操作で実行する

翻訳する文の文番号へポインタを移動すると、ポインタが手の形^①に変わるので、クリックしてください。
翻訳結果が訳文エリアに表示されます。

- メニューから実行する

[翻訳]は、次の手順で実行します。

手順

1. 翻訳エディタで翻訳する文にカーソルを置きます。
2. [翻訳]－[翻訳]を選択します。

訳文エリアに翻訳結果が表示されます。

必要な場合は、英文の修正／挿入を行いながら翻訳処理を行ってください。

2.1.2 文書翻訳

● 文書翻訳

文書の一括翻訳は、次の手順で行ってください。

- 手順** ▶
1. 翻訳エディタで、カーソルが選択状態の場合は、翻訳エディタの任意の位置でクリックして選択状態を解除します。
 2. [翻訳]－[すべて翻訳]を選択します。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

● カーソル位置以降を翻訳

カーソル位置以降の文章の翻訳は、次の手順で行ってください。

- 手順** ▶
1. 翻訳エディタで、翻訳を始めたい文へカーソルを置きます。
カーソルの移動は、スクロールバー、↑←→↓キー、または[文番号ジャンプ]で文番号を指定して行います。
 2. [翻訳]－[カレント文以降を翻訳]を選択するか、ツールバーの▶をクリックします。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

● 連続する文章を翻訳する

翻訳エディタで、翻訳したい範囲の先頭から最後まで文番号をドラッグして選択すると、文番号が反転表示されます。マウスのボタンを離すと、文番号が反転している文章が翻訳されます。

翻訳作業を中止する場合は、■をクリックするか、Escキーを押します。

2.1.3 翻訳できないケース

一文翻訳、または、一括翻訳で、「翻訳できません」というメッセージが表示されたり、何も訳出されずに訳文が空白になる場合があります。

これは、文が長すぎる、または、複雑であったり曖昧であったりして、翻訳に時間がかかりすぎる場合です。このような場合は、文の適切なところで改行を入れて分割し、再翻訳してください。

2.2 訳語対応と訳語変更

2.2.1 訳語対応

Transerには、原文の単語がどのように翻訳されたのか、または、訳語がどの単語に対応しているのかがわかる、訳語の対応機能があります。

- マウス操作で実行する

翻訳エディタで、任意の単語にマウスポインタを置くと対応する単語が反転表示されます。

任意の単語をダブルクリックしても同様に対応する単語が反転表示され、同時に、ステータスバーにその単語の品詞が表示されます。



ヒント

初期状態では、マウスカーソルを置くだけで訳語対応が実行されます。この機能をオフにする場合は、[ツール]－[環境設定]－[書式]を選択し、「マウスカーソル位置の訳語対応を強調する」チェックボックスをオフにしてください。

- メニューから実行する

手順

1. 翻訳エディタで、対応を表示したい単語にカーソルを置きます。

2. [フレーズ/語]－[訳語対応]を選択します。

対応する英文または和文の単語が反転表示されます。



翻訳の際、原文と訳文の構造上の違いにより落とされた単語は、ダブルクリックしても対応が表示されません。たとえば、受身を表すbe動詞がこれにあたります。なお、対応を解除する場合は、反転表示されていない任意の位置でクリックします。

2.2.2 訳語変更

ある単語を翻訳する場合、その前後の文脈によっていろいろな訳が考えられます。訳語変更コマンドを使用すると、その文にふさわしい訳を選択することができます。

● マウス操作で実行する

翻訳エディタで、任意の単語をトリプルクリックすると対応する単語が反転表示し、訳語リストが表示されます。訳語リストの中から適切なものをクリックすると訳語を変更できます。

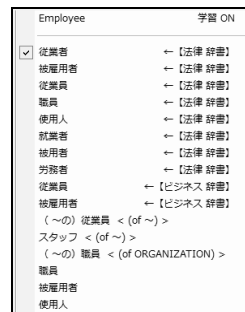
● メニューから実行する

[訳語変更]は、次の手順でも行えます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語にカーソルを置きます。
2. [フレーズ/語]－[訳語変更]を選択します。

設定している辞書に登録されている訳語の一覧が表示されます。



3. 表示された訳語の中からもっとも適切な訳語をクリックします。

訳が選択した訳語に変わります。訳語変更を行わずに訳語リストを閉じる場合は、Escキーを押します。訳語リストの表示エリアは限られているため、表示しきれない場合は、訳語リストの最下部に「他は訳語ペインを参照」と表示されます。訳語ペインにはすべての訳語が表示されます。

● 訳語ペインから別訳語を選択する

[訳語変更]は、訳語ペインで実行することもできます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語をダブルクリックします。

設定している辞書に登録されているすべての訳語が訳語ペインの「訳語」タブに表示されます。



2. 表示された訳語の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。

訳が選択した訳語に変わります。

● ダイアログに表示される訳語 英→日のみ

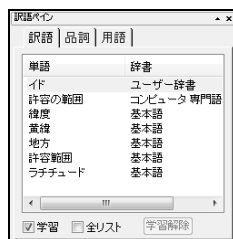
訳語リストに表示される訳語は、同じ品詞のもの（動詞の場合は同じ文型の同じもの）で、周囲の文脈で前置詞などが同じ使われかたをしているもの（たとえば、間接目的語を持つとシステムが解釈している場合は、間接目的語を持ちうる訳語）に限られます。

訳語リストの表示エリアは限られているため、表示しきれない場合は、訳語リストの最下部に「他は訳語ペインを参照」と表示されます。

訳語ペインにはすべての訳語が表示されます。

訳語ペインにも表示されていない訳を指定したい場合は、ユーザー辞書に登録する必要があります。または、後述する「全リスト」内にあれば、選択することもできます。

また、ここで表示される訳語は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で設定した辞書に含まれる訳語です。たとえば、使用する辞書に「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」を設定した場合、訳語ダイアログは次のように変更されます。



このように、ダイアログ内に出典辞書名が表示されます。

● 訳語ペインの操作

全リスト 英→日のみ

初期状態で訳語ペインには、翻訳の際に構文解析を行い構文に合った訳語のみ表示されます。実際には、他の訳語も登録されていることがあります。「全リスト」チェックボックスをオンにすると、辞書設定で選択された辞書に登録されているすべての訳語を表示します。「全リスト」からの訳語変更は、学習されません。また、構文解析による訳語のリストと「全リスト」の内容が同じ場合には、「全リスト」チェックボックスをオンにできません。

学習

初期状態では、変更した訳語は学習され、次回の翻訳から変更した訳語が第一訳語になります。また、学習辞書にも登録されます。

学習させたくない場合は、「学習」チェックボックスをオフにしてから訳語を選択します。



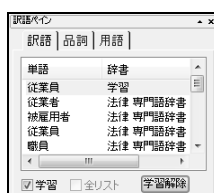
学習は、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスがオンのときに有効になります。

学習解除

学習した訳語を学習辞書から外すには、〈学習解除〉をクリックします。訳語が学習辞書から削除されます。文を再翻訳すると、設定している辞書の中で優先順位が一番高い辞書から訳語を引いて翻訳します。

2.2.3 学習機能

学習機能とは、1つの見出し語に対して複数の訳語が登録されている場合、一度選択した訳語がその後の翻訳で優先的に使われる機能です。訳語リスト、または訳語ペインで訳語を選択すると、以降の翻訳ではその訳語が使われます。また、訳語リストには、変更した訳語が一番上に表示されます。



このように、訳語ペインの「辞書」に「学習」と表示されていれば、この訳語は学習機能によって記憶されていることを意味します。1つの見出し語に対して、学習機能が有効な訳語は常に1つです。

学習機能の設定は、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で行います。ここで「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにした場合、訳語ペインにある「学習」チェックボックスをオンにすることはできません。

● 英→日 学習辞書の保存場所

初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のejフォルダの中にある「learn.dir」、「learn.key」、「learn.lde」の3つのファイルから構成されています。学習辞書の変更は[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で行います。

- 日→英 学習辞書の保存場所

初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のjeフォルダの中にある「learn.jld」ファイルです。学習辞書の変更は、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で行います。

- 英→日 訳語を学習しない品詞

前置詞と接続詞は学習されません。前置詞と接続詞は、名詞や動詞などとの係りを詳細登録しているため、学習させると登録された係りが無効になり、翻訳精度が下がることが多いからです。たとえば、次の例文の"by"は訳し分けられます。

例1：He came here by train. 翻訳結果：彼は、電車でここに来た。

例2：He is by nature an easy-going man. 翻訳結果：彼は、本来、落ち着いた人である。

上記では、"by nature"は慣用句で「本来」と登録されています。例1で"by"を学習させると、例2では"by"と"nature"が別々に訳されてしまいます。このため、前置詞と接続詞は学習されないようになっています。

- 日→英 訳語を学習しない品詞

助動詞や接続助詞など、システムが内部的に訳語を持っている付属語については、学習できません。

- 学習辞書を読み込み専用で使用する

学習辞書を参照用として使用するが、訳語の変更を学習しないように設定できます。

[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにし、「学習しない」をオンと設定すると、翻訳作業で学習辞書は使われますが、訳語の変更は学習されません。この場合、訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにすることもできません。

- 学習辞書を使わない

[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにすると、すべての翻訳作業で学習辞書は使われません。この場合、訳語ペインの「学習」チェックボックスをオンにすることもできません。

2.3 品詞変更 英→日のみ

[品詞変更]は訳語の変更と同様、その単語の品詞を変更する機能です。構文的に解釈が難しい文章に対し、翻訳システムでは、最適と思われる品詞を決定して翻訳を行います。[品詞変更]を行うことにより、システムが誤った解釈をした場合でも、正しい品詞で解釈させることができます。

● マウス操作で実行する

翻訳エディタで、任意の単語をダブルクリックして選択した後、Shiftキーを押しながらもう一度クリックすると、対応する単語が反転表示され、続いて品詞リストが表示されます。品詞リストの中から適切なものをクリックすると、変更した品詞に従って、文が自動的に再翻訳されます。

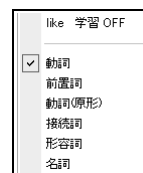
● メニューから実行する

[品詞変更]は、次の手順でも行えます。

手順

1. 翻訳エディタで、品詞変更を行う単語へカーソルを置きます。
2. [フレーズ/語]－[品詞変更]を選択します。

変更する単語（反転表示されている単語）の辞書に登録されている品詞がすべて表示されます。



3. 表示された品詞の中から、変更したいものをクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。

品詞変更を行わずに品詞リストを閉じる場合は、Escキーを押します。



変更した品詞が適切でない場合、翻訳システムは構文解析に失敗することがあります。

ここで表示される品詞は、変更する単語に対して基本語辞書と辞書設定で選択された辞書に登録されている品詞です。

品詞には名詞、形容詞、副詞、接続詞、前置詞、動詞、単位、数詞、感嘆詞などがあります。限定詞とは、所有代名詞（my, hisなど）および、no, fewなどのような数字を含まない数量詞を言います。動詞には、動詞、動詞（原形）、過去分詞、現在分詞、動名詞などがあります。

- 訳語ペインから別品詞を選択する

[品詞変更]は、訳語ペインで実行することもできます。

手順

1. 翻訳エディタで、品詞変更を行う単語をダブルクリックします。

設定している辞書に登録されているすべての品詞が訳語ペインの「品詞」タブに表示されます。



2. 表示された品詞の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。

- 訳語ペインの「品詞」タブの操作

学習

初期状態では、品詞変更は学習されません。

学習させたい場合は、「学習」チェックボックスをオンにしてから品詞を選択します。変更した品詞は学習され、次の翻訳からは変更した品詞を優先して構文解析を行います。また、学習辞書にも登録されます。学習機能の詳細は、『2.2.3 学習機能』を参照してください。

学習解除

学習した訳語を学習辞書から外すには、〈学習解除〉をクリックします。訳語が学習辞書から削除されます。文を再翻訳すると、設定している辞書の中で優先順位が一番高い辞書から品詞を引いて翻訳します。

- 学習辞書を使わない

[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオフにすると、すべての翻訳作業で学習辞書は使われません。

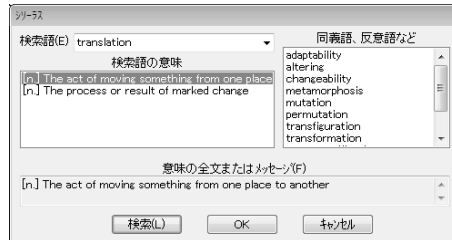
2.4 シソーラス 日→英のみ

日→英が用意している英語のシソーラス（類義語辞書）を起動します。訳語変更機能で適当な訳語がない場合、シソーラスからも訳語を選択することができます。翻訳辞書が日本語に対応する訳語を登録しているのに対し、シソーラスは、翻訳結果の英語に対する類義語を登録しています。

手順

1. シソーラスを表示したい英単語を選択します。
2. [フレーズ/語]－[シソーラス]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



● 検索語

指定した訳語が表示されます。訳語は以下の方法で入力することができます。

- 「検索語」にキーボードから英語を直接入力する
- 翻訳エディタで検索したい単語を選択してからシソーラスコマンドを選択する



シソーラスは英語に対するものです。日本語の語句を選択してシソーラスを起動しても機能しません。

● 検索語の意味

検索語に対する意味の一覧を英文で表示します。先頭の[]でくくられた記号は品詞を表し、[n.]は名詞、[v.]は動詞、[adj.]は形容詞、[prep.]は前置詞です。

● 同義語、反意語など

検索語と同義語（または反意語）をリスト表示します。リストの中から適切な単語を選択して〈OK〉をクリックすると、訳文エリア中の単語がその語に置き換えられます。反映させた文には翻訳ロックがかかります。



同義語（または反意語）は、「検索語」ではなく「検索語の意味」に対応しています。「検索語の意味」で適切なものを選んでから、同義語（または反意語）を選択してください。

● 意味の全文またはメッセージ

「検索語の意味」に収まりきらない長い文は、ここで内容を確認できます。また、シソーラス辞書に該当する訳語が存在しない場合は、その旨メッセージを表示します。

〈検索〉をクリックすると、検索が実行されます。

2.5 ファイル翻訳

ファイル翻訳では、指定した複数のファイルを連続で翻訳します。

はじめに翻訳の条件を設定します。現在の設定のままでよければ、設定作業は必要ありません。

● 翻訳モード、辞書を設定する

手順

1. [翻訳]－[翻訳設定]を選択します。
2. 「翻訳」タブで翻訳モードや訳語を設定します。
3. 「辞書」タブで使用する辞書を設定します。

● ファイル翻訳を実行する

ファイル翻訳は、現在の翻訳エディタの翻訳条件に従って実行されます。

[翻訳]－[ファイル翻訳]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



• 翻訳対象ファイルリストへ追加する

翻訳を行うファイルのリストが表示されます。リストにファイルを追加する場合は、ダイアログにある〈追加〉をクリックしてください。入力ファイル指定ダイアログが表示されるので、ファイルを選択します。

入力ファイル指定ダイアログにある複数のファイルを指定するには以下の方法があります。

1. Ctrlキー＋クリック

指定するファイル名にマウスのポインタを移動しCtrlキーを押したままクリックします。ファイル名が選択されて反転表示されます。この操作を繰り返して複数のファイルを選択して〈開く〉をクリックすると、選択されているファイルがリストに追加されます。

2. Shiftキー＋クリック

指定する複数のファイルが連続して表示されている場合の方法です。指定するはじめのファイル名をクリックして反転表示します。次に、最後のファイル名をShiftキーを押したままマウスでクリックすると間のファイルがすべて選択されて反転表示されます。〈開く〉をクリックすると選択されているファイルがリストに追加されます。

• 翻訳対象ファイルリストから外す

リストからファイルを外すには、外したいファイルを選択して〈削除〉をクリックします。

• 順番を指定する

上下へ1つずつ移動する場合は、移動するファイルを選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。



(1つ上へ移動)



(1つ下へ移動)

• エンコード

通常はTranserが文字コードを判断するので指定する必要はありません。強制的に指定した文字コードとして読み込む場合に設定します。

• 出力先の指定

翻訳を実行したファイルの保存先を指定します。

フォルダを指定

翻訳結果の保存場所を指定します。「フォルダを指定」をオンにして、ダイアログの右端にあるをクリックすると、フォルダの参照ダイアログが表示されるので、翻訳結果を保存するフォルダを指定します。

対象となるファイルと同じ位置

翻訳結果のファイルは、元のファイルのあるフォルダに保存されます。



出力フォルダに翻訳結果と同じ名前のファイルがある場合、確認せずに上書きされますので、出力先の指定は適切に行ってください。

• 出力形式

翻訳結果の保存形式を指定します。「出力形式」の右端にある▼をクリックすると表示されるリストから結果の保存形式を選択します。

翻訳結果のファイルには、出力形式に合わせて拡張子やファイル名が付加されます。出力されるファイルの種類とファイル名、拡張子については、『5.2.1 ファイルの保存』の『ファイルの種類』を参照してください。

• 操作

フィルタとスクリプトを指定します。フィルタとスクリプトは、ファイルの読み込み（入力）と保存（出力）の際、次の順番で実行されます。

入力フィルタ→入力スクリプト→出力スクリプト→出力フィルタ
スクリプトの前後にフィルタが実行されます。

各項目にある▼をクリックすると表示される一覧から処理を選択します。フィルタについては『5.3 フィルタ』を、スクリプトについては『7.10 スクリプト』を参照してください。

初期状態では、以下のとおりに設定されています。

項目名	設定内容
入力フィルタ	適用しない
入力スクリプト	契約前処理読み込み 契約前処理を実行してからファイルを読み込みます。契約前処理に関しては、英→日の場合『7.10.3 英→日 前処理と後処理スクリプト』を、日→英の場合『7.10.4 日→英 前処理と後処理スクリプト』を参照してください。
出力スクリプト	適用しない
出力フィルタ	契約後処理出力 訳文に契約後処理を実行してから、テキストファイルを作成します。契約後処理に関しては、英→日の場合『7.10.3 英→日 前処理と後処理スクリプト』を、日→英の場合『7.10.4 日→英 前処理と後処理スクリプト』を参照してください。

• 確認ダイアログを表示する

ファイル翻訳の際、たとえばファイルの読み込みに失敗した場合などにメッセージを表示するかを指定します。このチェックボックスがオフの場合、メッセージは表示されません。このチェックボックスがオンの場合、メッセージが表示されます。

メッセージによっては、〈はい〉〈いいえ〉などをクリックする必要があるのですが、操作無しにファイル翻訳を行いたい場合は、このチェックボックスをオフにしてください。

● ファイル翻訳の開始

ファイル翻訳ダイアログにある〈翻訳開始〉をクリックすると翻訳が開始されます。翻訳を中止する場合は、■をクリックしてください。

2.6 フレーズ翻訳

Transterの翻訳では、原文があいまいな場合、語句の係り方や修飾先を誤ることがあります。あいまいな文というのは、語句がどこにかかるか、どの語句を修飾しているか、などの可能性の多い文のことです。

このような場合、部分的な句や節をあらかじめ指定して、係りや修飾先の可能性を限定すると翻訳の精度が向上します。この機能を実現したのが「フレーズ翻訳」です。

2.6.1 フレーズ指定と解除

● 指定方法

原文エリアでフレーズに指定したい文字列をドラッグして選択し、次のいずれかの方法で指定します。

- [フレーズ/語]－[フレーズ指定]を選択する
- マウスを右クリックして、ショートカットメニューから[フレーズ指定]を選択する
- ツールバーの■をクリックする

● フレーズ指定のルール

- 1つの文でフレーズ指定できるのは、32個までです。ただし、翻訳エディタの画面上での背景色を設定できるのは、レベル4までです。
- フレーズ指定した範囲を含んでさらに広い範囲の文字列、またはフレーズ指定した文字列の一部をさらにフレーズとして指定することもできます。この場合は、フレーズ指定の順番に関わらず、より大きい範囲がレベル1、小さい範囲がレベル2～32と順番に割り振られます。レベル1～4のフレーズの背景色は、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]の「フレーズ色」で指定できます。

AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF		レベル1
AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF		レベル2

- フレーズにまたがって指定することはできません。また、フレーズ指定されている文字列の一部と、フレーズ指定されていない文字列を組み合わせで新しいフレーズを指定することもできません。

AAA and BBB of CCC and DDD

- 翻訳後、フレーズ指定した原文を編集したり、フレーズ指定を変更すると、訳文のフレーズが解除されます。
- 「翻訳しない」種別のフレーズが指定されている文字列に、さらにフレーズを指定することはできません。

● HTMLタグ情報のある文のフレーズ指定

翻訳対象となるタグで囲まれた文字列は、ファイルの読み込み時にフレーズ指定されます。フレーズの色は、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]で指定した色で表示されます。

HTMLファイルの翻訳操作に関する詳細は、『付録3 HTMLファイルの翻訳』を参照してください。

● フレーズ種別

フレーズ指定した文中でそのフレーズが名詞句なのか、形容詞句なのかなど、品詞句の分類を指定します。[フレーズ指定]を実行した文字列は「自動判別」で翻訳されますが、これとは異なり明確に品詞句を指定したい場合に、[フレーズ種別]のサブメニューから適切な品詞句を選択します。

「節」は、選択した語句を1つの節（主部と動詞句からなるもの）としてくります。

● フレーズ変更

一度指定したフレーズ種別を変更します。

フレーズ変更したいフレーズへカーソルを置いて、[フレーズ/語]－[フレーズ変更]のサブメニューから品詞句を選択してください。

フレーズ種別が変更されるので、文番号をクリックして再翻訳を行ってください。変更した種別で翻訳されます。



フレーズ指定した文字列の一部または、全部を選択している状態では、このコマンドは選択できません。フレーズ指定した文字列にカーソルを置くだけで、選択することができます。

● 翻訳しない

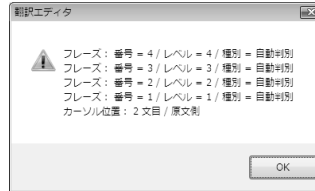
文の中には、部品名や製品名、適切な日本語訳のない単語など翻訳を必要としない単語も含まれています。[翻訳しない]は、特定の単語を翻訳せず英語のままで出力します。

- 自動判別

翻訳ソフトが句の分類を判別します。

- フレーズ種別の確認

フレーズレベルが2階層以上のフレーズでCtrlキー+マウスクリックで、次のダイアログにフレーズ情報が表示されます。



番号	フレーズ指定が文頭から何番目か表示される
レベル	レベル（階層）の数が表示される
種別	フレーズの品詞句が表示される
カーソル位置	カーソルのあるエリアが表示される

メモ カーソル位置の語が属するフレーズでもっともレベルが深いものは、ステータスバーでも確認できます。また、表示できるフレーズ情報はレベル10までです。

- フレーズ解除

カーソル位置のフレーズ指定を無効にします。

フレーズ解除したい文字列へカーソルを置いて、[フレーズ/語]－[フレーズ解除]を選択するか、ショートカットメニューから[フレーズ解除]を選択してください。

フレーズ指定が無効になり、文字列の背景色が元に戻ります。



フレーズ指定した文字列の一部または、全部を選択している状態では、このコマンドは選択できません。解除するフレーズにカーソルを置くだけで、選択することができます。

2.6.2 一括フレーズ指定

フレーズ指定する語句を検索して、一括でフレーズ指定・解除したり、フレーズの種別を変更することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 原文エリアの開始する位置へカーソルを移動して、[フレーズ/語]－[一括フレーズ]を選択します。

一括フレーズダイアログが表示されます。



2. 「検索する文字列」に捜したい文字列を入力します。

「検索する文字列」には、改行で区切って複数の語句を指定することができます。また、各語句に正規表現を使用することができます。既に置換や検索が行われていた場合、Ctrl+Pを押下すると直前に指定した文字列がボックスに表示されます。



ヒント 翻訳エディタで検索したい文字列をあらかじめ選択しておくと、「検索する文字列」に自動的に入力されます。

3. 「フレーズ種別」の▼をクリックすると表示される一覧からフレーズの種類を指定します。

4. 英語の大文字と小文字を区別して検索する場合は、「大文字と小文字を区別する」チェックボックスをオンにします。

5. すべての項目を正しく入力したら、〈次を検索〉をクリックします。

検索文字列が見つかり、検索結果が反転表示されます。

6. 検索結果の文字列をフレーズ指定する場合は〈フレーズ指定〉を、フレーズ解除する場合は〈フレーズ解除〉をクリックします。

フレーズ種別を指定する場合は、「フレーズ指定」の一覧から種別を指定します。

〈全てを指定〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ指定します。

〈全てを解除〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ解除します。

一括フレーズ指定を中止するには、〈閉じる〉をクリックします。

● 正規表現を使用する

「検索する文字列」に正規表現を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。正規表現に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して、『指定できる正規表現』を参照してください。

2.6.3 英→日 フレーズ翻訳例

次の例文で説明します。

例文

All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.

英→日による素訳

すべての学生は、5月に3月および最終報告で中間報告を提出することになっている。

求めたい訳

すべての学生は、3月の中間報告および5月の最終報告を提出することになっている。

素訳について

前出の例文では、"March"と"a final report"が並列になっていますが、実際には"an interim report in March"と"a final report in May"を並列に解析すべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文へカーソルを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、[フレーズ指定] を選択します。
例文では"an interim report in March"を選択して、[フレーズ指定]を選択します。選択する範囲を誤った場合は、[フレーズ解除]を実行して、再度手順2を実行してください。
選択したフレーズの背景色が、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]で設定した「フレーズレベル1」の色に変わります。



[フレーズ指定]したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、[自動判別]としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。
例文では、"a final report in May"を選択して、[フレーズ指定]を選択します。
4. 文番号をクリックして再翻訳します。
訳文が表示されます。

5	All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.	すべての学生は、3月の中間報告および5月の最終報告を提出することになっている。



辞書やシステムは、逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果はこの説明と必ずしも一致しません。

2.6.4 日→英 フレーズ翻訳例

次の例文で説明します。

例文

わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。

日→英による素訳

I paid an expensive desk and the price for picture of the chair to an agent.

求めたい訳

I paid the large amount of price for picture of a desk and the chair to an agent.

素訳について

「代金」が「椅子の絵」に係り、「机」と「代金」を「支払った」ことになっています。実際には、「机と椅子の絵」が1つの句で、「代金」は「机と椅子の絵」に係り、さらに「高額な」は「机と椅子の絵の代金」にかかるべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文へカーソルを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、[フレーズ指定] を選択します。

例文では「机と椅子の絵」を選択して、[フレーズ指定] を選択します。選択する範囲を誤った場合は、[フレーズ解除] を実行して、再度手順2を実行してください。

選択したフレーズの背景色が、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]で設定した「フレーズレベル1」の色に変わります。



[フレーズ指定] したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、[自動判別] としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。

例文では、「机と椅子の絵の代金」を選択して、[フレーズ指定] を選択します。

4. 文番号をクリックして再翻訳します。

訳文が表示されます。

5	わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。	I paid the large amount of price for picture of a desk and the chair to an agent.



辞書やシステムは、逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果はこの説明と必ずしも一致しません。

2.7 英→日 オプション翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]でテキストを読み込む際、その文章がタイトル文か、箇条書きかなどを自動的に判別します。ただし、文章によっては英→日の文分割の基準にあてはまらず、正しく認識されない場合があります。オプション翻訳は、文章を「タイトル」、「箇条書き」と指定して、適切な翻訳を実行する機能です。

メモ 複数の文を選択した状態で、[オプション翻訳]を実行すると、選択した文を翻訳することができます。

● マウス操作で実行する

オプション翻訳を実行する文の文番号を右クリックするとオプション翻訳に関するショートカットメニューが表示されます。
コマンドを選択するとオプション翻訳が実行されます。

2.7.1 タイトル翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]で原文テキストを読み込む際、その文がタイトルかを自動的に判別します。タイトルは通常、大文字で書かれ、文は短くなります。

タイトルとして読み込まれた文は、大文字／小文字を区別しないで、なるべく名詞句として訳されます。また、文番号の前の属性エリアにTが表示されます。ただし、タイトルとして正しく判別できないこともあります。このような場合に[タイトル翻訳]を実行すると、選択された文は翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで設定された条件に従わず、「大文字を小文字にして訳す」で翻訳されます。手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタでタイトル翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[タイトル翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章がタイトル翻訳され、属性エリアにT^英が表示されます。

2.7.2 箇条書き翻訳

英→日は[開く]や[カーソル位置に挿入]で原文テキストを読み込む際、その文が箇条書きかを自動的に判別します。

箇条書きとは、1、(1)、(a)などが先頭にある文です。箇条書きと判断された文は、属性エリアに□（小さい四角）が表示されます。

あらかじめ他のエディタやワープロなどで制御コードを入力し、箇条書きの先頭の単語をそれ以降の文章と区切る方法もあります。詳細については、『8.1 原文編集と制御コード』を参照してください。

[箇条書き翻訳]では、文の先頭の列挙記号を無視して翻訳し、訳の先頭に無視された列挙記号を付加します。

たとえば、"c Click the file name."を一文として訳すと "c Clickは、ファイル名である。"となります。この文を[箇条書き翻訳]すると" c ファイル名をクリックしなさい。"となります。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで箇条書き翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[箇条書き翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が箇条書き翻訳され、属性エリアに□（小さい四角）が表示されます。

2.7.3 通常翻訳

タイトルまたは箇条書きと判定された文を通常文として翻訳したい場合や、[タイトル翻訳]、[箇条書き翻訳]で翻訳した文を通常の文に戻したい場合に使用します。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで通常翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[通常翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が翻訳されます。

2.8 日→英 オプション翻訳

日本語では、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文をよく見かけます。日→英では、和文（原文）に主語がないとき、英文（訳文）に自動的に主語を補ったり、主語が不要な受動態や命令形の文にして、主語の欠落に対応しています。[オプション翻訳]はこのような訳文の形を指定します。[オプション翻訳]を行った文は、属性エリアに記号が表示され、通常の翻訳と識別できるようになっています。また、翻訳後には、ステータスバーにどのようなオプションが指定されたかが表示されます。

主語の欠落時にどういう形で英文を生成するかを初期設定で指定するには、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブを選択します。「オプション翻訳」は、指定した一文だけを初期設定とは異なる形式で翻訳したいときに使います。

メモ 複数の文を選択した状態で、[オプション翻訳]を実行すると、選択した文を翻訳することができます。

● マウス操作で実行する

オプション翻訳を実行する文の文番号を右クリックするとオプション翻訳に関するショートカットメニューが表示されます。

コマンドを選択するとオプション翻訳が実行されます。

2.8.1 主語を補う

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザー指定の主語を補います。ユーザー指定の主語は翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで補う主語を直接入力します。詳細は、『6.1.1.4 日→英翻訳』を参照してください。

手順

1. 翻訳エディタで主語を補って翻訳する文にカーソルを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[主語を補う]からたとえば「it」を選択します。

訳文がitを主語にしたものになります。属性エリアには、補った主語の番号が表示されます。番号は補う主語の「[S]」を「0」番として連番が振られます。

補う主語によって、翻訳エディタの属性エリアに、次のように表示されます。

設定ダイアログ	[S]	I	you	it	he	she	we	they
翻訳エディタ	0	1	2	3	4	5	6	7

2.8.2 受け身にする

和文に主語がない場合、受動態の文として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構造の文の場合は、[受け身にする]を指定しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで指定したものが使われます。

手順

1. 翻訳エディタで受動態の文として翻訳する文にカーソルを置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[受け身にする]を選択します。
訳文が受け身表現に変わります。属性エリアに「」が表示されます。

2.8.3 主語を省略する

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳し、属性エリアに「!」が表示されます。訳出する動詞には、原形 (Be/Take)、1人称単数形で訳す (Am/Take)、2人称単数及び複数形で訳す (Are/Take)、3人称単数形で訳す (Is/Takes) を指定できます。たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと "Went for shopping yesterday." となります。

手順

1. 翻訳エディタで主語を省略して翻訳する文にカーソルを置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[主語を省略する]からたとえば「Be/Take」を選択します。
主語を省略して動詞を原形で訳出します。属性エリアには、「!」が表示されます。

2.8.4 通常翻訳

オプション翻訳の設定を解除します。主語の処理は、翻訳設定ダイアログの「翻訳」タブで設定した形式になります。詳細は、『6.1.1.4 日→英翻訳』を参照してください。

手順

1. 翻訳エディタで通常翻訳する文にカーソルを置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[通常翻訳]を選択します。
指定した文または選択した文章が翻訳されます。



ヒント

オプション翻訳は、ツールバーの各ボタンをクリックしても実行できません。オプション翻訳のボタンは、初期設定では表示されていません。表示するには、[ツール]－[カスタマイズ]－[ツールバー]で設定します。詳細については、『6.3 ツールバーカスタマイズ』を参照してください。

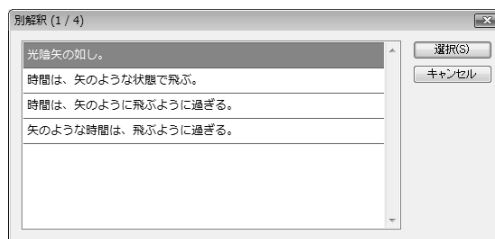
2.9 別解釈 英→日のみ

構文的に正しい解析結果の中から、意味的にも正しい解釈を選択することは、訳語の選択と同様、翻訳システムには難しい問題です。「別解釈」は、カーソル位置の文の複数訳を表示し、その中からもっとも適当な文を選択する機能です。別解釈の操作手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで別解釈を実行する文にカーソルを置きます。
2. [翻訳]－[別解釈]を選択します。

別解釈が表示されます。別解釈がない場合は1つの解釈だけが表示されます。画面に入り切らない場合は、右側のスクロールバーを使用して画面をスクロールさせます。



3. 最適な解釈を選択し、〈選択〉をクリックします。

訳文が変更されます。

〈キャンセル〉をクリックすると処理を中止してメインメニューに戻ります。



「別解釈」では、「翻訳」と同様に、実際に翻訳が行われます。30語を超えるような長い文の翻訳には、かなりの時間がかかる場合があります。できるだけ、長い文は短い文に分けてから「翻訳」や「別解釈」を実行することをお勧めします。

別解釈ダイアログはサイズを変更することができません。[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]でフォントサイズを大きくすると、表示された別解釈が見づらくなる場合があります。この場合は、フォントのサイズを小さく設定してから、再度、別解釈を実行してください。



「別解釈」で選択した文には翻訳ロックがかかります。

別解釈は学習されないので、文を再翻訳すると元の翻訳結果に戻ってしまいます。不注意に再翻訳しないよう、翻訳ロックがかかるのです。

2.10 ホームページの翻訳

「ホームページ翻訳」機能は、ブラウザに表示した文章を、画像、表などのレイアウトを変えずに翻訳します。

アドイン機能の有効／無効の設定方法については、『2.10.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

2.10.1 翻訳の前に

Transerのホームページ翻訳は、Internet Explorerアドイン機能を使って翻訳します。Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーが表示され、翻訳が実行できるようになります。翻訳ツールバーが表示されない場合は、以下の手順で表示します。

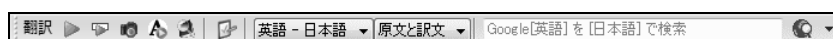
● 翻訳ツールバーの表示

Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーが表示できるようになります。翻訳ツールバーの表示方法は以下のとおりです。

手順

1. Internet Explorerを起動します。
2. [表示]－[ツールバー]－[IEアドイン翻訳]を選択します。

次の翻訳ツールバーが表示されます。



表示された翻訳ツールバーの位置が見にくい場合には、[表示]－[ツールバー]－[ツールバーを固定する]のチェックを外し、翻訳ツールバーをスライドさせて見やすい場所に置きます。

● 翻訳言語リストの取得

Internet Explorerアドイン機能をインストールすると、翻訳ツールバーに翻訳可能な言語ペアの一覧（翻訳言語リストボックス）が表示されます。表示されないときは、翻訳の前に翻訳言語リストを取得します。

- 手順** 1. 翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックし、設定画面を表示します。

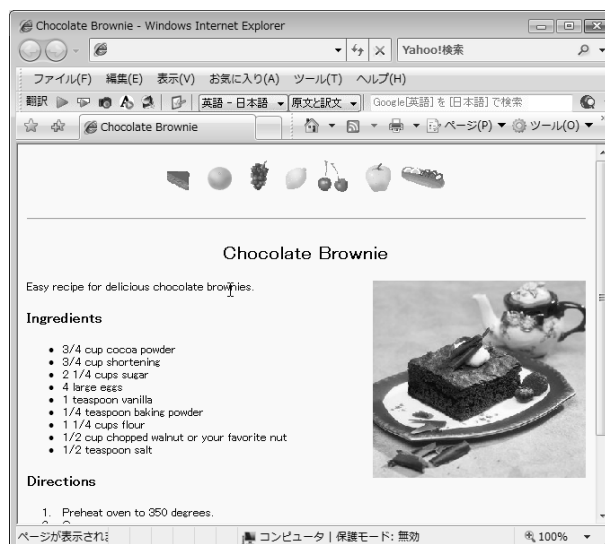


2. 〈言語リスト取得〉をクリックします。
 3. 〈OK〉をクリックし、設定ダイアログを閉じます。
 これで、使用可能な翻訳言語がツールバーの言語リストに設定されました。

2.10.2 ホームページを翻訳する

ホームページ翻訳の手順は以下のとおりです。

- 手順** 1. Internet Explorerで翻訳するページを表示します。



2. 翻訳する言語ペアを選びます。ツールバーの「英語 - 日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから言語ペアを選びます。

3. 「原文と訳文」の横の▼をクリックし、翻訳結果の表示方法を選びます。「原文と訳文」、「訳文のみ」、「訳振り」から選択できます。
4. ツールバーの〈翻訳〉▶をクリックします。

翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、翻訳結果が表示されます。



【翻訳結果が正しくない場合】

辞書で見つからない単語は、原文のまま表示されます。また、フレームを含むページは翻訳できない場合があります。フレームを別ウィンドウで表示するか、翻訳できない部分は翻訳エディタを使って翻訳してください。

● 選択した文章の翻訳

ホームページ翻訳では、選択した文章を翻訳することができます。

Internet Explorerで翻訳するページを表示し、翻訳する文章をマウスでドラッグして選択します。次に〈選択範囲の翻訳〉▶をクリックすると、選択した文章が翻訳されます。



【選択範囲を翻訳した場合のレイアウト】

選択範囲の翻訳を行った場合、元のページのレイアウトは継承されません。

Internet Explorer 8のアクセラレータで翻訳

Internet Explorer 8のアクセラレータを使用して、選択した文章を翻訳することができます。翻訳する文章をマウスでドラッグして選択し、アクセラレータボタンをクリックすると、プルダウンメニューが表示されます。メニューにある「IEアドイン翻訳」をクリックすると、選択した文章が翻訳されます。

- **キャプチャ翻訳**

ホームページ翻訳では、選択した領域の文字認識を実行し、抽出した文章を翻訳する「キャプチャ翻訳」を実行することができます。

キャプチャ翻訳については、『7.1.3 キャプチャ翻訳』を参照してください。

- **ワンポイント翻訳**

ホームページ翻訳では、Transerを起動していない状態でも、英日または日英翻訳を行う「ワンポイント翻訳」を実行することができます。

〈ワンポイント翻訳〉をクリックすると、ワンポイント翻訳が起動します。

ワンポイント翻訳については、『7.1.4 ワンポイント翻訳』を参照してください。

- **辞書参照ツール**

ホームページ翻訳では、翻訳で使用する辞書の参照を行う「辞書参照ツール」を起動することができます。

〈辞書参照ツール〉をクリックすると、辞書参照ツールが起動します。

辞書参照ツールについては、『7.1.5 辞書参照ツール』を参照してください。

2.10.3 ホームページの翻訳検索

「翻訳検索」は、指定したキーワードをWebページで検索し、検索結果を翻訳してブラウザに表示します。

検索では、以下の検索エンジンを使用することができます。検索エンジンの追加方法については後述する『翻訳検索の設定』を参照してください。

検索エンジン

Google
Yahoo
Wikipedia

翻訳検索の手順は以下のとおりです。

手順

1. Internet Explorerのツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「英語－日本語」または「日本語－英語」を選びます。

2. 翻訳検索ボックスにキーワードを入力します。

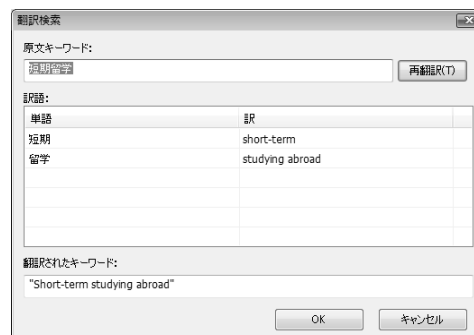
キーワードは英日翻訳の場合は日本語、日英翻訳の場合は英語で指定します。

3. 翻訳検索アイコンの横の▼をクリックし、プルダウンメニューから検索エンジンを選択します。

選択した検索エンジンにチェックマークが付与されます。

4. 翻訳検索アイコンをクリックします。

翻訳検索ダイアログが表示されます。キーワードを指定せずに翻訳検索アイコンをクリックすると、検索エンジンのページが表示されます。



翻訳検索ダイアログでは、次の操作を実行することができます。

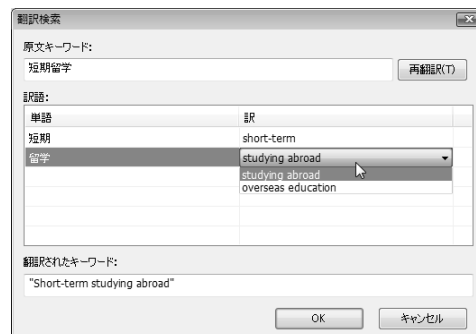
原文キーワードの翻訳

〈再翻訳〉をクリックすると、「原文キーワード」が翻訳されます。

訳語の変更

「単語」には、原文キーワードの語句が表示されます。原文キーワードが複合語の場合は各語の訳語が表示されます。たとえば、原文キーワードに「交通整備」と入力すると「交通」と「整備」の訳語が表示されます。

各訳語をダブルクリックすると、変更可能な訳語の一覧が表示されます。



適切な訳語をクリックすると、訳語が置き換わります。

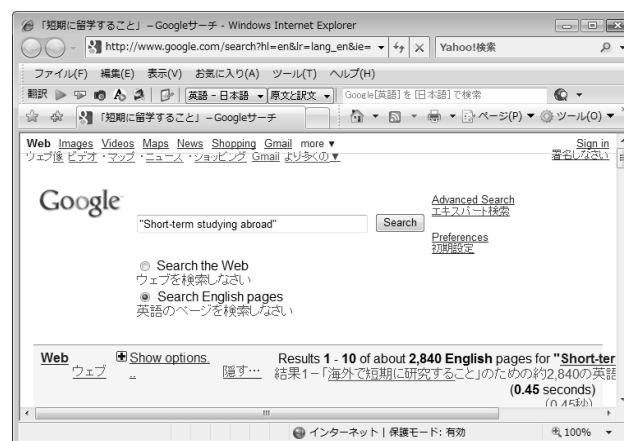
翻訳されたキーワード

検索は、「翻訳されたキーワード」の語句で実行されます。

「翻訳されたキーワード」には、キーボードから直接入力することもできます。

5. 翻訳検索ダイアログで〈OK〉をクリックします。

検索と翻訳が開始されます。翻訳が終了すると、翻訳結果が表示されます。



● 翻訳検索の設定

検索エンジンを指定します。

翻訳検索アイコンの横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「設定」を選択すると、次のダイアログが表示されます。



検索エンジン一覧

設定されている検索エンジンが一覧表示されます。

検索エンジンの追加／変更／削除

「検索エンジン一覧」で内容を変更する項目をクリックして選択すると、各項目に設定内容が表示されます。各項目を適切に設定し、〈変更〉をクリックすると設定値が変更されます。〈追加〉をクリックすると新規に検索エンジンが追加されます。

「検索エンジン一覧」で削除する項目を選択し、〈削除〉をクリックすると、リストから外されます。

タイトル

検索エンジンのタイトルを設定します。翻訳検索アイコンをクリックすると、ここで設定した名称が表示されます。

サイトURL

検索エンジンのURLを指定します。

検索URL

検索の際に使用するURLの設定（引数）を指定します。

言語

検索対象となる言語を指定します。

キーワードエンコード

検索キーワードのエンコードを指定します。

上へ／下へ

検索エンジンの順番を上下へ1つずつ移動することができます。移動する辞書を選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。

- 〈上へ〉 (1つ上へ移動)
- 〈下へ〉 (1つ下へ移動)

2.10.4 ホームページ翻訳の設定

翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックすると、IEアドイン翻訳の設定ダイアログが開きます。翻訳結果のウィンドウの表示方法や訳文のフォント・色などが指定できます。



• 翻訳結果表示

翻訳結果を新規にブラウザを起動して表示するか、アクティブなブラウザに表示するかを設定します。

新規ブラウザウィンドウ	新規にブラウザを起動して翻訳結果を表示します。
メインウィンドウ	アクティブなブラウザに翻訳結果を表示します。

• 訳語フォント

翻訳結果ページに表示するフォントサイズ、スタイル、色を設定します。

フォントサイズ	訳文のフォントサイズを設定します。原文を100%としてパーセンテージで指定しますが、fontタグでサイズが指定されていると、原文に対するパーセンテージとならない場合があります。
フォントスタイル	訳文のフォントスタイルを設定します。
フォントカラー	訳文の色を設定します。

● 制限事項

1. 翻訳対象はテキストデータのみです。画像やFlashなどを翻訳することはできません。
2. 翻訳結果の訳文において、フォームが正しく機能しない場合があります。
3. HTML形式以外で作成された文書の翻訳はできません。
4. Internet Explorerにgoogleツールバーをインストールしている場合、googleツールバーの[オプション]－[アクセサリ]－[ポップアップブロッカー]にチェックマークをつけてオンにすると、翻訳結果を新規ブラウザウィンドウで表示することができません。
5. JavaScriptとFlashの両方を使用しているページの場合、翻訳結果のページでFlashが再生されないことがあります。

● 当社の他の製品がインストールされている場合

すでに当社の他の製品がインストールされている環境では、以下の設定が必要です。

手順

1. 翻訳ツールバーの〈設定〉をクリックし、設定画面を表示します。
 2. 〈言語リスト取得〉をクリックし、続いて〈OK〉をクリックします。
- これで、Transerが設定されました。

● 設定の確認

上記の設定を行うと、翻訳ツールバーの言語ペアに製品名が表示されます。たとえば、Transerの場合、以下のように表示されます。

英語 — 日本語[Legal2010]
英語 — 日本語[翻訳メモリ] [Legal2010]
日本語 — 英語[Legal2010]
日本語 — 英語[翻訳メモリ] [Legal2010]

プロフェッショナルの機能

翻訳メモリ機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

2.10.5 アドイン機能の有効と無効

すでにMicrosoft OfficeやInternet Explorerがインストールされているパソコンに、初期状態のままTranserをインストールすると、アドイン翻訳がインストールされます。

Windows 7で、「Outlook Express（Windowsメール）アドイン有効」チェックボックスをオンまたはオフに設定することはできますが、WindowsメールまたはOutlook Expressが動作しないため、メール翻訳を実行することはできません。

インストールの後、アドイン翻訳を使用するかを指定することができます。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[ツール]－[アドイン設定]を選択します。
アドイン設定ダイアログが表示されます。



2. 使用するアドイン機能のチェックボックスをオンにします。
チェックボックスがオンの場合、アドイン機能が有効になり使用できます。オフにするとアドイン機能が無効に設定されて使用できなくなります。
3. 各項目を設定したら、〈設定〉をクリックします。
これで、アドイン機能が有効、または、無効に設定されました。

2.11 Microsoft Officeアドイン翻訳

Transterは、Word, Excel, PowerPointにある文章の翻訳、辞書引きなどを行えます。



ヒント

Transterが起動していない状態で、Officeアドイン翻訳を実行することができます。



ヒント

アドイン翻訳の場合、「契約前処理読み込み」スクリプトを実行することはできません。契約書を翻訳する場合は、Transterでファイルを開くか、前処理貼り付けで「契約前処理読み込み」スクリプトを実行してから翻訳することをお勧めします。

すでにMicrosoft Officeがインストールされているパソコンに、初期状態のままTransterをインストールすると、「Wordアドイン翻訳」、「Excelアドイン翻訳」、「PowerPointアドイン翻訳」機能がインストールされます。

アドイン機能の有効と無効の設定については、『2.10.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

2.11.1 Microsoft Officeの起動と翻訳

各ソフトウェアにアドイン機能がインストールされると、次のアイコンがツールバーに表示されます。



各アイコンの意味は以下のとおりです。

ツールバーのボタン	説明
Excel：ワークシート翻訳 PowerPoint：スライド翻訳	表示しているワークシート／スライドを翻訳する（青い三角）
〈全文翻訳〉	表示している文書全体／ワークブック全体を翻訳する（緑の三角）
〈選択範囲翻訳〉	選択した部分を翻訳する
〈辞書参照〉	選択した語句を辞書引きする
〈アドイン設定〉	翻訳に関する各種設定を行う
〈ヘルプ〉	Microsoft Officeアドイン翻訳のヘルプを表示する

このツールバーが表示されない場合は、[表示]－[ツールバー]のサブメニューから「アドイン翻訳」チェックボックスをオンにして表示してください。

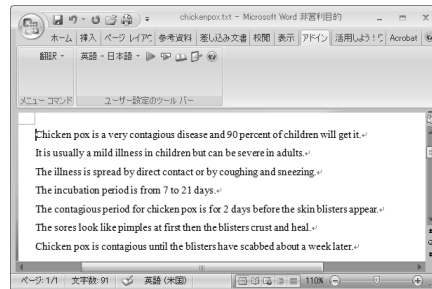
● 翻訳言語の切り替え

英日翻訳と日英翻訳を切り替えるには、「英語－日本語」の横にある▼をクリックして表示されるプルダウンメニューから選択してください。

翻訳メモリを使用して翻訳する場合は、「英語－日本語[翻訳メモリ]」のように「翻訳メモリ」と記載されている項目を選択してください。

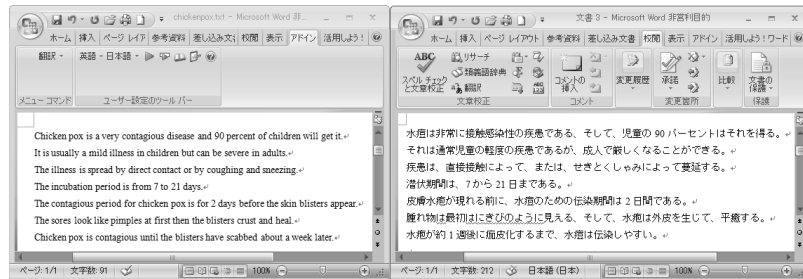
2.11.2 Wordの翻訳

手順 1. Wordで翻訳する文章を選択して〈全文翻訳〉をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。

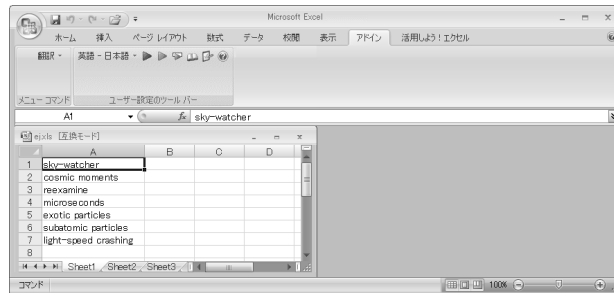
元のWordウィンドウの横に翻訳結果のウィンドウが表示されます。



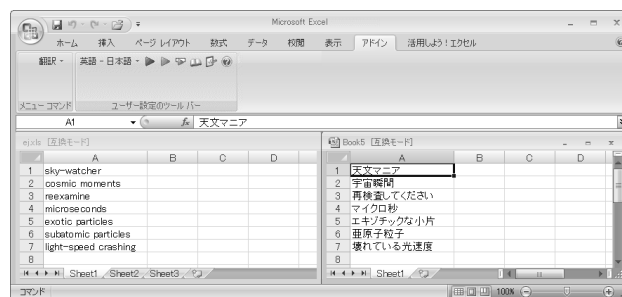
翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、フィールドコードの扱いなどは、〈アドイン設定〉をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

2.11.3 Excelの翻訳

- 手順** 1. Excelで翻訳する文章を選択して〈ワークシート翻訳〉▶（青）をクリックします。



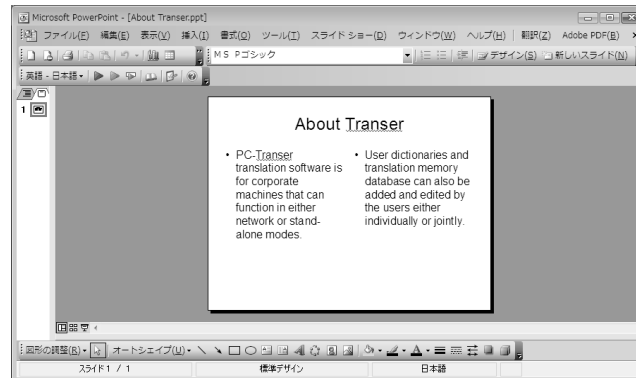
翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。
元のExcelウィンドウの横へ、翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイル、計算式の扱いなどは、〈アドイン設定〉▶をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

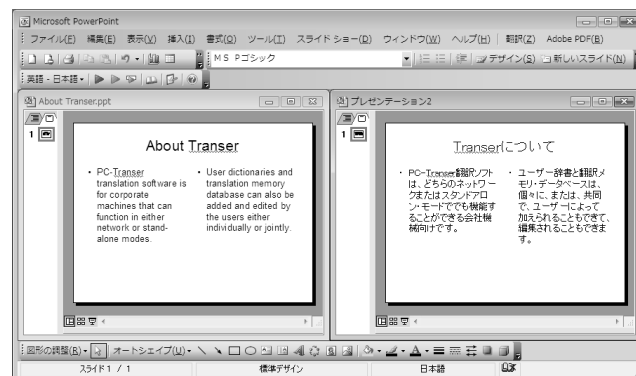
2.11.4 PowerPointの翻訳

- 手順** 1. PowerPointで翻訳する文章を選択して〈スライド翻訳〉▶（青）をクリックします。



翻訳処理の進捗状況を示すプログレスバーが表示され、翻訳が終わるとプログレスバーが閉じます。

元のPowerPointウィンドウの横へ、翻訳結果のウィンドウが表示されます。



翻訳結果の表示方法、翻訳の際のスタイルなどは、〈アドイン設定〉🔧をクリックすると表示されるアドイン設定ダイアログで変更できます。

2.11.5 辞書引き



ヒント

翻訳言語で「翻訳メモリ」を選択している場合、辞書参照を実行することはできません。

手順

1. 辞書引きする語句を選択して〈辞書参照〉をクリックします。

選択した語句が「検索語」へ自動的に入力されて、辞書引きの結果が表示されます。



2. 「辞書」で使用する辞書を選択します。
「検索語」に直接、語句を入力して〈検索〉をクリックしても辞書引きできます。

2.12 メール翻訳

メール翻訳では、Windowsメール（Vista）またはOutlook Express（XP）で受信したメールを翻訳して、翻訳結果をメール翻訳ウィンドウに表示できます。Windows 7では、WindowsメールまたはOutlook Expressが動作しないため、メール翻訳を実行することはできません。

アドイン機能の有効／無効の設定方法については、『2.10.5 アドイン機能の有効と無効』を参照してください。

メール翻訳の設定については、『2.12.2 メール翻訳の設定』を参照してください。

メール翻訳をインストールすると、次の翻訳ツールバーが表示されます。

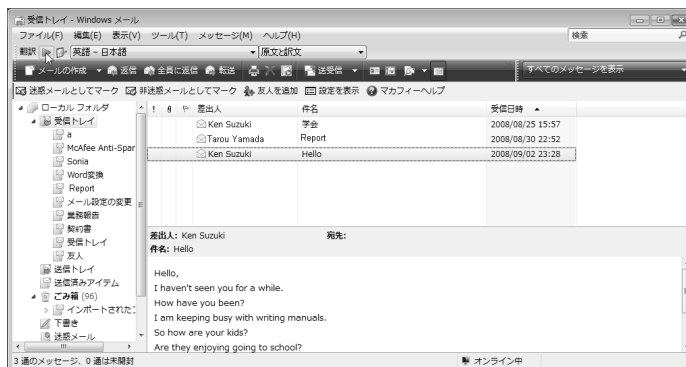


2.12.1 メールを翻訳する

メールを翻訳する手順は、以下のとおりです。

手順

1. WindowsメールまたはOutlook Expressを起動して、メール一覧から翻訳したいメールをクリックして選択します。



2. ツールバーの「英語－日本語」の横の▼をクリックし、プルダウンメニューから「英語－日本語」または「日本語－英語」を選択します。
翻訳メモリを使用する場合は、「[翻訳メモリ]」を選択します。

プロフェッショナルの機能

翻訳メモリ機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

3. 「原文と訳文」の横の▼をクリックし、翻訳結果の表示方法を選びます。「原文と訳文」、「訳文のみ」、「左右対訳」から選択できます。
4. ツールバーの〈翻訳〉▶をクリックします。

メール翻訳が実行され、翻訳結果が新しいウィンドウに表示されます。



メール翻訳は、翻訳エディタの設定ダイアログで設定する「翻訳」、「辞書」の設定にしたがって実行されます。

原文と訳文

原文と訳文を上下に表示します。

訳文のみ

翻訳結果の訳文のみを表示します。

左右対訳

原文と訳文を左右対訳で表示します。

2.12.2 メール翻訳の設定

ツールバーの〈設定〉をクリックすると、メール翻訳の設定ダイアログが開きます。ここではフォントや訳文の色を指定することができます。

• フォント

「フォント」タブでは、「原文」と「訳文」で使用するフォントを指定します。「フォント」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



各言語の右端にある▼をクリックして表示される一覧からフォントを選択します。

• 色

「色」タブでは、訳文の色を指定します。「色」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



訳文色を示す四角形をクリックして表示される色の設定ダイアログから訳文の色を選択します。

2.13 PDFダイレクトファイル翻訳

PDFダイレクトファイル翻訳では、Transerを起動することなく、Adobe Acrobatで作成したPDFファイルを翻訳できます。

2.13.1 PDFダイレクトファイル翻訳の実行

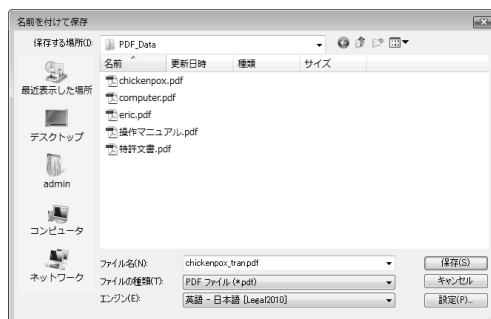
PDFダイレクトファイル翻訳の手順は、以下のとおりです。



この機能は、pdfファイルを開いているアプリケーション上から実行することはできません。

手順

1. 翻訳したいpdfファイルのアイコン上で右クリックし、ショートカットメニューから「ダイレクト翻訳」を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



2. 「保存する場所」で、翻訳結果のファイルを保存する場所を指定し、「ファイル名」で翻訳結果のファイル名を指定します。初期状態では、原文のファイル名に「_tran」を付加します。
3. 「エンジン」で翻訳する言語を指定します。
〈保存〉をクリックすると、翻訳が実行されます。翻訳が終了すると、「保存する場所」に指定したフォルダに、翻訳結果のファイルが保存されます。

2.13.2 PDFダイレクトファイル翻訳の設定

原文のpdfファイルに合わせて、翻訳の単位などを設定することで、より適切な翻訳を行うことができます。

名前を付けて保存ダイアログの〈設定〉をクリックすると、PDFダイレクトファイル翻訳の設定ダイアログが表示されます。



● 翻訳単位（ユニット）

翻訳の単位を指定します。

要素

原文のpdfファイルのデータの最小単位を指します。

行

「ユニットの区切り」と「ユニットの間隔」の「横方向」の条件で、「要素」を結合したものを指します。

ブロック

「ユニットの区切り」と「ユニットの間隔」の条件で、「行」を結合したものを指します。

● ユニットの区切り／ユニットの間隔

「翻訳単位（ユニット）」で、「行」と「ブロック」を選択した際に、区切りと間隔を指定します。

● 翻訳文フォント

訳文のフォントを指定します。

それぞれの設定を行い、〈プレビュー〉をクリックすると、原文の翻訳単位が表示されます。

〈OK〉をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログに戻ります。

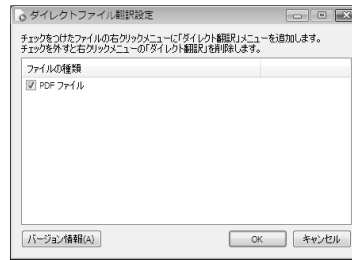
2.13.3 PDFダイレクトファイル翻訳の有効と無効

Transerをインストールすると、PDFダイレクトファイル翻訳がインストールされます。インストールの後、この機能を使用するかを指定することができます。

手順

1. 「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[ツール]－[ダイレクトファイル翻訳設定]を選択します。

ダイレクトファイル翻訳設定ダイアログが表示されます。



2. 「PDFファイル」チェックボックスがオンの場合、右クリックで表示されるショートカットメニューに「ダイレクト翻訳」が追加されます。オフにするとショートカットメニューから「ダイレクト翻訳」が削除されます。
3. 〈OK〉をクリックします。

これで、PDFダイレクトファイル翻訳が有効、または、無効に設定されました。

2.13.4 PDFダイレクトファイル翻訳の制限事項

PDFダイレクトファイル翻訳は、原文からフォントの種類、サイズ、レイアウトなどのテキスト情報を抽出し翻訳処理を行います。pdfファイルが作成された環境や状態によって、以下のようなファイルは翻訳できない場合や、翻訳結果のレイアウトが保てない場合があります。

- セキュリティ保護機能が使われているpdfファイル
- しおり機能が使われているpdfファイル
- 複雑なレイアウトで構成されているpdfファイル（DTPソフトなどから作成されたpdfファイル）
- Adobe Acrobat5.0以前の環境でFlate（Zip）以外の圧縮方法（LZWなど）で作成されたpdfファイル
- Windows以外のOSで生成されたpdfファイル
- pdfファイルがうまく翻訳できない場合は、Adobe AcrobatあるいはAdobe Readerのテキスト抽出機能を使用し、翻訳エディタの原文エリアに原文をコピー＆ペーストして、翻訳を行ってください。



文字が画像データであるpdfファイルは翻訳できません。
透明テキストデータであるpdfファイルは、画像の上にテキスト文が表示されます。

第 3 章 翻訳メモリ

この章で説明している翻訳メモリ機能は
プロフェッショナルに搭載されています。

この章の内容

この章では、翻訳メモリの検索や登録の方法と、これを使用した翻訳について説明します。

翻訳メモリを使うと、頻繁に使用される文を登録して翻訳効率を高めたり、人間が訳した自然な訳文を登録して翻訳精度を高めることができます。

3.1 翻訳メモリとは

3.1.1 翻訳メモリとは？

対訳文をデータベースに登録し、翻訳の際データベースの原文と一致する文に対して、データベースの訳文を翻訳結果に採用する機能が「翻訳メモリ」です。たとえば、バージョンアップ製品や同系統の製品のマニュアルでは、元のマニュアルとほとんど同じ文が多数使用されることになります。元のマニュアルの翻訳結果が翻訳メモリに登録してあれば、以前の翻訳結果をすばやく参照することができるので、翻訳効率を飛躍的に高めることができます。

また、ビジネスレターで使用される、挨拶、注文、クレームなどの文は、会社名や製品名、日付などを除くと、表現自体は定型化されている場合が多くあります。このような文は、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

翻訳メモリには、原文・訳文以外にも、対訳文の作成者、作成日時、文書名など、いろいろな情報を付加することができます。一冊のマニュアルを何人かで分担して翻訳するような場合は、これらの情報を見て、別の人が作成した対訳文の適切さを判断できるので、グループ作業の効率化が図れます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で共有して使用することができます。

Transerには、以下の翻訳メモリが搭載されています。

翻訳メモリの名称	登録内容
契約翻訳メモリ	契約文によく用いられる表現を登録
内閣官房法令翻訳データ 翻訳メモリ	内閣官房ホームページで公表された法令翻訳データを登録（2007年6月時点）

初期状態で使用する翻訳メモリには、契約翻訳メモリ、内閣官房法令翻訳データ翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリに「ユーザー翻訳メモリ」が指定されています。

● 翻訳メモリの共有

ネットワーク上に作成した共有フォルダにユーザー翻訳メモリを保存し、複数のユーザーが共有して利用することができます。

翻訳メモリを共有して翻訳に活用する方法については『付録2 辞書と翻訳メモリの共有』を参照してください。

3.1.2 翻訳メモリの検索機能

- 翻訳メモリペインで実行できる検索

翻訳メモリペインでは、以下の4つの検索機能があります。

- 完全一致文検索

原文と全く同じ文を検索します。

- 文型一致文検索

原文と文型が一致する文を検索します。文型とは、文の中でどんな語にも合致する変更可能な部分を、「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名=>」でくくった文のことです。タグに合致した語は自動的に機械翻訳にかけられ、その結果で訳文側のタグを置き換えます。

- キーワード検索

原文と同一の語句が含まれている文を検索します。原文エリアに複数の語が入力されている場合、そのすべてが含まれている文を検索します。

- 類似文検索

原文に類似した文を検索します。文の比較は、単語単位で行われます。



単語の並びの一致する部分が長いほど、類似度は高くなります。

- 翻訳で使用可能な検索機能

翻訳を実行する際、使用可能な検索機能は以下のとおりです。

- 完全一致文検索
- 文型一致文検索
- 類似文検索

翻訳で使用する検索機能の設定については、『3.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する』を参照してください。

3.1.3 ファイルの入出力

すでに翻訳済みのマニュアルなどから作成された対訳文のテキストファイルがあれば、それを翻訳メモリに一括して登録することができます。このように、テキストファイルの対訳文を翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。インポートできるファイルには、いくつかの種類があります。詳細は、『3.6 インポート』を参照してください。

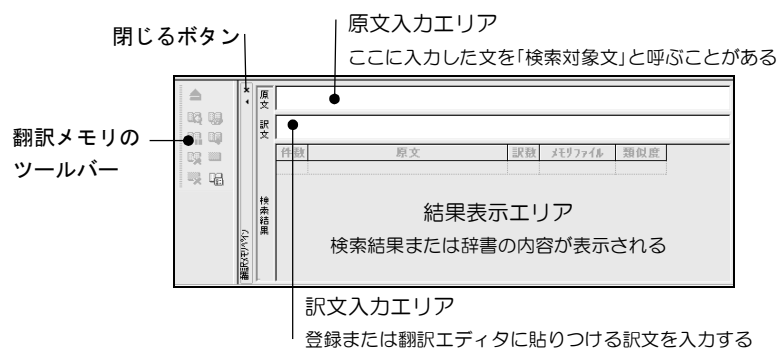
インポートとは逆に、ユーザーが作成した翻訳メモリの内容を、テキストファイルに書き出すこともできます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリのバックアップとして、また、他の翻訳システムとの対訳文の交換手段としても、エクスポート機能を利用できます。詳細は、『3.7 エクスポート』を参照してください。

3.2 翻訳メモリの基本操作

3.2.1 翻訳メモリペイン

● 翻訳メモリペインの名称

翻訳メモリペインの名称は次のとおりです。



● 翻訳メモリペインの表示／非表示

翻訳メモリペインの〈閉じる〉ボタンをクリックすると翻訳メモリペインが閉じます。翻訳メモリペイン表示する場合は、[表示]－[翻訳メモリペイン]を選択してください。表示メニューの「翻訳メモリペイン」コマンドにチェックマークが付与され、翻訳メモリペインが表示されます。

● 翻訳エディタと翻訳メモリの連携

翻訳エディタで翻訳メモリペインに取り込みたい文にカーソルを置いて[翻訳メモリ]－[カレント文の選択]を選択するか、をクリックすると、翻訳エディタのカーソル位置の文がそのまま翻訳メモリペインの原文入力エリアと訳文入力エリアに取り込まれます。翻訳メモリペインは、開いたまま翻訳エディタで翻訳作業を行えるので、次々にカーソルを移動してをクリックすることにより、必要な対訳文を簡単に翻訳メモリペインに取り込み対訳文を登録することができます。

3.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する

翻訳エディタで翻訳を実行する場合、機械翻訳の前に翻訳メモリを検索して、合致した対訳文があれば、その訳文を取り込むことができます。このような翻訳メモリの検索機能は、翻訳エディタの翻訳設定ダイアログにある「翻訳」タブの「訳文生成方法」で指定できます。

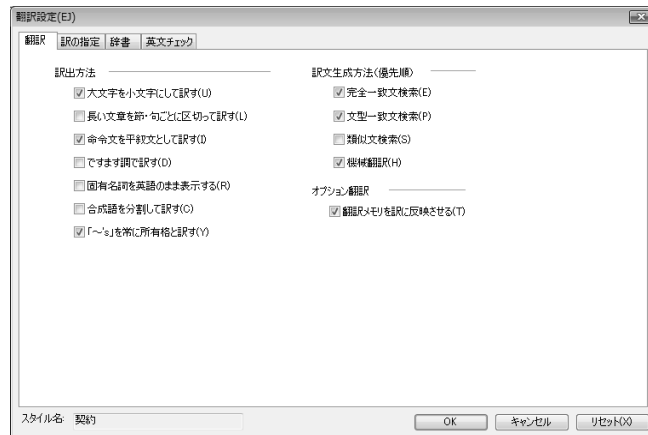
手順

1. 翻訳エディタで、ツールバーの  をクリックします。

翻訳設定ダイアログが表示されます。

2. 「翻訳」タブをクリックします。

翻訳に関する設定ダイアログが表示されます。



3. 「訳文生成方法」にある必要なチェックボックスをオンにします。

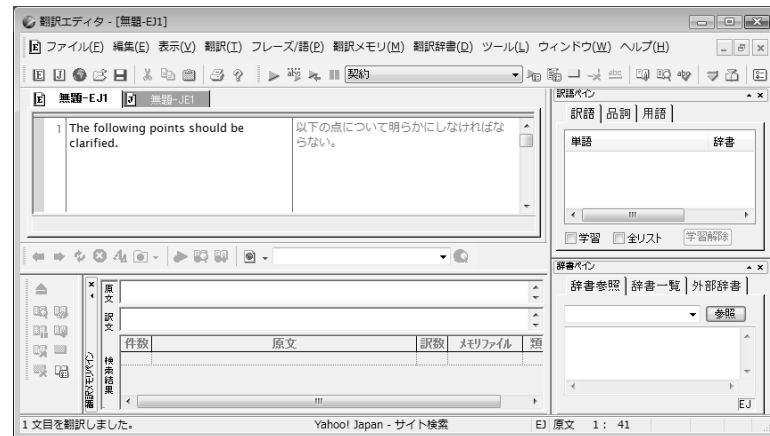
翻訳エディタで翻訳操作を行うと、「訳文生成方法」でオンになっている機能が、上から順に実行されます。初期状態では、「完全一致文検索」、「文型一致検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。初期状態のままだと、「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「文型一致検索」を行います。翻訳メモリの検索で合致する対訳文が見つからなかった場合は、「機械翻訳」がオンなので、続けて機械翻訳が実行されます。

上記の設定で、翻訳エディタに戻り、実際に翻訳を実行します。

手順

1. 原文エリアに、"The following points should be clarified."という文を入力します。
2. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。

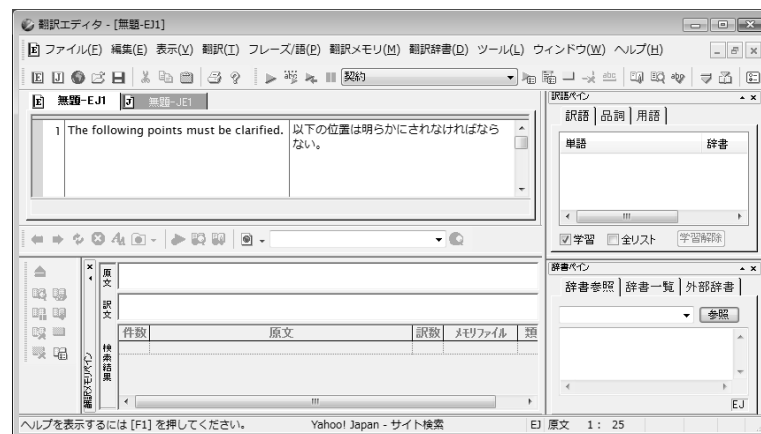
次の結果が表示されます。



訳文エリアには、「以下の点について明らかにしなければならない。」と表示されています。この訳文は、翻訳メモリから完全一致文検索によって訳出された文です。ここで翻訳は終了し、機械翻訳は実行されません。

3. たとえば"should be"を"must be"と編集して、**"The following points must be clarified."**と修正します。
4. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。

次の結果が表示されます。



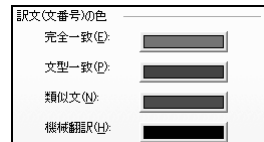
原文を修正したため一致する文が翻訳メモリから検索できなかったため、機械翻訳が実行された結果です。

● 文番号と訳文の色による区別

訳文が、翻訳メモリ検索の結果なのか、機械翻訳による結果なのかは、文番号と訳文の色で判断することができます。文番号と訳文の色は、完全一致文検索、文型一致文検索、類似文検索、機械翻訳のそれぞれで異なる色が設定されています。色の設定は次の手順で変更します。

手順

1. 翻訳エディタで、ツールバーのをクリックします。
環境設定ダイアログが表示されます。
2. 「フォントと配色」タブをクリックします。
3. 「訳文の色」で、それぞれの色を選択します。



メモ 「文型一致」で指定した色は、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色に対する指定です。翻訳エディタでタグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。

● 訳語対応

翻訳メモリの検索によって得られた訳文には、原文との間で、単語間の対応情報がありません。したがって、訳語の対応を表示することはできません。

● 強制的に機械翻訳を実行する

「訳文生成方法」の設定にかかわらず、強制的に機械翻訳を実行する場合は、Shiftキーを押しながら文番号をクリックします。
ある範囲の文を一括して機械翻訳したい場合は、Shiftキーを押しながら、翻訳したい範囲の文番号を選択します。マウスのボタンを離すと、選択された範囲の文が順に機械翻訳されます。
カーソル位置以降の文をすべて強制的に機械翻訳する場合は、Shiftキーを押しながら、[翻訳]—[カレント文以降を翻訳]を選択するか、ツールバーのをクリックします。

3.2.3 対訳文の登録

翻訳メモリには、翻訳の実務を通して対訳文を蓄積していくことができます。翻訳した結果を翻訳メモリに登録しておくと、後で全く同じまたはほとんど同じ表現があった場合、翻訳メモリから以前の翻訳結果を引き出して、その訳文を再利用することができます。

ここでは、もっとも基本的な名詞をタグにした場合の対訳文の登録手順を説明します。

名詞をタグにした例は、基本操作編の『翻訳メモリを使った翻訳』も合わせて参照してください。

その他の品詞の登録に関しては、『3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する』を参照してください。



ヒント

以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。
また、登録した文は、英→日と日→英で共通して使用することができます。

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すと以下のように訳されます。

原文

Chapter 3 has more information about this.

翻訳結果

第3章は、これに関する詳細な情報がある。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

Chapter <\$1=3> has more information about <\$2=this>.

登録する訳文

第<\$1=3>章で、<\$2=これ>について詳しく説明します。

メモ 原文のタグに相応する部分の訳文に、タグをつけます。

次に[翻訳]―[翻訳設定]―[翻訳]にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文1

Chapter 3 has more information about this.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

第3章で、これについて詳しく説明します。

また次の例は以下のように翻訳されます。

原文2

Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.

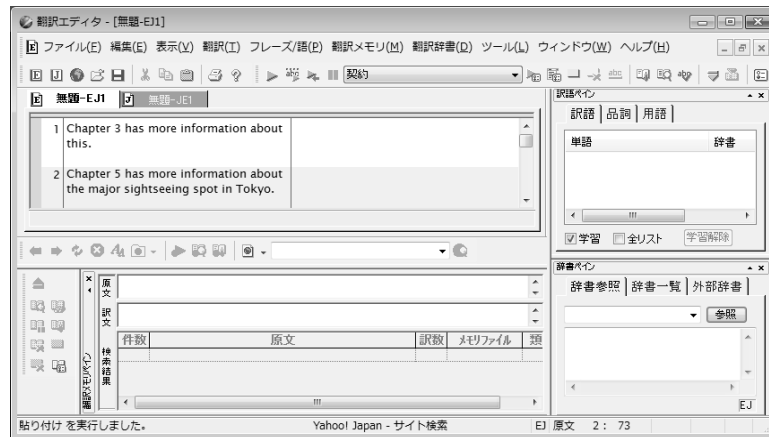
翻訳メモリを使った翻訳結果2

第5章で、東京での主な観光地について詳しく説明します。

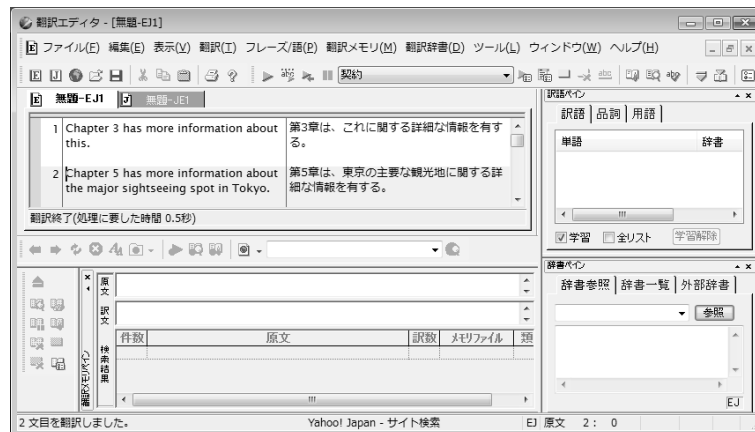
対訳文を登録する手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。
この例では、"Chapter 3 has more information about this."と入力してEnterを押して、新しい文番号に"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."と入力します。



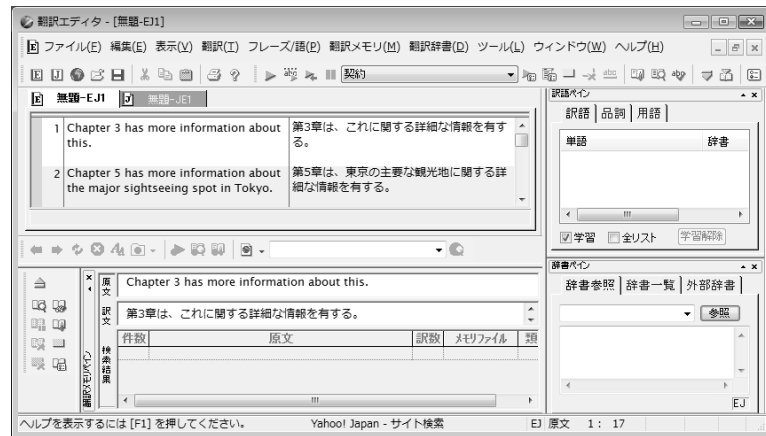
2. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



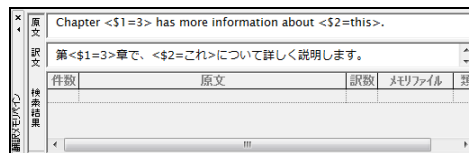
自然な文体になるようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

3. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてカーソルを置きます。続いて▼をクリックします。

翻訳メモリペインにカーソル位置の対訳文が読み込まれます。



4. 原文にタグを指定します。タグ指定したい単語にカーソルを置いて  をクリックすると、タグで囲まれます。複合語をタグ指定する場合は、文字列を選択して  をクリックします。
まず、「3」を選択して  をクリックします。次に、「this」を選択して  をクリックします。
5. 訳文に翻訳結果を入力します。
まず、「第3章で、これについて詳しく説明します。」と入力します。
次に、「3」を選択して  をクリックして、「これ」を選択して  をクリックします。



原文と訳文においてタグの数、タグ名（\$1、\$2など）は1対1で対応しなければなりません。

6. 原文と訳文に正しくタグをつけたら、 をクリックします。
次の画面が表示されます。

「登録先」以外の項目は、修正可能です。登録先は、登録用に設定されている翻訳メモリファイルです。

「作成者」には、コンピュータのログオンユーザー名が表示されます。

「文書名」には、翻訳エディタで翻訳中のファイル名が表示されます。

「登録日時」には、コンピュータに設定されているWindowsのシステム日付が表示されます。

「翻訳フラグ」には、「機械訳」と「人間訳」があります。Transterで翻訳した場合は機械訳が、ユーザーが翻訳結果を修正した場合は人間訳が、オンになります。

「コメント」には、対訳文の説明を入力できます。

登録情報は、検索結果の付加情報として表示されます。表示例が『3.2.4 対訳文の検索』にあるので参照してください。



ヒント 翻訳エディタから直接、登録画面を呼び出すこともできます。翻訳エディタで、登録したい文にカーソルを置き、[翻訳メモリ]—[登録]—[カレント文を登録]を選択するか、ツールバーのをクリックします。

7. 各項目を正しく入力して、〈登録〉をクリックします。

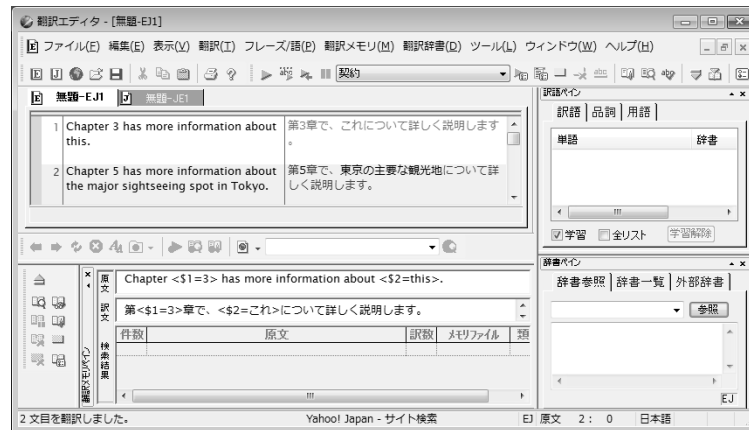
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

次に、再翻訳を実行します。

8. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



文番号の色と訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に完全に一致しているため「完全一致」文の色になります。

2番目の文は文型一致しているので、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色は「文型一致」で指定した色、タグに対応して翻訳された文字列は「機械翻訳」で指定した色になります。

メモ 文番号と訳文の色の指定は、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]で行います。



ヒント この対訳は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

● タグを外す

タグを外すには、タグにカーソルを置き、 をクリックするか、または[翻訳メモリ]－[タグ解除]を選択します。
「<\$タグ名=>」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。



ヒント 文字列を選択してからタグ解除を実行すると、範囲内のすべてのタグを解除することができます。

3.2.4 対訳文の検索

翻訳メモリペインでは、完全に一致する文の検索、文型が一致する文の検索、原文と同一の語句が含まれる文を検索するキーワード検索、単語の並びが似ている類似文の検索機能があります。また、検索結果の文を翻訳エディタに貼り付けることができます。ここでは、前述の例で登録した文を使って対訳文の検索方法、結果の表示、翻訳エディタへの貼り付けを説明します。

● キーワード検索

前節で登録した例文を使って説明します。

手順

1. 翻訳エディタの"Chapter 3 has more information about this."にカーソルを置いて、をクリックします。

翻訳メモリペインの原文入力エリアに"Chapter 3 has more information about this."と取り込まれます。

2. をクリックします。

をクリックする、または[翻訳メモリ]→[キーワード検索]を選択すると、「キーワード検索」と「文型一致文検索」をセットにして実行します。

まず、「キーワード検索」が実行され、合致する文が見つからなかった場合は、続けて「文型一致文検索」が実行されます。

メモ 設定ダイアログの「検索オプション」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

結果表示エリアに次のように表示されます。

翻訳メモリペイン	Chapter 3 has more information about this.			
	第3章で、これについて詳しく説明します。			
	件数	原文	訳数	訳文
検索結果	1	Chapter 3 has more information about this.	1	第3章で、これについて詳しく説明します。
翻訳メモリ	ユーザー翻訳メモリ			

この例では、キーワード検索で合致する文が見つかったので、文型一致文検索は実行されませんでした。

キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。

● 類似文検索

前節で登録した例文を使って説明します。

手順

1. 翻訳エディタの"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."へカーソルを置いて、をクリックします。

翻訳メモリの原文入力エリアに"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."と取りこまれます。

2. をクリックします。

をクリックする、または[翻訳メモリ]→[類似文検索]を選択すると、「文型一致文検索」と「類似文検索」をセットにして実行します。

メモ 設定ダイアログの「検索オプション」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

結果表示エリアに次のように表示されます。

Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.				
第5章で、東京の主要な観光地について詳しく説明します。				
件数	原文	訳数	訳文	メモリファイル
1	Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.	1	第5章で、東京の主要な観光地について詳しく説明します。	ユーザー翻訳メモリ

類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。検索結果は、類似度の高いものから順に表示されます。類似度が同じものは、翻訳メモリ設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブと「検索オプション」タブの設定に従って変わります。翻訳メモリ設定ダイアログの詳細は、『3.5 翻訳メモリの環境設定』と『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

メモ 登録情報が一致する対訳文については表示順位は不定です。

● 類似検索結果の表示

類似検索において、文型一致文と類似度の高い文は結果表示エリアに表示されます。

メモ 単語の並びの一致する部分が長いほど、類似度は高くなります。

検索対象文と登録されている原文を比較して、違う部分は緑色で表示され下線が引かれます。

文型一致文

文型一致文の訳文は、タグの部分を機械翻訳して表示します。

類似文

類似文の訳文は、登録されている訳文がそのまま表示されます。

● 検索結果の表示

キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。
類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。
また、結果は項目ごとに表示されます。

● 表示項目

「件数」は原文の数、「訳数」は訳文の数です。同一原文に複数の訳文が登録されている場合は、件数は1、訳数は2となります。

件数	原文	訳数	訳文
1	Chapter 3 has more information about this.	1	これについては、第3章で詳しく説明します。
		2	第3章で、これについて詳しく説明します。

「フラグ」とは、登録の際に付加した翻訳フラグで、機械訳はM、人間訳はHと表示されます。登録情報の入力については、『3.2.3 対訳文の登録』を参照してください。

● 表示幅の変更

各項目の境界線の上、マウスポインタがに変わったところでドラッグすると境界線が移動して幅を変更できます。

件数	原文	訳数	訳文
1	Chapter 3 has more information about this.	1	第3章で、これについて詳しく説明します。

● 昇順／降順の切り替え

各項目名をダブルクリックすると、その項目を基準に昇順／降順が切り替わります。

● 検索結果の貼り付け

結果表示エリアにある原文または訳文をダブルクリックすると、原文入力エリア、または、訳文入力エリアにコピーされます。

● 制限

● 無視する語

文中に多く含まれる以下の語は、翻訳メモリの検索では無視されます。

a	the	I	you	this	that	it	they
these	those	be	can	may	must	shall	will
have	do	and	at	as	by	from	for
if	in	of	off	on	or	to	when
with							

- 記号の扱い

原文が英語の場合、記号は、検索時には文字と見なされずは無視されます。
日本語の場合は、1文字の記号は無視されますが、2文字以上からなる記号は検索対象となります。

- タグに対応した語句の先頭がカンマの場合

タグに対応した部分の語句の先頭がカンマの場合、文型一致検索の対象となりません。

- 文型一致文検索

文型一致文検索では検索結果を表示する際、タグに対応した語句を翻訳します。
タグと対応する語句の品詞の違いなどにより翻訳に失敗した場合、タグに対応した語句は翻訳されず、原語のまま表示されます。

3.2.5 ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示

翻訳メモリでは、設定しているユーザー翻訳メモリのみの検索を行えます。

原文エリアに「*」（半角）と入力してキーワード検索を実行すると、ユーザー翻訳メモリで原文が英語の対訳文を999件表示します。

原文エリアに「*」（全角）と入力してキーワード検索を実行すると、ユーザー翻訳メモリから原文が日本語の対訳文を999件表示します。

3.2.6 検索結果を翻訳エディタへ反映

翻訳メモリペインにある訳文や検索結果を翻訳エディタに貼り付けることができます。

- 訳文入力エリアから貼り付け

△ボタンをクリックするか、[翻訳メモリ]—[対訳文を確定]を選択すると訳文入力エリアにある文が翻訳エディタのカーソル位置の訳文と置き換わります。
また、翻訳エディタの文には翻訳ロックがかかります。
「対訳文を確定」を選択した際、翻訳エディタのカーソル位置に原文が無い場合は、原文も貼り付けられます。

- 結果表示エリアから貼り付け

検索結果の表示エリアで貼り付けたい訳文をダブルクリックすると、訳文入力エリアに貼り付きます。続いて△ボタンをクリックしてください。翻訳エディタのカーソル位置に訳文が貼り付けられて、文に翻訳ロックがかかります。

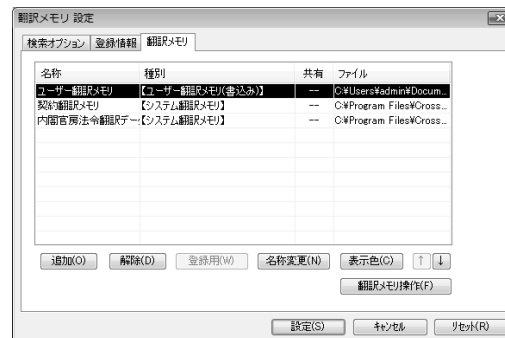
3.3 ユーザー翻訳メモリを作成と選択

対訳文の登録は、翻訳作業の効率化に欠かせない作業です。また、いろいろな文書を翻訳していると、分野ごとに異なる複数の翻訳メモリを使い分ける必要が生じてきます。

ここでは、登録用の翻訳メモリ（ユーザー翻訳メモリ）の新規作成、使用する翻訳メモリの設定手順を説明します。

翻訳メモリの新規作成と設定は、[翻訳メモリ]－[設定]で行います。

をクリックするか、[翻訳メモリ]－[設定]を選択して、「翻訳メモリ」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態では契約翻訳メモリ、内閣官房法令翻訳データ翻訳メモリ、ユーザー翻訳メモリが指定されています。ユーザー翻訳メモリは、登録用に設定されたもので、内容は空です（何も登録されていません）。日→英でも、同じ翻訳メモリが初期設定されています。

● 翻訳メモリの保存場所

初期状態で、翻訳メモリは以下の場所に保存されています。

契約翻訳メモリ

[Program Files]→[CrossLanguage]→[Legal-TranserV2]→[common]→[dic]→[legdb.ty2]

内閣官房法令翻訳データ翻訳メモリ

[Program Files]→[CrossLanguage]→[Legal-TranserV2]→[common]→[dic]→[casdb.ty2]

ユーザー翻訳メモリ

[ホームディレクトリ]→[dic]→[casdb.ty2]

● 使用する翻訳メモリを選択する

Transterでは、最大10個までの翻訳メモリを同時に使用できます。
 〈追加〉をクリックすると、ファイルを開くダイアログが表示されます。



ヒント

翻訳メモリ設定リストにすでに10個の翻訳メモリを設定して〈追加〉をクリックした場合、最大数が10個であるというメッセージが表示され、それ以上は設定できません。



開くダイアログが表示されるので、設定したい翻訳メモリをダブルクリックするか、または翻訳メモリを選択して〈開く〉をクリックすると、翻訳メモリが選択されて設定ダイアログに戻ります。



旧バージョンで作成した翻訳メモリ（拡張子 .tyx）を使用するには、翻訳メモリをインポートする必要があります。インポートの手順については『3.6 インポート』を参照してください。

● 翻訳メモリをリストから外す

設定ダイアログのリストから翻訳メモリを外すには、外す翻訳メモリを選択して、Delete (Del) キーを押すか、または〈解除〉をクリックします。



検索する対訳文がなくなってしまうので、リストにあるすべての翻訳メモリを外すことはできません。必ず1つはリストに残してください。

● 新規にユーザー翻訳メモリを作成する

新しくユーザー翻訳メモリを作成する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 設定ダイアログの〈追加〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



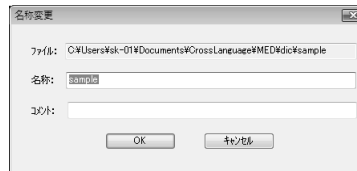
2. 「ファイルの場所」を翻訳メモリを作成するフォルダへ移動します。

3. 「ファイル名」に新規作成する翻訳メモリファイル名を入力します。

新しいファイル名を入力すると新規作成することを確認するメッセージが表示されます。

4. 〈はい〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



「ファイル」には、ユーザー翻訳メモリの作成場所がフルパスで表示されています。

「名称」は、ユーザー翻訳メモリの名前を入力します。初期状態では、ファイル名がそのまま表示されますが、ファイル名とは別にわかりやすい名前を日本語でつけることもできます。

「コメント」には、ユーザー翻訳メモリの内容、分野などの説明文を入力します。

5. すべての項目を正しく入力したら、〈OK〉をクリックします。

設定ダイアログに指定した新規ユーザー翻訳メモリが追加されます。

● 書き込み用ユーザー翻訳メモリを指定する

ユーザー翻訳メモリは、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な（登録できる）翻訳メモリとして開けるのは1つだけです。



Transerが提供しているシステム翻訳メモリを書き込み可能な翻訳メモリに指定することはできません。

翻訳メモリ設定ダイアログにユーザー翻訳メモリがない場合は、最初に指定されたユーザー翻訳メモリが、書き込み用ユーザー翻訳メモリに設定されます。書き込み可能なユーザー翻訳メモリを変更するには、目的のユーザー翻訳メモリを選択して、〈登録用〉をクリックします。

書き込み用ユーザー翻訳メモリに〈解除〉を実行すると、翻訳メモリはリストから外されるので、対訳文を登録することができなくなります。対訳文の登録を行う場合は、必ず、書き込み用のユーザー翻訳メモリをリストに残してください。

● 翻訳メモリの優先順位を指定する

翻訳メモリは優先順位の高いものから並べられます。追加された翻訳メモリは、設定ダイアログで選択して反転表示しているファイルがある場合は、その上に追加され、ない場合はリストの最後に追加されます。

優先順位を変更するには、翻訳メモリ名をドラッグして（ポインタがになる）、移動先の位置でマウスのボタンを離します。

前後へ1つずつ移動する場合は、移動する翻訳メモリを選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。



（1つ前へ移動）



（1つ後ろへ移動）

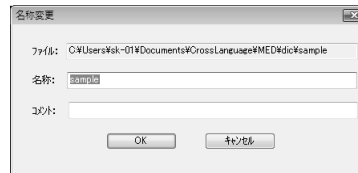
● 翻訳メモリの名前を変更する

設定ダイアログでは、翻訳メモリの名前を変更することができます。翻訳メモリに異なる名前を付けておくと、翻訳メモリを分類するのに便利です。翻訳メモリの名前を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. リスト内の翻訳メモリを選択して、ダイアログ下部にある〈名称変更〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。「ファイル」には、翻訳メモリファイルのある場所がフルパスで表示されています。



2. 「名称」に翻訳メモリの名前を入力して、〈OK〉をクリックします。
元のダイアログに戻り、変更した名前が表示されます。

3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する

ここでは、対訳文を1つずつ登録する手順について説明します。あらかじめ用意しておいた大量の対訳文を一括して登録する手順については、『3.6 インポート』を参照してください。

対訳文の登録では、原文・訳文という分け方をしていますが、登録された対訳文の検索は双方向に行うことができます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で使用することができます。

初期状態で設定されている「契約翻訳メモリ」、「内閣官房法令翻訳データ翻訳メモリ」、「ユーザー翻訳メモリ」は英→日と日→英で共用されています。

日→英で「書き込み」と設定して使用中の翻訳メモリに対して、英→日から対訳文の登録を行っても、実際には登録されません。

文を登録する前に、設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで、「書き込み」になっている翻訳メモリがあることを確認してください。



「書き込み」翻訳メモリが無いと、対訳文を登録することはできません。



以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。

3.4.1 対訳文の登録方法

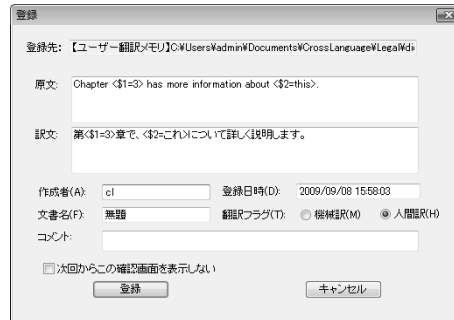
対訳文の登録は次の手順で実行します。

手順

1. ツールバーのをクリックするか、[翻訳メモリ]―[登録]―[対訳文を登録]を選択します。

次の登録画面が表示されます。

このとき、原文入力エリアと訳文入力エリアの文が、自動的に「原文」と「訳文」にコピーされます。



登録先: 【ユーザー翻訳メモリ】C:\Users\Admin\Documents\CrossLanguage\Logs\Wds

原文: Chapter <\$1=3> has more information about <\$2=this>.

訳文: 第<\$1=3>章で、<\$2=これ>について詳しく説明します。

作成者(A): cl 登録日時(D): 2009/09/08 15:58:03

文書名(F): 無題 翻訳フラグ(T): ☐ 機械翻訳(M) ☒ 人間翻訳(H)

コメント:

☐ 次回からこの確認画面を表示しない

登録 キャンセル



ヒント

翻訳エディタから直接、登録画面を呼び出すこともできます。翻訳エディタで、登録したい文にカーソルを置き、[翻訳メモリ]―[登録]―[カレント文を登録]を選択するか、ツールバーのをクリックします。

「原文」と「訳文」の内容は、編集することができます。

その他の項目の内容は以下のとおりです。必要であれば、修正してください。

登録先

対訳文を登録する翻訳メモリファイル名です。

作成者

対訳文の作成者です。初期状態ではログオンユーザー名が表示されます。

登録日時

対訳文を登録した日時です。設定ダイアログの「登録情報」タブで「システム日時を使う」チェックボックスがオンの場合、Windowsのシステム日付が表示されます。

文書名

原文の文書（現在翻訳作業中の文書）の名前です。

コメント

対訳文の説明を入力します。

翻訳フラグ

登録する訳文が、機械翻訳か人間の翻訳によるものかを指定します。
 設定ダイアログの「登録情報」タブで、「翻訳フラグ」の「自動判別」チェックボックスがオンの場合、機械翻訳か人間の翻訳かを自動的に判断します。
 機械訳：登録する訳文が、機械翻訳であることを示します。
 人間訳：登録する訳文が、ユーザーによる翻訳であることを示します。

2. 〈登録〉をクリックします。

翻訳メモリペインに表示されている内容が、翻訳メモリに登録されます。

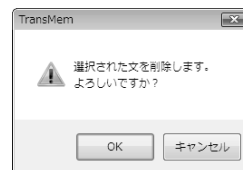


ヒント

「次回からこの確認画面を表示しない」チェックボックスをオンにすると、次回の登録時には、この登録画面を表示せず、直ちに翻訳メモリに登録します。再度登録画面を表示する場合は、設定ダイアログの「登録情報」タブで、「登録確認画面を表示しない」チェックボックスをオフにしてください。翻訳エディタから直接登録する場合には、登録画面は必ず、表示されます。

3.4.2 対訳文の削除

結果表示エリアに表示されている原文または訳文にカーソルを置き、ツールバーのをクリックするか、または[翻訳メモリ]―[削除]を選択すると、その対訳文は翻訳メモリから削除されます。選択した原文に複数の訳文が登録されている場合、すべての訳文が削除されます。複数の訳文を1度に削除する場合は、Shift+クリックまたはCtrl+クリックで訳文を選択して、削除を実行してください。削除の対象となる文の「件数」または、「訳数」が選択され、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、選択された対訳文が翻訳メモリから削除されます。



削除できるのは、書き込み用に設定されている翻訳メモリに登録されている対訳文だけです。

3.4.3 完全一致文の登録

タグを含まない原文と訳文を登録します。

手順

1. 翻訳メモリペインの原文入力エリアに原文を入力します。

たとえば、次の文を入力します。

Turning now to FIG. 1, there is shown a depiction of the surface topography of a coupling interface.

2. 訳文入力エリアに訳文を入力します。

たとえば、次の文を入力します。

図1に戻ると、結合インタフェースの表層地形学の描写が示されている。

3. ツールバーのをクリックします。

登録ダイアログが表示されます。各項目の内容が正しいか確認してください。間違いがあれば、修正します。

4. 〈登録〉をクリックします。

これで、対訳文が登録されました。

3.4.4 文型とタグ

変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名= >」でくくって登録し、文型一致文検索で翻訳に活用することができます。

たとえば、「I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.」を機械翻訳すると「私は、10月1日にファックスであなたのカタログの2部を注文した。」となります。これを、「10月1日のファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。」と翻訳したい場合、翻訳メモリに登録すれば、簡単に訳を得られます。

また、この文でコピーの部数を示す「2 copies」、通信手段を示す「by fax」、日付を表す「on October 1」などを変更可能にして登録しておけば、日付や通信手段が変わったときにでも、変更された部分だけを翻訳して同じ結果を得られます。

この例では、以下のように登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.

訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。

以下の原文を翻訳エディタに入力して翻訳します。

【翻訳結果の例】

原文：I ordered three copies of your catalogue by fax on Sep. 1.

訳文：9月1日にファックスで貴社のカタログを3冊注文しました。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。



タグを含む文型一致文検索を利用して翻訳する場合は、翻訳エディタの翻訳設定ダイアログの[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]で「文型一致文検索」チェックボックスをオンにしてください。

● タグ

タグは、次の形をしています。

● もっとも単純なタグ

もっとも単純なタグは、以下の形式です。

<\$1>

<\$2>

<\$3>

翻訳メモリペインで■をクリックしてタグ指定を行うと<\$1> <\$2> <\$3> ...とタグ名の整数が1つずつ増えていき、最大10個まで指定することができます。タグの数とタグ名は、原文と訳文で一致しなければなりません。

● 詳細指定したタグ

タグにいろいろな情報を付加して、翻訳に役立てることができます。

詳細指定したタグは次の形をしています。

<\$タグ名/生成情報=例文>

メモ 「/生成情報」と「=例文」は、省略可能です。「生成情報」は訳文側のタグにのみ使用できます。<,>,\$,/,=などの記号は半角です。

英→日【原文側のタグの例】	日→英【原文側のタグの例】
<\$1>	<\$1>
<\$date=December 25>	<\$地名=東京>
英→日【訳文側のタグの例】	日→英【訳文側のタグの例】
<\$name/NP>	<\$name/OBJ>
<\$通信手段/NP=メール>	<\$place/DEF=Red Sea>

● タグ名

タグ名には、アルファベット、数字、ひらがな、カタカナ、漢字を使用することができます。長さは、「\$=」を含めて64バイト（日本語で32文字）までです。

● 例文

文型を翻訳メモリに登録する場合、タグ名（または生成情報）の後に、=に続けて、タグに合致する例文を記述することができます。

【例】

<\$製品/NP=翻訳ソフトウェア>

・英→日 生成情報

タグ名の後に続けて、生成情報を記述することができます。生成情報は、訳語側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切って複数記述することができます。不要であれば、省略することもできます。設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳モード関連

- NOCASE 原文の大文字小文字を区別しないで翻訳する
- DESU 訳文の語尾を「です・ます」調にする

メモ 指定がない場合は、翻訳エディタの、[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]の設定に従います。

翻訳ターゲット

- NP 原文を名詞句として訳す
- VP 原文を動詞句として訳す
- AP 原文を形容詞句として訳す
- DP 原文を副詞句として訳す
- SE 文末がピリオドでない原文を文として訳す

メモ 指定がない場合は、名詞句として扱います。



ヒント

VPとAPは、次のように、日本語訳語の活用形と送りを指定することができます。

翻訳ターゲット:活用形記号 {送り}

活用形記号は、ユーザー辞書登録で使用するものと同じです。

【例】

VP:O{て}

・日→英 生成情報

タグ名の後に続けて、生成情報を記述することができます。生成情報は、訳語側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切って複数記述することができます。不要であれば、省略することもできます。設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳ターゲット

- DEFまたはdef 定冠詞を必ず付ける
- NODEFまたはnodef 定冠詞を付けない
- NOINDEFまたはnoindef 不定冠詞を付けない
- NOARTまたはnoart 冠詞を付けない
- PLまたはpl 訳語を複数形にする
- OBJまたはobj 訳語を目的格にする

• タグの対応

原文と訳文においてタグの数とタグ名は一致しなければなりません。一致していない場合、エラーメッセージが表示され、登録できません。

たとえば、以下の例はタグ名が違うので登録できません。

【タグ名が対応していないので登録できない例】

原文：It is another object of this paper to provide <\$何を= the new method>.

訳文：本紙の他の目的は、<\$1=新しい方法>を提供することである。

• 文型（タグを含む文）を登録した場合の登録文

文型の登録で、タグに「=例文」を入れて登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

たとえば、以下のような文型を登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on <\$DATE=Feb. 1>.

訳文：<\$DATE=2月1日>に<\$通信手段=ファックス>で貴社のカタログを<\$1=2>冊注文しました。

実際には、完全一致文と文型の2つの対訳文が登録されます。

【完全一致文登録】

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on Feb. 1.

訳文：2月1日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

メモ タグなしの対訳文が登録されます。

【文型登録】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.

訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。

メモ タグ付きの対訳文が登録されます。

● タグ指定

原文入力エリアまたは訳文入力エリアで、タグでくくる文字列を選択し、ツールバーのをクリックするか、または[翻訳メモリ]－[タグ指定]を選択します。文字列が「<\$= >」でくくられます。

メモ 「タグ指定」でタグ名は、1から10までの数字が使われます。数字は1から始まり、タグ指定するごとに大きくなり、最後が10になります。「タグ指定」は、最大10個まで指定できます。

● 英単語のタグ指定

英語の「タグ指定」において、単語にカーソルを置いてをクリックするとカーソル位置の単語が自動的にタグで囲まれます。また、複合語の場合は、先頭の単語の途中から最後の単語の途中までを選択してをクリックしても、複合語の先頭から最後までがタグで囲まれます。

たとえば、the present inventionをタグ指定する場合は、the present inventionと選択してをクリックすると<\$1=the present invention>とタグで囲まれます。

● タグ解除

タグでくくった部分を元に戻すには、タグにカーソルを置き、ツールバーのをクリックするか、または[翻訳メモリ]－[タグ解除]を選択します。「<\$タグ名=」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。



範囲選択をしてからタグ解除を実行すると、範囲内のすべてのタグを解除することができます。

● タグの制限

- 1つの文型中に、タグは、最高10個まで付けることができる

- タグは、文中に連続して現れることはできない

【使用できないタグの例】

I order <\$1> <\$2>.

<\$1><\$2> を注文します。

- タグの中に、さらにタグを記述することはできない

【使用できないタグの例】

<\$TAG1=your <\$TAG2>>

<\$TAG1=貴社の<\$TAG2>>

- 文型一致文検索における制限

【例】

<\$1>, <\$2>

のように、タグをカンマで区切ったものを登録することはできますが、「スペースや句点などの違いを無視する」チェックボックスがオンの場合、このような文型は検索の対象となりません。オフにしておけば、このような文型でも検索の対象になります。

- タグにダブルクォーテーションをつけることはできない（英→日のみ）
【使用できないタグの例】
This is called "<\$1>".
- タグに括弧をつけることはできない（英→日のみ）
【使用できないタグの例】
This is called (<\$1>).

3.4.5 英→日 名詞をタグにした文の登録

翻訳メモリのもっとも単純な使い方は、名詞をタグにするものです。
次の文は、翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。
原文

There is illustrated in Fig. 1 a position relationship.

翻訳結果

位置関係は、図1において例示される。

意味はありますが、より自然な日本語としてたとえば「…に～が、示されています。」のように翻訳するには、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

There is illustrated in <\$1> a <\$2>.

登録する訳文

<\$1>に<\$2>が、示されている。

次に翻訳エディタで、[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文

There is illustrated in Fig. 1 a position relationship.

翻訳メモリを使った翻訳結果

図1に位置関係が、示されている。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

3.4.6 英→日 動詞をタグにした文の登録

次の文は、翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

Waste materials are crushed into pieces.

翻訳結果

廃棄物は、ばらばらに押しつぶされる。

上記のような「be +過去分詞」の受動態を、「～は…される」ではなく「～を…する」と訳すように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

<\$もの=Waste materials> are <\$1=crushed> into pieces.

登録する訳文

<\$もの=廃棄物>をこなごなに<\$1/VP:S=押しつぶす>。

登録内容の説明

訳語にある「/VP」はタグが動詞相当語になることを表します。

VPはVerb Phraseの省略形です。

その後の:Sは終止形で接続することを表します。この例の場合、「押しつぶす」と「。」の前に来るので終止形にします。

「S」などの記号については、辞書の活用形の指定と同じで、以下のとおりです。

M 未然形、Y 連用形、S 終止形、T 連体形、K 仮定形、O 音便形

次に翻訳エディタで[翻訳]―[翻訳設定]―[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

Empty cans are pushed into pieces.

翻訳メモリを使った翻訳結果

空の缶をこなごなに押しつぶした。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

3.4.7 英→日 形容詞をタグにした文の登録

次の文は、翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

It is natural that he is angry.

翻訳結果

彼が怒っているのは当然である。

翻訳結果では不自然な日本語なので、次のように訳文を修正して翻訳メモリに登録します。

登録する原文

It is <\$1=natural> that he is angry.

登録する訳文

彼が怒るのは<\$1/AP:S=もっともだ>。

登録内容の説明

訳語にある「/AP:S」はこのタグが形容詞相当語になり、終止形となることを表します。

APはAdjective Phraseの省略形です。

その後の:Sは終止形で接続することを表します。この例の場合、「もっともだ」と「。」の前に来るので終止形にします。

「S」などの記号については、辞書の活用形の指定と同じで、以下のとおりです。

M 未然形、Y 連用形、S 終止形、T 連体形、K 仮定形、O 音便形
S以外によく使うものとしては、Y（連用形）があります。

次に翻訳エディタで、[翻訳]―[翻訳設定]―[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文

It is natural that he is angry.

翻訳メモリを使った翻訳結果

彼が怒るのはもっともだ。

メモ 下線の部分がタグです。

3.4.8 英→日 副詞をタグにした文の登録

次の文は、翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

The method is described in more detail with the drawings.

翻訳結果

方法は、図面で更に詳細に記述される。

文全体が不自然なので、自然な日本語に修正して次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

<\$1=The method> is described <\$2=in more detail> with the drawings.

登録する訳文

<\$1=方法>を図面で<\$2/DP=詳細に>記述する。

登録内容の説明

訳語にある「/DP」はタグが副詞相当語になることを表します。

DPはAdverb Phraseの省略形です。

次に翻訳エディタで、[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

The process is described in detail with the drawings.

翻訳メモリを使った翻訳結果

プロセスを図面で詳細に記述する。

メモ 下線の部分がタグです。

3.4.9 英→日 節や文をタグにした文の登録

次の文は、翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

In addition, there is another device, called the panning device.

翻訳結果

加えて、他の装置がある。そして、パニング装置と呼ばれる。

カンマで囲んだ部分が長い場合は、上記のように「～がある。そして、…と呼ばれる。」としてもいいですが短文の場合は「…と呼ばれる～がある。」とした方が自然です。そこで、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

In addition, <\$1=there is another device>, called <\$2=the panning device>.

登録する訳文

加えて、<\$2=パニング装置>と呼ばれる<\$1/SE=他の装置がある>。

登録内容の説明

ここで、訳文にある「/SE」はタグが文節になることを表します。

SEはSentenceの省略形です。

次に翻訳エディタで、[翻訳]－[翻訳設定]－[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文

In addition, there is one device, called the sound-effect device.

翻訳メモリを使った翻訳結果

加えて、サウンド・エフェクト装置と呼ばれる1台の装置が、ある。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

3.4.10 日→英 生成情報を含む文型の登録

次の文を登録します。

登録する原文

<\$1=ゴム製パッド>を<\$2=穴の内壁>に取り付ける。

登録する訳文

<\$1=A rubber pad> is attached to <\$2=the inner wall of a hole>.

登録内容の説明

ここで各タグは、冠詞を含んでいますが、生成情報によって、冠詞を付けたり、付けなかったりすることができます。

たとえば、上記の例において、「<\$2=>」で訳出される語句には、必ず、定冠詞を付けるようにするには、次のように登録します。

登録する原文

<\$1=>を<\$2=>に取り付ける。

登録する訳文

<\$1=> is attached to <\$2/DEF=>.

次に翻訳エディタで、[翻訳]―[翻訳設定]―[翻訳]にある「訳文生成方法」の「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

キャップを支持面に取り付ける。

翻訳メモリを使った翻訳結果

A cap is attached to the bearing surface.

メモ 下線の部分がタグで、訳文側ではタグが翻訳されています。<\$2=>に相当する語句には定冠詞がついています。

3.4.11 対訳文の一括登録

翻訳エディタの対訳文を一括で登録することができます。
一括登録では、翻訳ロックやユーザーロックがかかっている文のみ登録したり、
選択状態の文のみ登録したりすることができます。

- 対訳文の作成

テキストファイルを読み込んだり、他のアプリケーションにある文章をコピーして翻訳し、対訳文を作成します。
必要に応じて、翻訳ロックやユーザーロックを設定します。

- 一括登録の実行

[翻訳メモリ]－[登録]－[一括登録]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



一括登録では、「対象とする範囲」と「文の条件」の両方に合致する文が登録されます。

- 対象とする範囲

登録する文を指定します。

- すべての文

翻訳エディタにあるすべての対訳文が対象となります。

- カレント文

カーソル位置の対訳文のみ対象となります。

- 選択されている文

翻訳エディタにおいて、原文と訳文が選択されている対訳文が対象となります。

- 文の条件

登録する文の属性を指定します。

- ロック無し

翻訳ロックおよびユーザーロックが設定されていない文です。

翻訳ロック

翻訳ロックが設定されている文です。

ユーザーロック

ユーザーロックが設定されている文です。

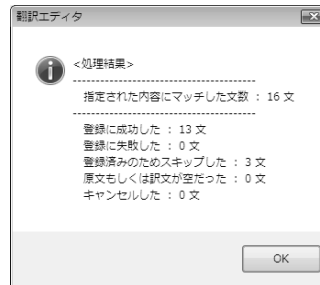
ブックマーク

ブックマークが設定されている文です。このチェックボックスがオンの場合、下部の「名称」でブックマークの種類を指定できます。

• 一括登録の開始

〈OK〉をクリックすると一括登録が開始されます。

登録が終了すると、登録結果に関するダイアログが表示されます。



メッセージの内容を確認して、〈OK〉をクリックします。

3.5 翻訳メモリの環境設定

ここでは、翻訳メモリの検索結果表示において検索条件の設定、対訳文の登録における登録情報の設定について説明します。これらの設定は翻訳メモリの設定ダイアログで設定します。

設定ダイアログでは、検索に使用する翻訳メモリの指定、新規作成を行うこともできます。翻訳メモリの設定に関しては、『3.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

以下に「翻訳メモリ」タブ以外の各タブについて説明します。

3.5.1 検索オプション

設定ダイアログの「検索オプション」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



● 検索モード

「検索モード」では、検索方法や検索範囲を設定することができます。

● 文型一致検索

このチェックボックスがオンの場合、「キーワード検索」または「類似文検索」を実行したときに、「文型一致文検索」も実行されます。

「キーワード検索」では、まず、「キーワード検索」を実行し、原文の語句がすべて含まれる文を検索します。そのような文が見つからない場合、続けて「文型一致文検索」を実行します。

「類似文検索」では、「類似文検索」と「文型一致文検索」の両方が実行され、両方の結果を合わせて、類似度の高いものから順に結果を表示します。

オフにすると、「キーワード検索」でも「類似検索」でも、「文型一致文検索」は実行されません。

- 大、小文字を区別しない

半角（1バイト文字）のアルファベットの大文字、小文字の違いを無視して検索します。全角（2バイト文字）のアルファベットについては、必ず、大文字、小文字を違う文字として検索します。



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

- スペースや句点などの違いを無視する

検索対象文が英文の場合

次のものを無視して検索します。

- 単語間のスペースの数の違い
- 単語間のカンマ(,)、ハイフン(-)、コロンの(:)、セミコロン(;))
- 文末のピリオド(.)、感嘆符(!)、疑問符(?)

検索対象文が和文の場合

次のものを無視して検索します。

- 文中のスペース
- 文中の句読点(、。)、半角と全角のカンマ(,)、半角のハイフン(-)、半角のコロンの(:)、半角のセミコロン(;)、全角の長音(ー)、中黒(・)
- 文末の句点(。)、全角・半角ピリオド(. .)、感嘆符(!)、疑問符(?)



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

メモ 英文の「類似文検索」においては、必ずこの項目のチェックボックスがオンに設定されているものとして検索します。

- 数字と日付を自動的に置き換える

検索対象文と、検索結果の原文との間で、次のように、数字や日付が異なる場合は、検索結果の原文の数字や日付を、検索対象文の対応する数字や日付で置き換え、さらにそれを訳文にも反映させます。

英→日の場合

- "2 copies"と"3 copies"または、"\$1000"と"\$10,000"のように、数字が違う
- "September 30"と"October 2"のように、日付が違う
- "Sep. 30"、"Oct. 2"のような省略文字にも適用されます。

日→英の場合

- 「1冊」と「2冊」、または「1000円」と「10,000円」のように、数字が違う
- 「9月30日」と「10月2日」のように、日付が違う



このオプションは、「類似文検索」でのみ使用できます。

メモ この機能は、漢数字およびone, twoなどのアルファベットで綴ったものに対しては適用されません。



数字と日付以外にも異なる部分がある場合は、置き換えは行われません。対訳データの原文と訳文との間の数字の対応付けは、表面的な文字列の一致で行われています。たとえば、「10人が10個を注文した」のように、同じ数字が複数存在する場合は、原文と訳文との間の数字の対応付けができなくなり、数字の置き換えも行われません。
訳文の数字や日付は、表面的に文字列を置き換えているだけです。また、「1 copy」を「2 copies」のように単語の活用語尾を変化させることはできません。

• 表示件数

表示する検索結果の数を変更できます。初期状態では100です。検索結果が、ここで指定した数よりも少ない場合は、検索された数だけ表示されます。結果表示エリアには、999件まで表示できますが、Transerが提供しているシステム翻訳メモリから検索できるのは、最大100件までです。

• 一致率

このオプションでは、「一致率」のつまみを左右に動かして類似文検索の範囲を調節します。
パーセンテージが10に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が増えます。検索の漏れは少なくなりますが、速度は遅くなります。
パーセンテージが100に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が減ります。検索速度は速くなりますが、検索に多少の漏れが出る可能性があります。

メモ 完全一致文検索および文型一致文検索では、常に、全対訳文をチェックします。



Transerが提供しているシステム翻訳メモリを検索する場合、このオプションは70%未満に設定できません。70%未満に指定しても、70%以上の一致率の対訳文しか検索されません。

- **検索結果表示**

検索結果としてどのようなデータを表示するかを指定します。

- **訳文**

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の訳文が結果エリアに表示されます。

オフだと、訳文は表示されません。

- **登録情報**

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の付加情報が結果エリアに表示されます。

オフだと、付加情報は表示されません。

- **検索結果の表示順位**

検索結果に同じ文があった場合の表示の順番を指定します。

- **登録日時（降順）**

このチェックボックスがオンの場合、登録日時の新しいものから順に、検索結果が表示されます。

- **作成者**

このチェックボックスがオンの場合、指定した作成者の作成したデータを先に表示します。作成者名は、変更することができます。

- **文書名**

このチェックボックスがオンの場合、指定した文書名の付いたデータを先に表示します。文書名は、変更することができます。

3.5.2 登録情報

設定ダイアログの「登録情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

翻訳メモリ 設定

検索オプション 登録情報 翻訳メモリ

登録日時: 2009/09/08 16:10:18 ☒ システム日時を使う(T)

作成者: admin ☒ ログオンユーザー名を使う(U)

文書名: 無題-EJ1

コメント:

翻訳フラグ

☒ 自動登録(A) ☐ 訳文を確定する時、自動登録する(G)

☐ 機械翻訳(M) ☐ 登録確認画面を表示しない(C)

☐ 人間翻訳(H)

設定(S) キャンセル リセット(R)

ここで設定する内容は、ツールバーのをクリックすると表示される登録ダイアログに反映されます。設定した内容は、登録ダイアログで、一時的に変更することもできます。

- 登録日時

対訳文を登録するときの日時を指定します。
「システム日時を使う」チェックボックスがオンの場合、ご使用のコンピュータに設定されているWindowsのシステム日付が表示されます。オフだと、任意の日時を入力できます。

- 作成者

対訳文の作成者を指定します。
「ログオンユーザー名を使う」チェックボックスがオンの場合、ログオンユーザー名が使われます。オフだと、任意の作成者名を入力できます。

- 文書名

原文を取りこんできた文書（現在翻訳作業中の文書）の名前が表示されます。
任意の文書名を入力することもできます。

- コメント

登録する対訳文にコメントが必要な場合に入力します。

- **翻訳フラグ**

- **自動判別**

- このチェックボックスがオンの場合、登録した訳文が機械翻訳かユーザーの翻訳かを自動的に判別します。

- **機械翻訳**

- 登録した訳文が機械翻訳であることを登録情報に付加します。

- **人間翻訳**

- 登録した訳文がユーザーによる翻訳であることを登録情報に付加します。

- **訳文を確定する時、自動登録する**

- このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのをクリックしたとき、表示されている対訳文を自動的に翻訳メモリに登録します。

- **登録確認画面を表示しない**

- 対訳文を登録する際に表示される登録確認画面を表示したくない場合は、このチェックボックスをオンにします。登録表示画面を表示する場合は、オフにします。

3.6 インポート

すでに翻訳済みのマニュアルなどから作成した対訳文をテキスト形式のファイルで保存している場合、それを翻訳メモリに一括登録することができます。ファイルを翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。

3.6.1 インポートできるファイルの種類

インポートできるファイルは以下のとおりです。

- Transerの対訳ファイル (*.txt, .out)
- TSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される *.tsv, txt)
- CSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される *.csv)
- 英→日翻訳ファイル (*.edh, eph, emh)
- 日→英翻訳ファイル (*.jdh, jph, jmh)
- 翻訳メモリファイル (*.ty2)
- 旧翻訳メモリファイル (*.tyx)
- TMXファイル (*.tmx)
- 翻訳メモリntm形式ファイル (*.ntm)
- Translation Manager/2形式ファイル (*.exp)

翻訳メモリファイル以外は、すべてテキストファイルなので、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。



インポート元のファイル形式は、ファイル名の拡張子によって決まります。インポート元となるファイルを作成する際には、拡張子にご注意ください。

以下に各ファイルについて説明します。

● Transerの対訳ファイル

翻訳エディタで[ファイル]―[名前を付けて保存]を選択して作成した対訳ファイルです。ファイル名には、通常 .txtという拡張子が付けられています。対訳ファイルの作成方法については、『3.6.2 対訳ファイルの作り方』も参照してください。

Transer対訳ファイルの例

--/H

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.

10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

● TSV形式ファイル

各行に、原文と訳文をTABコードで区切って保存したファイルです。原文テキストファイルと訳文テキストファイルが別々にあるような場合は、たとえばExcelなどの表計算ソフトを使用して、カラムAに原文を、カラムBに訳文を読み込み、TSV形式でファイルを保存すると作成できます。拡張子は .tsv です。

TSV形式ファイルの例

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.<TAB>¥
10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

なお、ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

● CSV形式ファイル

各行に、原文と訳文をカンマで区切って保存したファイルです。原文テキストファイルと訳文テキストファイルが別々にあるような場合は、たとえばExcelなどの表計算ソフトを使用して、カラムAに原文を、カラムBに訳文を読み込み、CSV形式でファイルを保存すると作成できます。拡張子は .csv です。

CSV形式ファイルの例

"I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.", ¥
"10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。"

なお、ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

● Transerの翻訳ファイル

翻訳エディタで[ファイル]ー[上書き保存（または「名前を付けて保存」）]を選択して作成した「翻訳ファイル」です。ファイル名には、通常英→日の場合.edh、日→英の場合.jdhという拡張子がつけられています。翻訳ファイルのインポートでは、すべての対訳文のインポート、または、ロックのかかっている文のみのインポートを実行できます。

メモ Transerの関連製品の翻訳ソフトでは、以下の拡張子が付けられます。
翻訳Studioでは英→日の場合 .edh、日→英の場合 .jdh
特許用翻訳ソフトPAT-Transerでは英→日の場合 .eph、日→英の場合 .jph
医学用翻訳ソフトMED-Transerでは英→日の場合 .emh、日→英の場合 .jmh

● 翻訳メモリファイル

Transerの翻訳メモリペインで登録して作成した翻訳メモリファイルで、拡張子は .ty2 です。

翻訳メモリファイルをインポート元に指定すると、複数の翻訳メモリを1つのファイルにまとめる（マージする）ことができます。

- 旧翻訳メモリファイル

旧バージョンで作成された翻訳メモリファイルで、拡張子が .tyx の場合があります。このファイルを TranSer の翻訳メモリファイルとして使うには、インポートが必要です。

- TMX形式ファイル

翻訳メモリの国際標準フォーマットである TMX ファイルをインポートできます。TRADOS などの他のアプリケーションで作成した翻訳メモリを、TMX 形式に変換すれば、TranSer の翻訳メモリとしてインポートできます。TMX 1.1 と 1.4 に対応しています。

- 翻訳メモリ ntm 形式ファイル

翻訳メモリの内容を以下のような ntm テキスト形式に変換したファイルです。ファイル名には、ntm という拡張子を付けてください。ntm 形式の詳細は、『3.6.6 ntm 形式ファイル』を参照してください。

ntm 形式ファイルの例

```
<NovaTMDData>
<Description>test</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2009/10/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% E %% J %%
注文書 %% </Information>
</NovaTMDData>
```

- Translation Manager/2形式ファイル

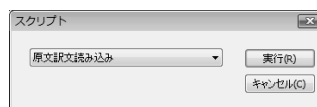
IBM 社の製品である、Translation Manager/2 形式ファイルです。ファイル名には、通常 .exp という拡張子が付けられています。形式の詳細は、Translation Manager/2 の説明書を参照してください。

3.6.2 対訳ファイルの作り方

TranSer で作成した対訳文を「対訳ファイル」に保存して、この「対訳ファイル」をインポートすることで、一括で対訳文を登録することができます。別ファイルに保存した原文テキストファイルと訳文テキストファイルを TranSer へ読み込んで、対訳文を作成することもできます。テキストファイルは、製品に添付されているスクリプトを利用して読み込み、翻訳エディタで原文と訳文の対応を整えて、「対訳ファイル」に保存します。ここでは、すでに原文テキストファイルと訳文テキストファイルが準備されている場合について説明します。

手順

1. [ツール]—[スクリプト]を選択します。リスト内にある「原文訳文読み込み」を選択します。



2. 「実行」をクリックします。

原文ファイルを指定ダイアログが表示されます。



3. 原文テキストファイルを選択して「開く」をクリックします。

訳文ファイルを指定ダイアログが表示されます。



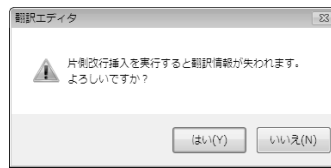
4. 訳文テキストファイルを選択して「開く」をクリックします。

翻訳エディタに指定した原文ファイルと訳文ファイルが各々のエリアへ読み込まれます。

Transterで翻訳する場合は、一文ごとに文番号が振られ、原文と訳文は一对一の対応でしたが、翻訳メモリ用の対訳文は、一对一の対応である必要はありません。たとえば、原文は「How have you been?」で、訳文は「久しぶりね。元気ですか?」と複数の文を1つの文番号に書き込んでもかまいません。カット&ペーストで複数の文をつなげたり、切ったりして編集してください。通常、翻訳エディタでは原文エリアと訳文エリアが連動して上下に移動しますが、一方だけを文分割して、もう片方のエリアはそのままにすることができます。

5. 文分割したいところへカーソルを移動します。
6. 翻訳エディタにある[編集]―[片側改行挿入]を選択するか、**Shift+Enter**を押します。

次の確認メッセージが表示されることがあります。



メモ 片側改行挿入を実行する位置以降の文章に翻訳情報がない場合、確認メッセージは表示されません。

7. 〈はい〉をクリックします。

カーソル位置で文分割され、文番号が振りなおされます。もう片方のエリアはそのままの状態が残ります。エリアごとの文の分割と結合については『1.4.4 片側改行挿入と結合』を参照してください。
編集が終了したら、「対訳ファイル」に保存します。

8. 翻訳エディタにある[ファイル]―[名前を付けて保存]を選択します。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



9. 「ファイルの種類」を「対訳ファイル」に変更して、「ファイル名」ボックスに適切なファイル名を入力してから〈保存〉をクリックします。

これで、「対訳ファイル」として保存されました。『3.6.3 翻訳メモリに一括登録する』を参照して、「インポート元」に作成した対訳ファイルを指定すると、一括で対訳文が登録されます。

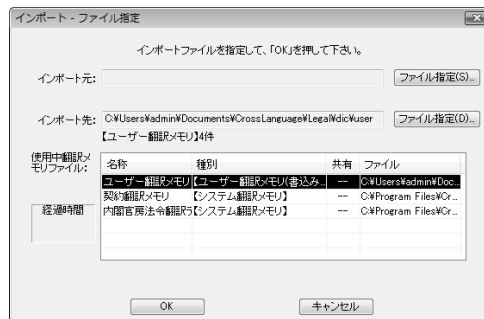
3.6.3 翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）

あらかじめ作成したテキスト形式の対訳文ファイルを翻訳メモリに一括で登録することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 【翻訳メモリ】－【インポート】を選択します。

インポート－ファイル指定ダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。



インポート元となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。

「ファイルの種類」の▼をクリックすると、選択可能なファイル形式の一覧が表示されるので、ファイルの拡張子を適切に選択すると、ファイル名リストが変更されます。たとえば、TMX形式のファイルであれば、「ファイルの種類」を「TMX形式 (*.tmx)」を選択します。

「インポート元」のファイルが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。「インポート先」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」リスト中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。
- 〈ファイル指定〉をクリックした場合は、ファイルを開くダイアログが表示されます。



インポート先となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。
「インポート先」のファイルを指定します。

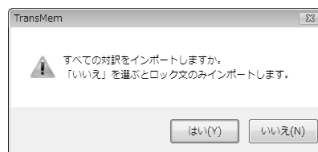


ヒント

インポート先に既存の翻訳メモリを指定した場合、インポート元の対訳文が追加されます。
インポート先に新規ファイルを指定した場合、新規に翻訳メモリを作成することができます。

4. 〈OK〉をクリックします。

インポート元に翻訳ファイルを指定した場合、すべての対訳文のインポート、または、ロックのかかっている文のみのインポートを実行できます。次のダイアログが表示されます。



すべての対訳文をインポートする場合は〈はい〉、ロックのかかっている文のみのインポートする場合は〈いいえ〉をクリックします。

インポートが開始されます。

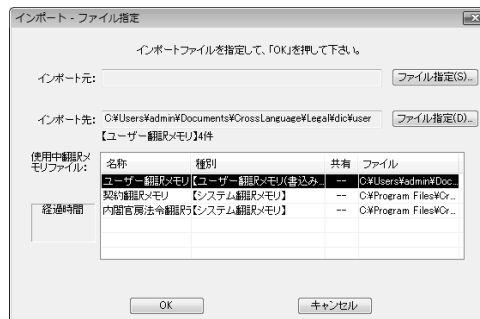
3.6.4 TMXファイルのインポート

翻訳メモリ国際標準フォーマットであるTMXファイルをインポートできます。手順は以下のとおりです。

手順

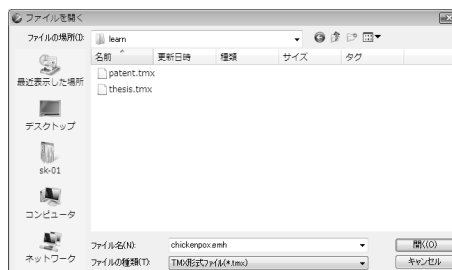
1. 【翻訳メモリ】-【インポート】を選択します。

インポートファイル指定ダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。



インポート元となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。「ファイルの種類」の▼をクリックすると、選択可能なファイル形式の一覧が表示されるので、「TMX形式 (*.tmx)」を選択します。「インポート元」のTMXファイルが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」の中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイルを開くダイアログが表示されます。インポート先となるファイルを選択し、〈OK〉をクリックします。インポート先のファイルを指定します。

4. 〈OK〉をクリックします。

インポートが開始されます。

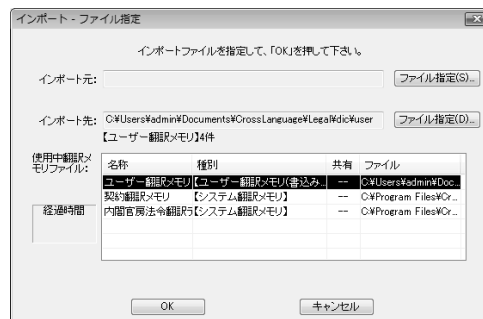
3.6.5 翻訳メモリのマージ

すでにある複数の翻訳メモリを1つにまとめることができます。これを翻訳メモリを「マージする」といいます。翻訳メモリのマージはインポート元に既存の翻訳メモリを指定することで行えます。手順は以下のとおりです。

手順

1. **【翻訳メモリ】－【インポート】を選択します。**

インポート－ファイル指定ダイアログが表示されます。



2. **インポート元のファイルを指定します。「インポート元」に、前回作業時のインポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。**

ファイルを開くダイアログが表示されます。



ヒント

ここで、既存の翻訳メモリを指定します。

インポート元となる翻訳メモリを選択し、〈開く〉をクリックします。

インポート元の翻訳メモリが指定されます。

3. **インポート先のファイルを指定します。「インポート先」に、前回作業時のインポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」の中からインポート先に指定するファイルをダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。**

ファイルを開くダイアログが表示されます。

インポート先となるファイルを選択し、〈OK〉をクリックします。

インポート先のファイルが指定します。

4. **〈OK〉をクリックします。**

インポートが開始されます。

3.6.6 ntm形式ファイル

翻訳メモリのntm形式ファイルのフォーマットは、以下のとおりです。

```
<NovaTMData>
<Description>翻訳メモリ名称</Description>
<Original> 原文 </Original>
<Translation> 訳文 </Translation>
<Information> 付加情報 </Information>
上記3つのデータの繰り返し
</NovaTMData>
```

「付加情報」のフォーマットは以下のとおりです。

```
登録日時 %% 登録者名 %% 翻訳フラグ %% 文書名 %% 原文言語
%% 訳文言語 %% コメント
登録日時:      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
登録者名:      任意の文字列
翻訳フラグ:    /H (人間翻訳) / M (機械翻訳)
原文言語:      E (英語) / J (日本語)
訳文言語:      E (英語) / J (日本語)
コメント:      任意の文字列
```

ntm形式ファイルの例：

```
<NovaTMData>
<Description>Order_form</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2009/10/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %% </Information>
</NovaTMData>
```

3.7 エクスポート

作成した翻訳メモリを、テキストファイルに書き出すことができます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリをエクスポートすると、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。追加・修正したファイルをインポートして新しい翻訳メモリとして使用できます。大規模な翻訳メモリのメンテナンスは、テキスト形式ファイルをソースファイルとして作業することをお勧めします。

3.7.1 エクスポートできるファイル形式

エクスポート先となるテキストファイルには次の5種類があります。

- TMXファイル (***.tmx)
- 翻訳メモリntm形式ファイル (***.ntm)
- Transerの対訳ファイル (***_tm.txt)
- TSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.tsv, txt)
- CSV形式ファイル (Excelなどの表計算ソフトで作成される ***.csv)

ntm形式ファイルでエクスポートすると、対訳文の登録で付加した登録情報も書き出されます。Transerの対訳ファイルでエクスポートした場合、登録情報は書き出されません。必要に応じてエクスポートするファイル形式を選択してください。

● TMX形式ファイル

翻訳メモリの国際標準フォーマットであるTMXファイルへエクスポートできます。エクスポートしたファイルはTRADOSなどTMX形式をインポートできる他のアプリケーションへインポートできます。TMX 1.1と1.4に対応しています。

● ntm形式ファイル

翻訳メモリの内容をそのままテキスト形式に変換したファイルです。ファイル名の拡張子は、.ntmです。ntm形式の詳細は、『3.6.6 ntm形式ファイル』を参照してください。

翻訳メモリペインで対話的に登録を行った場合、登録情報を確認するには、ntm形式ファイルでエクスポートしてください。

ntm形式ファイルの例

```

<NovaTMData>
<Description>テスト用翻訳メモリ </Description>
<Original>I ordered <$1> copies of your catalogue by <$通信手段> on
<$DATE>.</Original>
<Translation><$DATE>に<$通信手段>で貴社のカタログを<$1>冊注文しま
した。</Translation>
<Information>2009/10/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that he is angry.</Original>
<Translation>彼が怒るのも<$1/AP:S{}=もっともだ>。</Translation>
<Information>2009/10/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that <$2=he is angry>.</Original>
<Translation><$2/SE=彼が怒る>のも<$1/AP:S{}=もっともだ>。</Translation>
<Information>2009/10/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %%</Information>
</NovaTMData>

```

● Transterの対訳ファイル

Transterの対訳ファイルです。ファイル名に_tmを追加して、拡張子は.txtです。
 (***_tm.txt) 翻訳メモリの内容のうち、原文・訳文と翻訳フラグのみが出力さ
 れます。対訳ファイルの作成方法は、『5.2.1 ファイルの保存』を参照してく
 ださい。

● TSV形式ファイル

各行に、原文と訳文を各々クォーテーション (" ") で囲み、TABコードで区切っ
 て保存したファイルです。拡張子は .tsvです。

● CSV形式ファイル

各行に、原文と訳文を各々クォーテーション (" ") で囲み、カンマで区切って
 保存したファイルです。拡張子は .csvです。

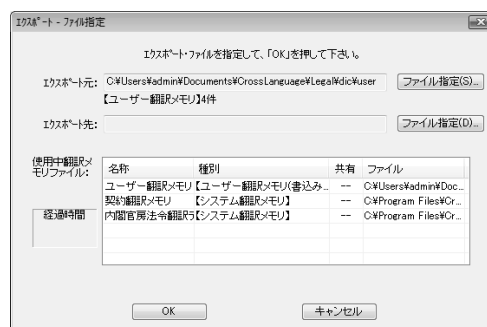
3.7.2 翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）

翻訳メモリペイン上で、翻訳メモリファイルをエクスポートする手順は、以下
 のとおりです。

手順

1. [翻訳メモリ]—[エクスポート]を選択します。

エクスポート—ファイル指定ダイアログが表示されます。



2. エクスポート元のファイルを指定します。「エクスポート元」に、前回作業時のエクスポート元ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、「使用中翻訳メモリファイル」からエクスポート元に指定するファイル名をダブルクリックするか、または〈ファイル指定〉をクリックします。

ファイル名をダブルクリックした場合、エクスポート元のファイルに指定されます。

〈ファイル指定〉をクリックした場合、ファイルを開くダイアログが表示されるので、エクスポート元のファイルを指定します。

3. エクスポート先のファイルを指定します。「エクスポート先」に、前回作業時のエクスポート先ファイル名が残っています。新しくファイルを指定する場合は、〈ファイル指定〉をクリックします。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。

エクスポート先となるファイルを選択するか、ファイル名を入力して新規にファイルを作成し、〈OK〉をクリックします。

エクスポート先のファイルが指定されます。

4. 〈OK〉をクリックします。

エクスポートが開始されます。〈キャンセル〉をクリックすると、エクスポートは行われず、翻訳メモリペインに戻ります。



エクスポート先のファイル形式は、ファイル名の拡張子によって決まります。拡張子が.tmxの場合はTMXファイル、.ntmの場合は翻訳メモリntm形式、.txtの場合はTranserの対訳ファイル形式になります。

名前を付けて保存ダイアログで新しいファイル名を入力するとき、拡張子を省略すると自動的に.ntmが付けられます。

第 4 章 辞書の活用

この章の内容

Transerでは、基本語辞書のほかに専門語辞書とユーザー辞書を使用して翻訳ができます。参照用としては、研究社の英和/和英辞典なども搭載しています。辞書を活用することにより、翻訳精度を向上させることができます。この章では、翻訳に使用する辞書の設定方法、ユーザー辞書の構築方法などを説明します。

4.1 辞書の構成

Transerでは、以下の辞書を使用することができます。

基本語辞書	翻訳の標準となる辞書 英→日用：125万語 日→英用：181万語
ユーザー辞書	ユーザー自身が必要に応じて作成する辞書 1辞書につき10万語まで登録可能。必要に応じて単語とその意味を登録します。
専門語辞書	専門分野別に専門用語を収録

● 基本語辞書

基本語辞書は翻訳の際に、標準で使用される辞書です。日常的に使われる単語や用語のほとんどがこの辞書に収録されています。この辞書に対する、単語の追加や削除はできません。

メモ ただし英→日の場合、翻訳設定ダイアログの「訳の指定」で助動詞に対して「<<辞書の訳>>」以外の項目を選択すると、助動詞can, willなどを助動詞以外の品詞（canを「缶詰にする」、willを「遺言」など）としては解釈しないようにできます。詳しくは、『6.1.1.3 英→日 訳の指定』を参照してください。

● ユーザー辞書

ユーザー辞書は、基本語辞書や専門語辞書に登録されていない単語や、登録されていても、希望する訳語がない単語を登録する場合に利用します。

ユーザー辞書を使うことにより、訳文を改善することができます。分野によって様々な用語や表現が使われるため、翻訳システムの実用的な運用にはユーザー辞書の構築が重要です。ユーザー辞書の作成方法には、Transer内部のウィンドウを使って、対話的に単語を登録していく方法と、ワープロやエディタを使って、テキスト形式のファイルに単語と意味を書いていき、Transerで一括して登録して利用する方法があります。対話的な登録の方が簡単ですが、本格的な利用をする場合は、テキストファイル（ソース形式）を使った一括登録の方が便利です。

対話的な登録については、英→日の場合は『4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』、テキストファイルを使った一括登録については、『4.11.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する』で詳しく説明しています。

また、ユーザー辞書に登録されている語句の一覧表示や更新については、『4.10 ユーザー辞書ブラウザ』を参照してください。

● 専門語辞書

専門語辞書は、分野別に専門用語を収録した辞書です。対象の文書に応じて必要な分野の専門語辞書を指定することにより翻訳結果をよくすることができます。翻訳設定ダイアログの「辞書」タブをクリックすると表示されるダイアログで使用する辞書を選択します。専門語辞書の設定方法に関しては、『4.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

専門辞書とユーザー辞書は、合わせて最大10個まで、同時に使用できます。製品により添付される専門語辞書は、異なります。

● 外部辞書

外部辞書は、翻訳には使われない、参照するための辞書です。一般的な辞書の形式で、意味だけでなく例文なども書かれています。「研究社 新英和／和英中辞典」「リーダーズプラス」(プロフェッショナル)「リーダーズ 英和辞典」(プロフェッショナル)を参照することができます。

● 辞書の共有

プロフェッショナルの機能

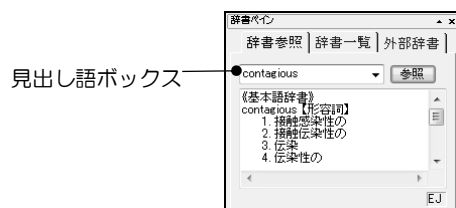
本機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

ネットワーク上に作成した共有フォルダにユーザー辞書を保存し、複数のユーザーが共有して利用することができます。

辞書を共有して翻訳に活用する方法については『付録2 辞書と翻訳メモリの共有』を参照してください。

4.2 翻訳辞書の参照

辞書参照は、基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書、学習辞書に登録されている単語の意味や品詞などを表示する機能です。辞書の内容は、辞書ページの「辞書参照」タブに表示されます。



見出し語は以下の方法で入力できます。

- 翻訳エディタでダブルクリックして文字列を選択する
- 「見出し語」にキーボードから見出し語を直接入力して〈参照〉をクリックする
- 辞書参照したい文字列を選択して[翻訳辞書]―[参照]を選択する
- 英→日では、見出し語とする単語へカーソルを置いて[翻訳辞書]―[参照]を選択する

● 辞書参照の操作方法

辞書参照の操作方法是、以下のとおりです。

【例】「take」の参照

手順

1. 辞書ペインで「辞書参照」タブをクリックします。
2. 「見出し語」に、たとえば"take"と入力します。
3. Enterキーを押すか、または〈参照〉をクリックします。

基本語辞書、学習辞書（英→日のみ）と[翻訳]―[翻訳設定]―[辞書]で設定したすべての辞書に登録されている品詞、意味が表示されます。



メモ 参照した単語の履歴が保存されるので、一度参照した単語は履歴から選択することができます。

見出し語ボックスの右端の矢印をクリックすると、参照した単語の履歴が表示されます。



履歴にある語句をクリックすると、その語句を見出し語として辞書参照が実行されます。

● 英→日 辞書の見かた

基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書のいずれの訳語にも、簡易登録されているものと詳細登録されているものがあります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

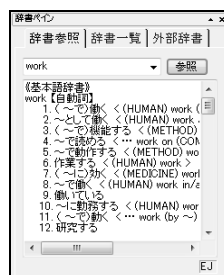
ここでは、詳細登録した単語の参照について説明します。

【例】「work」の参照

手順

1. 「見出し語」に"work"と入力します。
2. 〈参照〉をクリックします。

次のウィンドウに、辞書内容が、次の順序で表示されます。
（訳語に係る助詞）訳語 〈見出し語の用法〉



具体的には、次のようになります。

【名詞】の訳語「（〜の）研究 く（on ~）」では、"work"が名詞として使われ、それに続く前置詞が"on"の場合、「〜の研究」と訳されます。

例文：Work on the new translation system will begin in June.

訳文：新しい翻訳システムの研究は、6月に開始する。

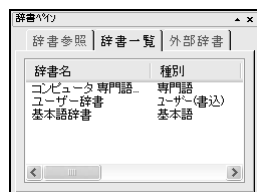
【自動詞】の訳語「〜で働く く（HUMAN）work in/at/for ~」では、"work"が動詞として使われ、主語の意味素性が人間（HUMAN）でworkに続く前置詞がin, at, forの場合、「働く」と訳されます。

例文：Mary worked at a restaurant.

訳文：メアリーは、レストランで働いた。

● 翻訳に使用する辞書の一覧表示

辞書ペインの「辞書一覧」タブでは、翻訳で使用している辞書を確認できます。「辞書一覧」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



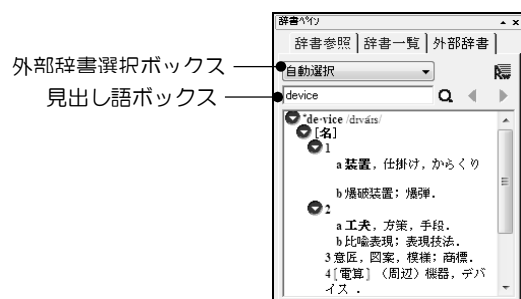
上記の例では、「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」が使用されています。



「辞書一覧」タブにある辞書名をダブルクリックすると、辞書設定ダイアログが表示されます。

4.3 外部辞書

辞書ペインの「外部辞書」タブでは、「研究社 新英和／和英中辞典」と「リーダーズ辞典」(プロフェッショナル) など参照用辞書の辞書引きを行えます。



● 外部辞書選択ボックス

外部辞書選択ボックスで参照する辞書を指定します。初期状態のままでTranserのインストールを実行した場合、「研究社 新英和中辞典」が、外部辞書として組み込まれます。

項目名	参照する辞書
自動選択	インストールされているすべての外部辞書
英和	研究社 新英和中辞典
和英	研究社 新和英中辞典
リーダーズプラス	リーダーズプラス (プロフェッショナル)
リーダーズ 英和辞典	リーダーズ 英和辞典 (プロフェッショナル)

● 外部辞書の検索

「見出し語」に語句を入力して  をクリックすると辞書検索が実行されます。

◀をクリックすると前の見出し語、▶をクリックすると次の見出し語を表示します。

4.4 未知語検索機能

「未知語検索」は、「[翻訳]」―「[翻訳設定]」―「[辞書]」で選択した辞書のいずれにも登録されていない単語を検索する機能です。検索した未知語を修正したり、ユーザー辞書に登録することもできます。未知語検索は、開いた文書内の未知語を1つずつ検索し、反転表示しますが、「未知語リスト出力」は、開いた文書内のすべての未知語をファイルに書き出す機能です。未知語リスト出力機能を利用すれば、ユーザー辞書に登録すべき単語の見出し語一覧を簡単に作成できます。

4.4.1 未知語検索

未知語検索は、カーソルのある位置からファイルの下方向に向かって行われます。

翻訳を始める前に未知語をユーザー辞書へ登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

未知語検索の操作手順は、以下のとおりです。

手順

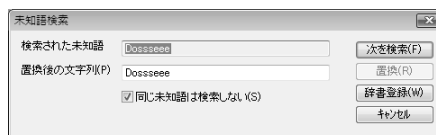
1. [翻訳]―[翻訳設定]―[辞書]で翻訳に使う辞書を設定します。



未知語をユーザー辞書に登録する場合は、あらかじめユーザー辞書を設定しておいてください。

2. 未知語検索を開始する文の先頭へカーソルを置きます。
3. [編集]―[未知語検索]を選択します。

未知語検索が開始されます。未知語があると、翻訳エディタの未知語が反転表示され、未知語検索ダイアログが表示されます。



「検索された未知語」に検索された未知語が表示されています。

- 未知語を正しい語句に修正する

初期状態で「置換後の文字列」には、「検索された未知語」と同じ語句が入力されます。「置換後の文字列」へ正しい語句を入力して、〈置換〉をクリックすると翻訳エディタの未知語と置き換わります。同一文書内の未知語検索において未知語と置換語は対で記憶され、次に同じ未知語が検索された場合、自動的に前回の置換語が「置換後の文字列」に表示されるので、一度検索された文字列に対しては、〈置換〉をクリックするだけで正しい語句に置き換わります。

- 同じ未知語を無視する

検索された未知語を以降の未知語検索の対象から省く場合は、「同じ未知語は検索しない」チェックボックスをオンにして、〈次を検索〉をクリックします。このチェックボックスをオフにして〈次を検索〉をクリックすると、以降の検索で、「検索された未知語」も検索対象となります。

- 未知語をユーザー辞書に登録する

〈辞書登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されます。見出し語には自動的に未知語が入力されます。または、翻訳実行後、未知語をトリプルクリックするとユーザー辞書へ登録するかを確認するメッセージが表示され、〈はい〉をクリックすると未知語を見出し語として、辞書登録ダイアログが表示されます。

辞書登録の詳細は、英→日の場合は『4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を参照してください。ユーザー辞書が設定されていない場合は、辞書設定ダイアログが表示されるので設定してください。ユーザー辞書の設定方法は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

- 英→日 簡条書きと大文字の扱い

属性が簡条書きの文で、翻訳設定の「大文字を小文字にして訳す」がオフで文の先頭の文字が大文字で辞書登録されていない場合、未知語として扱われます。たとえば、"2. There are more than ten commercial machine translation systems in Japan."の文で"There"は未知語になりますが、"3. I took a bath."の"I"は未知語になりません。

また、翻訳設定で「大文字を小文字にして訳す」チェックボックスがオフの場合、大文字で辞書登録されていない語句は、未知語となります。

たとえば、"MAY I HAVE A CUP OF TEA."の文で、MAY, HAVE, CUPは未知語になります。

● 連語の扱い

英→日では、翻訳設定の「合成語を分割して訳す」チェックボックスがオンの場合、2つ以上の単語がつながって1語を構成する連は、辞書設定にしたがって連語に含まれる各単語が翻訳されます。

しかし未知語検索では、「合成語を分割して訳す」の設定に関わらず連語自体が1語として登録されていないと未知語として扱います。

たとえば、Chlorohydroxooxophenylphosphorusという語は、chloro, hydroxo, oxo, phenyl, phosphorusの化学式の連語で、翻訳すると「クロロヒドロキシオキシフェニールリン」と訳出されますが、未知語検索や未知語リスト出力では、未知語として扱われます。

4.4.2 未知語リスト出力

翻訳を始める前に未知語リストファイルを作成して、未知語をユーザー辞書へ登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

未知語検索の操作手順は、以下のとおりです。

手順

1. [翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で翻訳に使う辞書を設定します。
2. [ツール]－[未知語リスト出力]を選択します。

未知語リスト出力が開始されます。

未知語が見つかった場合、次の未知語リスト出力ダイアログが表示されます。

未知語が見つからなかった場合、以降の手順は不要です。



3. 未知語リストのファイル名を入力して〈保存〉をクリックします。

拡張子は、辞書ソースフォーマットの拡張子を使用していますが、他の拡張子を指定することもできます。英→日の場合opt、日→英の場合dicを使用しています。

4. 未知語リスト出力が終了すると、未知語リストをエディタで表示するかを確認するメッセージが表示されます。必要に応じて、エディタで表示することもできます。

- 未知語リストのフォーマット

未知語リストは、以下の形式で保存されます。

英→日の形式

未知語:改行

日→英の形式

*未知語 = 改行

これは、ユーザー辞書登録の書式です。実際には、見出し語の品詞、訳語、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録することができます。辞書ソースの書式に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して、英→日の場合『EJ 辞書記述』、日→英の場合『JE 辞書記述』を参照してください。

また、作成した未知語リストファイルを一括でユーザー辞書に登録することもできます。辞書の一括登録に関しては、『4.11 ユーザー辞書の一括登録と変換』を参照してください。

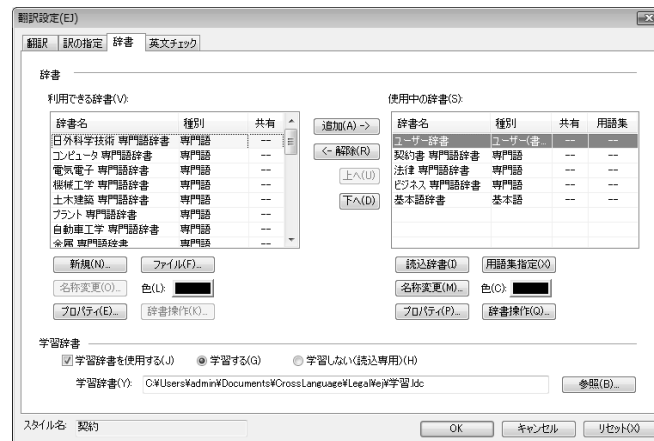
4.5 ユーザー辞書の作成と選択

TranSerには基本語辞書が搭載されていますが、必要に応じて専門用語を登録したり、訳語を追加してユーザー辞書を構築することは、翻訳精度を高めるのに非常に効果的です。

TranSerでは、使用するユーザー辞書と専門語辞書を選択したり、その優先順位を指定することができます。辞書の設定は、「スタイル」に保存されます。スタイルについては、『6.1 翻訳に関する設定』を参照してください。

辞書の新規作成と設定は、[翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]で行います。

[翻訳]—[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態では契約書専門語辞書、法律専門語辞書、ビジネス専門語辞書、基本語辞書、「ユーザー辞書」という登録用のユーザー辞書が設定されています。

辞書設定ダイアログの表示項目は、以下のとおりです。

利用できる辞書	インストール済みの専門語辞書など利用可能な辞書
使用中の辞書	翻訳で使用される辞書
辞書名	辞書の名称。ファイル名とは別の名前を付けることができる。分野別、用途別など必要に応じて個別に名前を付けると、辞書の分類に役立つ
種別	辞書の種類。「基本語」、「専門語」、「ユーザー（書込）」（登録用ユーザー辞書）、「ユーザー（読込）」（参照用ユーザー辞書）などがある

● 使用する辞書を選択する

TranSerでは、専門語辞書を含めて最大10個までのユーザー辞書を同時に使用できます。



ヒント

辞書設定リストに既に11個（基本語辞書＋その他の辞書10個）の辞書が設定されている場合、〈追加〉は使用できません。

「利用できる辞書」リストで辞書を選択して、〈追加→〉をクリックすると「使用中の辞書」リストへ追加されます。



この例では、「コンピュータ専門語辞書」を追加しました。

● 「利用できる辞書」リストへ辞書を追加する

「利用できる辞書」リストへ辞書を追加する場合は、「利用できる辞書」リスト下部にある〈ファイル〉をクリックします。辞書の登録ダイアログが表示されます。



辞書ファイルを選択して〈開く〉をクリックすると「利用できる辞書」リストへ追加されます。

- 辞書を翻訳で使えないように設定する

辞書設定ダイアログの右側「使用中の辞書」にある辞書を選択して、〈←削除〉をクリックすると、「利用できる辞書」リストへ移動して翻訳では使用されません。



基本語辞書を「使用中の辞書」リストから外すことはできません。

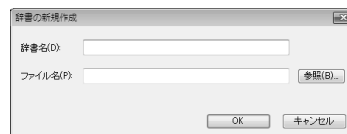
- 新規にユーザー辞書を作成する

新しくユーザー辞書を作成する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 〈新規〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「辞書名」に新規作成する辞書の名称を入力します。

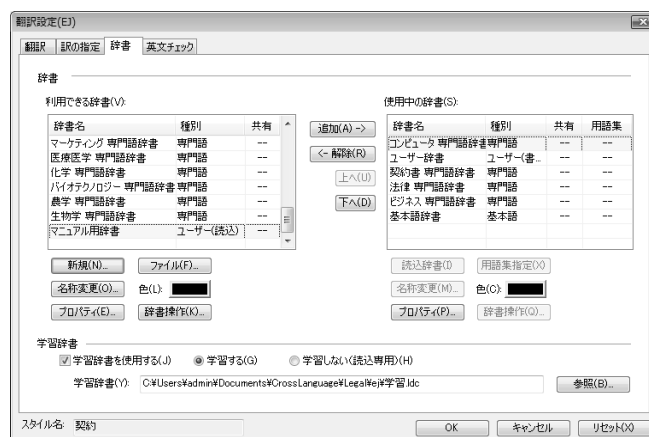
3. 初期状態でユーザー辞書の保存場所はホームディレクトリの下に、英→日の場合ejフォルダ、日→英の場合jeフォルダに設定されています。保存場所を変更する場合は、「ファイル名」の右にある〈参照〉をクリックします。辞書の新規作成ダイアログが表示されるので、ユーザー辞書を保存する場所へ移動し、新しいファイル名を入力してから〈保存〉をクリックします。ユーザー辞書の保存場所を変更しない場合は、「ファイル名」に新規作成する辞書のファイル名だけを入力します。

4. たとえば、「辞書名」に「マニュアル用辞書」、「ファイル名」に"mydic"と入力します。



5. 〈OK〉をクリックします。

辞書設定ダイアログに戻ります。



新規作成したユーザー辞書は、「利用できる辞書」リストへ追加されます。必要に応じて「使用中の辞書」へ追加してください。

● 書き込み可能なユーザー辞書を指定する

ユーザー辞書は、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な辞書として開けるのは1つだけです。



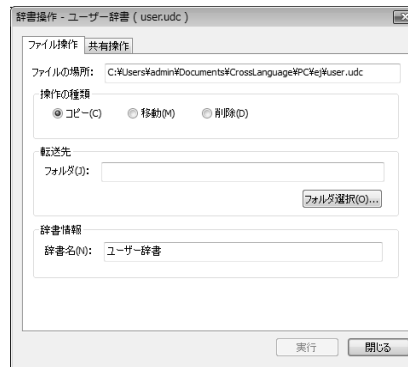
専門語辞書や基本語辞書を書き込み可能な辞書に指定することはできません。

「使用中の辞書」リストで書き込み用とするユーザー辞書を選択して、〈書込辞書〉をクリックします。また、書き込み可能なユーザー辞書を選択し、〈読込辞書〉をクリックすると、書き込みできない辞書になります。

● 辞書を移動／コピー／削除／辞書名の変更

ユーザー辞書のコピー、保存場所の変更、削除、辞書名を変更することができます。

操作するユーザー辞書を選択して、〈辞書操作〉をクリックします。辞書操作ダイアログが表示されるので「ファイル操作」タブをクリックします。



「操作の種類」で「コピー」、「移動」または「削除」をオンにします。
 コピーまたは移動する場合は、「フォルダ」にコピーまたは移動先を指定します。
 辞書名を変更する場合は、「辞書名」に名称を入力します。



削除した辞書は復元できないのでご注意ください。

● 辞書の優先順位を指定する

辞書は優先順位の高いものから並べられます。（優先順位の意味は後述します。）追加された辞書は、辞書設定ダイアログで選択して反転表示されている辞書がある場合は、その上に追加され、ない場合はリストの先頭に追加されます。

上下へ1つずつ移動する場合は、移動する辞書を選択して、次のいずれかのボタンをクリックします。

〈上へ〉 （1つ上へ移動）

〈下へ〉 （1つ下へ移動）

● 辞書の優先順位の意味

辞書リストには、使用する辞書名と優先順位が表示されています。辞書は優先順位の高いものから順番に表示されます。辞書の優先順位は、翻訳時の訳語の選択に影響を与えます。ここでは、「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」の順番で設定されていて、ユーザー辞書に"latitude"を「イド」と登録している場合で説明します。

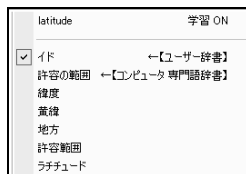
次の原文を翻訳します。

原文：The vehicle position is defined in terms of a latitude value.

翻訳結果：車両位置は、イド価値に関して定められる。

● 翻訳に使われる訳語の優先順位と訳語ダイアログに表示される訳語の順番

上記の翻訳で"latitude"は「イド」と翻訳されました。「イド」はユーザー辞書に登録されている訳語です。辞書設定では、専門語辞書を優先順位の一番に設定したのに、ユーザー辞書の訳語が採用されました。それは、個々の訳語に優先順位が付けられているからです。"latitude"をトリプルクリックすると、次の訳語ダイアログが表示されます。



このダイアログからもわかるように、「許容の範囲」はコンピュータ専門語辞書の訳語です。基本語辞書と専門語辞書は、ユーザーが追加・更新することはできませんが、これらの辞書の訳語には、内部で個々に優先順位が付けられています。翻訳システムでは、構文解析と辞書と訳語の優先順位によって訳出を行っています。ユーザー辞書は追加・更新することはできますが、ユーザーが訳語に優先順位を付けることはできません。ユーザー辞書の訳語には、自動的にもっとも高い優先順位が付けられます。

この例のように、コンピュータ専門語辞書にある"latitude"の訳語に付けられている優先順位が低いと、ユーザー辞書の訳語が訳出されます。

訳語ダイアログでは、先頭に翻訳で使った訳語が表示され、以降順番に「辞書」タブで設定されている辞書の訳語が表示されます。

● 辞書の名前を変更する

辞書設定ダイアログでは、辞書の名前を変更することができます。分野別、用途別など必要に応じて個別に名前を付けると、辞書を分類するのに便利です。辞書の名前を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 「利用できる辞書」または「使用中の辞書」リスト内の辞書を選択して、ダイアログ下部にある〈名称変更〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「辞書名」に辞書の名前を入力して、〈OK〉をクリックします。

元のダイアログに戻り、変更した辞書名が表示されます。

● 辞書の表示色

辞書ごとに表示色を指定できます。翻訳は、構文を解析して、文法ルールを参照し、辞書設定ダイアログで設定された辞書を使用して実行されます。使用辞書を複数設定した場合、翻訳結果の訳語がどの辞書からの出典なのか一目でわかります。辞書の表示色で指定した色が、翻訳結果の訳語の色に反映されます。初期状態では、すべての辞書の色は黒です。

表示色の設定を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 色を変更する辞書を選択して、「色」の横にある矩形をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「基本色」の中から色を選択して、〈OK〉をクリックします。

辞書ダイアログに戻り、辞書リストの色が変更されます。

新しい色を作成する場合は、〈色の作成〉をクリックして表示されるダイアログで作成することができます。



ヒント

表示色によっては、文字が見づらくなる場合があります。他の辞書の表示色と明確に区別できる色、また、文字がかすれないような鮮明な色を指定してください。

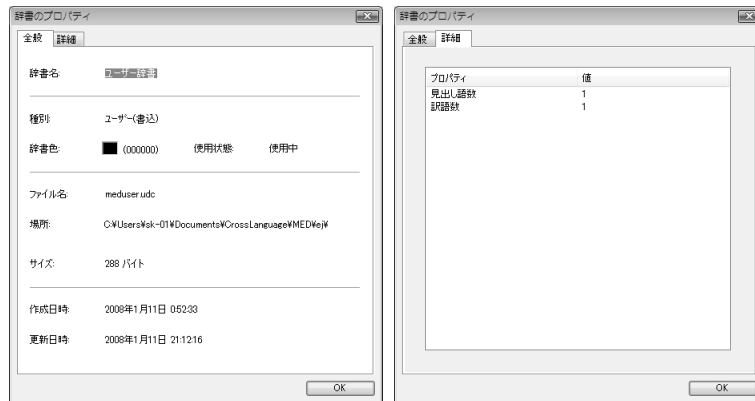
● 辞書のプロパティを表示する

辞書設定ダイアログでは、辞書のファイル名、作成日、ファイルサイズなど情報を表示することができます。

手順

1. 「利用できる辞書」または「使用中の辞書」リスト内の辞書を選択して、ダイアログ下部にある〈プロパティ〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



ユーザー辞書のプロパティには、「詳細」タブがあり、見出し語と訳語の数を確認できます。

2. 〈OK〉をクリックします。

元のダイアログに戻ります。

- **学習辞書を使用する**

このチェックボックスがオンの場合、学習辞書を使用して翻訳します。
オフの場合は、翻訳の際、学習辞書を使用しません。

- **学習する／しない（読み専用）**

「学習辞書を使用する」チェックボックスがオンの場合、「学習する」または「学習しない」を選択できます。

「学習する」がオンの場合、訳語変更で選択した訳語は学習され、次の翻訳でその単語が同じ使われ方をした場合は、学習した訳が採用されます。また、訳語ペインの「学習」チェックボックスはオンになります。

「学習しない」がオンの場合、翻訳の際、学習辞書の訳が優先的に使用されますが、訳語変更で選択した訳語は学習されません。また、訳語ペインの「学習」チェックボックスはオフとなります。

- **学習辞書の場所**

初期状態で学習辞書は、英→日の場合、ホームディレクトリの下のejフォルダ、日→英の場合は、ホームディレクトリの下のjeフォルダが指定されます。

学習辞書を新規に作成したり、変更する場合は、右端にある〈参照〉をクリックしてください。学習辞書指定ダイアログが表示されるので、学習辞書を選択してください。新規に作成する場合は、「ファイル名」に新しい学習辞書のファイル名を入力してください。

- **学習辞書の新規作成**

学習辞書を新規に作成できます。「学習辞書を使用する」チェックボックスをオン、「学習する」をオンと設定して、右端にある〈参照〉をクリックしてください。学習辞書指定ダイアログが表示されるので、新しいファイル名を入力してください。これで、学習辞書が新規作成されます。

4.6 専門語辞書の設定

Transterでは、基本語辞書の他にユーザー辞書と専門語辞書を合わせて10個まで選択して、翻訳を行うことができます。

専門語辞書には、分野別に専門用語が収録されているので、翻訳の精度を高めるのに効果的です。

ここでは、専門語辞書の設定方法を説明します。



ヒント

専門語辞書を設定するためには、あらかじめ専門語辞書をインストールする必要があります。専門語辞書のインストールに関しては、『導入ガイド』を参照してください。

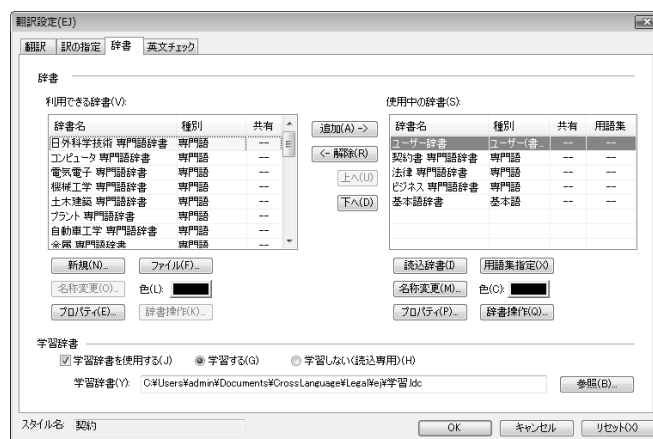
4.6.1 辞書設定ダイアログから指定する

辞書設定ダイアログから指定する方法は以下のとおりです。



手順 1. [翻訳]—[翻訳設定]—[辞書]を選択します。

次の辞書設定ダイアログが表示されます。



2. 「利用できる辞書」リストで辞書を選択して、〈追加〉をクリックすると「使用中の辞書」リストへ追加されます。

辞書の優先順位、辞書リストからファイルを外す方法などについては、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』の該当する部分を参照してください。

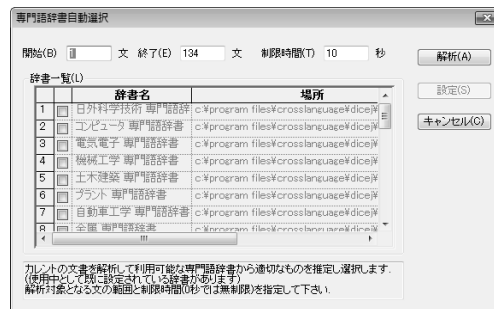
4.6.2 専門語辞書自動選択機能で指定する

この機能は、翻訳エディタに読み込んだ文書を解析し、インストールされている専門語辞書から適切なものを推測し提案します。特に、翻訳を実行した後、未知語が多い文書に対してこの機能を実行すると効果的です。
この機能を利用するためには、Transerのインストールプログラムを使用して専門語辞書をインストールしてください。手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタに文書を読み込みます。
2. [翻訳辞書]－[専門語辞書自動選択]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



専門語辞書自動選択機能は、ここで指定した文章を「制限時間」で指定した時間内で解析し、適切な専門語辞書を選択します。

多くの文を指定することにより、より正確な推測が行われます。通常は文書全体を指定します。文書が長すぎて時間がかかる場合は、要約など文書の内容をよく表した部分を少しでも多く含むように範囲を調整してください。

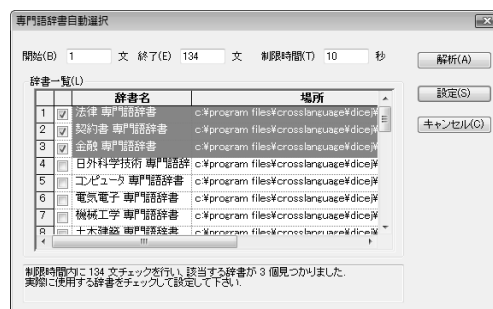
「辞書一覧」には、インストールした専門語辞書が一覧表示されます。すでに使用中の辞書として設定してある辞書は、チェックボックスがオンになっています。

3. 解析対象とする文と時間を指定して、〈解析〉をクリックします。

解析が開始されます。

制限時間に達すると、最終文に至っていなくても、解析は終了します。

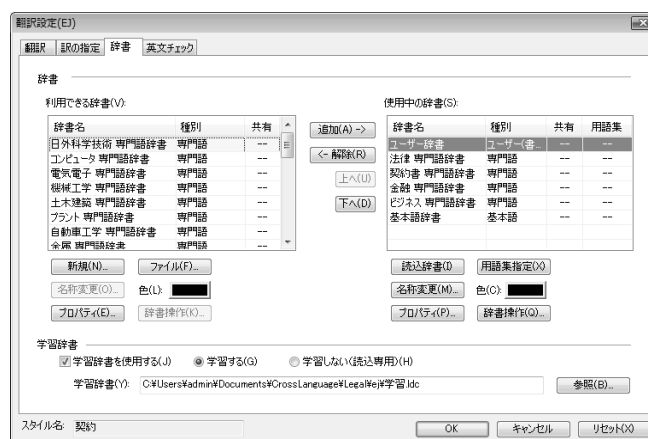
解析が完了すると、次のダイアログが表示されます。



辞書名の前にあるチェックボックスがオンになり、反転表示されている辞書が、専門語辞書自動選択機能により選択された辞書です。

4. 選択された辞書以外にも翻訳で使用する場合は、該当する専門語辞書のチェックボックスをオンにします。
辞書選択が完了したら〈設定〉をクリックします。
専門語辞書自動選択機能により選択された辞書を使用しない場合は、〈キャンセル〉をクリックします。

辞書設定ダイアログが表示されます。



辞書設定ダイアログに設定された辞書の優先順位を変更する場合は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』の該当する部分を参照して、適宜変更します。

5. 「使用中の辞書」リストを確認して〈OK〉をクリックします。

ここで、〈キャンセル〉をクリックしても、専門語辞書自動選択機能により選択された辞書は使用する辞書として設定されます。



ヒント

初期状態で、専門語辞書自動選択コマンドにより設定された専門語辞書の表示色は、緑色になります。専門語辞書自動選択コマンドにより設定された専門語辞書の表示色は、[ツール]ー[環境設定]ー[フォントと配色]の「自動辞書選択」で変更できます。



日外科学技術専門語辞書は、本機能の対象辞書ではありません。必要に応じて、辞書設定ダイアログから設定してください。

4.6.3 英→日専門語辞書の優先順位

英→日の基本語辞書では、使用頻度の高い語句（たとえば、rest, wind, roundなど）に対して、高い優先順位が付与されています。そのため辞書リストで、専門語辞書が基本語辞書より上位に設定されていても、基本語辞書の訳語が第一訳として採用されることがあります。これは、使用頻度の高い語句を専門用語として扱うと、翻訳精度が下がるが多いためです。基本語辞書より優先させたい場合は、専門語辞書の訳語を学習させてください。

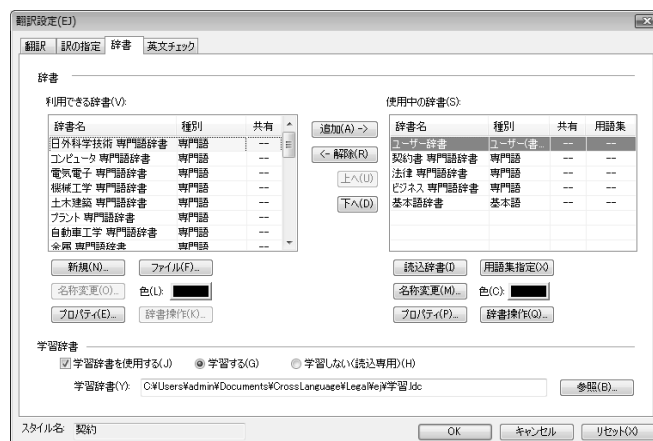
4.7 用語の表示と訳語の変更

「用語集」機能とは複数のユーザー辞書を使用して翻訳を行っている場合、特定のユーザー辞書から出典された訳語であることを明確に表示したり、翻訳で使用された用語を抽出しテキストファイルに保存する機能です。

たとえば翻訳作業をグループで行う場合にグループ内で共通に使用するユーザー辞書を用語集と設定すると、出典元の辞書がグループで共通に使用してるユーザー辞書なのか、自分が独自に作成したユーザー辞書なのかを区別することができます。

● ユーザー辞書を用語集として設定／解除する

[翻訳]－[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



用語集に設定するユーザー辞書を選択して、〈用語集指定〉をクリックします。辞書リストの「用語集」に「○」と表示されます。これで、用語集と設定されました。

用語集の設定を解除する場合は、解除するユーザー辞書を選択して、〈用語集解除〉をクリックします。

辞書リストの「用語集」に「--」と表示されます。これで、用語集から解除されました。

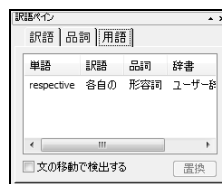
● 用語の表示

辞書設定の「使用中の辞書」に用語集指定されたユーザー辞書ある場合、[フレーズ/語]—[用語表示]またはツールバーの〈用語表示〉が選択可能になります。用語表示を実行すると、用語集から訳出された語句には緑色の下線が引かれます。用語集以外の語句が採用されている場合は、赤色の下線が引かれます。

たとえば、用語集のユーザー辞書に"respective"を「各自の」と登録すると以下のとおりに表示されます。

4	NOW, THEREFORE, in consideration of the premises and the <u>respective</u> covenants and agreements of the parties herein contained, and intending to be legally bound hereby, the parties hereto agree as follows:	よって、建物および本契約書に記載する両当事者および法的に縛られていることを意図すること各自の約束および合意を約因として、両当事者は以下の通り合意する：

また、訳語ペインの「用語」タブには、カーソル位置の文で採用されている用語が一覧表示されます。



● 「用語」タブでの操作

「用語」タブでは、カーソル位置の文に含まれる用語を自動的に表示したり、訳語の置換を行うことができます。

「用語」タブの「文の移動で検出する」チェックボックスをオンにすると、カーソルの移動に合わせて、自動的に用語表示を実行して用語に下線を引き、「用語」タブに用語の一覧を表示します。

また、訳語を置き換える場合は、用語の一覧にある訳語を選択して〈置換〉をクリックするか、訳語をダブルクリックします。用語の置換は学習されないため、再翻訳すると元の訳に戻ってしまいます。そのため、用語に置換した文には翻訳ロックがかかります。

● 用語の抽出

翻訳中の文書に含まれる用語を抽出し一覧表示したり、テキストファイルに保存することができます。

[ツール]－[用語抽出]を選択すると、用語抽出ダイアログが表示されます。



● 抽出の実行

「抽出項目」で条件を設定します。

すべての候補

翻訳結果が用語集の訳であるかに関わらず、用語集と設定されているユーザー辞書に登録されている語句を抽出します。

用語に一致

用語集の訳が採用されている語句を抽出します。

用語に不一致

用語集の訳が採用されていない語句を抽出します。

訳語なし

用語集に登録されている語句であるが、翻訳結果の修正などにより訳文エリアに訳語が無い語句を抽出します。

〈抽出〉をクリックすると、「抽出項目」の条件にしたがって用語の抽出が実行されます。



「単語」には、用語集に登録されている見出し語が表示されます。
 「訳語」には、用語集に登録されている訳語が表示されます。
 「品詞」には、用語集に登録されている品詞が表示されます。
 「辞書」には、「単語」の出典辞書が表示されます。
 「本文中の訳語」には、訳文エリアの訳語が表示されます。
 「一致」には、「訳語」の訳が翻訳で採用されている場合は「○」、採用されていない場合は「×」が表示されます。
 「頻度」には、同じ「訳語」と「品詞」で使用されている回数が表示されます。

• テキスト出力

抽出結果をタブで区切ったTSV形式のファイルに保存します。
 〈テキスト出力〉をクリックするとテキスト出力ダイアログが表示されます。



適切な名前を入力して保存します。

• ブックマーク

抽出結果の語句が含まれる文にブックマークをつけることができます。
 〈ブックマーク〉をクリックするとブックマークダイアログが表示されます。



既存のブックマーク種類を指定する場合は、「既存の項目」をオンにして、下部の▼をクリックして表示されるブックマーク種類の一覧から選択します。

新しいブックマーク種類を追加する場合は、「新規作成」をオンにして、「名称」に半角で128文字または全角で64文字まででブックマークの名称を指定します。記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する

「登録」は、ユーザー辞書への単語の登録や削除を行う機能です。

ユーザー辞書への登録方法には、基本語辞書・専門語辞書と同様に、簡易登録と詳細登録があります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

これらを登録するには、辞書登録ダイアログを使う方法と、「一括登録」機能を使う方法があります。いずれも辞書ソース（所定のフォーマットで登録内容を記述したテキスト）を作成してから登録します。辞書ソースの書式に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して『EJ 辞書記述』を参照してください。



辞書登録ダイアログを使うと、各ボックスに見出し語・訳語などの情報を入力するだけで、自動的に辞書ソースが作成されるため、辞書ソースを特に意識する必要はありません。

ここでは、辞書登録ダイアログを使ったユーザー辞書への登録の方法を説明します。「一括登録」機能の詳細は、『4.11 ユーザー辞書の一括登録と変換』を参照してください。

● 辞書ソースの書式に関する参照先

辞書ソースの書式に関しては、「ヘルプ」を参照してください。

「ヘルプ」は、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]から選択します。ここでは、「ヘルプ」にある目次からの参照先を記載します。

4.8.1 辞書登録ダイアログ

辞書登録ダイアログでは、簡易登録も詳細登録もできます。品詞によっては簡易登録しかないものもあります。ここでは、辞書登録ダイアログでの基本的な登録方法を説明します。

辞書登録の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで辞書登録する単語を選択します。

2. [翻訳辞書]－[登録]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



3. 必要に応じて、各項目を入力します。

● 辞書登録ダイアログ

見出し語

見出し語を入力します。見出し語は半角で100文字まで入力できます。（複合語の場合はスペースも含みます）半角カタカナを入力することはできません。ただし、見出し語、訳語などを含む登録行の文字数は半角文字換算で1024文字までです。（全角文字1文字は半角文字2文字として数えます）



ヒント

翻訳エディタで、登録したい単語を選択してから[翻訳辞書]－[登録]を選択すると、その単語が自動的に「見出し語」に入力されます。

直接、文字を入力することもできます。動詞、名詞など変化形のある単語は原形あるいは単数形を入力してください。ただし、名詞の複数形の訳を特別な意味で使用したい場合は複数形を入力します。



見出し語に以下の制御コードを含むことはできません。

¥|, ¥[, ¥], ¥{, ¥}

訳語

訳語を入力します。訳語は全角で50文字まで入力できます。（先頭にスペースを含むことはできません。）半角カタカナを入力することはできません。

品詞

品詞を選択します。右側の矢印をクリックすると品詞の一覧が表示されるので、適切な品詞を選択します。



登録できる品詞は名詞、動詞、形容詞、副詞、従属接続詞、前置詞、単位、固有名詞の8つです。従属接続詞とは"and"や"or"などの等位接続詞ではない普通の接続詞("after"、"before"など)です。助動詞など、一覧に表示されていない品詞の登録はできません。

活用形

名詞の複数形、動詞の過去形、過去分詞、三単現、進行形などを入力します。選択した品詞に従って、必要な入力ボックスが表示されます。必要に応じて過去形などの活用形を入力します。動詞は、過去形・過去分詞、三単現（三人称単数現在形の活用）、進行形（～ingの形）を入力します。活用形のない単語の場合は、何も入力しないでください。（自動的に表示された場合は削除してください。）



ヒント

見出し語、訳語の順で入力し、品詞を選択すると、システムが活用形を推定して表示します。推定が間違っている場合は、正しい活用形に修正してください。

参照

「見出し語」の内容を変更すると、〈参照〉を使用できるようになります。〈参照〉をクリックすると、辞書登録の内容を訳語リストボックスへ表示します。

登録

〈登録〉をクリックすると、その単語がユーザー辞書に登録され、訳語リストボックスに表示されます。辞書登録ダイアログは閉じないので、続けて辞書登録を行うことができます。

削除

〈削除〉をクリックすると、「見出し語」の単語がユーザー辞書から削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

先頭に追加

このチェックボックスがオンの場合、登録した訳語は訳語リストの先頭に追加されます。

オフの場合、訳語はリストの最後に追加されます。翻訳では、訳語リストの先頭訳語を第一訳として訳出するので、最適な訳を先頭にします。また、訳出頻度の低い訳語はオフにして登録し、リストの最後に追加するようにします。

詳細登録

辞書登録ダイアログにある〈簡易登録〉または〈詳細登録〉をクリックすると登録ダイアログが切り替わります。

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録を行うボックスが表示されます。詳細登録に関しては、後述する各品詞の登録を参照してください。

閉じる

〈閉じる〉をクリックすると、翻訳エディタに戻ります。辞書登録ダイアログに表示されている内容を登録せずに〈閉じる〉をクリックすると、編集途中の内容は破棄されます。登録する場合は、〈登録〉をクリックしてから〈閉じる〉をクリックします。



専門語辞書と基本語辞書には、単語の追加や修正はできません。

- **すでに登録した訳語を修正するー〈訳置換〉**

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳置換〉が使用できるようになります。修正したい訳語を訳語リスト内で選択すると、登録内容が各ボックスに表示されます。



訳語を修正して〈訳置換〉をクリックします。修正内容が登録されます。

- **登録した訳語を削除するー〈訳削除〉**

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳削除〉が使用できるようになります。削除したい訳語を訳語リスト内で選択すると登録内容が各ボックスに表示されるので、〈訳削除〉をクリックします。訳語がユーザー辞書から削除されます。

4.8.2 詳細登録モード

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。たとえば、「名詞+前置詞句」の登録ダイアログは次のとおりです。



ヒント

詳細登録を行う場合は、あらかじめ〈詳細登録〉をクリックして、上記の詳細登録モードにしておくと便利です。

● 登録内容

入力した内容をもとに作成された辞書ソースが表示されます。表示された辞書ソースを直接キー入力で編集することもできます。「登録内容」の編集方法については、『4.8.12 「登録内容」を直接編集する』を参照してください。辞書ソースの書式に関しては、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』を参照してください。



「登録内容」で見出し語を変更することはできません。見出し語は、「見出し語」で変更してください。

● リセット

「登録内容」の内容を直接編集すると、〈リセット〉が使用できるようになります。編集した内容を元に戻す場合は、〈リセット〉をクリックします。

4.8.3 見出し語、訳語が記号を含む場合

辞書登録ダイアログでの登録では、見出し語や訳語に特定の記号がある場合でも、特に意識することなく登録できます。ただし、辞書ソースを直接編集する際には、それらの記号の前に¥を付ける必要があります。詳細は、「ヘルプ」の『EJ辞書記述』を参照してください。



「”」と「'」を含む単語を登録することはできますが、「”」または、「'」のみが見出し語の場合は登録できません。

4.8.4 名詞の登録

名詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、意味素性の指定や詳細登録を行うことができます。意味素性は5つまで指定することができます。



名詞の詳細登録（「名詞＋前置詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には名詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細登録部分に入力します。

● 名詞の簡易登録

【例】「demonstration」を「デモ」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"demonstration"と入力します。
2. 「訳語」に「デモ」と入力します。

3. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

複数形は推定して入力されますが、間違っている場合は修正します。



複数形を空欄にすると、単複同形として登録されます。

● 訳語に意味素性を指定して登録

【例】「sleeping car」を「乗り物」という意味素性で「寝台車」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"sleeping car"と入力します。
3. 「訳語」に「寝台車」と入力します。
4. 「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から「乗り物」を選択します。「乗り物」を選択状態にして〈消去〉をクリックすると、意味素性は取り消されます。

5. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

意味素性指定の有無によって、次の翻訳の差が発生します。

例文：I took the sleeping car.

結果：[VEHICLE]の指定がある場合＝私は寝台車に乗った。

[VEHICLE]の指定がない場合＝私は寝台車をとった。

ただし、このような結果は、動詞"take"にそのような訳し分けの記述がある場合に限ります。

● 名詞＋前置詞句で登録

【例】「effect on～」を「～に対する影響」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"effect"と入力します。
3. 「訳語」に「影響」と入力します。
4. 「パターン」をクリックして、「名詞＋前置詞句」を選択します。
5. 必要に応じて、「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語に意味素性を指定します。
6. 「前置詞句」項目の「前置詞句 ▼」をクリックし、表示される前置詞の一覧から、「on」を選択します。
7. 必要に応じて、「前置詞句」項目の「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、前置詞の後に続く語の意味素性を指定します。
8. 意味素性の右側の欄で、前置詞の訳を入力します。ここでは、「に対する」と修正します。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：The problem we consider is an effect on him.

結果：我々が考慮する問題は、彼に対する影響である。

● 名詞+to不定詞句で登録

【例】「effort」を「努力」と登録し、「effort」以下はto不定詞がくるように指定する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"effort"と入力します。
3. 「訳語」に「努力」と入力します。
4. 「パターン」をクリックして、「名詞+to不定詞句」を選択します。
5. 必要に応じて、「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語に意味素性を指定します。
6. 「to不定詞句」項目の「連体形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、to不定詞の動詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連体形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

7. 述語の活用の右側の欄に、to不定詞の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He showed an effort to forget it.

結果：彼は、それを忘れる努力を示した。

● 訳語に否定の意味を持たせる登録

【例】「nobody」を「誰も～ない」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"nobody"と入力します。
3. 「訳語」に「誰」と入力します。単数形のみなので「複数形」は空欄にします。
4. 「否定語」チェックボックスをオンにします。
5. 必要に応じて、「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語に意味素性を指定します。

6. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：Nobody knows.

結果：誰も知らない。

4.8.5 動詞の登録

動詞は、見出し語、訳語のほかに、詳細登録を行うことができます。



動詞の詳細登録（「動詞+前置詞句」「動詞+to 不定詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には動詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」「to 不定詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細登録部分に入力します。

● 動詞の簡易登録

簡易登録したものは、自動詞および目的語の助詞に「を」を持つ他動詞として登録されます。

【例】「operate」を「手術する」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"operate"と入力します。
2. 「訳語」に「手術する」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

過去形、過去分詞、進行形、三単現は推定され入力されますが、間違っている場合は、各項目をクリックして修正します。

● 動詞＋目的語で登録

【例】「take」を「乗り物」の意味素性を持つ目的語をともなう、「～に乗る」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"take"と入力します。
3. 「訳語」に「乗る」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。ここでは、「乗り物」を選択します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後につく助詞を入力します。初期状態では「を」となっているので、「に」と修正します。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I took a sleeping car.

結果：私は寝台車に乗った。



"make tea"「お茶を入れる」のように、特定の名詞（下線部tea）を目的語とするパターンも登録できます。詳細は、「ヘルプ」の『E』辞書記述』にある『特定の名詞や主語を含むパターンの登録』を参照してください。

● 動詞＋前置詞句で登録

【例】「wave to…」を「～に手を振る」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"wave"と入力します。
3. 「訳語」に「手を振る」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋前置詞句」を選択します。
6. 「前置詞句」項目の「前置詞句 ▼」をクリックし、表示される前置詞の一覧から、「to」を選択します。
7. 「前置詞句」項目の「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から前置詞の後に続く語の意味素性を指定します。
8. 意味素性の右側の欄に、前置詞の訳を入力します。ここでは、初期状態のまま、「に」とします。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He waved to me.

結果：彼は、私に手を振った。

● 動詞＋副詞で登録

【例】「run away…」を「逃げる」と登録する



ここでいう副詞は、up、downのように動詞に意味を付加する働きをするもので、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『副詞の一覧』に挙げられているもの（手順6.の副詞一覧から選べるもの）に限られます。

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"run"と入力します。
3. 「訳語」に「逃げる」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋副詞」を選択します。
6. 「副詞」項目の「副詞 ▼」をクリックし、表示される副詞の一覧から、「away」を選択します。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He ran away.

結果：彼は、逃げた。

● 動詞＋副詞＋前置詞句で登録

【例】「fly off from 〜」を「〜から飛び去る」と登録する



ここでいう副詞は、up、downのように動詞に意味を付加する働きをするもので、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『副詞の一覧』に挙げられているもの（手順6.の副詞一覧から選べるもの）に限られます。

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に" fly "と入力します。
3. 「訳語」に「飛び去る」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋副詞＋前置詞句」を選択します。
6. 「副詞」項目の「副詞 ▼」をクリックし、表示される副詞の一覧から、「off」を選択します。
7. 「前置詞句」項目の「前置詞句 ▼」をクリックし、表示される前置詞の一覧から、「from」を選択します。
8. 「前置詞句」項目の「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から前置詞の後に続く語の意味素性を指定します。
9. 意味素性の右側の欄に、前置詞の訳を入力します。ここでは、「から」と修正します。

10. 〈登録〉をクリックします。
内容が登録されます。

例文：The birds flew off from the nests.

結果：鳥は、巣から飛び去った。

● 動詞＋名詞補語で登録

【例】「become ～」を「～になる」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"become"と入力します。
3. 「訳語」に「なる」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋名詞補語」を選択します。
6. 必要に応じて、「名詞補語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、名詞補語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後に続く助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「に」と指定します。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He becomes a lecturer.

結果：彼は、講師になる。

● 動詞＋形容詞補語で登録

【例】「smell 形容詞補語」を「形容詞訳連用形＋におう」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"smell"と入力します。
3. 「訳語」に「におう」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋形容詞補語」を選択します。
6. 「形容詞補語」項目の「連用形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、形容詞補語をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

7. 述語の活用の右側の欄に、形容詞補語の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：The flower smelled sweet.

結果：その花は、甘くにおった。

● 動詞＋間接目的語＋直接目的語で登録

【例】「give ～ …」を「～に…を与える」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"give"と入力します。
3. 「訳語」に「与える」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋間接目的語＋直接目的語」を選択します。
6. 必要に応じて、「間接目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味索性の一覧から、間接目的語に意味索性を指定します。
7. 意味索性の右側の欄に、間接目的語の訳の後に続く助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「に」と指定します。
8. 必要に応じて、「直接目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味索性の一覧から、直接目的語に意味索性を指定します。
9. 意味索性の右側の欄に、直接目的語の訳の後に続く助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「を」と指定します。

詳細登録 - ユーザー辞書 (user.UDC)

見出し語(E) give 過去形 gave 参照(R)

訳語(J) 与える 過去分詞 given 登録(W)

品詞(P) 動詞 三単現 gives 削除(D)

進行形 giving 閉じる

見出し語 give はユーザー辞書に登録されていません

削除(T)

訳置換(L)

☒ 先頭追加

簡易登録(S)

パターン 動詞＋間接目的語＋直接目的語 ☐ 英文が受け身の時の訳を指定

間接目的語 意味索性 直接目的語 意味索性

追加... 消去 追加... 消去

登録内容 give(v,9900,gave,given)与える-[ON]に[ON]を リセット(M)

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I gave him the book.

結果：私は、彼に本を与えた。

● 動詞＋目的語＋前置詞句で登録

【例】「provide ～ for …」を「～を…に与える」と登録

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"provide"と入力します。
3. 「訳語」に「与える」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋前置詞句」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「を」と指定します。
8. 「前置詞句」項目の「前置詞句 ▼」をクリックし、表示される前置詞の一覧から、「for」を選択します。
9. 「前置詞句」項目の「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から前置詞の後に続く語の意味素性に、「人間」を選択します。
10. 意味素性の右側の欄に、前置詞の訳を入力します。ここでは、初期状態のまま「に」と指定します。

11. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I provided good wine for him.

結果：私は、よいワインを彼に与えた。



"take ... into consideration" 「...を念頭に置く」、**"make a call up ..."** 「...に電話をかける」のように、特定の名詞(下線部)を含む場合にのみ、登録した訳語を訳出させる方法もあります。詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『特定の名詞や主語を含むパターンの登録』を参照してください。

● 動詞＋副詞＋目的語で登録

【例】「put up 〜」を「〜を提示する」と登録する



ここでいう副詞は、up、downのように動詞に意味を付加する働きをするもので、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『副詞の一覧』に挙げられているもの（手順6.の副詞一覧から選べるもの）に限られます。

手順▶

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"put"と入力します。
3. 「訳語」に「提示する」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋副詞＋目的語」を選択します。
6. 「副詞」項目の「副詞 ▼」をクリックし、表示される副詞の一覧から、「up」を選択します。
7. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
8. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「を」と指定します。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He put up his idea.

結果：彼は、彼の考えを提示した。



ヒント

このパターンの登録では、「動詞+副詞+目的語」、「動詞+目的語+副詞」いずれのパターンでも訳出されます。この例では、"He put his idea up."も上の結果のように訳出されます。

● 動詞＋目的語＋名詞補語で登録

【例】「call … ～」を「…を～と呼ぶ」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"call"と入力します。
3. 「訳語」に「呼ぶ」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋名詞補語」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後に続く助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「を」と指定します。
8. 必要に応じて、「名詞補語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、名詞補語に意味素性を指定します。
9. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後に続く助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「と」と指定します。

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：We call him John.

結果：我々は、彼をジョンと呼ぶ。

● 動詞＋目的語＋分詞補語で登録

【例】「find ～（目的語）…（分詞補語）」を「～（目的語）が～（分詞補語）していることに気づく」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"find"と入力します。
3. 「訳語」に「気づく」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形を正しく入力します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋分詞補語」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後に続く助詞を入力します。初期状態では「を」となっているので、「が」と修正します。
8. 「分詞補語」項目の「連用形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、分詞補語をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

9. 述語の活用の右側の欄に、分詞補語の訳の後に続く助詞を入力します。初期状態では空欄になっていますが、「していることに」と修正します。

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I found my card stolen.

結果：私は、私のカードが盗まれていることに気づいた。

● 動詞＋目的語＋形容詞補語で登録

【例】「make ～形容詞補語」を「～を＋形容詞訳連用形＋する」と登録する

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"make"と入力します。
3. 「訳語」に「する」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋形容詞補語」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後ろにつく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「を」と指定します。
8. 「形容詞補語」項目の「連用形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、形容詞補語をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

9. 述語の活用形の右側の欄に、形容詞補語の訳の後ろにつく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

10. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I made her happy.

結果：私は、彼女を幸福にした。

● 動詞＋目的語＋that節で登録

【例】「advise … that～」を「…に～と助言する」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"advise"と入力します。
3. 「訳語」に「助言する」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋that節」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「に」と指定します。
8. 「that節」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、that節をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「終止形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

9. 述語の活用の右側の欄に、that節の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「と」と指定します。

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：She advised that he should take a few day's rest.

結果：彼女は、彼が2、3の日の休息をしなければならないと彼に助言した。

● 動詞＋目的語＋to不定詞句で登録

【例】「want … to～」を「…が～ことを望む」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"want"と入力します。
3. 「訳語」に「望む」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋目的語＋to不定詞句」を選択します。
6. 必要に応じて、「目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、目的語に意味素性を指定します。
7. 意味素性の右側の欄に、目的語の訳の後ろにつく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「が」と指定します。
8. 「to不定詞句」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、to不定詞の動詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、「連体形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

9. 述語の活用の右側の欄に、to不定詞の訳の後ろにつく助詞を入力します。初期状態では「のを」となっているので、「ことを」と修正します。

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：She wants me to wait for her.

結果：彼女は、私が彼女を待つことを望む。



「A allow B to C」を通常の翻訳「AはBがCできるようにする」ではなく、「AによってBがCできるようになる」のように、主語の訳出方法も含めて登録することができます。詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『特定の名詞や主語を含むパターンの登録』を参照してください。

● 動詞+that節で登録

【例】「state that～」を「～と述べる」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"state"と入力します。
3. 「訳語」に「述べる」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞+that節」を選択します。
6. 「that節」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、that節をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「終止形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

7. 述語の活用の右側の欄に、that節の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「と」と指定します。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He stated that she was happy.

結果：彼は、彼女が幸福であると述べた。

● 動詞+to不定詞句で登録

【例】「want to 〜」を「したい」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"want"と入力します。
3. 「訳語」に「たい」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞+to不定詞句」を選択します。
6. 「to不定詞句」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、to不定詞の動詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

7. 述語の活用の右側の欄に、to不定詞の訳の後につく助詞を入力します。初期状態では「のを」となっているので、削除して空欄にします。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He wants to go to America.

結果：彼は、アメリカに行きたい。

● 動詞＋動名詞で登録

【例】「stop ～ing」を「～のをやめる」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"stop"と入力します。
3. 「訳語」に「やめる」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋動名詞」を選択します。
6. 「動名詞」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、動名詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、「連体形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

7. 述語の活用の右側の欄に、動名詞の訳の後に助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま「のを」と指定します。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He stopped crying.

結果：彼は、泣くのをやめた。

● 動詞＋疑問節で登録

【例】「doubt」を「疑う」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"doubt"と入力します。
3. 「訳語」に「疑う」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞＋疑問節」を選択します。

6. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I doubt how we will make a profit out of it.

結果：私は、我々がどのようにそれから利益を作るかについて疑う。

● 英文が受け身の時の訳語を指定

動詞の受け身に対して、通常の「～される」という表現を避ける場合に指定します。

【例】「be surprised」を「驚かされる」ではなく「驚く」と訳出させる

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"surprise"と入力します。
3. 「訳語」に「驚く」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、動詞を選択します。活用形が正しいかを確認し、間違っている場合は修正します。
5. 「英文が受け身の時の訳語を指定」チェックボックスをオンにします。

6. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I was surprised.

結果：私は、驚いた。

4.8.6 形容詞の登録

形容詞は、見出し語、訳語のほかに、意味素性の指定や詳細登録を行うことができます。意味素性は5つまで指定することができます。



形容詞の詳細登録（「形容詞＋前置詞句」「形容詞+to 不定詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には形容詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」、「to 不定詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細部分に入力します。

● 形容詞の簡易登録

【例】「object oriented」を「オブジェクト指向の」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"object oriented"と入力します。
2. 「訳語」に「オブジェクト指向の」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
4. 活用形は空欄のままにします。

5. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

規則活用の場合、比較級、最上級は推定され入力されますが、不規則活用の場合は、各項目をクリックして修正します。活用形がない場合は、空欄にしてください。



beautifulやimportantなど、活用形にmore、mostがつく単語の場合は、比較級・最上級ともに空欄にしてください。

● 形容詞＋前置詞句で登録

【例】「easy of 〜」を「〜されやすい」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"easy"と入力します。
3. 「訳語」に「されやすい」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形を正しく入力します。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞＋前置詞句」を選択します。
7. 「前置詞句」項目の「前置詞句 ▼」をクリックし、表示される前置詞の一覧から、「of」を選択します。
8. 「前置詞句」項目の「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から前置詞の後に続く語の意味素性を指定します。
9. 意味素性の右側の欄に、前置詞の訳を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

10. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：The machine is easy of adjustment.

結果：機械は、調整されやすい。

● 形容詞+to不定詞句で登録

【例】「apt to 〜」を「〜がち」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"apt"と入力します。
3. 「訳語」に「がち」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞+to不定詞句」を選択します。
7. 「to不定詞句」項目の「連用形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、to不定詞の動詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

8. 述語の活用の右側の欄に、to不定詞の訳の後に助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I am apt to make mistakes.

結果：私は、間違いをしがちである。

● 形容詞＋名詞で登録

【例】「worth ～」を「～に値する」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"worth"と入力します。
3. 「訳語」に「値する」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞＋名詞」を選択します。
7. 必要に応じて、「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、名詞に意味素性を指定します。
8. 意味素性の右側の欄に、名詞の訳の後ろにつく助詞を入力します。
ここでは、初期状態のまま「に」と指定します。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：His opinion is worth notice.

結果：彼の意見は、注目に値する。

メモ ここで"notice"は「注目」と訳語変更しています。

● 形容詞＋動名詞で登録

【例】「worth ～ing」を「価値がある」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"worth"と入力します。
3. 「訳語」に「価値がある」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞＋動名詞」を選択します。
7. 「動名詞」項目の「連体形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、動名詞をどのように訳すかを指定します。ここでは、初期状態のまま「連体形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

8. 述語の活用形の右側の欄に、動名詞の訳の後に助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：Rome is worth going.

結果：ローマは、行く価値がある。

● 形容詞+that節で登録

【例】「glad that 〜」を「〜てうれしく思っている」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"glad"と入力します。
3. 「訳語」に「うれしく思っている」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞+that節」を選択します。
7. 「that節」項目の「終止形 ▼」をクリックし、表示される述語の活用形の一覧から、that節をどのように訳すかを指定します。ここでは、「連用形」を指定します。

述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『述語の活用形記号』を参照してください。

8. 述語の活用の右側の欄に、that節の訳の後につく助詞を入力します。ここでは、初期状態のまま空欄にします。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I am glad that he has gone to America.

結果：私は、彼がアメリカに行っていてうれしく思っている。

● 形容詞＋疑問節で登録

【例】「doubtful 疑問節」を「疑わしい」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"doubtful"と入力します。
3. 「訳語」に「疑わしい」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「パターン」をクリックして、「形容詞＋疑問節」を選択します。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I am doubtful who will go.

結果：私は、誰が行くかについて疑わしい。

● 訳語に否定の意味を含めて登録

【例】「little」を「ほとんど～ない」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"little"と入力します。
3. 「訳語」に「ほとんど」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、形容詞を選択します。
5. 「否定語」チェックボックスをオンにします。

6. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録され、次のように述語が否定形で訳出されます。

例文：He has little money.

結果：彼は、ほとんどお金を持っていない。

4.8.7 副詞の登録

副詞は、見出し語、訳語のほかに詳細登録を行うことができます。

● 副詞の簡易登録

【例】「in the early morning」を「朝早く」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"in the early morning"と入力します。
2. 「訳語」に「朝早く」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、副詞を選択します。
4. 活用形は空欄にします。

5. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I got up in the early morning.

結果：私は、朝早く、起きた。

規則活用の場合、比較級、最上級は推定され入力されますが、不規則活用の場合は、各項目をクリックして修正します。



beautifullyやimportantlyなど、活用形にmore、mostがつく単語の場合は、比較級・最上級ともに空欄にしてください。

● 訳語に否定の意味を含めて登録

【例】「hardly」を「ほとんど～ない」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"hardly"と入力します。
3. 「訳語」に「ほとんど」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、副詞を選択します。
5. 活用形は空欄にします。
6. 「否定語」チェックボックスをオンにします。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録され、次のように述語が否定形で訳出されます。

例文：I hardly understood him.

結果：私は、彼をほとんど理解しなかった。

4.8.8 従属接続詞の登録

従属接続詞は、見出し語、訳語を入力して登録します。詳細登録はありません。

● 従属接続詞の簡易登録

【例】「though」を「～だが」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"though"と入力します。
2. 「訳語」に「が」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、従属接続詞を選択します。



4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：Though it was raining, they went out.

結果：雨が降っていたが、彼らは出かけた。

4.8.9 前置詞の登録

前置詞は、見出し語、訳語のほかに詳細登録を行うことができます。

● 前置詞の簡易登録

【例】「during」を「の間」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"during"と入力します。
2. 「訳語」に「の間」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、前置詞を選択します。



4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He enjoyed swimming during the summer vacation.

結果：彼は、夏期休暇の間泳ぐことを楽しんだ。

● 名詞を修飾する

【例】「opposite」を「の反対側にある」と登録する

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"opposite"と入力します。
3. 「訳語」に「の反対側にある」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、前置詞を選択します。
5. 「パターン」をクリックして、「名詞を修飾」を選択します。
6. 必要に応じて、「修飾先の名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、修飾先の名詞に意味素性を指定します。
7. 必要に応じて、「前置詞の目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、前置詞の目的語に意味素性を指定します。

8. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：The store opposite the gas station is selling vegetables.

結果：ガソリンスタンドの反対側にある店は、野菜を販売している。

● 動詞を修飾する

【例】「near」を「の近くで」と登録する

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"near"と入力します。
3. 「訳語」に「の近くで」と入力します。
4. 「品詞」をクリックして、前置詞を選択します。
5. 「パターン」をクリックして、「動詞を修飾」を選択します。
6. 必要に応じて、「前置詞の目的語」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、前置詞の目的語に意味素性を指定します。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：The man waited near the school.

結果：男は、学校の近くで待った。

4.8.10 単位の登録

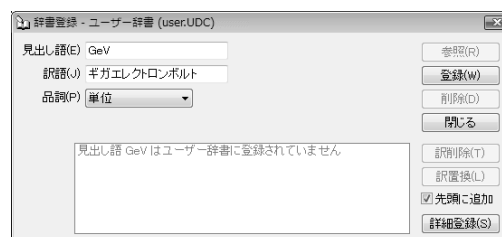
単位の登録では、見出し語、訳語を入力します。

● 単位の簡易登録

【例】「GeV」を「ギガエレクトロンボルト」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"GeV"と入力します。
2. 「訳語」に「ギガエレクトロンボルト」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、単位を選択します。



4. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：This is 5 GeV.

結果：これは、5ギガエレクトロンボルトである。

4.8.11 固有名詞の登録

固有名詞の登録では、見出し語、訳語のほかに詳細登録を行うことができます。

● 固有名詞の簡易登録

【例】「Cloudypop」を「クラウディーポップ」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"Cloudypop"と入力します。
2. 「訳語」に「クラウディーポップ」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、固有名詞を選択します。



4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I bought some sweets at Cloudypop.

結果：私は、クラウディーポップでいくつかのお菓子を買った。

● 訳語に意味素性を指定して登録

【例】「Summy」を「人間」という意味素性で「サミー」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「Summy」と入力します。
3. 「訳語」に「サミー」と入力します。
4. 「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から「人間」を選択します。「人間」を選択状態にして〈消去〉をクリックすると、意味素性は取り消されます。

5. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

意味素性指定の有無によって、次の翻訳の差が発生します。

例文：I will go for Summy.

結果：[HUMAN]の指定がある場合＝私はサミーを呼びに行く。

[HUMAN]の指定がない場合＝私はサミーを選ぶ。

ただし、このような結果は、動詞"go"にそのような訳し分けの記述がある場合に限ります。

4.8.12 「登録内容」を直接編集する

辞書登録ダイアログでは、「見出し語」、「訳語」などはキーボードから入力しますが、ほとんどの詳細登録をマウス操作で簡単に実行できるようになっています。クリックして設定された内容は「登録内容」に表示されます。また、「登録内容」へ直接辞書ソースを記述して登録することもできます。



「登録内容」で見出し語を変更することはできません。見出し語は、「見出し語」で変更してください。

【例】「nobody」を「誰もが～ない」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に"nobody"と入力します。
3. 「訳語」に「誰」と入力します。
4. 単数形のみなので、「複数形」は空欄にします。
5. 「否定語」チェックボックスをオンにします。
6. 必要に応じて、「名詞」項目にある「追加 ▼」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語に意味素性を指定します。
7. 助詞には、「も」が指定されています。「登録内容」ボックスの「も」の後ろをクリックして「が」と入力します。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：Nobody knows.

結果：誰もが知らない。

- 〈リセット〉

「登録内容」を直接編集すると、「登録内容」以外の詳細登録はすべて選択できなくなります。編集した内容と、詳細登録の内容の対応が取れない場合があるからです。このとき〈リセット〉をクリックすると、「登録内容」の内容が編集する前の状態に戻り、詳細登録画面の各項目が再び選択できるようになります。

4.8.13 登録内容に対する自動処理

辞書登録された内容を見ると、訳語の後に(X)、(I)などが付加されている場合があります。これは、訳語の活用型コードで、自動的に付加されます。独自に付加することもできます。活用型コードの一覧は、述語の活用の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』にある『辞書コード一覧 EJ』の『活用型コード一覧』を参照してください。

【例】オリジナル辞書登録の内容

```
state(v,*):述べる::[OC]S{と}
worth(a):値する::[ON]{に}
```

「辞書登録」実行後の登録の内容

```
state(v,*):述べる (I)::[OC]S{と}
worth(a):値する (X)::[ON]{に}
```

4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する

「登録」は、ユーザー辞書への単語や熟語の登録や削除を行う機能です。ユーザー辞書への登録には、基本語辞書・専門語辞書と同様に、簡易登録と詳細登録があります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

これらを登録するには、辞書登録ダイアログを使う方法と、「一括登録」機能を使う方法があります。いずれも辞書ソース（所定のフォーマットで登録内容を記述したテキスト）を作成してから登録します。辞書ソースの書式に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して『JE 辞書記述』を参照してください。



辞書登録ダイアログを使うと、各ボックスに見出し語・訳語などの情報を入力するだけで、自動的に辞書ソースが作成されるため、辞書ソースを特に意識する必要がありません。

ここでは、辞書登録ダイアログを使ったユーザー辞書への登録の方法を説明します。「一括登録」機能の詳細は、『4.11 ユーザー辞書の一括登録と変換』を参照してください。

● 辞書ソースの書式に関する参照先

辞書ソースの書式に関しては、「ヘルプ」を参照してください。「ヘルプ」は、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択します。ここでは、「ヘルプ」にある目次からの参照先を記載します。

4.9.1 辞書登録ダイアログ

辞書登録ダイアログでは、簡易登録も詳細登録もできます。品詞によっては簡易登録しかできないものもあります。ここでは、辞書登録ダイアログの基本的な入力方法を説明します。

辞書登録の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで辞書登録する単語を選択します。
2. [翻訳辞書]－[登録]を選択します。
次のダイアログが表示されます。



3. 必要に応じて、各項目を入力します。

● 辞書登録ダイアログ

見出し語

見出し語を入力します。見出し語は、（全角、半角ともに1文字として）50文字まで登録できます。



ヒント

翻訳エディタで、登録したい単語を選択してから[翻訳辞書]－[登録]を選択すると、その単語が自動的に「見出し語」に入力されます。

直接、文字を入力することもできます。活用がある見出しの場合（たとえば動詞、形容詞など）は、連体形で入力します。

訳語

訳語を入力します。訳語は半角で240文字まで入力できます。ただし、半角カタカナを入力することはできません。また、1つの見出し語には、98訳語まで登録できます。

品詞

品詞を選択します。右側の矢印をクリックすると品詞の一覧が表示されるので、適切な品詞を選択します。



登録できる品詞は名詞、動詞、形容(動)詞、副詞、格助詞、連体助詞の6つです。助動詞など、一覧に表示されている以外の品詞は指定できません。品詞は、次のように区別します。

名詞	活用がなく、人や物事などの名称を表す (例) 花、池
動詞	活用があり、「～する」が付いたり、語尾の母音が「う」で終わる (例) 印刷する、動く
形容詞	活用があり、文末にあるときは「～い」で終わる (例) かわいい、楽しい
形容動詞	活用があり、文末にあるときは「～だ」で終わる (例) 静かな(静かだ)、有効な(有効だ)
副詞	活用がなく、動詞や形容詞、形容動詞を修飾する (例) とても、やがて
格助詞	活用がなく、名詞の後に付いて全体として動詞または形容(動)詞を修飾する (例) ～と合わせ
連体助詞	活用がなく、名詞の後に付いて名詞を修飾する (例) 製の



ヒント

名詞と形容動詞は、「～な」が付くか付かないかで区別できます。
形容動詞には「～な」が付く、名詞には付きません。
たとえば、「混雑」は名詞、「乱雑(な)」は形容動詞です。



ヒント

連体助詞とは、名詞を修飾する活用しない語を言います。
Transerでは、「大型の」のような名詞+「の」も広義の連体助詞として扱います。
これらを登録する場合は、形容詞の無活用を指定します。

活用形

名詞の複数形、動詞の過去形・過去分詞、進行形、三単現(主語が三人称単数で時制が現在のときの活用形)などを入力します。選択した品詞に従って、必要な入力ボックスが表示されます。
必要に応じて、過去形などの活用形を記入します。動詞は、過去形・過去分詞、進行形、三単現を入力します。システムは活用形を推定して表示しますが間違っている場合は、正しい活用形に修正します。
活用形のない単語の場合は、何も入力しないでください。

参照

「見出し語」の内容を変更すると、〈参照〉を使用できるようになります。〈参照〉をクリックすると、辞書登録の内容を訳語リストボックスへ表示します。

登録

〈登録〉をクリックすると、その単語がユーザー辞書に登録され、訳語リストボックスに表示されます。辞書登録ダイアログは閉じないので、続けて辞書登録を行うことができます。

削除

〈削除〉をクリックすると、「見出し語」の単語が、そのすべての訳語とともにユーザー辞書から削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

先頭に追加

このチェックボックスがオンの場合、登録した訳語は訳語リストの先頭に追加されます。

オフの場合、訳語はリストの最後に追加されます。翻訳では、訳語リストの先頭訳語を第一訳として訳出するので、最適な訳を先頭にします。また、訳出頻度の低い訳語はオフにして登録し、リストの最後に追加するようにします。

詳細登録

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録を行うボックスが表示されます。詳細登録に関しては、後述する各品詞の登録を参照してください。

閉じる

〈閉じる〉をクリックすると、翻訳エディタに戻ります。辞書登録ダイアログに表示されている内容を登録せずに〈閉じる〉をクリックすると、編集途中の内容は破棄されます。登録する場合は、〈登録〉をクリックしてから〈閉じる〉をクリックします。



専門語辞書と基本語辞書には、単語の追加や修正はできません。

- 既に登録した訳語を修正するー〈訳置換〉

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳置換〉が使用できるようになります。訳語リスト内で訳語を選択すると登録内容が各ボックスに表示されます。

訳語を修正して〈訳置換〉をクリックします。修正内容が登録されます。

● 登録した訳語を削除するー〈訳削除〉

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳削除〉が使用できるようになります。削除したい訳語を訳語リスト内で選択すると登録内容が各ボックスに表示されるので、〈訳削除〉をクリックします。訳語がユーザー辞書から削除されます。

4.9.2 詳細登録モード

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。たとえば、「名詞の詳細登録」の登録ダイアログは次のものです。

The screenshot shows a dialog box titled '辞書登録 - ユーザー辞書 (user:JDC)'. It contains fields for '見出し語(J)' (Headword: ちけ茶色), '訳語(E)' (Translation: chocolate), and '品詞(P)' (Part of speech: 名詞). There are buttons for '参照(R)', '登録(W)', '削除(D)', '閉じる', '訳削除(T)', '訳置換(L)', '先頭に追加', and '簡易登録(S)'. A message box states '見出し語 ちけ茶色 はユーザー辞書に登録されていません'. Below this are sections for '意味素性' (Meaning properties) with a '色' (Color) field and '可算情報' (Countable information) with radio buttons for '可算' (Countable), '不可算' (Uncountable), and '複数扱い' (Plural treatment). There are also checkboxes for '名詞タイプ' (Noun type), '人称' (Person), '性' (Gender), and '冠詞情報' (Article information). At the bottom, there is a '登録内容' (Registration content) field showing '*ちけ茶色/N/ +\$/COL/ =chocolate/N/UC/' and a 'リセット(M)' button.



ヒント 詳細登録を行う場合は、あらかじめ〈詳細登録〉をクリックして、この詳細登録モードにしておくと便利です。

● 登録内容

入力した内容をもとに作成された辞書ソースが表示されます。表示された辞書ソースを直接キー入力で編集することができます。辞書ソースに関する詳細は、「ヘルプ」の『JE 辞書記述』を参照してください。



「登録内容」で見出し語を変更することはできません。見出し語は、「見出し語」で変更します。

● リセット

「登録内容」の内容を直接編集すると、〈リセット〉が使用できるようになります。編集した内容を元に戻したい場合は、〈リセット〉をクリックします。

4.9.3 名詞の登録

名詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、意味素性の指定や詳細登録を行うことができます。意味素性は5つまで指定することができます。

● 名詞の簡易登録

【例】「大理石」を「marble」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「大理石」と入力します。
2. 「訳語」に「marble」と入力します。
3. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして、再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。初期状態では、「不可算名詞」として登録されるので、「複数形」に表示されている内容は登録時に無視されます。

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：鉱山から多くの大理石が発掘された。

結果：A lot of marble was excavated from a mine.

「品詞」の右側にある▼をクリックして「名詞」を選択すると複数形が推測され入力されますが、間違っている場合は「複数形」に正しいものを入力します。

● 名詞詳細登録の各項目の内容

意味素性

その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性を指定します。〈追加〉をクリックすると表示されるウィンドウから選択します。なお、意味素性は5つまで指定できます。

可算情報

可算：数えられる（単数形・複数形ともに存在する）名詞

【例】「バラ/rose」

不可算：数えられない（単数形のみ存在する）名詞

【例】「水/water」

複数扱い：複数扱いする（複数形のみ存在する）名詞

【例】「人々/people」

名詞タイプ

普通名詞：下記の「固有名詞」以外の名詞

【例】「バラ/rose」

固有名詞：人名や地名など、1つのものに限った名称を表す名詞

【例】「日本/Japan」

人称

三人称：彼、彼女、かれらなどの、対話者以外のものを指す

二人称：対話者の相手（相手の仲間も含む）を指す

一人称：自分（自分の仲間も含む）を指す



人称を指定して登録すると、その訳語を指す代名詞がよりの確に訳出されます。何も指定しないと三人称として扱われます。たとえば、「貴社/your company」に二人称を指定すると、代名詞が必要なとき、**you**が用いられます。

性

中性：性別を特定できない場合に選択【例】「デザイナー/designer」

男性：男性を指す場合に選択【例】「俳優/actor」

女性：女性を指す場合に選択【例】「女優/actress」

冠詞情報

常に定冠詞生成： 常に定冠詞が付く名詞
【例】「太陽/sun」、「月/moon」、「他/other」

定冠詞禁止： 定冠詞が付かない名詞
【例】「少しのもの/some」、「他人/another」

常に不定冠詞生成： 常に不定冠詞が付く名詞
【例】「恥/shame」、「同情/pity」

不定冠詞禁止： 不定冠詞が付かない名詞
【例】「少しのもの/some」、「他人/another」

冠詞禁止： 常に冠詞が付かない名詞
【例】「少しのもの/some」、「他人/another」

「で」訳語／「に」訳語

見出し語に続く助詞「で」、「に」を特定の前置詞で訳出させたい場合に指定します。半角32文字まで入力できます。たとえば、「全速力/full speed」の「で」訳語に"at"を指定すると、「全速力で」が"at full speed"のように訳出されます。

● 数えられる名詞の登録

【例】「看護婦」を「可算名詞」で「nurse」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「看護婦」と入力します。

3. 「訳語」に「nurse」と入力します。

4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。

5. 「可算情報」の「可算」を選択します。

6. 〈登録〉をクリックします。

単語が登録されます。

例文：あの病院の看護婦たちは親切です。

結果：Nurses of that hospital are kind.

● 複数の訳語の登録

【例】「こげ茶色」に「chocolate」と「dark brown」の2つの訳語を登録する

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「こげ茶色」と入力します。
3. 「訳語」に「chocolate」と入力します。
4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。
「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。
5. 「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「色」（一覧のかなり下の方にある）をダブルクリックして選択します。
〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。
6. 「可算情報」の「不可算」を選択します。
「不可算」を選択すると、「複数形」に表示されている内容は登録時に無視されます。

辞書登録 - ユーザー辞書 (userJDC)

見出し語(J) こげ茶色 複数形 chocolates

訳語(E) chocolate

品詞(P) 名詞

見出し語 こげ茶色 はユーザー辞書に登録されていません

意味素性

色

追加... 消去

可算情報

☐ 可算

☒ 不可算

☐ 複数扱い

名詞タイプ 普通名詞

人称 三人称

性 中性

冠法情報 冠法なし

登録内容 *こげ茶色/N/ +\$/COL/ =chocolate/N/UC/

リセット(M)

7. 〈登録〉をクリックします。
内容が登録されます。
8. 次の訳語を登録するため、「訳語」に「dark brown」と入力します。
9. 「意味素性」で「色」、「可算情報」で「不可算」を選択して、〈登録〉をクリックします。
ダイアログは次のようになります。訳語リストに登録した複数の訳語が表示されます。

例文：彼女はこげ茶色の服を買った。

結果：She bought clothes of dark brown.



複数の訳語がある場合は、構文解析で一致した訳語のうち、先頭にあるもので訳出されます。

● 常に複数扱いにする名詞の登録

【例】「鋏」を「複数扱いの名詞」で「clippers」と登録する

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「鋏」と入力します。

3. 「訳語」に「clippers」と入力します。

4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。

5. 「意味素性」の「追加」をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「道具」をダブルクリックして選択します。

「消去」をクリックすると意味素性は取り消されます。

6. 「可算情報」の「複数扱い」を選択します。

「複数扱い」を選択すると、「複数形」に表示されている内容は登録時に無視されます。

7. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：鋏を貸してください。

結果：Please lend clippers.

● 固有名詞の登録

【例】「さやか」を「固有名詞」で「Sayaka」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「さやか」と入力します。

3. 「訳語」に「Sayaka」と入力します。

4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。

5. 「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「人間」をダブルクリックして選択します。

〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

6. 「名詞タイプ」チェックボックスをオンにして、右端の矢印をクリックして表示される一覧から「固有名詞」を選択します。

7. 〈登録〉をクリックします。

単語が登録されます。

例文：さやかは学校まで走った。

結果：Sayaka ran to a school.

●「性」の指定により訳し分けをする個人名の登録

【例】「さやか」を「固有名詞」で「人間」と「女性」の意味素性を持つ「Sayaka」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「さやか」と入力します。
3. 「訳語」に「Sayaka」と入力します。
4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。
「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。
5. 「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「人間」をダブルクリックして選択します。
〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。
6. 「名詞タイプ」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「固有名詞」を選択します。
7. 「性」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「女性」を選択します。

8. 〈登録〉をクリックします。
単語が登録されます。

●「性」の指定による訳し分け

「女性」を指定した場合

例文：さやかは電話することを決心した。

結果：Sayaka made up her mind to telephone you.

「女性」の指定がない場合

例文：さやかは電話することを決心した。

結果：Sayaka made up its mind to telephone you.



ヒント

基本語辞書に「決心する」の訳語が"make up one's mind"で登録されているため、所有格"one's"には主語の「性」に応じて"his"、"her"、"its"などが補われ、適切に訳し分けができるようになっています。

● 助詞「で」または「に」を伴う場合の前置詞訳の登録

【例】「のぞみ」を「NOZOMI」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「のぞみ」と入力します。
3. 「訳語」に"NOZOMI"と入力します。
4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。
「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。
5. 「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「バス・電車」（一覧のかなり下の方にある）をダブルクリックして選択します。
〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。
6. 「名詞タイプ」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「固有名詞」を選択します。
7. 「「で」訳語」チェックボックスをオンにして、右側のボックスに"by"と入力します。
8. 「「に」訳語」チェックボックスをオンにして、右側のボックスに"in"と入力します。

9. 〈登録〉をクリックします。

単語が登録されます。

助詞「で」を伴う例

例文：私はのぞみで会社へ行った。

結果：I went to a company by NOZOMI.

助詞「に」を伴う例

例文：広い座席がのぞみに設置された。

結果：The large seat was installed in NOZOMI.

● 冠詞情報を付加して登録

【例】「紅海」を「常に定冠詞を生成」して「Red Sea」と登録する

手順▶

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「紅海」と入力します。

3. 「訳語」に「Red Sea」と入力します。

4. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。

5. 「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、見出し語の意味素性を指定します。ここでは、「場所」（一覧のかなり下の方にある）をダブルクリックして選択します。

〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

6. もう1つの意味素性を選択します。「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、「自然物」をダブルクリックして選択します。

7. 「名詞タイプ」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「固有名詞」を選択します。

8. 「冠詞情報」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「常に定冠詞生成」を選択します。

9. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：先月、旅行で紅海へ行った。

結果：I went to the Red Sea in a trip last month.

4.9.4 動詞の登録

動詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、日本語の構文パターンによる詳細登録を行うことができます。

動詞は活用があるので、見出し語を連体形で入力します。品詞に動詞を選択すると、自動的に適切な活用型がいくつか推定されるので、正しい活用型を選択します。

パターンは日本語のパターンで考えます。英語の自動詞や他動詞の概念で考えないでください。構文は代表的な5パターンを用意してあります。

● 代表的な構文のパターン

- ～が～する (～は～する)
- ～が～を～する (～は～を～する)
- ～が～に～を～する (～は～に～を～する)
- ～が～に～する (～は～に～する)
- ～が～と～する (～は～と～する)
- ～に～を～する

たとえば、「動かす」という動詞には、「彼が、テーブルを動かす」のように「～を」という目的語を伴います。この場合、2番目のパターンが該当します。

訳語の活用形は、推定されて自動的に各活用形のボックスに表示されます。

基本語辞書にない新しい訳語（英単語）を登録する場合や、基本語辞書の動詞の活用とは異なる活用をさせたい場合は、キーボードから入力して変更できます。

基本語辞書の動詞の活用は、英語の規則活用に対応しています。また、不規則なものは個々に登録されています。

● 動詞の簡易登録（自動詞の登録） ― 〜が〜する

【例】「飛び跳ねる」を「jump」と登録する。パターンは「〜が〜する」

手順

1. 「見出し語」に「飛び跳ねる」と入力します。

2. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「一段」と表示されます。

3. 「訳語」に「jump」と入力します。

4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：ネコが飛び跳ねた。

結果：A cat jumped.

● 「〜が〜を〜する」の登録

【例】「明確にする」を「make clear」と登録する。パターンは「〜が〜を〜する」

手順

1. 「詳細登録」をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「明確にする」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「サ変」と表示されます。

4. 「訳語」に「make clear」と入力します。

5. 「品詞」が「動詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「動詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。

6. 「パターン」をクリックして「〜が〜を〜」を選択します。



7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は問題を明確にした。

結果：He made clear a problem.

この例文は、"He made a problem clear."と"made"と"clear"の間に"a problem"が訳出されるのが正しいので、以下のとおりに修正します。

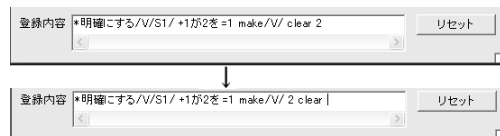
• 登録内容を修正する

辞書登録ダイアログには、「明確にする」を"make clear"と登録した内容が表示されています。

手順

1. 「登録内容」をキーボード入力で次のように修正します(□は半角スペース)。

***明確にする/V/S1/□+1が□2を□=1□make/V/□2□clear**



2. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は問題を明確にした。

結果：He made a problem clear.

● 「～が～に～を～する」の登録

【例】「手渡す」を「hand over」と登録する。パターンは「～が～に～を～する」

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「手渡す」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「サ行五段」と表示されます。

4. 「訳語」に「hand over」と入力します。

5. 「品詞」が「動詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「動詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。

6. 「パターン」をクリックして「～が～に～を」を選択します。

7. 必要に応じて、「が」、「に」、「を」の各「意味素性」の〈追加〉をクリックして表示される意味素性の一覧から、主語となる「～が」の意味素性および「～に」、「～を」の意味素性を指定します。ここでは、「が」の「意味素性」の〈追加〉をクリックし、「人間」をダブルクリックして選択します。

〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：郵便配達がおばあさんに小包を手渡した。

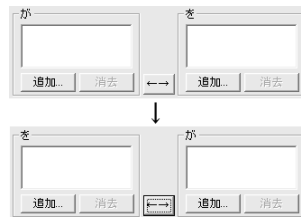
結果：A mail carrier handed over a grandmother a package.



この例を"A mail carrier handed over a package to a grandmother. "
 または"A mail carrier handed a package over to a grandmother. "と
 正しく訳出するための登録方法については、「ヘルプ」の『JE 辞書記述』
 にある『動詞の辞書記述 JE』を参照してください。

• 日本語パターンの変更

訳語の日本語構文パターンの「～が～を」、「～が～に～を」などを選択すると、
 「登録内容」に、日本語構文パターンと英語構文パターンが「*手渡す/V/S5/□+1
 が□2に□3を□=1 □hand/V/□over□2□3」(□は半角スペース)と表示されます。
 ここで表示される数字は格番号といい、構文内の主語、目的語などの位置を示
 します。日本語構文パターンの格番号を変更したい場合は、をクリックする
 と入れ替わります。



● 「～が～と～する」の登録 — 動詞＋副詞句の登録

【例】「散歩する」を「go for a walk with」と登録する。パターンは「～が～と～する」

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「散歩する」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「サ変」と表示されます。

4. 「訳語」に「go for a walk with」と入力します。

5. 「品詞」が「動詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「動詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。

6. 「パターン」をクリックして「～が～と」を選択します。

7. 必要に応じて、「が」、「と」の各「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、主語となる「～が」の意味素性および「～と」の意味素性を指定します。ここでは、「が」の「意味素性」の〈追加〉をクリックし、「人間」をダブルクリックして選択します。

〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は、犬と散歩した。

結果：He went for a walk with a dog.

● 受動態の登録

【例】「炊ける」を受け身で「cook」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「炊ける」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「一段」と表示されます。

4. 「訳語」に"cook"と入力します。

5. 「品詞」が「動詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「動詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。

6. 「パターン」の横にある「受動態に訳す」チェックボックスをオンにします。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：ご飯が炊けたら食事の時間だ。

結果：If rice is cooked, it is time for meal.

4.9.5 形容詞および形容動詞の登録

形容詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほか、日本語の構文パターンによる詳細登録を行うことができます。

形容詞や形容動詞は活用があるので、見出し語を連体形で入力します。



見出し語は、形容詞の場合「～い」、形容動詞の場合「～な」と入力します。

品詞で形容詞または形容動詞が選択されると自動的に適切な活用型がいくつか推定されるので、正しい活用型を選択します。

● 形容詞の簡易登録

【例】「かいがいいい」を「faithful」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「かいがいいい」と入力します。

2. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「形容詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「形容詞」と表示されます。

3. 「訳語」に「faithful」と入力します。

4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼女のかいがいいい介護で彼は病気から回復した。

結果：He recovered from illness by her faithful care.

● 「～が～に」の登録

【例】「優しい」を「kind to」と登録する。パターンは「～が～に」

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「優しい」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「形容詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「形容詞」と表示されます。

4. 「訳語」に「kind to」と入力します。

5. 「品詞」が「形容詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「形容詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。

6. 「パターン」をクリックして「～が～に」を選択します。

7. 必要に応じて、「が」、「に」の各「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、主語となる「～が」の意味素性および「～に」の意味素性を指定します。ここでは、「が」の「意味素性」の〈追加〉をクリックし、「人間」をダブルクリックして選択します。

〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：ジャックは弟に優しい。

結果：Jack is kind to a younger brother.

● 日本語パターンの変更

訳語の日本語構文パターンの「～が～に」、「～が～と」などを選択すると、「登録内容」に、日本語構文パターンと英語構文パターンが「*優しいV/A/A1/□+1が□2に□=1□be/V/□"kind□to"/A/□2」（□は半角スペース）と表示されます。ここで表示される数字は格番号といい、構文内の主語、目的語などの位置を示します。日本語構文パターンの格番号を変更したい場合は、をクリックすると入れ替わります。



● 「～が～と」の登録

【例】「仲良しの」を「a good friend with」と登録する。パターンは「～が～と」

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「仲良しの」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「形容詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用型が「形動の」と表示されます。
4. 「訳語」に「a good friend with」と入力します。
5. 「品詞」が「形容詞」になっていることを確認します。
「品詞」の右側にある▼をクリックして再度「形容詞」を選択すると、活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「パターン」をクリックして「～が～と」を選択します。
7. 必要に応じて、「が」、「と」の各「意味素性」の〈追加〉をクリックし、表示される意味素性の一覧から、主語となる「～が」の意味素性および「～と」の意味素性を指定します。ここでは、「が」の「意味素性」の〈追加〉をクリックし、「人間」をダブルクリックして選択します。
〈消去〉をクリックすると意味素性は取り消されます。

8. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：ジャックは犬と仲良しだ。

結果：Jack is a good friend with a dog.

● 限定用法と後置修飾で登録

形容詞では、用法、修飾位置の情報を付加することができます。

・用法

限定用法のみ："many"や"some"のように名詞を限定的に修飾する形容詞

述語用法のみ："sorry"のように"be 〜"になる形容詞

(通常は、"He is happy. ", "happy days"のように両方の使い方をします。)

・修飾位置

前置修飾：名詞を修飾するときに前から修飾する

後置修飾：名詞を修飾するときに後ろから修飾する

【例】「花がいっぱい入った」を「限定用法のみ」と「後置修飾」で「full of flowers」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。

2. 「見出し語」に「花がいっぱい入った」と入力します。

3. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。

4. 「訳語」に"full of flowers"と入力します。

5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「形容詞」を選択します。

「品詞」の下にある活用型が「無活用」と表示され、活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。

6. 「用法」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「限定用法のみ」を選択します。
7. 「修飾位置」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「後置修飾」を選択します。

辞書登録 - ユーザー辞書 (user.JDC)

見出し語(J) 花がいっぱい入った 比較級 登録(R)

訳語(E) full of flowers 最上級 登録(W)

品詞(P) 形容(動詞) 削除(D)

活用型(I) 無活用 閉じる

見出し語 花がいっぱい入った はユーザー辞書に登録されています。

訳語削除(T)

訳置換(L)

☒ 先頭に追加

簡易登録(S)

パターン 〜が

が

☒ 用法 限定用法のみ

☒ 修飾位置 後置修飾

追加... 消去

登録内容 *花がいっぱい入った/A/OO/+1が=1 be/V/"full of flowers"/A/ リセット(M)

8. 「登録」をクリックします。
 内容が登録されます。
 例文：花がいっぱい入った花瓶があった。
 結果：There was a vase full of flowers.

4.9.6 副詞の登録

副詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、詳細登録を行うことができます。

副詞は活用がなく、設定項目も少ないので、比較的簡単に登録することができます。

● 副詞の簡易登録

【例】「ずけずけと」を「freely」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「ずけずけと」と入力します。

2. カーソルを「訳語」に移動します。

自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。

3. 「訳語」に「freely」と入力します。

4. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。

活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。



5. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は私にずけずけと文句を言った。

結果：He complained to me freely.

● 副詞詳細登録の各項目の内容

呼应情報

- 否定含意： 訳語自体に否定の意味が含まれるため、訳文に"not"を伴わないもの
- 否定含意なし： 訳語自体に否定の意味が含まれないため、訳文に"not"を伴うもの

生成位置

- 述部末： 訳語を修飾された述部の最後に訳出させる
- 修飾語の直前： 訳語を修飾された語の直前に訳出させる
- 修飾語の直後： 訳語を修飾された語の直後に訳出させる
- 文頭： 訳語を文頭に訳出させる
- 文末： 訳語を文末に訳出させる

係り先

- 述語： 訳語の係り先を指定する。述語、動詞、形容詞・副詞、名詞を指定できる

● 訳語に否定の意味を含めて登録

【例】「めったに」を「hardly」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「めったに」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
4. 「訳語」に"hardly"と入力します。
5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。
活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「呼应情報」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「否定含意」を選択します。

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼はめったに映画を見に行かない。

結果：He goes to watch a movie hardly.



この登録例でhardlyをHe hardly goes ...のようにgoesの直前に訳出させたいときは、「訳語の生成位置の指定」を行います。次項を参照してください。

● 訳語の生成位置の指定 ― 修飾語の直前

【例】「すこぶる」を「extremely」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「すこぶる」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
4. 「訳語」に「extremely」と入力します。
5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。
活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「生成位置」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「修飾語の直前」を選択します。

辞書登録 - ユーザー辞書 (user.JDC)

見出し語(J) すこぶる 比較級 変形(R)

訳語(E) extremely 最上級 登録(W)

品詞(P) 副詞 削除(D) 閉じる

見出し語 すこぶる はユーザー辞書に登録されていません

訳語削除(T) 訳語換(L) ☒ 先頭に追加 簡易登録(S)

係り先
☒ 述語
☐ 動詞
☐ 形容詞・副詞
☐ 名詞

☐ 呼応情報 否定含意
☒ 生成位置 修飾語の直前

登録内容 *すこぶる/D/ +\$/M,S/ =extremely/D/ jprep/ リセット(M)

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼はすこぶる喜んでいる。

結果：He is extremely pleased.

● 訳語の生成位置の指定 — 修飾語の直後

【例】「はっきりと」を「distinctly」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「はっきりと」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
4. 「訳語」に"distinctly"と入力します。
5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。
活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「生成位置」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「修飾語の直後」を選択します。

辞書登録 - ユーザー辞書 (user.DIC)

見出し語(J) はっきりと 比較級
訳語(E) distinctly 最上級
品詞(P) 副詞

参照(R) 登録(W) 削除(D) 開じる

見出し語「はっきりと」はユーザー辞書に登録されていません

訳語削除(T) 訳語換(L) ☒ 先頭に追加 簡易登録(S)

係り先
☒ 述語
☐ 動詞
☐ 形容詞・副詞
☐ 名詞

☐ 呼応情報 否定含意
☒ 生成位置 修飾語の直後

登録内容 *はっきりと/D/ +\$/M_S/ =distinctly/D/post/ リセット(M)

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：犯人の声をはっきりと聞いた。

結果：I heard distinctly a voice of a criminal.

● 訳語の生成位置の指定 ― 文頭

【例】「明らかに」を「evidently」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「明らかに」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
4. 「訳語」に「evidently」と入力します。
5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。
活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「生成位置」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「文頭」を選択します。

辞書登録 - ユーザー辞書 (user.JDC)

見出し語(J) 明らかに 比較級 変形(R) 登録(W) 削除(D) 閉じる

訳語(E) evidently 最上級

品詞(P) 副詞

見出し語 明らかににはユーザー辞書に登録されていません

訳語削除(T) 訳語換(L) ☒ 先頭に追加 簡易登録(S)

係り先
☒ 述語
☐ 動詞
☐ 形容詞・副詞
☐ 名詞

☐ 呼応情報 否定含意
☒ 生成位置 文頭

登録内容 *明らかに/D/ *\$/M,S/ =evidently/D/sentbeg/ リセット(M)

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は明らかに嘘をついた。

結果：Evidently he told a lie.

● 訳語の生成位置の指定 ― 文末

【例】「誇らしげに」を「proudly」と登録する

手順

1. 〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにします。
2. 「見出し語」に「誇らしげに」と入力します。
3. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
4. 「訳語」に「proudly」と入力します。
5. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「副詞」を選択します。
活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。
6. 「生成位置」チェックボックスをオンにして、右側の矢印をクリックして表示される一覧から「文末」を選択します。

辞書登録 - ユーザー辞書 (user.DIC)

見出し語(J) 誇らしげに 比較級

訳語(E) proudly 最上級

品詞(P) 副詞

参照(R) 登録(W) 削除(D) 開じる

見出し語 誇らしげに はユーザー辞書に登録されていません。

訳語削除(T) 訳語換(L) ☒ 先頭に追加 簡易登録(S)

係り先
☒ 述語
☐ 動詞
☐ 形容詞・副詞
☐ 名詞

☐ 呼応情報 否定含意

☒ 生成位置 文末

登録内容 *誇らしげに/D/ +\$/M,S/ =proudly/D/ sentend/ リセット(M)

7. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：入賞者は誇らしげに舞台へ上がった。

結果：The prizewinner entered the stage proudly.

4.9.7 格助詞の登録

格助詞とは、名詞を伴って文節を構成する助詞で、全体としては述語を修飾します。格助詞のうち、英語で「前置詞（または前置詞相当語句）+名詞」になるものを登録できます。

● 格助詞の簡易登録

【例】「を理由に」を「on account of」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「を理由に」と入力します。
2. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
3. 「訳語」に「on account of」と入力します。
4. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「格助詞」を選択します。

5. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：交通事故を理由に交通規制が行われた。

結果：Traffic regulation was done on account of a traffic accident.

● 意味素性の指定

見出し語に意味素性を指定することができます。「見出し語」、「訳語」を入力したら、〈詳細登録〉をクリックし、「意味素性」の〈追加〉をクリックして、表示される意味素性の一覧から目的の意味素性をダブルクリックします。意味素性を取り消すには、〈消去〉をクリックします。

4.9.8 連体助詞の登録

連体助詞とは、名詞を伴って文節を構成する助詞で、全体としては名詞を修飾します。連体助詞のうち英語で「前置詞（または前置詞相当語句）+名詞」になるものを登録できます。

● 連体助詞の簡易登録

【例】「と同等の」を「equivalent to」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「と同等の」と入力します。
2. カーソルを「訳語」に移動します。
自動的に品詞が推定され、「名詞」と表示されます。
3. 「訳語」に"equivalent to"と入力します。
4. 「品詞」の右側にある▼をクリックして「連体助詞」を選択します。



5. 〈登録〉をクリックします。
内容が登録されます。
例文：彼はプロと同等の能力を有する。
結果：He has ability equivalent to a professional.

● 意味素性の指定

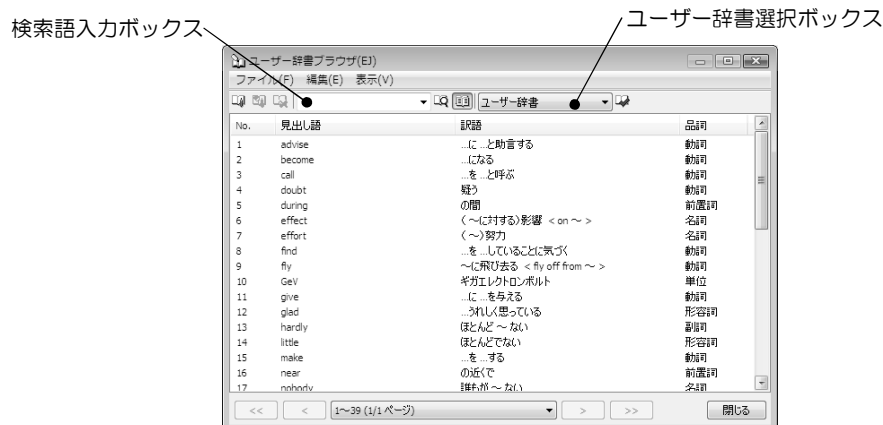
見出し語に意味素性を指定することができます。「見出し語」、「訳語」を入力したら、〈詳細登録〉をクリックし、「意味素性」の〈追加〉をクリックして、表示される意味素性の一覧から目的の意味素性をダブルクリックします。意味素性を取り消す場合は、〈消去〉をクリックします。

4.10 ユーザー辞書ブラウザ

ユーザー辞書ブラウザは、英→日または日→英のユーザー辞書の語句を一覧表示したり、語句の登録、変更、削除などを行う機能です。

● 語句の一覧表示

[翻訳辞書]－[ユーザー辞書ブラウザ]を選択すると、翻訳設定ダイアログの「辞書」タブの「使用中の辞書」で書き込み用に設定されているユーザー辞書の語句が一覧表示されます。

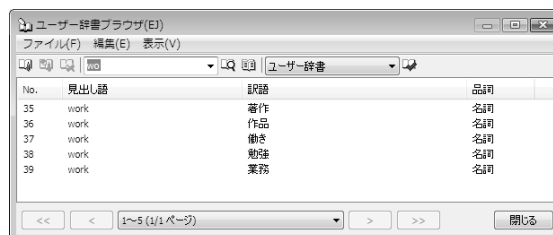


以下の方法でもユーザー辞書の語句の一覧を表示することができます。

- 検索語入力ボックスを空にして、〈検索〉をクリックする
- 〈全件表示〉をクリックする

● 語句の検索

ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[検索]を選択するか、検索語入力ボックスに語句を入れて〈検索〉をクリックすると、検索結果が表示されます。語句の検索では、前方一致検索が実行されます。



● 辞書の変更

参照する辞書を変更する場合は、ユーザー辞書選択ボックスをクリックすると表示される一覧から、選択します。

選択可能なユーザー辞書は、翻訳設定ダイアログの「辞書」タブにある「利用できる辞書」または、「使用中の辞書」に設定されているユーザー辞書です。

● ユーザー辞書の更新

ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[変更]を選択する、変更する語句をダブルクリックする、または、変更する語句を選択して〈変更〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されて、当該語句の「見出し語」と「訳語」が自動的に入力されます。品詞の選択、訳語の追加、変更、削除などを行ってください。

指定したユーザー辞書が共有設定されている場合、先頭にアイコンが付与されます。共有辞書については、『付録2 辞書と翻訳メモリの共有』を参照してください。



ヒント

初期状態で辞書登録ダイアログの「品詞」には、「名詞」が設定されます。適宜、品詞を選択してください。

● 語句の新規登録

ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[登録]を選択するか、〈登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されます。見出し語、訳語などを入力して、ユーザー辞書に登録してください。

● 語句の削除

削除する語句を選択して、ユーザー辞書ブラウザの[編集]－[削除]を選択するか、〈削除〉をクリックすると、語句の削除を確認するメッセージが表示されます。〈OK〉をクリックすると、削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

● 表示

ユーザー辞書ブラウザでは、1ページに500語ずつ表示します。それ以上の語句がある場合は、次の方法でページを移動してください。

	先頭ページに移動
	前ページに移動
	次ページに移動
	最後のページに移動

特定のページに移動 ダイアログ下部にあるページを示すボックスをクリックすると、ページの一覧が表示されます。移動先のページを選択すると、当該ページが表示されます。

● 辞書のプロパティを表示する

ユーザー辞書ブラウザの[ファイル]－[プロパティ]を選択するか、〈プロパティ〉をクリックすると、辞書のファイル名、保存場所、登録されている見出し語と訳語の数などが表示されます。

4.11 ユーザー辞書の一括登録と変換

Transerには、あらかじめ決められたフォーマットでテキスト形式の辞書ソースファイルを作成して、一括でユーザー辞書に登録する「一括登録」機能があります。

また、逆にユーザー辞書をテキストファイルに変換して、内容を確認したり、バックアップとして保管するための「辞書ソース出力」機能もあります。

4.11.1 CSVフォーマットとTSVフォーマット

Transerでは、「CSVフォーマット」と「TSVフォーマット」で辞書ソースを記述することができます。このフォーマットを使用すると、他のデータベースや表計算ソフトでソートするなどの編集作業ができるようになります。

「CSVフォーマット」、「TSVフォーマット」では見出し語と訳語のみの簡易登録になります。



「CSVフォーマット」、「TSVフォーマット」で登録できる品詞は名詞のみです。また、1つの見出し語で登録できる訳語は1つのみです。同じ見出し語に対して複数の訳語を登録するときは、その数だけ見出し語と訳語を組にして記述します。

● CSVフォーマット

見出し語と訳語をカンマで区切って並べます。

記述フォーマット：見出し語,訳語

【英→日 記述例】

translation software,翻訳ソフト

メモ 訳語以外は半角で入力します。

【日→英 記述例】

翻訳ソフト,translation software

メモ 見出し語以外は半角で入力します。

● TSVフォーマット

見出し語と訳語をタブで区切って並べます。ここでは、タブを「→」で表します。

記述フォーマット：見出し語→訳語

【英→日 記述例】

translation software→翻訳ソフト

メモ 訳語以外は半角で入力します。

【日→英 記述例】

翻訳ソフト→translation software

メモ 見出し語以外は半角で入力します。

4.11.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する

テキスト形式で書かれた辞書ソースファイルからTranserで利用できる形式のユーザー辞書を新規作成したり、または、既存のユーザー辞書に追加登録します。辞書ソースファイルはあらかじめ作成しておく必要があります。

また、既に作成されている複数のユーザー辞書を1つのユーザー辞書に統合することもできます。

まず、辞書ソースを記述したテキストファイルを作成します。CSV、TSV形式以外の辞書ソース記述の詳細は、「ヘルプ」の『EJ 辞書記述』または、『JE 辞書記述』を参照してください。

〔翻訳辞書〕－〔一括登録〕を選択すると、次のダイアログが表示されます。



手順は以下のとおりです。

入力辞書ファイルを選択する



出力辞書ファイルを指定する



出力方法を指定する



一括登録を実行する

- **入力辞書ファイルを選択する**

辞書ソースのテキストファイル、既に作成されているユーザー辞書を選択することができます。

- **ファイルを選択する**

辞書の記述形式に従って作成した辞書ソースのテキストファイルとユーザー辞書を選択できます。〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書データファイルの選択ダイアログが表示されます。

このダイアログでは、次のオプションが設定できます。

ファイルの場所

開きたいファイルが保存されているフォルダまたはドライブを選択します。

ファイル名

開きたいファイルの名前を入力または選択します。リストボックスには、「ファイルの種類」ボックスで選択したファイル形式に対応する拡張子を持ったファイルが、一覧表示されます。

ファイルの種類

開くファイルの形式（拡張子）を選択します。ファイルの種類では、ファイルの形式に従って、次のオプションを指定できます。

ファイル形式	ファイルの種類
辞書ソースファイル	テキストファイル（辞書ソース形式）(*.TXT) 全てのファイル（辞書ソース形式）(*.*) EJ:英日辞書ソースファイル（辞書ソース形式）(*.OPT) JE:日英辞書ソースファイル（辞書ソース形式）(*.DIC)
辞書ファイル	EJ:英日辞書バイナリファイル(*.UDC) JE:日英辞書バイナリファイル(*.JDC)
CSVファイル	テキストファイル（カンマ区切り）(*.TXT) 全てのファイル（カンマ区切り）(*.*)
TSVファイル	テキストファイル（タブ区切り）(*.TXT) 全てのファイル（タブ区切り）(*.*)

ここで指定した形式でファイルを開くので、適切に指定する必要があります。たとえば、辞書ソースをCSV形式で記述した場合には、必ず、「テキストファイル（カンマ区切り）(*.TXT)」、または「全てのファイル（カンマ区切り）(*.*)」を選択します。



開きたいファイルを指定する際、入力辞書データリストには、辞書ソースファイル（英→日用は*.OPT、日→英用は*.DIC）フォーマット、CSV形式、TSV形式のファイルを混在させることができます。

〈開く〉をクリックすると、入力辞書データリストに追加されます。〈キャンセル〉をクリックすると、元のダイアログに戻ります。

・ユーザー辞書を選択する

ユーザー辞書を選択できます。〈辞書選択〉をクリックすると、辞書選択ダイアログが表示されます。



辞書選択ダイアログには、選択可能なユーザー辞書が表示されます。辞書を選択して〈追加〉をクリックすると、辞書設定ダイアログの辞書リストに追加されます。

〈ファイル指定〉をクリックすると辞書を開くダイアログが表示されるので、リストに追加する辞書を指定できます。

- 指定したファイルをリストから外す

入力辞書データのリストからファイルを外すには、外したいファイルを選択して、〈解除〉をクリックします。

- 辞書のデータを見る

入力辞書データのリストにあるユーザー辞書の情報を表示できます。テキストファイルの情報は表示できません。ユーザー辞書ファイルを選択して、〈辞書情報〉をクリックすると、見出し語と訳語の数が表示されます。

- 出力辞書ファイルを指定する

出力ファイルにある〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書ファイルの選択ダイアログが表示されます。

- 追加登録の場合

辞書ファイルの選択ダイアログに表示されているファイルを選択して、〈保存〉をクリックします。指定したファイル名が「出力辞書」に、辞書の名前が「辞書名」に表示されます。「辞書名」で辞書の名前を変更できます。「出力方法」の「追加」を選択します。

- 新規作成の場合

辞書ファイルの選択ダイアログの「ファイル名」に新しいファイル名を入力して、〈保存〉をクリックします。「辞書名」に辞書の名前を入力します。「出力方法」の「新規」を選択します。辞書名を入力しないと、出力ファイル名を辞書名にします。

- 既にあるユーザー辞書に上書き保存する場合

辞書ファイルの選択ダイアログに表示されているファイルを選択して、〈保存〉をクリックします。指定したファイル名が「出力辞書」に、辞書の名前が「辞書名」に表示されます。「辞書名」で辞書の名前を変更できます。「出力方法」の「新規」を選択します。

● 一括登録を実行する

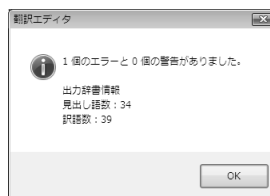
〈実行〉をクリックすると、一括辞書登録が実行されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は、〈中止〉をクリックします。〈中止〉をクリックすると、ダイアログが閉じられ、元の画面に戻ります。処理が完了すると、出力辞書に登録された見出し語と訳語の数がダイアログに表示されます。



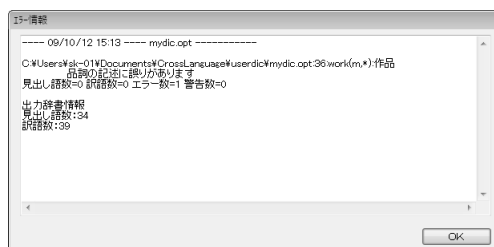
内容を確認して、〈OK〉をクリックします。一括登録ダイアログに戻ります。

● エラーがあった場合

辞書ソース記述に誤りがあって登録できなかった場合は、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、次のエラー内容が表示されます。



内容を確認して、〈OK〉をクリックします。一括登録ダイアログに戻ります。エラー行は、辞書に登録されません。正しい辞書記述に修正して、再度実行を選択してください。

● 辞書のバックアップ

既にあるユーザー辞書に追加登録したり、または、新規辞書として上書き保存した場合、元のユーザー辞書はバックアップとして保管されます。バックアップ辞書にはファイル名の最後に「~」が付加されます。

- エラー設定

一括辞書登録では、発生したエラーの内容を保存するエラー情報ファイルが、出力ファイルと同じフォルダに自動的に作成されます。エラー情報ファイルは、その作成場所やファイル名を指定することもできます。

詳細は、『4.11.7 エラー情報ファイル』を参照してください。

- 設定の保存と読み込み

一括辞書登録では、複数のテキストファイルと辞書ファイルを入力データに指定して、1つの辞書ファイルを作成することができます。指定した入力ファイルのリストは、入力辞書データに表示されます。このダイアログの設定内容を保存することができます。

たとえば、複数のユーザーが個々に作成した辞書を定期的に1つの辞書に統合する場合などは、ダイアログの各項目を設定する手間を省けます。

〈設定の保存〉をクリックすると、「入力ファイル」、「出力ファイル」、「出力方法」の設定値を保存します。一括登録設定ファイルの保存ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して〈保存〉をクリックします。

〈設定の読込〉をクリックすると、指定したファイルの設定内容を読み込んで、一括辞書登録ダイアログの各項目に内容を設定します。一括登録設定ファイルの指定ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定して〈開く〉をクリックします。

4.11.3 ユーザー辞書をテキストファイルに変換する

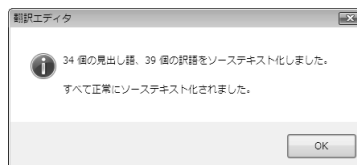
〔翻訳辞書〕－〔辞書ソース出力〕では、Transterのユーザー辞書を、テキスト形式の辞書ソースファイル（英→日用は*.OPT、日→英用は*.DIC）、CSV形式、TSV形式に変換します。基本語辞書、専門語辞書を変換することはできません。



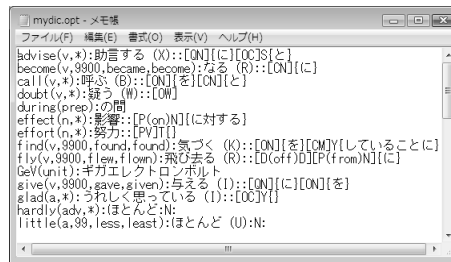
変換の手順は以下のとおりです。

手順

1. テキストファイルに変換するユーザー辞書を指定します。
入力ファイルの〈ファイル選択〉をクリックすると辞書ファイルの選択ダイアログが表示されるので、辞書ファイルを選択します。
2. または、〈辞書選択〉をクリックすると、辞書選択ダイアログが表示されるので、辞書を選択して〈追加〉をクリックします。
「入力辞書」に指定したファイル名が表示されます。
3. 変換結果を保存するテキストファイルを指定します。
出力ファイルの〈ファイル選択〉をクリックします。
辞書ソースファイルの選択ダイアログが表示されます。
4. 出力するファイルの形式を「ファイルの種類」で選択して、「ファイル名」を入力して、〈開く〉をクリックします。
「出力テキスト」に指定したファイル名が表示されます。
ファイル形式に対応した「ファイルの種類」に関しては、『4.11.2 辞書ソースをユーザー辞書へ一括・追加登録する』を参照してください。
5. 〈実行〉をクリックします。
テキスト変換が開始されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は〈中止〉をクリックします。処理が完了すると、変換した語と訳語の数がダイアログに表示されます。



6. 〈OK〉をクリックします。
元の画面に戻ります。
作成されたテキスト形式の辞書ソースを確認します。
7. 「出力テキスト」で指定したファイルを開きます。
たとえば、「メモ帳」で開くと以下のように表示されます。



4.11.4 Excelを利用したユーザー辞書の作成

Excelを使用してユーザー辞書に一括で単語を登録する方法を説明します。Excel上で見出し語と訳語を入力し、Transer用ユーザー辞書としての「翻訳辞書」－「一括登録」を選択することで一括辞書登録します。

● 作業の流れ

1. Excelを起動して、辞書ソースを入力します。A列に見出し語、B列に訳語を入力します。
2. 作成した辞書ソースファイルをTSV形式で保存します。
3. Transerを起動します。
4. 「翻訳辞書」－「一括登録」を選択して、Excelで作成した辞書ソースファイルからTranser用のユーザー辞書を作成します。
5. Transerを起動して手順4で作成したユーザー辞書を辞書設定します。
6. 翻訳を実行します。

● 登録できる品詞

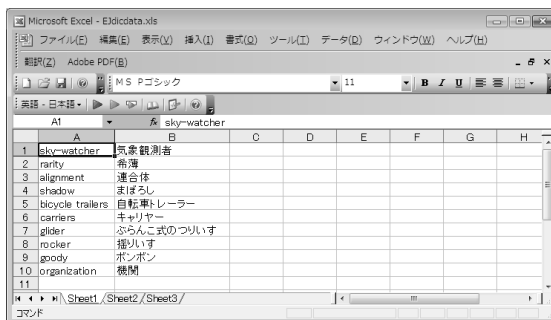
辞書ソースファイルをTSV（タブ区切り）形式で保存した場合、登録できる品詞は「名詞」のみです。

● 一括辞書登録の手順

手順は次の通りです。まず、Excelで辞書ソースファイルを作成します。

手順

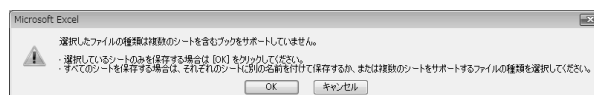
1. Excelを起動して、以下のように見出し語と訳語をセルに入力します。



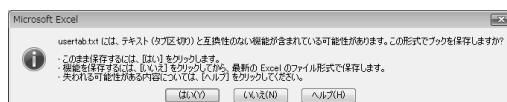
2. [ファイル]—[名前を付けて保存]を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。
3. 「ファイルの種類」を「テキスト(タブ区切り)」, ファイル名は任意に付けられますがたとえばusertab.txtと入力して、〈保存〉をクリックします。



次のダイアログが表示されます。



4. 〈OK〉をクリックします。
次のダイアログが表示されます。



5. 〈はい〉をクリックします。
これで、Excelで作成した辞書ソースファイルがTSV形式で保存されました。

Excelを終了し、次に、Transerの「一括辞書登録」機能でユーザー辞書を作成します。

6. Transerを起動して、[翻訳辞書]—[一括登録]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



7. 「入力ファイル」項目の〈ファイル選択〉をクリックすると、辞書ソースファイルの選択ダイアログが開くので、Excelで作成したファイルを選択します。
8. usertab.txtを保存した場所へ移動します。「ファイルの種類」を「テキストファイル（タブ区切り）(*.TXT)」に変更して、ファイルリストから usertab.txtを選択してください。



一括登録ダイアログに戻り、選択した辞書ソースファイルがリストに追加されます。



9. 新規作成するユーザー辞書ファイルを指定します。「出力ファイル」項目の〈ファイル選択〉をクリックします。

英日辞書ファイルの選択ダイアログが表示されます。



10. 〈保存〉をクリックします。

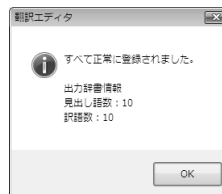
一括辞書登録ダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。



メモ ファイルの場所、ファイル名は任意に指定できます。この例では、ホームディレクトリのejフォルダにusertab.udcと言うユーザー辞書が作成されます。

11. 「出力方法」項目の〈新規〉をクリックします。続いて〈実行〉をクリックします。

一括辞書登録が開始され、正常に終了すると次のダイアログが表示されます。



12. 〈OK〉をクリックします。続いて、〈キャンセル〉をクリックします。

これで、usertab.udcというユーザー辞書が作成されました。

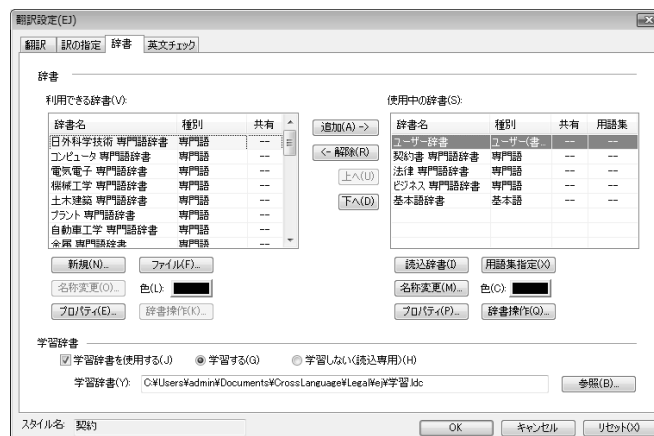
● 翻訳で使用する辞書の設定

Transterで作成したusertab.udcを翻訳に使用する辞書として設定します。

手順

1. 【翻訳】－【翻訳設定】－【辞書】を選択します。

辞書設定ダイアログが表示されます。



2. 〈ファイル〉をクリックします。

辞書の登録ダイアログが表示されるので、usertab.udcを選択します。「利用できる辞書」リストにusertab.udcが追加されます。



3. 「利用できる辞書」リストにあるusertab.udcを選択して〈追加→〉をクリックします。

usertab.udcが「使用中の辞書」リストへ追加されます。

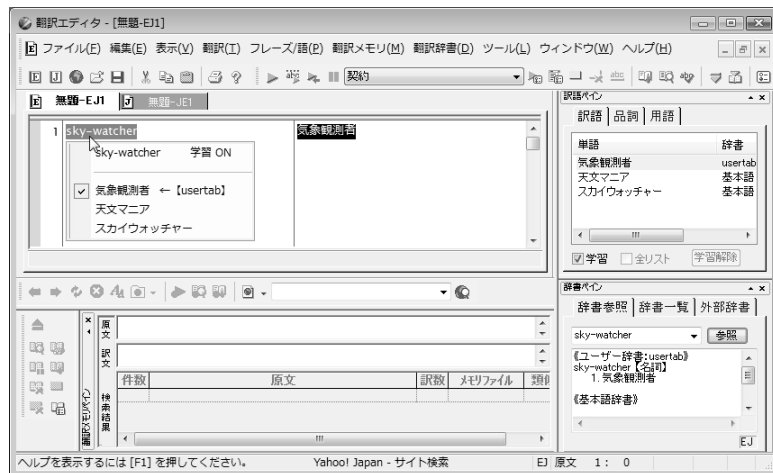
4. 〈OK〉をクリックします。

これで、翻訳に使用する辞書として設定されました。



同じ手順で、ファイルの保存と読み込みの際、ファイルの種類を「CSV形式」に指定するとカンマ区切りの見出し語と訳語を一括登録できます。

翻訳エディタで翻訳を実行するとユーザー辞書の訳が採用されます。



4.11.5 英⇄日変換

英語と日本語の言語の違いから、英→日と日→英はそれぞれ独自の辞書フォーマットを持っていますが、2つのシステムの間である程度の共通な辞書を持てると便利です。ここでは、英日から日英へ、また日英から英日へのユーザー辞書ソースファイルの変換について説明します。また、変換におけるいくつかの制限についても説明します。

なお、ユーザー辞書の一括変換では、英→日の辞書ソースファイルを「*.opt」、日→英の辞書ソースファイルを「*.dic」としています。



変換できるのはテキスト形式の辞書ソースファイルです。変換された辞書ソースファイルは、各翻訳ソフトで「一括登録」しなければ、辞書として使用できません。

辞書変換の手順は以下のとおりです。

手順

1. 【翻訳辞書】－【英⇄日変換】を選択します。

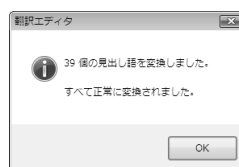
次のダイアログが表示されます。



2. 「変換の種類」を選択します。右側の矢印をクリックし、英→日の辞書ソースファイルを日→英の辞書ソースファイルに変換する場合は〈EJ→JE〉を、日→英の辞書ソースファイルを英→日の辞書ソースファイルに変換する場合は〈JE→EJ〉を選択します。
3. 変換元の入力ファイルを選択します。
「入力テキスト」の〈ファイル選択〉をクリックし、表示される辞書ソースファイルの選択ダイアログで、変換元の辞書ソースファイルを選択します。
EJ→JEの場合：「ファイルの種類」で「英日辞書ソースファイル(*.OPT)」
JE→EJの場合：「ファイルの種類」で「日英辞書ソースファイル(*.DIC)」
4. 変換先の出力ファイルを選択します。
「出力テキスト」の〈ファイル選択〉をクリックし、表示される辞書ソースファイルの選択ダイアログで、変換先の辞書ソースファイルを選択します。
EJ→JEの場合：「ファイルの種類」で「日英辞書ソースファイル(*.DIC)」
JE→EJの場合：「ファイルの種類」で「英日辞書ソースファイル(*.OPT)」
5. 〈実行〉をクリックします。

辞書変換が実行されます。処理の進行状況が表示されるので、中止する場合は〈中止〉をクリックします。

処理が完了すると、変換した見出し語の数がダイアログに表示されます。



6. 〈OK〉をクリックします。

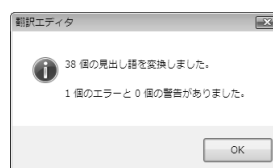
英⇄日変換ダイアログに戻ります。

7. 〈キャンセル〉をクリックします。

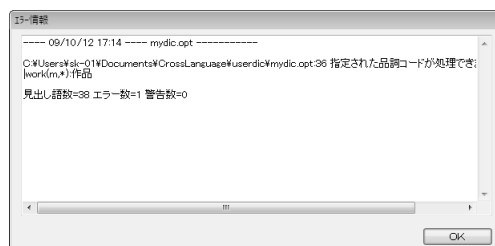
元の画面に戻ります。

● エラーがあった場合

辞書ソース記述に誤りがあって変換できなかった場合は、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、次のエラー内容を表示します。



内容を確認して 〈OK〉をクリックします。英⇄日変換ダイアログに戻ります。

エラー行は、変換されません。正しい辞書記述に修正して、再度実行を選択してください。

● エラー設定

辞書変換で発生したエラーの内容を保存する、エラー情報ファイルを作成することができます。詳細は、『4.11.7 エラー情報ファイル』を参照してください。

4.11.6 辞書変換の制限

英語と日本語の言語の違いから、各翻訳ソフトは独自の辞書フォーマットを採用しています。そのため、英→日においては、正しくコンパイルされるソース記述であっても、適切に日→英のソースに置き換えることができなかったり、またはその逆の場合があります。

ここでは、変換における制限について説明します。

● 「EJ→JE」に変換する場合

・ 英→日の動詞の登録で詳細登録を行った場合

英→日の詳細登録は無視されます。同じ見出し語に異なる詳細登録を行うと、同じ見出し語で同じ訳の登録となります。作成した辞書の使用時には1つの見出し語に対し、1つの訳語となるので、問題はありません。

英→日の辞書ソース

```
state(v,0000):述べる::[OC]T{と}
state(v, 0000):述べる::[QN]{に}[OC]{と}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

・ 英→日で動詞に前置詞に係る詳細登録をした場合

前置詞の記述は変換後の日→英の辞書ソースで修正する必要があります。

英→日の辞書ソース

```
test(v,0000):テストする::[ON]{を}[P(with)N]{で}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□(2を)□=1□test/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□2を□(3で)□=1□test/V/□2□(with□3)
```

メモ □は半角スペースです。

- 英→日で前置詞、従属接続詞を登録した場合

英→日の前置詞、従属接続詞を日→英へ変換すると名詞になります。正しくは格助詞または連体助詞なので、日→英のソースを必ず修正してください。

英→日の辞書ソース

for the purpose of(pre):のために though(conj):が

変換後の日→英の辞書ソース

*のために/N/□="for□the□purpose□of"/N/ *が/N/□=though/N/

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

*のために/JSKAK/□="for□the□purpose□of" この場合の「が」は接続詞なので登録できません。

メモ □は半角スペースです。

- 英→日の見出し語が形容詞で訳語が動詞の場合

英→日の見出し語が形容詞でも、訳語を日→英の見出し語として変換すると語形からシステムが自動判定し、動詞になる場合があります。

英→日の辞書ソース

worth(a):値する::[ON]{に}

変換後の日→英の辞書ソース

*値する/V/S1/□+1が□=1□be/V/□worth/A/

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

*値する/V/S1/□+1が□2に□=1□be/V/□worth/A/□2

メモ □は半角スペースです。

- 「JE→EJ」に変換する場合

格助詞、連体助詞は変換できません。

日→英の辞書ソースに格助詞、連体助詞がある場合は、削除してから行ってください。

4.11.7 エラー情報ファイル

辞書ソースの記述が誤っている場合は、そのエラー内容をファイルに書き出すことができます。

● エラー情報ファイルの設定

初期状態では、出力辞書ファイル名に拡張子".err"を付加したエラー情報ファイルが作成され、このファイルは一括辞書登録を行うたびに上書きされます。



ヒント 毎回のエラー情報を残すには、一括辞書登録を行うたびに別の出力ファイルを指定します。

エラー情報ファイルを設定する手順は以下のとおりです。

手順

1. 各ダイアログにある〈エラー設定〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「エラー情報ファイル名を指定する」チェックボックスをオンにします。
3. 〈参照〉をクリックします。

エラー情報出力ファイルの選択ダイアログが表示されます。

4. ファイルを選択します。

エラー情報ファイルはテキスト形式のファイルで、ファイル名は任意に付けられます。

5. 〈OK〉をクリックします。

エラー情報ファイルが設定されます。

第 5 章 文書の入出力

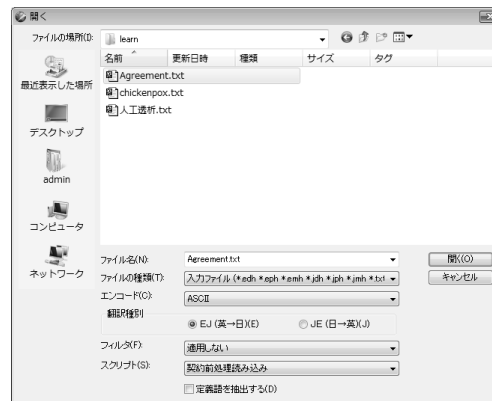
この章の内容

この章では、Transerでの文書の読み込みと保存、印刷方法を説明します。

5.1 文書の入力

5.1.1 ファイルを開く

Transterでは翻訳ファイル（Transterで作成されるファイル）や、ワープロ、エディタで作成したテキストファイルを開いて、翻訳エディタに読み込みます。
[ファイル]－[開く]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



翻訳したいファイル名をダブルクリックすると、ファイルが読み込まれ、自動的に文分割されて原文エリアに順に原文が表示されていきます。

読み込みたいファイルを選択して、〈開く〉をクリックするか、Enterキーを押しても、ファイルを読み込むことができます。

開くダイアログでは、次のオプションが設定できます。

- ファイルの場所

開きたい文書が保存されているフォルダまたはドライブを選択します。

- ファイル名

開きたい文書の名前を入力または選択します。リストボックスには、「ファイルの種類」ボックスで選択したファイル形式に対応する拡張子を持ったファイルが、一覧表示されます。

- ファイルの種類

開きたい文書のファイル形式（拡張子）を選択します。

「ファイルの種類」ボックスをクリックして適切な形式を選択します。初期状態では、「入力ファイル」が選択されています。

- エンコード

通常はTransterが文字コードを判断するので指定する必要はありません。
強制的に指定した文字コードとして読み込む場合に設定します。

- 翻訳種別

Transterはファイルを読み込む際、ファイルの言語が英語なのか、日本語なのか判断します。

- EJ（英→日）、JE（日→英）

明確にファイルの言語を指定する場合に選択します。

言語の指定を誤ると正しく読み込まれないので、注意が必要です。

たとえば、日本語のテキストファイルを「EJ（英→日）」と指定して読み込むと、原文エリアに読み込まれた文字は、文字化けして表示されます。

また、英語のテキストファイルを「JE（日→英）」と指定して読み込むと、英語のみで書かれているため翻訳が不要と判断され、訳文エリアに原文エリアと同じ文章が表示され全文に翻訳ロックがかかります。

- フィルタ

「フィルタ」は、正規表現が使用可能な置換処理です。「フィルタ」項目の右にある▼をクリックして表示されるリストから選択することができます。フィルタについては、『5.3 フィルタ』を参照してください。

- スクリプト

スクリプトを使用する場合は、「スクリプト」項目の右にある▼をクリックして表示されるリストから選択することができます。スクリプトについては、『7.10 スクリプト』を参照してください。

- 定義語を抽出する

「定義語を抽出する」チェックボックスをオンにすると、定義語を抽出して定義語ダイアログに代入します。定義語については、『7.5 定義語』を参照してください。

● 拡張子から自動判別

Transterは「ファイルの種類」で指定した拡張子からそのファイルがどのような形式のファイルなのかを自動判別します。自動判別される拡張子は以下のとおりです。

拡張子	ファイル形式
.edh, .eph, .emh	英→日 翻訳ファイル
.jdh, .jph, .jmh	日→英 翻訳ファイル
.txt	テキストファイル
.txt, .out	対訳ファイル
.csv, .txt	対訳ファイル（カンマ区切り）
.htm, .html	HTMLファイル
.doc, .docx	Wordで作成した文書ファイル
.pdf	Adobe Acrobatで作成したファイル
.rtf	リッチテキスト

メモ Transterの関連製品の翻訳ソフトでは、以下の拡張子が付けられます。
 翻訳Studioでは英→日の場合 .edh、日→英の場合 .jdh
 特許用翻訳ソフトPAT-Transterでは英→日の場合 .eph、日→英の場合 .jph
 医学用翻訳ソフトMED-Transterでは英→日の場合 .emh、日→英の場合 .jmh

テキストファイル

テキストファイルとして読み込みます。すべての内容は原文エリアへ表示されます。

対訳ファイル

対訳ファイルとして読み込みます。詳細は、『5.1.2 ファイルを開く際の注意事項』を参照してください。

HTMLファイル

HTMLファイルとして読み込みます。詳細は、『5.1.2 ファイルを開く際の注意事項』を参照してください。

doc, docxファイル、pdfファイル、rtfファイル

すべての内容を原文エリアへ読み込みます。doc, docxファイルとpdfファイルについては、『5.1.2 ファイルを開く際の注意事項』を参照してください。

● 最近使ったファイルを読み込む

[ファイル]メニューの下部には最近使用されたファイルの一覧が表示されます。



開きたいファイル名を選択すると、ファイルが読み込まれます。ここで選択したファイルは、拡張子を自動判別して読み込まれます。

翻訳ファイル以外のファイルを読み込む場合は、前処理操作ダイアログが表示されるので、必要に応じて各項目を設定します。前処理操作ダイアログの項目については、『5.1.1 ファイルを開く』を参照してください。

5.1.2 ファイルを開く際の注意事項

● 対訳ファイルを開く

[開く]では、「対訳ファイル」で出力したファイルを開くことができます。対訳ファイルは、一文ごとに分割されて、原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれ、全文に翻訳ロックがかかります。これは、対訳ファイルには翻訳情報が保存されていないので、再翻訳した場合に訳文が変更されないようにするためです。訳語対応などを表示する場合は、翻訳ロック解除を実行して、再翻訳を行ってください。

● HTMLファイルを開く

HTML形式のテキストファイルを開くことができます。翻訳エディタでは翻訳対象外と判断されたタグは表示されません。HTMLファイルの翻訳操作の詳細は、『付録3 HTMLファイルの翻訳』を参照してください。

● doc, docxファイルを開く

docおよびdocxファイルを開くことができます。パスワードで保護されているファイルは、翻訳エディタに読み込めない場合があります。パスワード保護されたファイルは、いったんWordに読み込みセキュリティ設定を解除してから、Transerで開いてください。

- pdfファイルを開く

pdfファイルを開くことができます。Adobe Acrobatで作成したpdfファイルは基本的に読み込めますが、その他のアプリケーションで作成したpdfファイルや、作成したAdobe Acrobatのバージョンによっては、翻訳エディタに読み込めない場合があります。このような場合は、いったん、Adobe Acrobatに読み込み、名前を付けて保存コマンドでファイルを保存してから、Transerで開いてください。

5.1.3 新規文書の作成

英日翻訳で新規に文書を作成するには、[ファイル]－[新規作成]－[EJ[英→日]]を、日英翻訳で新規に文書を作成するには、[ファイル]－[新規作成]－[JE[日→英]]を選択します。新しく翻訳エディタが開き、最初の文番号"1"だけが表示されるので、順に文を入力していきます。Transerを起動した直後も[新規作成]と同じ状態です。

翻訳エディタの上部にある  無題-EJ1  無題-JE1 をクリックして英→日と日→英を切り替えます。

一文ごとにEnterキーを押してください。自動的に次の文番号が表示されます。できるだけ短く区切った文を入力してください。文が長いと文意の取りにくい翻訳になる場合があります。



ヒント 翻訳エディタに半角カタカナを入力することはできません。キーボードから入力した場合は、かな漢字変換後、翻訳エディタに文字が入力されるときに全角カタカナに置き換えられます。

5.1.4 文書の挿入

「カーソル位置に挿入」は、翻訳エディタで任意の位置にテキストファイルを追加する機能です。現在のカーソルのある文の後に、選択したテキストファイルの内容が挿入されます。

手順

1. 原文エリアまたは訳文エリアにおいて、文章を挿入する位置にカーソルを置きます。
2. 「ファイル」－「カーソル位置に挿入」を選択します。
カーソル位置に挿入ダイアログが表示されます。



3. 挿入するファイル名を選択して、「開く」をクリックするか、またはEnterキーを押します。
訳文ファイルを挿入する場合は、上記ダイアログの「ファイルの種類」を「訳文ファイル」と指定して、ファイルを指定してください。
ファイルの種類が「訳文ファイル」以外の場合、ファイルは原文エリアに挿入されます。



翻訳ファイルを挿入することはできません。



テキスト挿入ダイアログの操作は開くダイアログと同じです。『5.1.1 ファイルを開く』を参照してください。

● 訳文ファイルの挿入

訳文ファイルを挿入した場合、挿入した文章には翻訳ロックがかかります。

● 対訳ファイルの挿入

対訳ファイルを挿入することができます。

翻訳エディタで挿入した対訳ファイルは、一文ごとに分割されて、原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれ、さらに訳文を持つ文には翻訳ロックがかかります。これは、対訳ファイルには翻訳情報が保存されていないので、再翻訳した場合に訳文が変更されないようにするためです。訳語対応などを表示する場合は、ロック解除を実行して、再翻訳を行ってください。

5.1.5 英→日 文の基準

英→日は、[開く]または[カーソル位置に挿入]で読み込んだ英文を自動的に文ごとに分割します。ここでは、どのように文を翻訳する単位として分割するのか、その判断のしかたについて説明します。

英→日は、次の場合を文の区切りとして認識します。



ここで説明する「文の基準」は、[ファイル]→[開く]または、[ファイル]→[カーソル位置に挿入]コマンドのダイアログで、「スクリプト」を「適用しない」と設定したときに適用されるものです。前処理などを実行した場合は、これとは異なる文切りを行っています。

● 普通の文の終わり

ピリオド（.）、疑問符（?）、感嘆符（!）の後にスペースがある場合、または、これらの文字に続く引用符（シングルクォーテーション、ダブルクォーテーション）の後にスペースのある場合です。ただし、ピリオドの後にスペースが1つしかない場合は、省略語を表すピリオドの場合があるので、特別の判定規則があります。このため、ピリオドの後には、2つ以上のスペースを挿入するのが安全です。

● 次の行が空行の場合

空行は文の区切りと判断されます。

● コロン（:）、セミコロン（;）の後

できるだけ短い文で翻訳した方が良い訳が得られるため、コロンやセミコロンで文（翻訳の単位）を切ります。次の例では、コロンまでの部分とその後は別の文として翻訳され、"XXXX, YYYY, and ZZZZ"は名詞句から成る文と解釈します。

原文： You can choose one of the following: XXXX, YYYY, and ZZZZ.
結果： あなたは、以下の一つを選ぶことができる： XXXX, YYYY, および ZZZZ。

● 一定の数の空白が続く場合。

次の表などは、ピリオドがなくても、それぞれのまとまりを1つの文（翻訳の単位）として扱います。つまり、"Price"、"DPI"などを独立に翻訳し、その結果のレイアウトを保存して表示します。5つ以上のスペースがあると、文の区切りとして認識します。

原文：		Price	DPI	Customer Support
	XXXX	\$999.0	300	YES
	YYYY	\$1100.0	400	NO
	ZZZZ	\$899.0	600	Excellent
結果：		価格	DPI	顧客サポート
	XXXX	999.0ドル	300	はい
	YYYY	1100.0ドル	400	いいえ
	ZZZZ	899.0ドル	600	優秀

● 1文の長さ

ファイルを読み込む際、1文の長さには制限がありません。前述したような文の基準に従って英→日が文の区切りと判断した場合、文が分割されます。そのため、1文の長さが1024文字以上になる場合があります。この場合は、翻訳実行時に1024文字にいちばん近い「ブレイク文字」で文を分割して翻訳します。英→日では次の文字をブレイク文字として扱います。

<	>	(	)
,	.	[	]
{	}	=	!
?	&	/	¥
:	;	-	+
漢字	スペース	タブコード	改行コード

5.1.6 日→英 文の基準

日→英は、[開く]または[カーソル位置に挿入]で読み込んだ和文を自動的に文ごとに分割します。ここでは、どのような文を翻訳する単位として分割するのか、その判断のしかたについて説明します。

日→英は、次の場合を文の区切りとして認識します。



ここで説明する「文の基準」は、[ファイル]→[開く]または、[ファイル]→[カーソル位置に挿入]コマンドのダイアログで、「スクリプト」を「適用しない」と設定したときに適用されるものです。前処理などを実行した場合は、これとは異なる文切りを行っています。

- 空行がある場合
- 全角の文末記号（。、！？：；）がある場合
- 半角の文末記号（. ! ? : ; ）の後に半角スペースが1文字以上続く場合
- TABが挿入されている場合
- 行頭に列挙記号（* @ \$ ☆ ★ ○ ● ◎ ◇ ◆ □ ■ ▲ △ ▽ ▼ ※ * # +）がある場合
- 行頭にある列挙記号と同じものが行末にある場合には、行末の列挙記号も文切りされます。
- 文中に半角スペースが4文字以上続く場合
- 文中に全角スペースが2文字以上続く場合

5.2 保存

5.2.1 ファイルの保存

TranSerでは、作業中の文書に名前を付けて保存することができます。

[ファイル]―[名前を付けて保存]を選択すると、名前を付けて保存ダイアログが表示されます。ここで、作業中の文書に適切なファイル名を付けて保存します。



ヒント 作業中の文書のファイル名や保存場所を変更せずに保存する場合は、**[上書き保存]**を選択してください。

名前を付けて保存ダイアログでは、ファイル名や保存場所を指定する以下のオプションを設定できます。

● 保存する場所

文書を保存するフォルダおよびドライブを選択します。ダイアログの中央には、現在のフォルダが「保存する場所」に表示されます。クリックすると、フォルダの階層が表示されるので、選択してフォルダを移動します。

📁 をクリックすると、新しいフォルダを作成することができます。新しいフォルダには、適切な名前を付けてください。

● ファイル名

保存するファイル名を入力します。

「ファイルの種類」の設定によって自動的に拡張子が付加されるので、ファイル名を変更する場合は、まず、「ファイルの種類」を指定してから行ってください。これは、TranSerがファイルを開く際、開くダイアログの「ファイルの種類」の拡張子からファイルの形式を自動的に推定するからです。拡張子を変更することもできますが、変更した場合はファイルの形式を正しく管理してください。

● ファイルの種類

ファイル名のリストに表示するファイルの拡張子を指定します。

ファイルの種類により拡張子が付加されて、ファイルの形式が決まります。ファイルの種類には次のオプションがあります。

ファイルの種類	ファイル名、拡張子	処理
翻訳ファイル	英→日：edh, eph, emh 日→英：jdh, jph, jmh	原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれる。「訳語変更」、「ユーザー辞書登録」などの機能を利用して翻訳作業を継続できる。
対訳ファイル	英→日：ファイル名に"_ej"を付加 日→英：ファイル名に"_je"を付加 拡張子".txt"を付加	"--/"記号、原文、訳文の順番の対訳文をテキストファイルに保存する。
対訳ファイル (カンマ区切り)	英→日：ファイル名に"_ej"を付加 日→英：ファイル名に"_je"を付加 拡張子".csv"を付加	"原文", "訳文", "記号" 改行の順番でカンマで区切られた対訳文をテキストファイルに保存する。
訳文ファイル	英→日：ファイル名に"_j"を付加 日→英：ファイル名に"_e"を付加 拡張子はそのまま	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存する。
原文ファイル	英→日：ファイル名に"_e"を付加 日→英：ファイル名に"_j"を付加 拡張子".txt"を付加	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存する。
HTMLファイル (訳文)	英→日：ファイル名に"_j"を付加 日→英：ファイル名に"_e"を付加 拡張子はそのまま	訳文エリアの訳文のみをHTML形式で保存する。ファイルを読み込む際、翻訳対象外と判断され翻訳エディタに表示されなかったタグを含めてHTML形式で保存される。

〈保存〉をクリックすると、ファイルが保存されます。〈キャンセル〉をクリックすると、ファイル保存を実行せずに元の画面に戻ります。

● エンコード

通常はTranserが文字コードを判断するので指定する必要はありません。強制的に指定した文字コードとして保存する場合に設定します。

● フィルタ

保存する「ファイルの種類」が「翻訳ファイル」または「原文ファイル」以外の場合、フィルタを指定することができます。

「フィルタ」は、正規表現が使用可能な置換処理です。「フィルタ」項目の右にある▼をクリックして表示されるリストから選択することができます。フィルタについては、『5.3 フィルタ』を参照してください。

- スクリプト

保存する「ファイルの種類」が「翻訳ファイル」または「原文ファイル」以外の場合、スクリプトを指定することができます。スクリプトを使用する場合は、「スクリプト」項目の右にある▼をクリックして表示されるスクリプトリストから選択することができます。スクリプトに関する詳細は、『7.10 スクリプト』を参照してください。

- 保存後関連付けされたアプリケーションでファイルを開く

このチェックボックスがオンの場合、保存したファイル形式に従って、Windowsで関連付けられているアプリケーションでファイルが開きます。

ただし、対訳ファイルで拡張子が、*.txtまたは*.outの場合、ブラウザで表示されます。HTML形式で保存する場合は、ブラウザにあるメニューから保存してください。

- 対訳ファイルで使用する記号

対訳ファイルには、「H」または「M」が付加されます。

Transerで翻訳を行った文には、「機械翻訳」という意味の「M」が、それ以外の文には、「H」が付加されます。

5.3 フィルタ

Transerでは、ファイルを読み込む際、ユーザーが指定した特定の語句を別の語句に変換して読み込むことができます。また、訳文を出力する際、指定の語を別の語に置き換えて出力することができます。単純な置き換えだけでなく、正規表現を使用することもできます。これにより翻訳精度を向上させることが可能になります。

たとえば、機種依存文字の記号を通常の表記に置き換えたり、翻訳の必要のない語をあらかじめ指定することができます。

5.3.1 フィルタファイルの準備

Transerのインストールの際、フィルタのサンプルファイルがインストールされます。これを所定の場所に置くことにより、ファイルを開くときや保存するときに「フィルタ」として選択できるようになります。ここでは、フィルタファイルを所定の場所に置く方法について説明します。

この作業は初回に1度だけ必要な作業です。以降、Transerを再起動した場合でも、この作業を行う必要はありません。

● フィルタファイルのコピー

手順

1. [ツール]—[スクリプト]を選択します。

スクリプトダイアログが表示されます。

2. リストボックスの▼をクリックして表示される一覧から「フィルタインストール」を選択して、〈実行〉をクリックします。

以降、メッセージにしたがって、スクリプトを実行してください。

● バージョンアップユーザーの場合

旧バージョンのTranserにおいて、前処理フィルタ（prefilter.txt）、後処理フィルタ（postfilter.txt）を使用している場合、各ファイルを以下の場所にコピーしてください。

入力で使用する場合

ホームディレクトリの下にあるej(je)フォルダの下のprefilterフォルダの中

出力で使用する場合

ホームディレクトリの下にあるej(je)フォルダの下のpostfilterフォルダの中

5.3.2 フィルタを利用してファイルを読み込み

手順は、以下のとおりです。

- 手順** 1. [ファイル]―[開く]または、[ファイル]―[カーソル位置に挿入]を選択します。

開くダイアログが表示されます。

2. 「フィルタ」の横にある▼をクリックして、表示されるリストからフィルタファイルを選択します。

『5.3.1 フィルタファイルの準備』でスクリプトを実行すると英→日の場合 ejpre.txt、日→英の場合 jepre.txtが表示されます。

ここに表示される内容は、「翻訳種別 (EJ/JE)」により変わります。



3. 翻訳するファイルを選択して、〈開く〉をクリックします。

フィルタが実行され、続いて「スクリプト」が実行されて、翻訳エディタに読み込まれます。



開くダイアログでは、htmlファイル、pdfファイル、doc、docxファイル、rtfファイルなどを開く場合でも、スクリプトを指定できますが、テキストファイル以外の場合、読み込むファイルに含まれる制御コードやタグなどの影響により、期待した置換が行われない場合があります。この機能は、テキストファイルを読み込む場合に使用することをお勧めします。

● 入力の際参照するフィルタファイル

フィルタファイルの保存場所は、以下のとおりです。

ホームディレクトリの下にあるej (je) フォルダの下のprefilterフォルダの中このファイルの中では、正規表現を使用することもできます。

たとえば、英→日において原文にある"*'twas*"を"*it was*"に置き換えるには、*ejpre.txt*に以下のように書きます。

```
s/'twas /it was /g
s/'Twas /It was /g
```

これは、"*'twas*"を"*it was*"に置き換えます。
次の原文を読み込むと、その下の文のようになります。

原文：'*Twas a bad day.*

フィルタ実行後の原文：*It was a bad day.*

フィルタファイルはテキストファイルなので、市販のエディタで編集できます。

5.3.3 フィルタを利用してファイルを保存

この機能は、名前を付けて保存ダイアログでスクリプトを指定することにより実行されます。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. **【ファイル】—【名前を付けて保存】**を選択します。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。

2. **「ファイルの種類」**を選択します。
3. **「フィルタ」の横にある▼をクリックして、表示されるリストからフィルタファイル**を選択します。

『5.3.1 フィルタファイルの準備』でスクリプトをインストールすると英→日の場合*ejpost.txt*、日→英の場合*jepost.txt*が表示されます。

ここに表示される内容は、「ファイルの種類」により変わります。



4. **保存するファイルを選択して、〈保存〉をクリックします。**

フィルタが実行されて、ファイルに保存されます。

● 出力の際参照するフィルタファイル

フィルタファイルの保存場所は、以下のとおりです。

ホームディレクトリの下にあるpostfilterフォルダの下のej (je) フォルダの中

このファイルの中では、正規表現を使用することもできます。

たとえば、英→日において翻訳結果にある「ヴ」を含む表記を「バ」行に置き換えるには、ejpost.txtに以下のように書きます。

```
s/ヴァ/バ/g
s/ヴィ/ビ/g
s/ヴ/ブ/g
s/ヴェ/ベ/g
s/ヴォ/ボ/g
```

訳文に「ヴィヴィッドな色」とある場合、「ビビッドな色」と置き換わります。

フィルタファイルはテキストファイルなので、市販のエディタで編集できます。

5.3.4 フィルタの新規作成

フィルタは、ユーザーが独自に作成することができます。

『5.3.5 フィルタファイルの書式』を参照してテキストファイルを作成してください。

フィルタファイルの保存場所は、以下のとおりです。

入力で使用する場合

ホームディレクトリの下にあるej(je)フォルダの下のprefilterフォルダの中

出力で使用する場合

ホームディレクトリの下にあるej(je)フォルダの下のpostfilterフォルダの中

5.3.5 フィルタファイルの書式

フィルタファイルの書式は以下のとおりです。

```
s/検索する語句/置換する語句/
s/検索する語句/置換する語句/g
```

「検索する語句」と「置換する語句」には、正規表現を使用することもできます。

正規表現に関しては、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ヘルプ]を選択して、『指定できる正規表現』を参照してください。その他に指定できる正規表現とフラグは以下のとおりです。

● /gオプション

このオプションを付けると、検索する語句が一行内に複数回見つかった場合、そのすべてを置換します。

- ()内の文字列はそのまま置換

検索する語句に含まれる()の部分を置換後文字列にそのまま入れることができます。この場合、()に対応して置換後文字列に"%n"を書きます。ここで、nはn番目の()をあらわします。

たとえば、以下のように記述します。

s/test from ([0-9]) to ([0-9])/look at ¥1 to ¥2/g

以下の原文は、その下の文のように置換されます。

原文：I'll test from 2 to 7 sentences.

置換後の原文：I'll look at 2 to 7 sentences.

- コメント

先頭が"#"で始まる文は、コメントとみなされます。

5.4 印刷

「印刷」は、原文、訳文、対訳文を印刷します。「印刷プレビュー」は、プリンタに印刷するイメージそのまま画面に表示する機能です。印刷する前に、印刷プレビューで改ページ位置などを確認することができます。

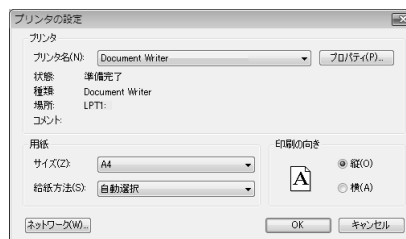
5.4.1 プリンタの設定

使用するプリンタの機種、用紙のサイズ、印刷の向きなどを設定します。この設定内容は保存されるので、変更がない限り再度設定する必要はありません。

手順

1. [ファイル]－[プリンタの設定]を選択します。

プリンタの設定ダイアログが表示されます。



2. 必要な項目を設定したら、〈OK〉をクリックします。

プリンタの設定ダイアログについては、プリンタドライバのマニュアルを参照してください。

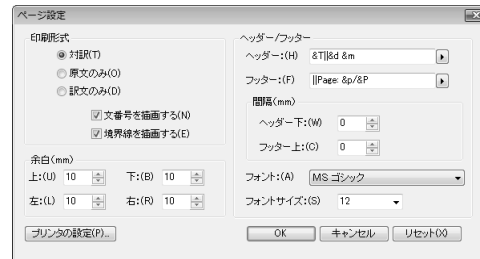
5.4.2 ページ設定

各種印刷条件を設定します。この設定内容は保存されるので、変更がない限り再度設定する必要はありません。

手順

1. **【ファイル】－【ページ設定】**を選択します。

ページ設定ダイアログが表示されます。



2. 必要な項目を設定したら、**〈OK〉**をクリックします。

ページ設定のオプションは以下のとおりです。

● 印刷形式

「原文のみ」、「訳文のみ」、または、左に原文と右に訳文を表示した「対訳」のいずれかを指定します。

境界線を描画する

このチェックボックスがオンの場合、本文とヘッダおよびフッタの間、対訳文の場合は、原文と訳文の間などに境界線が引かれます。
オフの場合は、境界線が引かれません。

文番号を描画する

このチェックボックスがオンの場合、各文の先頭に文番号が表示されます。
オフの場合は、文番号が表示されません。

● ヘッダ/フッタ

以下の形式でヘッダとフッタを指定します。

形式

左端|中央|右端

"|"は区切り文字です。

記述例

タイトル=&T|英文テキスト|&d &t

印刷結果

タイトル=chickenpox.txt 英文テキスト 2009/09/20 05:00:00

使用可能な置換文字

使用可能な置換文字は、以下の通りです。

&T 文書名

&f ファイル名

&F フルパス名

&p ページ番号

&P 総ページ数

&d 印刷日付1（2009/09/01）

&D 印刷日付2（平成21/09/01）

&m 印刷時刻1（16:30）

&M 印刷時刻2（午後4時30分）

&u ファイル更新日付1（2009/09/01）

&U ファイル更新日付2（平成21/09/01）

&v ファイル更新時刻1（16:30）

&V ファイル更新時刻2（午後4時30分）

● 間隔

ヘッダーとフッターの位置をmm単位で指定します。

● 余白

印刷する用紙の余白をmm単位で指定します。

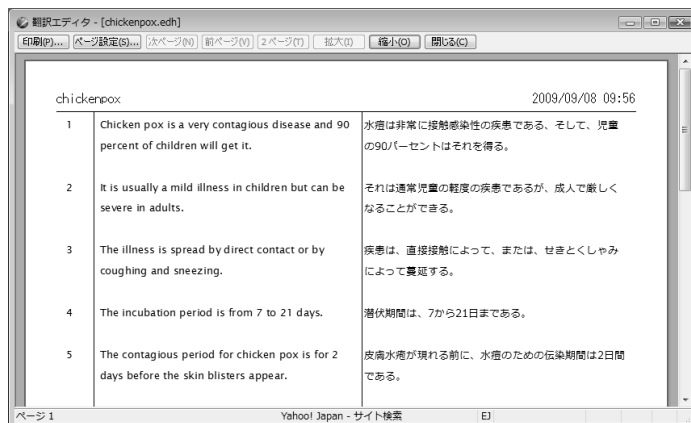
● フォントとサイズ

印刷に使用するフォントの種類とサイズを指定します。

フォントは、「フォント」にある▼をクリックすると表示される一覧から選択します。フォントサイズは、「フォントサイズ」にある▼をクリックすると表示される一覧から選択します。

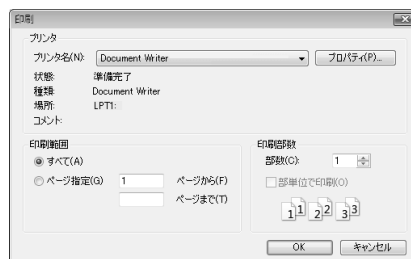
5.4.3 印刷プレビュー

[ファイル]－[印刷プレビュー]を選択すると、「ページ設定」の設定にしたがって、印刷プレビューが表示されます。



5.4.4 印刷

[ファイル]－[印刷]を選択すると、印刷ダイアログが表示されます。



必要な項目を設定したら、〈OK〉をクリックします。
印刷ダイアログの設定と「ページ設定」の設定にしたがって、印刷が実行されます。
プリンタの設定ダイアログの詳細は、Windowsのマニュアルを参照してください。

第 6 章 環境の設定

この章の内容

Transerでは翻訳作業の環境を自由に設定することができます。環境を適切に設定することにより、翻訳時間を短縮し、翻訳精度を向上させることができます。

ツールバーの設定や、メニューにキーボード操作を割り当てることもできるので、必要に応じて見やすく使い慣れた画面を設計することもできます。

この章では、環境の設定について説明します。

6.1 翻訳に関する設定

Transerでは、翻訳する文書に合わせて翻訳方法、使用する辞書、英文のチェック方法などの「翻訳設定」を行えます。また、翻訳設定を「スタイル」として保存することができます。

翻訳する文書に合わせてスタイルを選択し、翻訳の基本的な設定を簡単に行うことができます。

● スタイルの構成

スタイルには、Transerが提供している「システムスタイル」と、ユーザーが独自に作成する「ユーザースタイル」があります。

システムスタイルには、以下の種類があります。

スタイル	対象とする文書
契約	Transerの初期設定 雇用契約書や賃貸借契約など各種契約書
法令	法律、規則、通達などに関する文書
<スタイルなし>	旧バージョンの設定

システムスタイルはサンプルとなっているので、ユーザーが自由に変更することができます。たとえば、製品ラインナップにより添付されている専門語辞書を設定して、スタイルを作り直すことができます。

● スタイルの選択

使用しているスタイルは、ツールバーのスタイル選択に表示されます。



スタイル選択の右にある▼をクリックすると、選択可能なスタイルが一覧表示されます。



使用するスタイルをクリックすると、設定されます。

6.1.1 翻訳設定

翻訳の前に、翻訳する文書にあわせてスタイルを選択し、必要に応じて、選択したスタイルの翻訳設定を行います。翻訳設定の変更は、翻訳設定ダイアログで行います。翻訳設定ダイアログには、「翻訳」タブ、「訳の指定」タブ（EJのみ）、「辞書」タブ、「英文チェック」タブがあり、各タブで翻訳条件や使用する辞書、英文チェックの方法を指定します。ここでは、「翻訳」タブ、「訳の指定」タブ（英→日のみ）、「英文チェック」タブの設定について説明します。

「辞書」タブの設定については『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

6.1.1.1 翻訳設定ダイアログ

[翻訳]—[翻訳設定]を選択する、またはツールバーの〈翻訳設定〉をクリックすると、選択しているスタイルの翻訳設定ダイアログが表示されます。



各タブをクリックして適切な翻訳設定を行います。

「スタイル名」には、選択しているスタイルの名称が表示されます。

〈OK〉をクリックすると、選択しているスタイルに設定内容が保存されます。システムスタイルの変更の場合、〈リセット〉をクリックすると、当該タブの設定内容が、選択しているスタイルの初期状態に戻ります。



ヒント ユーザースタイルの変更の場合、〈リセット〉は表示されません。

6.1.1.2 英→日 翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。英→日で「翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 訳出方法

大文字を小文字にして訳す

大文字だけで書かれている文章の翻訳やいくつかの単語の頭文字が大文字になっている文を翻訳するような場合は、オンにしてください。たとえばホームページのように大文字だけで書いた文章が多い場合は、このチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオフにして以下の文章を訳すと、次の結果になります。

I have a pen.	私は、ペンを持ちます。
I have a PEN.	私は、PENを持ちます。
I have A PeN.	私は、A PeNを持ちます。
I HAVE A PEN.	i HAVE A PEN。

チェックボックスをオンにすると、文中の大文字の単語を小文字にして訳すため、いずれも「私は、ペンを持ちます。」と訳されます。システムが「タイトル文」と判断した文は、この項目の設定に従わずに大文字と小文字を区別しないで訳します。

長い文章を節・区ごとに区切って訳す

和文の語順を普通の日本語の順序にするか、できるだけ元の英文の語順を保存するかを指定します。たとえば"I know that he is ill. "という文は次のように訳出されます。

節・句ごとに区切らずに訳す……「私は、彼が病気であると知っている。」

節・句ごとに区切って訳す……「私は、知っている―彼は病気であると。」

特に長い文が多い場合は、節・句ごとに区切って訳した方が英文との対応が取りやすく理解もしやすくなります。

命令文を平叙文として訳す

このチェックボックスがオフの場合、命令形の訳が「～なさい。」（である調の場合）、あるいは「～してください。」（ですます調の場合）となります。オンの場合「～する。」、または「～します。」となります。マニュアルなどの翻訳で平叙文として訳す場合にはオンにします。

ですます調で訳す

このチェックボックスがオフの場合は「である調」で訳します。

文末を「である調」で訳すか、「ですます調」で訳すかを指定します。同じ文書の中ではどちらかに統一されます。

固有名詞を英語のまま表示する

ここで言う「固有名詞」とは、以下の特徴を持ちます。

- 冠詞がつかない
- 形容詞の修飾がつかない
- 名詞と複合語にすることができる
- 基本語辞書に「固有名詞」として、登録されている

たとえば、「Japan」は固有名詞で「日本」と登録されています。

このチェックボックスがオンの場合、固有名詞は翻訳されず、英語のまま表示されます。

合成語を分割して訳す

「合成語」とは、スペースやハイフンなしで結合された語を言います。

たとえば、"chlorohydroxooxophenylphosphorus"は、次の語が結合しています。

chloro, hydroxo, oxo, phenyl, phosphorus

このチェックボックスがオンの場合、chlorohydroxooxophenylphosphorusを分割したあと、各語の訳を結合して「クロロ・ヒドロキソ・オキソ・フェニル・リン」と訳されます。

オフの場合は、chlorohydroxooxophenylphosphorusが、1語として辞書に登録されていないと、英語のまま表示されます。

「～'s」を常に所有格と訳す

「～'s」を所有格として訳すかを指定します。

このチェックボックスがオンの場合、たとえば"Tom's hiking."という文は、「トムのハイキング。」と訳されます。

オフの場合は、「トムはハイキングをしている。」と訳されます。

● 訳文生成方法（優先順）

プロフェッショナルの機能

本機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

ここでは、翻訳メモリを使用した翻訳の場合の検索方法を選択します。

上から順番にチェックボックスがオンになっている検索方法で翻訳エディタの検索が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

初期状態では、「完全一致文検索」、「文型一致検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「文型一致検索」を行います。翻訳メモリの検索で合致する対訳文が見つからなかった場合は、「機械翻訳」がオンなので、続けて機械翻訳が実行されます。選択可能な検索方法は、以下のとおりです。

● 完全一致文検索	翻訳メモリで「完全一致文検索」を実行する
● 文型一致文検索	翻訳メモリで「文型一致文検索」を実行する
● 類似文検索	翻訳メモリで「類似文検索」を実行する
● 機械翻訳	Transterが翻訳する

「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「類似文検索」に関する詳細は、『第 3 章 翻訳メモリ』を参照してください。



翻訳メモリに登録した原文がタグを含まない場合、「文型一致文検索」では検索されません。このような場合は、「完全一致文検索」または「類似文検索」を実行してください。

● オプション翻訳

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『2.7 英→日 オプション翻訳』を参照してください。

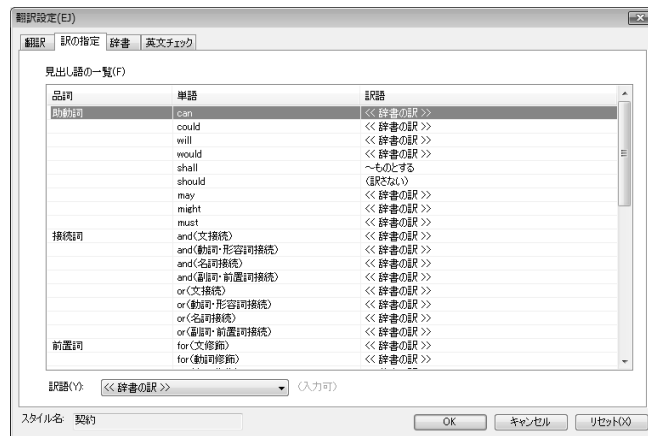
翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。

オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

6.1.1.3 英→日 訳の指定

助動詞や接続詞、前置詞、冠詞・代名詞、その他（数字）などをどのように訳するかを指定します。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。英→日で「訳の指定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



各項目は初期状態で<<辞書の訳>>や<<自動変換>>となっていますが、学習された場合は、学習辞書の訳が優先されます。

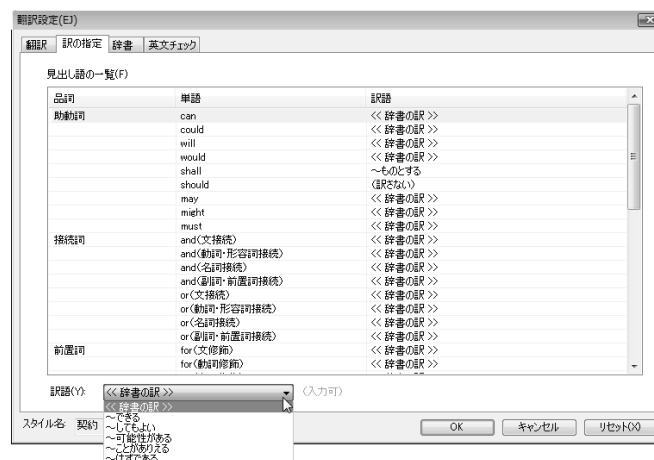
・訳の指定方法

各項目の変更は次の手順で行います。

手順

1. 変更する項目を選択して、ダイアログ下部の「訳語」の右にある▼をクリックします。

選択した単語に対して、変更できる訳語の一覧が表示されます。



2. リストにある訳語をクリックして選択します。

選択した単語の「訳語」が変更されます。

【例】助動詞を例にして説明します。初期状態では、翻訳結果は次のようになります。

英文：She could go to the office.

結果：彼女は、オフィスに行くことができました。

ここで、"could"の訳を「～はずである」に設定します。

その結果、上記の例文の訳は次のようになります。

結果：彼女は、オフィスに行くはずである。

その他の訳も、同じように設定することができます。

- 助動詞の訳

can, will, mightなどは、助動詞以外にも他動詞、名詞などの訳語が登録されています。訳を「<<辞書の訳>>」とした場合は、構文によって、たとえばcanを「～を缶詰にする」と解釈することもあります。<<辞書の訳>>以外のものを指定した場合、指定した助動詞の訳だけで構文解析されます。

- カタカナの長音

カタカナの訳で最後に長音「ー」をつけるかを指定します。

- カタカナの連結文字

カタカナの連結語の訳で中黒（・）を入れるかを指定します。

たとえば、"wireless headphone"を訳したときに『ワイヤレス・ヘッドホン』と中黒（・）を入れるか、『ワイヤレス ヘッドホン』と半角スペースを入れるか、または『ワイヤレスヘッドホン』と中黒（・）やスペースを入れないかを選択します。

- 数字（「その他」）

数字は"12345"、"1 2 3 4 5"、"一二三四五"、"一万二千三百四十五"、"1 万 2 3 4 5"から指定します。初期状態は「自動変換」です。自動変換では、"one hundred thirty"のような英語表現は「百三十」、"1,200"のような数字はそのまま数字に変換します。漢字表現は"千京"までです。

- 英文字（「その他」）

英文字は、設定している辞書にあるものをそのまま使うのか、または、半角と全角のどちらかに統一するかを指定します。

- 句読点（「その他」）

句点と読点は、全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定します。

・略語（「その他」）

略語の訳し方を指定します。

「略語」とは、「略語」意味素性で基本語辞書に登録されていて、英大文字、「-」、「&」、「/」、「.」、「数字」で構成されている語句を言います。また、訳語に見出し語と同じ文字列が（半角または全角で）登録されている必要があります。

訳し方では、「辞書登録のまま」、「略語」、「和訳」、「フルスペルのみ」、「略語＋和訳」、「略語＋フルスペル」を指定できます。ただし、フルスペルが登録されていない場合は、略語のまま表示されます。

たとえば、UNを訳すと、第一訳は以下のとおりになります。

訳し方	翻訳結果
辞書登録のまま	国連
略語	UN
和訳	国連
フルスペルのみ	United Nations
略語＋和訳	UN（国連）
略語＋フルスペル	UN（United Nations）

・記号（「その他」）

記号の訳に全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定します。

・ユーザー定義

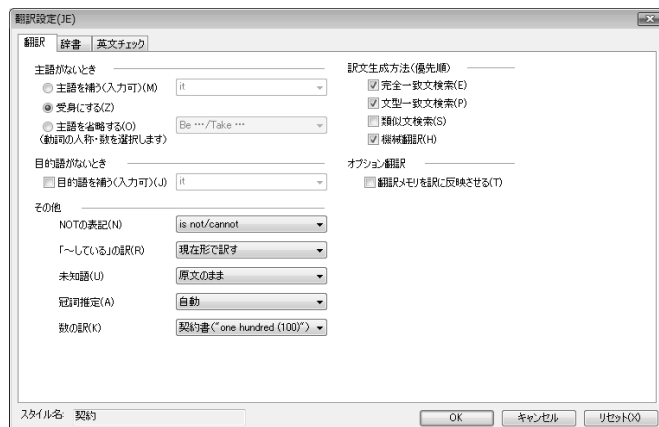
接続詞、前置詞、冠詞・代名詞には、リストに新しい訳語を追加することができます。次の手順で行います。

手順

1. 接続詞、前置詞、または、冠詞・代名詞の単語を選択して、ダイアログ下部ある「訳語」の右にある▼をクリックします。
この場合、「訳語」項目の右端に「（入力可）」と表示されます。
2. 「訳語」の右の欄にある<<ユーザー定義>>を削除して、新しい訳語を直接入力します。

6.1.1.4 日→英 翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。日→英で「翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 主語がないとき

日本語には、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文をよく見かけます。そのような文をどういう形式で翻訳するかを指定します。ここで設定した主語省略時の設定は、システム全体に反映されます。特定の文を、ここでの設定とは異なる形式で処理したい場合は、[オプション翻訳]またはツールバーの 、、 を使用してください。

主語を補う（入力可）

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザー指定の主語を補います。ユーザー指定の主語は、[主語を補う]にある[S]を削除して、補う主語を直接入力します。何も指定しなければ、[S]が補われます。

原文：これを開発した。

they指定：They developed this.

ユーザー指定"Sam"：Sam developed this.

受身にする

和文に主語がない場合、受動態の文章として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構造の文の場合は、[受け身にする]を指定しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、[主語を補う]で選択されたものです。

主語を省略する（動詞の人称・数を選択します）

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳します。訳出する動詞には、原形で訳す（Be/Take）、1人称単数形で訳す（Am/Take）、2人称単数及び複数形で訳す（Are/Take）、3人称単数形で訳す（Is/Takes）を指定できます。
たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと"Went for shopping yesterday."となります。

● 目的語がないとき

日本語には、英語のような他動詞（目的語を必要とする動詞）と自動詞（目的語を必要としない動詞）の区別がないため、「～を」という目的語がなくても文が成立しますが、英文では、意味が通りにくくなります。他動詞を含む英文で、原文に目的語がない場合の処理方法を設定します。

目的語を補う（入力可）

このチェックボックスがオンの場合、目的語を補います。

補う目的語は、[O]、it、you、them、us、me、him、her、thatの9種類から選択できます。[O]はユーザー指定の目的語を補います。ユーザー指定の目的語は、[目的語を補う]の[O]を削除して、補う目的語を直接入力します。何も入力しなければ[O]が補われます。オフにすると、動詞が他動詞でも目的語を補いません。

原文：私が劇場へ連れて行った。

them指定：I took them to a theater with me.

ユーザー指定"Sam"：I took Sam to a theater with me.

● その他**NOTの表記**

否定を表すNOTを含む英文で、省略形を使うかどうかを設定します。

[is not/cannot]を選択すると原形で、[isn't/can't]を選択すると省略形で翻訳します。

「～している」の訳

日本語で「～している」という文は、必ずしも現在進行形を表現しているとは限りません。英語ではむしろ現在形で訳した方が適当な場合が多くあります。このような文をどう訳すかを「現在形（初期設定）」、「現在進行形」、「完了形」から選択します。



和文が「～していた」のように過去形の場合はそれぞれ、「過去形」、「過去進行形」、「過去完了形」で翻訳されます。

未知語

未知語をどのように表示するかを指定します。未知語とは、辞書設定ダイアログで設定している辞書に登録されていない語句を言います。

「未知語をローマ字にする」を選択した場合、未知語をローマ字で表記し、文字色は「フォントと配色」タブの「翻訳しない」で指定した色になります。

「原文のまま」を選択した場合、未知語は日本語のまま訳文エリアに表示されます。

たとえば、以下のように訳出されます。

「原文のまま」の結果：this 閾値配列 is an arrangement of a value

「未知語をローマ字にする」の結果：

this iki value arrangement is an arrangement of a value

語句	ローマ字表記
閾	iki
値	value
配列	arrangement

この機能は、日本語の表示できないコンピュータに訳文を表示する、または訳文を読む対象者が漢字が読めない場合などに、利用できます。

しかし、翻訳結果がすべてアルファベットで表示されるため、実際の未知語を一見して探し出すことは難しくなります。

冠詞推定

翻訳結果の英語に冠詞を付与するかを指定します。

「自動」を選択した場合、システムが自動的に推定します。

「無冠詞優先」を選択した場合、翻訳結果に冠詞を付与しません。ただし、最上級を表す場合や、定冠詞の付くべき名詞には、定冠詞が付きます。

数の訳

数字の翻訳方法を指定します。

「自動」を選択した場合、システムが自動的に推定します。

● 訳文生成方法（優先順）

プロフェッショナルの機能

本機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

ここでは、翻訳メモリを使用した翻訳の場合の検索方法を選択します。

上から順番にチェックボックスがオンになっている検索方法で翻訳エディタの検索が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

初期状態では、「完全一致文検索」、「文型一致検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「文型一致検索」を行います。翻訳メモリの検索で合致する対訳文が見つからなかった場合は、「機械翻訳」がオンなので、続けて機械翻訳が実行されます。

選択可能な検索方法は、以下のとおりです。

- 完全一致文検索 翻訳メモリで「完全一致文検索」を実行する
- 文型一致文検索 翻訳メモリで「文型一致文検索」を実行する
- 類似文検索 翻訳メモリで「類似文検索」を実行する
- 機械翻訳 Transerが翻訳する

「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「類似文検索」に関する詳細は、『第 3 章 翻訳メモリ』を参照してください。



翻訳メモリに登録した原文がタグを含まない場合、「文型一致文検索」では検索されません。このような場合は、「完全一致文検索」または「類似文検索」を実行してください。

● オプション翻訳

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『2.8 日→英 オプション翻訳』を参照してください。

翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

6.1.1.5 英文チェック

スペルチェックは、英→日の場合は原文（英文）、日→英の場合は訳文（英文）のスペルミスと考えられる単語を指摘します。

文法チェックは、文法的な誤りや不適当な言い回しを指摘します。

[英文チェック]では、スペルチェックと同時に文法チェックも行うかの設定と、文法チェックのレベルを設定します。「英文チェック」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● チェック項目

スペルチェックのみを行う場合は、[スペルのみチェック]をオンにしてください。スペルチェックと文法チェックを同時に行う場合は、[スペル+文法チェック]をオンにしてください。

● 文法チェックのレベル

[スペルのみチェック]がオンの場合は、設定できません。

カジュアル

厳しいチェックはしません。くだけた表現の文章にしたい場合に選択します。

標準

一般的なビジネス文書の場合に選択します。

フォーマル

公式文書など、もっとも厳しくチェックする必要がある場合に選択します。



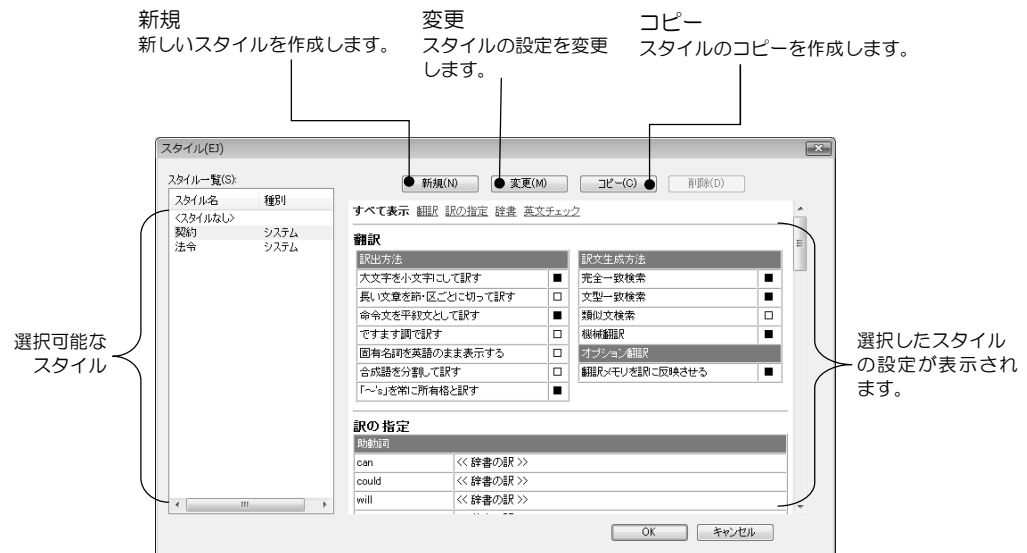
英文チェック機能は、あくまでも一般的な英語に対するチェックを行うためのもので、英文チェック用の辞書は基本語辞書や専門語辞書とは異なる独立した一般辞書を使用しています。このため、ハイフンを含む複合語や専門語辞書から出典した単語はスペルミスとして指摘されることがあります。

6.1.2 スタイルの作成と更新

Transerではシステムスタイルが提供されていますが、必要に応じて、ユーザが独自のユーザースタイルを作成したり、システムスタイルの翻訳設定を変更することができます。

スタイルの作成と更新は、[翻訳]－[スタイル]で行います。

[翻訳]－[スタイル]を選択する、またはツールバーの〈スタイル〉をクリックすると、スタイルダイアログが表示されます。



スタイルダイアログの項目は、以下のとおりです。

スタイル一覧

利用可能なスタイルの一覧が表示されます。

翻訳

選択しているスタイルの翻訳方法が表示されます。

辞書

選択しているスタイルの翻訳で使用する辞書が表示されます。

英文チェック

選択しているスタイルの英文チェックの方法が表示されます。

● 表示方法

選択しているスタイルの表示情報を変更することができます。

表示情報の上部にある「すべて表示」、「翻訳」、「訳の指定」、「辞書」、「英文チェック」の各項目をクリックすると、対応した表示情報のみ表示されます。

● 設定内容の変更

設定内容を変更する場合は、「スタイルの一覧」で変更するスタイルをダブルクリックするか、変更するスタイルを選択してから〈変更〉をクリックします。翻訳設定ダイアログが表示されるので、設定を変更します。翻訳設定ダイアログについては、『6.1.1 翻訳設定』を参照してください。

● ユーザースタイルの新規作成

ユーザースタイルを作成する場合は、〈新規〉をクリックして、翻訳設定ダイアログの各項目を適宜設定します。



翻訳設定ダイアログについては、『6.1.1 翻訳設定』を参照してください。新しいスタイルを作成する場合、翻訳設定ダイアログの下部にある「スタイル名」に新規作成するスタイルの名前を入力します。

● 設定内容のコピーと削除

スタイルをコピーしたり削除することができます。たとえば、ユーザースタイルを作成する際、システムスタイルのコピーを作成して、これを基にユーザースタイルを作成することもできます。

コピーは、「スタイルの一覧」でコピー元となるスタイルを選択してから、〈コピー〉をクリックします。「スタイルの一覧」に、「コピー元のスタイル名+コピー」という名前でスタイルが追加されます。

削除は、「スタイルの一覧」で削除するスタイルを選択してから、〈削除〉をクリックするか、Delキーを押します。削除を確認するダイアログが表示されるので、〈はい〉をクリックします。

6.2 環境設定

[ツール]－[環境設定]を選択すると、翻訳エディタの表示方法やマウスの動作などの環境設定を行えます。

Transterでは、同時にいくつかの翻訳エディタを開いて翻訳を実行できますが、環境設定は翻訳エディタごとに保持されます。

設定ダイアログには、設定内容を切り替えるためのタブがあります。



各タブをクリックして適切な環境設定を行います。

〈OK〉をクリックすると、設定内容が適用されます。

〈リセット〉をクリックすると、設定内容が初期状態に戻ります。

各タブの説明では、英→日のダイアログが添付されていますが、日→英の場合でも操作は同じです。

6.2.1 フォントと配色

翻訳エディタのフォントとフレーズ指定で使われる文字色や背景色を指定します。「フォントと配色」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● フォント

和文、欧文

各言語で使用するフォントを、右端にある▼をクリックして表示される一覧から選択します。指定したフォントのサンプルが下部に表示されます。

サイズ

文字の大きさを指定します。和文と欧文で共通する設定です。

行詰めする

各文の行間を広げるか詰めるかを指定します。



フォント設定は、画面表示用の設定です。印刷には反映されません。

● フレーズの色

レベル1～4 フレーズレベル1～4の文字列の背景色を指定する

● 訳文の色

翻訳エディタの検索結果から訳出された場合などで表示される文番号と訳文の色を指定します。

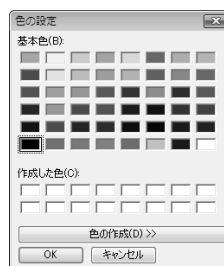
完全一致	翻訳メモリの完全一致文検索で訳出された文の色
文型一致	翻訳メモリの文型一致文検索で訳出された文の色 ここで指定した色は、文番号と登録文中のタグ以外の文字列の色に対する指定です。タグに対応して翻訳された文字列は、「機械翻訳」で指定した色になります。
類似文	翻訳メモリの類似文検索で訳出された文の色
機械翻訳	Transerが機械翻訳した文の色

● その他の色

学習辞書	学習辞書の訳語を採用した文字列の色
自動辞書選択	専門語辞書自動選択機能により設定された専門語辞書の初期色。辞書設定ダイアログで任意に変更可能です。
HTMLタグ	HTMLタグを含む文を翻訳した場合の文字色
翻訳しない	[フレーズ/語]ー[翻訳しない]を実行した文字列、または、辞書に登録されておらず原語のまま訳出された文字列の色
編集文番号	翻訳エディタでカーソル位置の文番号色
背景1, 2	翻訳エディタで奇数番目の文と偶数番目の文の背景色
定義語	定義語の訳語の文字色

● 色の設定ダイアログ

各項目の色を変更する場合は、各項目にある色の矩形をクリックします。色の設定ダイアログが表示され、色を指定することができます。また、新規に色を作成することもできます。



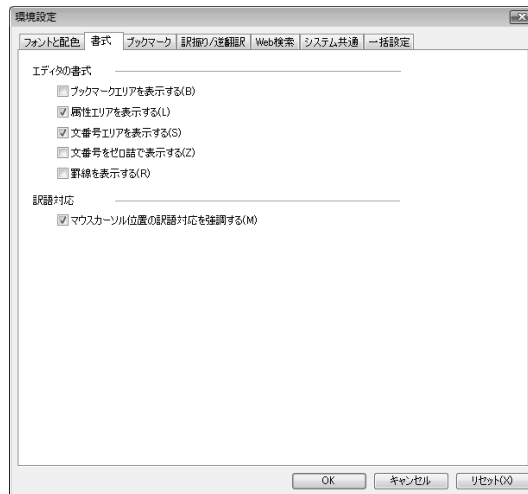
基本色の中から選択したい色をクリックし、〈OK〉をクリックします。新規に色を作成したい場合は、〈色の作成〉をクリックします。色を作成するためのパレットが表示され、色を作成できます。



選択した色によっては、文字が見づらくなることもあるので、注意してください。

6.2.2 書式

翻訳エディタの表示方法を指定します。「書式」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- エディタの書式

- ブックマークエリアを表示する／属性エリアを表示する／文番号エリアを表示する

各チェックボックスがオンの場合、属性または文番号が文の先頭に表示されます。

- 文番号をゼロ詰で表示する

このチェックボックスがオンの場合、文番号は、01, 001のように先頭から「0」で詰めて文番号を表示します。翻訳エディタに表示している全文が10文以上で100文より少ない場合は「01」、100文以上で1000文より少ない場合は「001」のように付加されます。

- 罫線を表示する

このチェックボックスがオンの場合、文ごとに罫線を引いて区切ります。

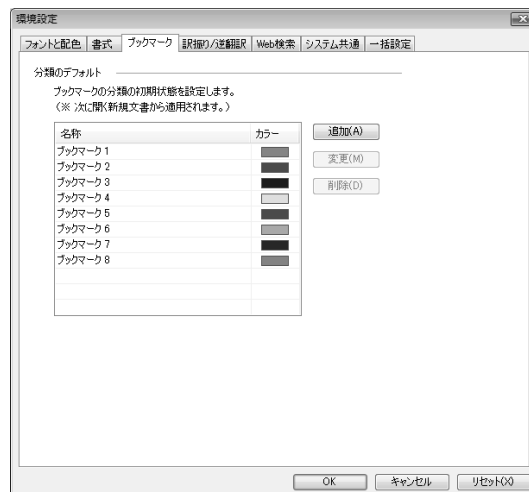
- 訳語対応

- マウスカーソル位置の訳語対応を強調する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳エディタでマウスカーソルを置いた語句に対応した訳語と原語が強調表示されます。

6.2.3 ブックマーク

文書を新規作成した場合に適用されるブックマークの情報を設定します。新規にブックマーク種類を追加したり、既存のブックマークの名称と記号の色を編集することができます。
「ブックマーク」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 追加／変更

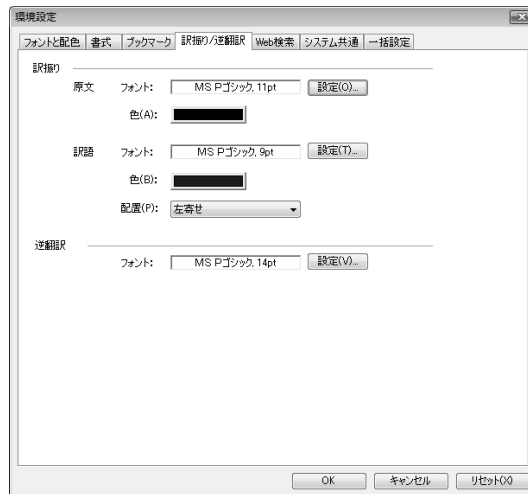
ブックマーク種類を追加または変更します。ブックマーク種類は最大で32個まで設定することができます。〈追加〉をクリックすると分類の追加ダイアログが表示されます。一覧にあるブックマーク種類を選択して〈変更〉をクリックするか、名称をダブルクリックすると分類の変更ダイアログが表示されます。「名称」にブックマーク種類の名称を入力します。名称は、半角で128文字または全角で64文字までで指定します。
記号の色を変更する場合は、色の矩形をクリックして表示される色の設定ダイアログで変更します。色の設定ダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

● 削除

ブックマーク種類を削除します。削除するブックマークを選択して〈削除〉をクリックすると一覧から消去されます。

6.2.4 訳振り/逆翻訳

アシストペインでの原文や訳文の表示方法を指定します。
「訳振り/逆翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 訳振り/逆翻訳

アシストペインで使用するフォントを指定します。

フォント

アシストペインの「訳振り」タブで使われているフォントが表示されます。変更するには、〈設定〉をクリックしてください。フォントダイアログが表示されるのでフォントを変更します。フォントダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

色

「色」にはフォントの色が表示されます。変更するには、色の矩形をクリックしてください。色の設定ダイアログが表示されるので色を変更します。色の設定ダイアログについては、『6.2.1 フォントと配色』を参照してください。

配置

原文の語句に対して訳語の配置方法を指定します。「左寄せ」、「右寄せ」、「中央」、「均等」から選択することができます。

6.2.5 Web検索

Web検索で使用する検索エンジン、検索結果のウィンドウの表示、履歴の記録、翻訳で使用するスタイルなどを指定します。

「Web検索」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 検索エンジン

Web検索で使用する検索エンジンの詳細情報を指定します。

検索エンジン一覧

使用可能な検索エンジンが一覧表示されます。

選択されている検索エンジンがWeb検索で使用されます。また、右側の各項目に選択している検索エンジンの詳細設定が表示されます。

タイトル

検索エンジンの名称が表示されます。

サイト

検索エンジンのURLが表示されます。

キーワード指定

キーワードを指定して検索を実行する場合のURLが表示されます。

キーワードエンコード

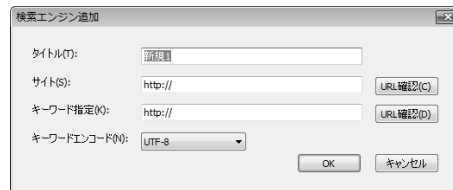
キーワードの文字コードが表示されます。

〈上へ〉 〈下へ〉

検索エンジン一覧のカーソルを上または下に移動します。

〈追加〉／〈変更〉

新しい検索エンジンを追加する場合は〈追加〉を、すでに登録されている検索エンジンの情報を変更する場合は〈変更〉をクリックします。検索エンジン追加（変更）ダイアログが表示されます。



各項目に検索エンジンの詳細情報を指定します。

〈URL確認〉をクリックすると、指定したURLをブラウザで表示します。

〈削除〉

検索エンジン一覧で削除する検索エンジンを選択して、〈削除〉をクリックすると一覧から削除されます。

● ウィンドウ

新規にWeb検索ページを開く際のウィンドウの設定を行います。

新しく開くときのデフォルト文字サイズ

新規にWeb検索ページを開いた場合のフォントサイズを指定します。

1つのウィンドウのみ表示する

このチェックボックスがオンの場合、1つのウィンドウのみ使用します。

オフの場合、[ファイル]－[新規作成]－[Web検索サイト]を選択すると新しいウィンドウを開きます。複数のウィンドウを表示している場合は、タブで切り替えることができます。

● 履歴

Web検索の履歴を保存するか指定します。

Web表示ページの履歴を記録する

開いたページのタイトルが保存されます。保存されたタイトルはツールバーの〈履歴リスト〉をクリックすると一覧表示されます。

検索キーワードの履歴を記録する

Web検索で指定したキーワードが保存されます。保存されたキーワードはツールバーのキーワード入力ボックスにある▼をクリックすると一覧表示されます。

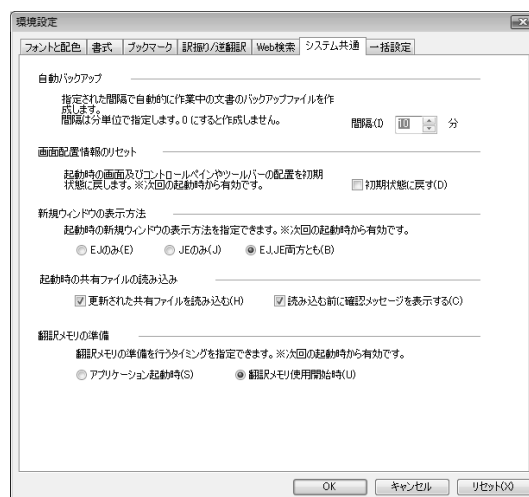
● 翻訳/辞書（適用するスタイル）

Web検索ページを翻訳する際に使用するスタイルを指定します。

EJまたはJEの下部にある▼をクリックすると表示される一覧からスタイルを選択します。

6.2.6 システム共通

英→日と日→英に共通するTranserの環境について設定します。「システム共通」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 自動バックアップ

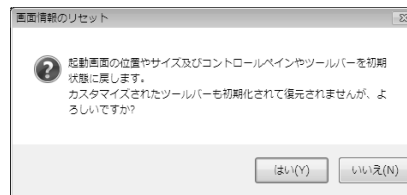
Transerは翻訳作業中、一時的に翻訳ファイルを保存して、バックアップを作成しています。Transerが正常に終了する際、この一時ファイルは削除されますが、何らかの理由により、Transerが強制終了してしまった場合などにこの一時ファイルで翻訳作業を続行できます。

「間隔」に分単位で一時ファイルを作成する周期を指定します。

一時ファイルは、新規作成の場合は、ホームディレクトリの下のejまたはjeの下workフォルダに「\$無題」で保存されます。テキストファイルを開いて翻訳している場合は、読み込んだファイルが保存されている場所へ、元のファイル名の先頭に\$を付与した名前で保存されます。

- 画面配置情報のリセット

Transer画面にある各ペインの配置とサイズ、ツールバーのボタンなどを初期状態に戻します。「初期状態に戻す」チェックボックスをオンにすると、次のダイアログが表示されます。



〈はい〉をクリックすると、チェックマークが入ります。〈OK〉をクリックしてダイアログを閉じて、Transerを再起動すると、Transer画面が初期状態で表示されます。

- 新規ウィンドウの表示方法

Transerの起動時、翻訳エディタに英→日翻訳を表示するか、または、日→英翻訳を表示するかを指定します。この設定は、次の起動時から有効になります。

- 起動時の共有ファイルの読み込み

Transerの起動時、共有設定しているユーザー辞書と翻訳メモリをサーバーから読み込むかを指定します。

- 翻訳メモリの準備

プロフェッショナルの機能

本機能は、プロフェッショナルに搭載されています。

翻訳や検索に翻訳メモリを使用する場合、さまざまな準備が必要となり、この準備には多少の時間がかかります。ここでは、この準備作業をいつ行うかを指定します。

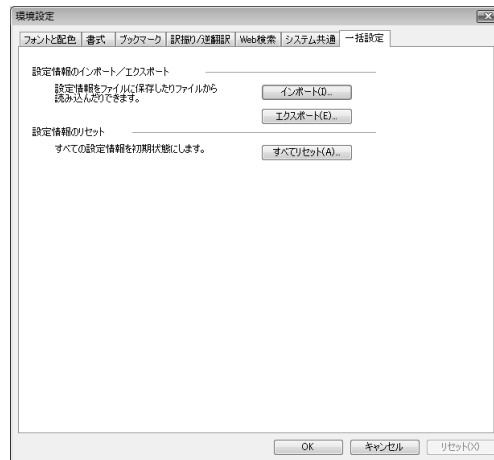
「アプリケーション起動時」がオンの場合、Transerの起動時に翻訳メモリの準備が実行されます。

「翻訳メモリ使用開始時」がオンの場合、翻訳や検索で翻訳メモリの初回使用時に準備が行われます。したがって、この場合、Transerの起動に要する時間が短縮されます。

Transerの操作において、翻訳メモリを一切使用しない場合は、「翻訳メモリ使用開始時」をオフにして、さらに、「翻訳」タブの「訳文生成方法」において「機械翻訳」チェックボックスのみをオンにします。

6.2.7 一括設定

設定ダイアログの設定内容をファイルに保存しておくことができます。
「一括設定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 設定情報のインポート／エクスポート

・インポート

保存（エクスポート）した設定ファイルを読み込んで各タブの設定を行います。
〈インポート〉をクリックすると、設定情報のインポートダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。
分野別に設定ファイルを作成し、翻訳前にファイルの内容を読み込むと、すべての設定ダイアログを開いて設定作業をする必要がなくなります。

・エクスポート

設定ダイアログにあるすべてのタブの設定値をファイルへ書き込みます。
〈エクスポート〉をクリックすると、設定情報のエクスポートダイアログが表示されるので、設定内容を保存するファイルを指定します。



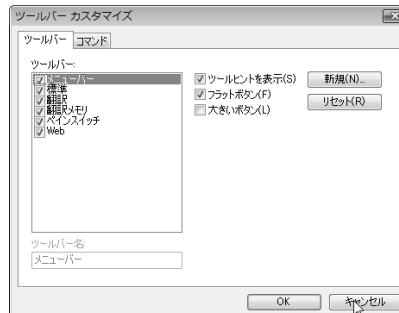
設定内容の「インポート」を実行すると、設定ダイアログの〈キャンセル〉を実行しても設定内容は元に戻りません。

● 設定情報のリセット

〈すべてリセット〉をクリックすると、設定ダイアログにあるすべての設定を初期状態に戻します。
各タブをクリックしてリセットする手間を省くことができます。

6.3 ツールバーカスタマイズ

Transerでは、ツールバーに表示するボタンの指定、ボタンの表示方法などを指定できます。[ツール]－[カスタマイズ]－[ツールバー]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



● 「ツールバー」タブ

・ ツールバー

「ツールバー」には、Transerに組み込まれているツールバーの一覧が表示されます。チェックボックスがオンの場合、翻訳エディタに表示されます。

標準



翻訳



翻訳メモリ



ペインスイッチ



Web



〈リセット〉をクリックすると初期状態に戻ります。

- ツールヒントを表示

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタンへマウスポインタを置くとボタンと対応した機能の説明が表示されます。

- フラットボタン

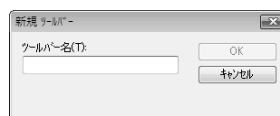
このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタン形状は表示されません。オフの場合、各ボタンの形状が表示されます。

- 大きいボタン

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーのボタンのサイズが大きくなります。

- ツールバーの新規作成と削除

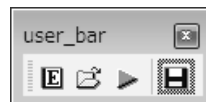
ユーザーが独自にツールバーを作成することができます。〈新規〉をクリックすると、次のダイアログが表示されます。



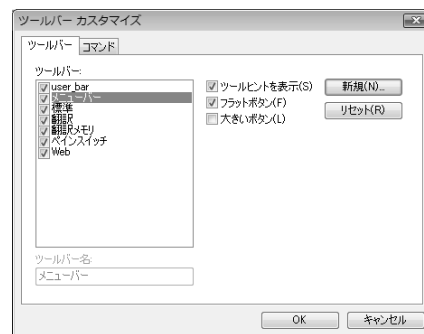
新規作成するツールバーの名称を入力して〈OK〉をクリックします。
小さなツールバーが表示されます。



初期状態では、ボタンが何も登録されていません。
ボタンの追加は、翻訳エディタ上のツールボタンをドラッグ&ドロップする、
または、ツールバーカスタマイズダイアログの「コマンド」タブに表示されている
ボタンをドラッグ&ドロップして行います。

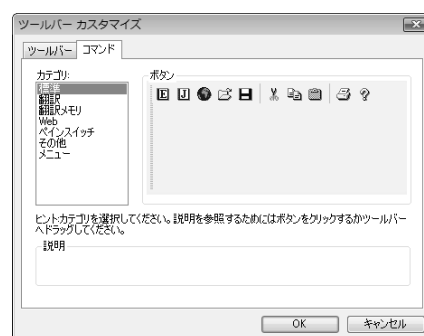


「ツールバー」タブの「ツールバー」に、新規作成したツールバーが追加されます。



ユーザーが作成したツールバーを削除する場合は、該当するツールバーを選択して、〈削除〉をクリックしてください。Transerに組み込まれているツールバーを削除することはできません。

●「コマンド」タブ

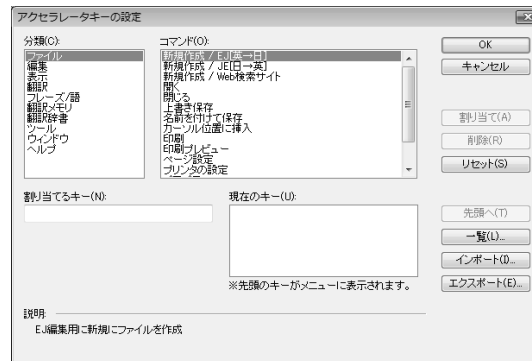


「コマンド」タブでは、ツールバーの各ボタンやメニューの追加、削除などを行います。「カテゴリ」で選択した項目に対応して「ボタン」に表示される項目が切り替わります。任意のボタンまたはメニューをドラッグ＆ドロップすると新規にツールバーが作成されます。

6.4 アクセラレーターキー

TranSerでは、メニューにあるコマンドにショートカットキーを割り当てることができます。初期状態で割り当てられているキーについては、「ヘルプ」を参照してください。

[ツール]－[カスタマイズ]－[アクセラレーターキー]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



● キーの割り当て

手順

1. 「コマンド」からキーを割り当てるコマンドを選択します。「コマンド」に表示される項目は、「分類」で選択した項目に対応して切り替わります。
2. 「割り当てるキー」へカーソルを移動して、ショートカットキーを入力します。
ショートカットキーには、Ctrl+<キー>、または、Ctrl+Shift+<キー>を組み合わせさせて指定できます。<キー>には、以下のものを指定できます。
 - ・英数字
 - ・ファンクションキー
 - ・Delete (Del) 、Back Space (BS) など一部のエディットキー
3. 〈割り当て〉をクリックすると、「現在のキー」に追加されます。
手順1から3を繰り返すと、連続して複数のコマンドにアクセラレーターキーを割り当てることができます。
複数のコマンドに同じキーを割り当てることはできません。
4. 〈OK〉をクリックすると、ダイアログが閉じてアクセラレーターキーが割り当てられます。

● 無効にする

割り当てたアクセラレーターキーを無効にするには、「現在のキー」にある任意の項目を選択して、〈削除〉をクリックしてください。

● キーの順番を変更する

1つのコマンドに複数のアクセラレーターキーを割り当てた場合、すべてのキーが有効ですが、「現在のキー」で先頭にあるキーが、メニューに表示されます。複数のキーを割り当てた場合は、メニューに表示するキーを選択して、〈先頭へ〉をクリックしてリストの先頭へ置いてください。

● キーの一覧表示とファイル保存

〈一覧〉をクリックすると、割り当てられているアクセラレーターキーを一覧表示できます。



〈テキスト出力〉をクリックすると、アクセラレーターキーの一覧のテキスト出力ダイアログが表示されるので、ファイルを指定してください。指定したファイルへアクセラレーターキーの一覧が保存されます。

● インポートとエクスポート

割り当てられているアクセラレーターキーの一覧を保存したり、保存されている一覧を読み込んだりできます。〈エクスポート〉をクリックすると、アクセラレーターキーファイルのエクスポートダイアログが表示されるので、キーの割り当てを保存するファイルを指定します。

〈インポート〉をクリックすると、アクセラレーターキーファイルのインポートダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。

第 7 章 その他の機能

この章の内容

Transerには、翻訳機能をサポートするいろいろな機能が組み込まれています。この章では、これらの便利な機能について説明します。

より快適な翻訳のために、ここに記載されている機能をご利用ください。

7.1 翻訳パレット

「翻訳パレット」は、便利で手軽な翻訳コマンドの入ったツールバーです。翻訳パレットには、他のアプリケーションにある文の翻訳や辞書引き機能などが登録されています。

7.1.1 翻訳パレットの起動と終了

翻訳パレットは、デスクトップにある「翻訳パレット」アイコンをダブルクリックすると起動します。

翻訳パレットが起動すると、次のツールバーが表示されます。

メモ インストールされていない機能のボタンは翻訳パレットには表示されません。



翻訳パレットには、以下の機能があります。

① 翻訳エディタ

翻訳エディタを起動し、英→日翻訳、または日→英翻訳を実行します。任意のアプリケーションの文章を選択してこのボタンをクリックすると、Transerが起動して、自動的に文書が貼り付き、翻訳が実行されます。

② キャプチャ翻訳

画像データを文字認識し、抽出した文章を翻訳します。

③ ワンポイント翻訳

Transerを起動しないで、翻訳を実行できます。

④ 辞書参照ツール

辞書参照ツールを起動して、翻訳で使用する辞書の辞書引きを行います。

⑤ ロボワード辞書検索

ホームページページや他のアプリケーションにわからない単語があった場合、このボタンで簡単に辞書が引けます。

⑥ ロボワードワンタッチ翻訳

ホームページページや他のアプリケーションにある語句の辞書引きや文の翻訳を実行できます。

⑦ ロボワードスピーチ

「文章読み上げウィンドウ」に入力した文章を、スピーカーから読み上げます。

⑧ OCR

OCRソフト「CROSS OCR JE」を起動し、英語と日本語の文字認識を実行します。

⑨ 設定

翻訳パレットに表示するボタンの指定、翻訳パレットのバージョンの確認を行います。

● 翻訳パレットの並べ方

初期状態では、翻訳パレットのボタンは横に並んでいます。

翻訳パレットのタイトルバーをダブルクリックすると、縦または横に並べ替えることができます。翻訳パレットを縦に並べると、ウィンドウを広く使うことができます。

● 終了

翻訳パレットを終了するには、右上にある閉じるボタン（✕）をクリックします。

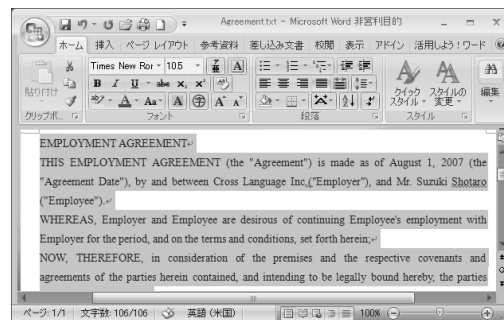
7.1.2 翻訳エディタ

ホームページや他のアプリケーションにある文章を翻訳エディタへ貼り付けて翻訳します。翻訳エディタでは、訳語の変更、辞書引き、ユーザー辞書の更新など翻訳結果の編集を行うことができます。また、翻訳結果を印刷したり、テキストファイルに保存することができます。

〈翻訳エディタ〉は、ボタンがクリックされる直前にアクティブなアプリケーション（Transer以外）の内容を読み込んで翻訳するので、ブラウザ、ワープロソフト、メールソフトなどの内容を翻訳することができます。選択した文章がある場合はその文章を翻訳しますが、無い場合はTranserをアクティブにするだけです。手順は、以下のとおりです。

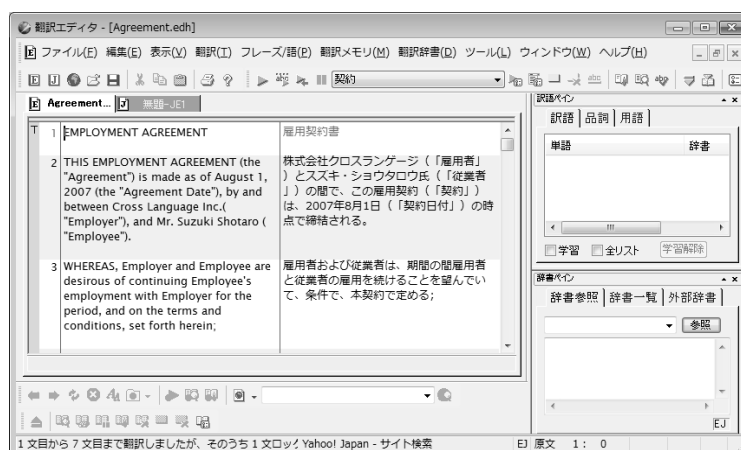
手順

1. 任意のアプリケーションの翻訳する文章を選択します。



2. 〈翻訳エディタ〉をクリックします。

Transterが起動して、選択した文章が原文エリアへ読み込まれ、翻訳が実行されます。



翻訳結果が訳文エリアに表示されます。翻訳を中止するには、ツールバーのをクリックしてください。

翻訳エディタは、翻訳設定ダイアログで設定する「翻訳」、「辞書」の設定にしたがって実行されます。

メモ 選択した部分が正しく読み込まれない場合は、文章を選択したあとにCtrl+Cを押すかコピーコマンドを実行してから、このボタンをクリックしてください。

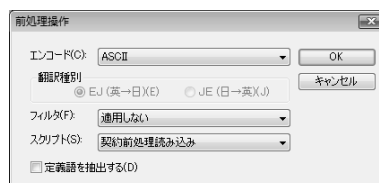
● 前処理を実行して貼り付ける

Transterに文章を貼り付ける際、前処理を実行してから貼り付けることができます。手順は以下のとおりです。

手順 1. 任意のアプリケーションの翻訳する文章を選択して、Ctrl+Cキーを押してコピーします。

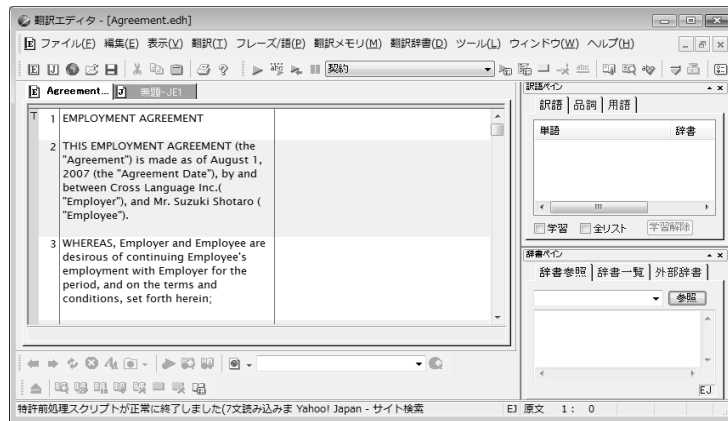
2. 【編集】－【前処理貼り付け】を選択します。

前処理操作ダイアログが表示されます。



3. 各項目を設定して、〈OK〉をクリックします。

フィルタについては、『5.3 フィルタ』を、スクリプトについては、『7.10 スクリプト』を、定義語については『7.5 定義語』を参照してください。翻訳エディタに文章が貼り付けられます。



4. 翻訳作業を行います。

7.1.3 キャプチャ翻訳

「キャプチャ翻訳」は、画像データに文字認識を実行し、抽出した文を翻訳する機能です。たとえばホームページでは、広告や宣伝文を画像データで配置することがあります。キャプチャ翻訳を使えばキーボードから入力する必要がなく、画像データを範囲指定するだけで文字認識して、翻訳を実行することができます。また、キャプチャ翻訳では、文字認識のみを実行することもできます。本ツールの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

7.1.3.1 キャプチャ翻訳の実行

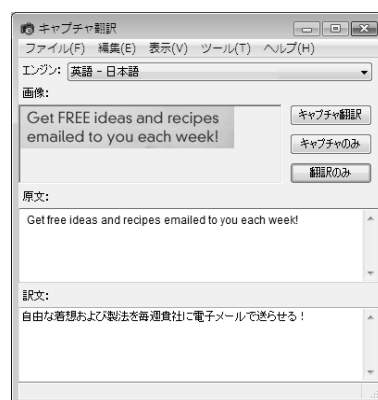
キャプチャ翻訳の手順は以下のとおりです。



1. 翻訳パレットの〈キャプチャ翻訳〉をクリックします。
キャプチャ翻訳が起動します。
2. ダイアログの〈キャプチャ翻訳〉をクリックします。
キャプチャ翻訳が開始され、マウスカーソルが「+」に変わります。
3. マウスをドラッグすると矩形が表示されるので、翻訳する部分を囲みます。



キャプチャ翻訳が開始されます。
結果はキャプチャ翻訳ウィンドウに表示されます。



「画像」には、文字認識の対象となる画像が表示されます。
「原文」には、文字認識の結果が表示されます。
「訳文」には、「原文」に入力された文章の翻訳結果が表示されます。
再度キャプチャ翻訳を実行する場合は、〈キャプチャ翻訳〉をクリックして、手順2のように、範囲を指定します。



ヒント

【「スタート」ボタンから起動】

キャプチャ翻訳は、「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[ツール]－[キャプチャ翻訳]を選択しても起動します。



ヒント

【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈キャプチャ翻訳〉をクリックすると、キャプチャ翻訳が起動します。



ヒント

【ホットキーで呼び出し】

キャプチャ翻訳は、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

● 中止

マウスカースオルが「+」に変わった後、キャプチャ翻訳を中止する場合は、Escキーを押します。

● 翻訳言語の指定

キャプチャ翻訳では、英日と日英翻訳を実行することができます。
「エンジン」には、翻訳を実行する言語が表示されます。

言語を変更する場合は、右端にある▼をクリックして表示される一覧から言語を指定します。

- **認識言語**

英語または日本語を認識することができます。

認識言語は、「エンジン」で指定した翻訳言語の原語で指定されます。

「英語－日本語」の場合は英語、「日本語－英語」の場合は日本語の文字認識が実行されます。

- **認識可能な文字**

文字認識は、白地に黒文字で、明朝またはゴシックフォントの場合に、比較的高い精度で認識することができます。以下のケースでは、正しく認識できないことがあります。

- 背景に模様、影、ノイズなどがある
- 文字と背景色が識別しにくい（たとえば、水色や黄色などの背景色に白い文字。黒の背景色に青い文字。）
- 認識対象の画像の文字サイズが200 x 200dpi以下である
- 斜体、筆文字、ポップ文字などデザインされたフォントである

- **文字認識のみ実行**

文字認識のみを実行する場合は、〈キャプチャのみ〉をクリックします。マウスカーソルが「+」に変わってから、文字認識を実行する範囲を指定します。文字認識が実行されて、結果がキャプチャ翻訳ウィンドウに表示されます。

- **再翻訳**

背景色と文字色のコントラストが不鮮明であったり、斜体、筆文字、ポップ文字のようにデザインされたフォントの場合、文字が正しく認識されないことがあります。このような場合は、「原文」ボックスの認識結果を修正してから〈翻訳のみ〉をクリックして、再翻訳を実行します。

7.1.3.2 キャプチャ翻訳の編集作業と表示機能

キャプチャ翻訳で行える編集作業と表示機能について説明します。

- **編集**

キャプチャ翻訳では、一般的なエディタと同じように、「原文」または「訳文」に表示されている文字列を選択して、編集メニューから[切り取り]、[コピー]などを行えます。

● 常に手前に表示

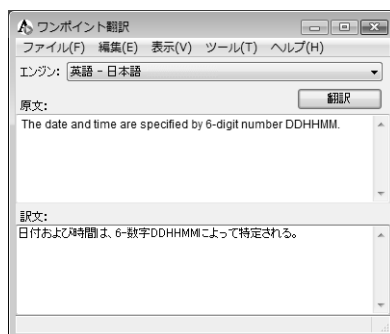
表示メニューの[常に手前に表示]にチェックマークが付与されている場合、キャプチャ翻訳は、常に最前面に表示されます。このコマンドを選択することにチェックマークのオン/オフが切り替わります。

7.1.4 ワンポイント翻訳

「ワンポイント翻訳」では、Transerを起動していない状態でも、すばやく翻訳を実行できます。ここでは、ワンポイント翻訳の手順について説明します。本ツールの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

手順

1. 翻訳パレットの〈ワンポイント翻訳〉をクリックします。
ワンポイント翻訳ウィンドウが表示されます。
2. 翻訳言語を選択します。「エンジン」の右端にある▼をクリックして表示される一覧から翻訳言語の組み合わせを選択します。
3. 「原文」に翻訳したい文を入力し〈翻訳〉をクリックします。
「訳文」に翻訳結果が表示されます。



ヒント

【「スタート」ボタンから起動】

ワンポイント翻訳は、「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[Cross Language]—[ツール]—[ワンポイント翻訳]を選択して起動することができます。



ヒント

【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈ワンポイント翻訳〉をクリックすると、ワンポイント翻訳が起動します。



ヒント

【ホットキーで呼び出し】

ワンポイント翻訳は、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

7.1.5 辞書参照ツール

辞書参照ツールは、翻訳で使用する辞書の参照を行うツールです。Transerを起動していない状態で、辞書参照ツールを使用することができます。

ここでは、辞書参照ツールの起動と終了、辞書引きの手順について説明します。本ツールの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

辞書を参照する手順は、以下のとおりです。

手順

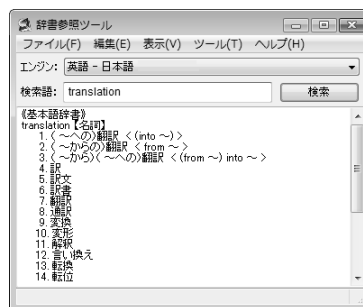
1. 〈辞書参照〉をクリックします。

辞書参照ツールが起動します。

2. 「エンジン」の辞書名一覧から、検索する辞書を選択します。

3. 「検索語」に検索する語句を入力して、〈検索〉をクリックします。

検索結果が表示されます。



4. 辞書参照を終了するには、右上の閉じるボタン(⌵)をクリックするか[ファイル]－[終了]を選択します。



ヒント

【「スタート」ボタンから起動】

辞書参照ツールは、「スタート」ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[ツール]－[辞書参照ツール]を選択して起動することができます。



ヒント

【Internet Explorerの翻訳ツールバーから起動】

Internet Explorerの翻訳ツールバーの〈辞書参照ツール〉をクリックすると、辞書参照ツールが起動します。



ヒント

【ホットキーで呼び出し】

辞書参照ツールは、ホットキーで呼び出すことができます。ホットキーの設定については、『7.1.11 ツールの設定』を参照してください。

● 参照する辞書

辞書参照ツールでは、[ツール]－[設定]－[辞書(英日)]または[辞書(日英)]で設定されている辞書から検索を行います。

参照する辞書を変更する場合は、まず、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照して、使用する辞書を変更します。

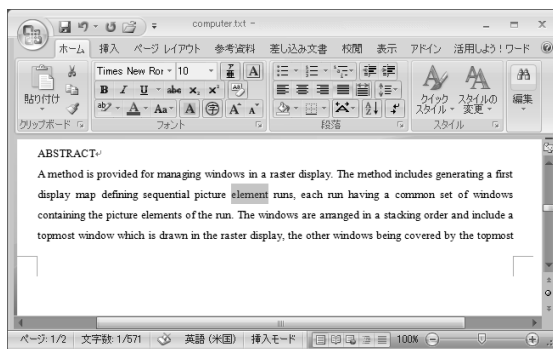
次に、辞書参照ツールを再起動するか、または、辞書参照ツールでいったん別の辞書を選択してから、再度目的の辞書を選択して、検索を実行します。

7.1.6 ロボワード辞書検索

ホームページや他のアプリケーションにある語句の辞書引きを行います。辞書引きでは、「研究社 新英和中辞典」と「研究社 新和英中辞典」を一括で検索します。辞書検索の手順は以下のとおりです。

手順

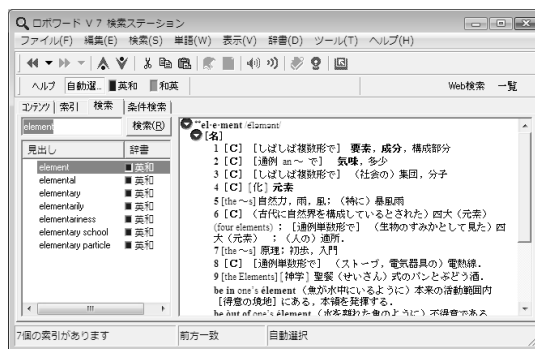
1. 辞書引きしたい語句をドラッグし選択して、**Ctrl+C**キーを押します。



2. 〈ロボワード辞書検索〉をクリックします。

ロボワードの検索ステーションが起動します。

テキストボックスで、**Ctrl+V**キーを押して検索を実行してください。



検索ステーションの操作については、『ロボワードのヘルプ』を参照してください。

ロボワードのヘルプは、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ロボワード for トランサー]－[ヘルプ]を選択すると起動します。

7.1.7 ロボワードワンタッチ翻訳

ホームページや他のアプリケーションにある語句の辞書引きや翻訳を行います。ワンタッチ翻訳の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 〈ロボワードワンタッチ翻訳〉をクリックします。
2. 辞書引きまたは、翻訳したい語句へマウスポインタを置きます。
ロボワードのワンタッチウィンドウが表示されます。



3. この機能を終了するには、再度 〈ロボワードワンタッチ翻訳〉をクリックします。

Transerの「ロボワードワンタッチ翻訳」機能は、ロボワードV7 for トランサーにより動作します。テクノクラフト社のロボワードV7を常駐してご使用の場合は、Transerの「ロボワードワンタッチ翻訳」機能は使えません。Transerの「ロボワードワンタッチ翻訳」機能を使う場合は、ロボワードV7を終了した後で、Transerを起動してください。

ロボワードV7は、タスクバーにあるロボワードのアイコンをマウスの右ボタンでクリックして、[終了]を選択すると終了します。

ワンタッチウィンドウの操作については、『ロボワードのヘルプ』を参照してください。

ロボワードのヘルプは、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ロボワード for トランサー]－[ヘルプ]を選択すると起動します。

7.1.8 ロボワードスピーチ

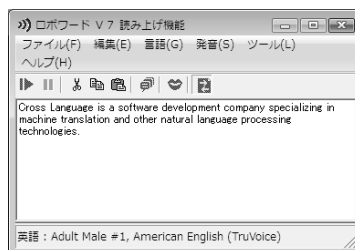
ホームページや他のアプリケーションにある文章をスピーカーから読み上げます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 読み上げる文章をドラッグして選択します。
2. 〈ロボワードスピーチ〉をクリックします。



読み上げウィンドウが表示され、読み上げが実行されます。



選択できる文章はOSなどによって制限があります。長い文章を読ませる場合は、読み上げウィンドウに貼り付けて、〈再生〉をクリックします。翻訳パレットから直接読み上げを行う場合、英語／日本語を自動認識しますが、読み上げウィンドウの再生ボタンを使う場合は、自動認識は行いませんので、「発音」メニューで英語か日本語かを選択してください。

読み上げ機能ウィンドウの詳細は『ロボワードのヘルプ』を参照してください。

ロボワードのヘルプは、[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[ロボワード for トランサー]－[ヘルプ]を選択すると起動します。

7.1.9 OCR

このボタンは、OCRソフト「CROSS OCR JE」を起動します。
手順は以下のとおりです。

- 手順** 1. **〈OCR〉**  をクリックします。
CROSS OCR JEが起動します。

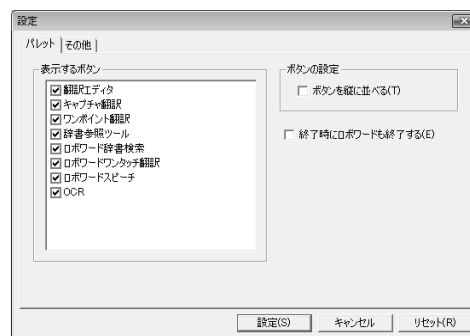


OCR機能については、『付録6 CROSS OCR』を参照してください。

7.1.10 翻訳パレットの設定

翻訳パレットに表示するボタン、バージョンなどの設定を行います。

 をクリックすると、次の設定ダイアログが表示されます。



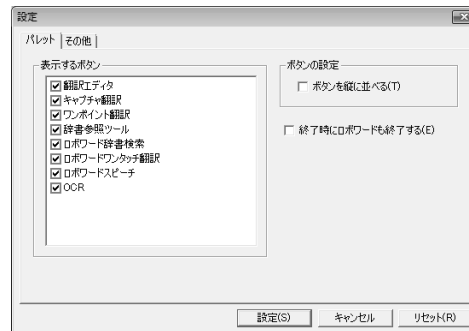
各タブをクリックして適切な環境設定を行います。

〈設定〉をクリックすると、設定内容が適用されます。

〈リセット〉をクリックすると、設定内容が初期状態に戻ります。

7.1.10.1 パレットの設定

翻訳パレットに表示するボタンを設定します。「パレット」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- 表示するボタン

翻訳パレットに表示するボタンのチェックボックスをクリックして、チェックマーク（✓）を入れます。

- ボタンの設定

初期状態で翻訳パレットのボタンは横に並んでいます。「ボタンを縦に並べる」チェックボックスがオンの場合、ボタンは縦に並びます。

- 終了時にロボワードも終了する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳パレット終了の際、ロボワードも終了します。

翻訳パレット終了の際、ロボワードを起動したままにする場合は、このチェックボックスをオフにします。

7.1.10.2 その他の設定

使用している翻訳パレットのバージョン情報を表示します。「その他」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● バージョン情報

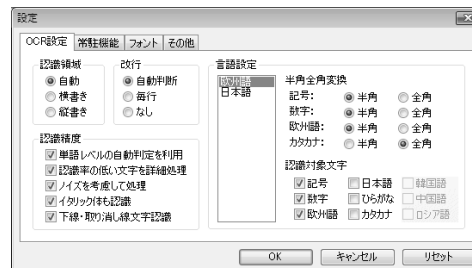
〈バージョン情報〉をクリックすると、翻訳パレットのバージョンが表示されます。

7.1.11 ツールの設定

ここでは、キャプチャ翻訳の環境設定を中心に以下のツールの設定について説明します。

- キャプチャ翻訳
- ワンポイント翻訳
- 辞書参照ツール

各ツールで[ツール]－[オプション]を選択すると、オプション設定ダイアログが表示されます。



7.1.11.1 OCR設定 キャプチャ翻訳のみ

「OCR設定」タブでは、文字認識の対象である領域の文字の方向、認識する言語、認識結果の処理方法などについて設定します。

- **認識領域**

認識対象とする文字の方向が横書きか縦書きか指定します。

- **改行**

画像文書での改行に対し、認識結果に改行記号を追加するか、または自動的に判断するかを設定します。

- **領域精度**

単語レベルの自動判定を利用

このチェックボックスがオンの場合、文字認識時、システムが保持している辞書を参照して文字の並び（スペルチェック）を解析し、誤認識を検出します。

認識率が低い文字を詳細処理

このチェックボックスがオンの場合、認識できない画像パターンに対して、いくつものパターンと比較して認識結果を出力します。

ノイズを考慮して処理

原稿にノイズが多い場合に、このチェックボックスをオンにします。

イタリック体も認識

原稿にイタリック体が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

下線・取り消し線文字認識

原稿に下線・取り消し線文字が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

- **言語設定**

文字認識エンジンの言語ごとの設定を行います。文字認識エンジンの言語は、「エンジン」に設定されている原語です。「エンジン」が「英語 - 日本語」の場合は「欧州語」、「日本語 - 英語」の場合は「日本語」を選択します。

半角全角変換

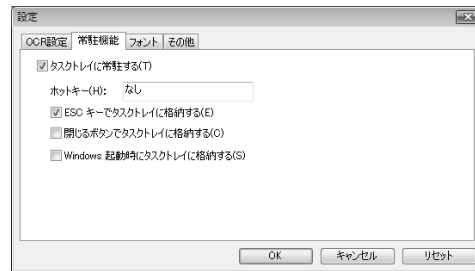
各文字について、全角で出力するか半角で出力するか指定します。

認識対象文字

認識を行う記号と文字を指定します。

7.1.11.2 常駐機能

「常駐機能」タブでは、タスクトレイに常駐させる設定を行えます。
「常駐機能」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



● タスクトレイに常駐する

タスクトレイを使うかを指定します。このチェックボックスがオンの場合、キャプチャ翻訳を最小化すると非表示になり、タスクトレイに格納されます。また、以下の設定を行うことができます。

ホットキー

タスクトレイにあるキャプチャ翻訳をキー操作で呼び出すためのホットキーを設定します。

ESCキーでタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、ESCキーを押すと、キャプチャ翻訳は最小化してタスクトレイに格納されます。

閉じるボタンでタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、キャプチャ翻訳の閉じるボタン（⌵）をクリックすると、最小化してタスクトレイに格納されます。

Windows起動時にタスクトレイに格納する

このチェックボックスがオンの場合、Windows起動時にキャプチャ翻訳が起動します。



ヒント

【タスクトレイからの取り出し】

タスクトレイに格納されている場合、タスクトレイアイコンをクリックすると、キャプチャ翻訳を表示することができます。

● タスクトレイについて

タスクトレイはタスクバーの右端に配置され、起動中のツールのアイコンを表示することができます。たとえばTransterでキャプチャ翻訳をタスクトレイに常駐させると、次のとおりに表示されます。



タスクバーの設定でアクティブでないインジケータを隠すと設定している場合、アイコンが隠れてしまい表示されないことがあります。このような場合は、タスクトレイ左端にある矢印 < をクリックすると隠れているアイコンが表示されます。

7.1.11.3 フォント

「フォント」タブでは、「原文」と「訳文」で使用するフォントを指定します。「フォント」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



各言語の右端にある▼をクリックして表示される一覧からフォントを選択します。

7.1.11.4 その他

「その他」タブでは、キャプチャ翻訳ウィンドウの配置方法と翻訳を実行するタイミングを指定します。

「その他」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



画面端でウィンドウを吸い付かせる

このチェックボックスがオンの場合、ウィンドウを移動すると画面からはみ出さず、画面の端に配置されます。

ホットキーが押されたらキャプチャ翻訳を実行する（キャプチャ翻訳の設定）

このチェックボックスがオンの場合、「常駐機能」タブで設定した「ホットキー」を押下するとキャプチャ翻訳を呼び出すことができます。

ホットキーが押されたらクリップボードのテキストを辞書引きする（辞書参照ツールの設定）

このチェックボックスがオンの場合、このチェックボックスがオンの場合、「常駐機能」タブで設定した「ホットキー」を押下すると、クリップボードに保存されているテキストを自動的に取得して辞書引きを行います。

ホットキーが押されたらクリップボード翻訳を実行する（ワンポイント翻訳の設定）

このチェックボックスがオンの場合、このチェックボックスがオンの場合、「常駐機能」タブで設定した「ホットキー」を押下すると、クリップボードに保存されているテキストを翻訳します。

7.2 訳振り

訳振りはカーソル位置の文の各語句に訳語ルビを表示する機能です。単語や語句の意味を調べたり、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。

訳振りで使用するフォントについては、[ツール]－[環境設定]－[訳振り/逆翻訳]で設定します。詳しくは『6.2.4 訳振り/逆翻訳』を参照してください。手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで訳振りを実行する文にカーソルを置きます。
2. [翻訳]－[訳振り]を選択します。

アシストペインの「訳振り」タブにカーソル位置の文が表示され、各語句の上部には訳語が表示されます。

ここでは、定義語または設定している辞書に登録されている訳語の中で翻訳時に使用される訳語が表示されます。



1文翻訳を実行したときに「訳振り」タブが表示されていると、1文翻訳に続いて訳振りが実行されます。

- 「訳振り」タブで実行する

「訳振り」タブの〈訳振り〉をクリックすると、カーソル位置の文を取り込んで訳振りを実行します。

7.3 逆翻訳

逆翻訳は翻訳結果文を逆方向に翻訳し、逆翻訳の結果をアシストペインの「逆翻訳」タブに表示します。

逆翻訳の結果が原文のニュアンスと異なる場合は、原文の言い回しや語句を変えて再翻訳することにより、翻訳結果が正しいかを確認することができます。

英日翻訳では翻訳結果の和文を英文に、日英翻訳では翻訳結果の英文を和文に翻訳します。逆翻訳では、スタイルを設定することもできます。

逆翻訳で使用するフォントについては、[ツール]－[環境設定]－[訳振り/逆翻訳]で設定します。詳しくは『6.2.4 訳振り/逆翻訳』を参照してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで逆翻訳を実行する文にカーソルを置きます。

逆翻訳は訳文のある文で実行することができます。

2. [翻訳]－[逆翻訳]を選択します。

アシストペインの「逆翻訳」タブにカーソル位置の訳文の逆翻訳結果が表示されます。



逆翻訳の結果は、翻訳設定ダイアログの「フォントと配色」タブで指定した色で表示されます。

翻訳エディタでカーソルを他の文番号に移動すると、逆翻訳結果は消去されます。



ヒント

1文翻訳を実行したときに「逆翻訳」タブが表示されていると、1文翻訳に続いて逆翻訳が実行されます。

- 「逆翻訳」タブで実行する

「逆翻訳」タブの〈逆翻訳〉をクリックすると、カーソル位置の訳文の逆翻訳を実行します。カーソル位置に訳文が無い場合、逆翻訳は実行されません。

● 逆翻訳のスタイル

「逆翻訳スタイル」には、逆翻訳で使用するスタイル名が表示されます。

「自動スタイル」チェックボックスがオンの場合、順方向の翻訳と同じスタイルが逆翻訳で使われます。同じスタイル名が無い場合は、「スタイルなし」が設定されます。

他のスタイルを指定する場合は、「逆翻訳スタイル」の▼をクリックすると表示される一覧から、スタイルを選択します。

7.4 Web検索

翻訳エディタではブラウザを起動していない状態でも、指定したキーワードを使ってWebサイトを検索し、検索結果を翻訳エディタで表示することができます。また、検索結果の文章を翻訳したり、辞書引きを行うこともできます。Web検索で使用する検索エンジン、ウィンドウの表示方法、入力履歴の保存などについては、[ツール]－[環境設定]－[Web検索]で設定します。詳しくは『6.2.5 Web検索』を参照してください。

7.4.1 検索エンジンの指定

Web検索を実行する前に、使用する検索エンジンを指定します。

ツールバーの〈検索エンジン〉をクリックすると使用可能な検索エンジンが一覧表示されるので、使用する検索エンジンを選択します。検索エンジンの指定は、環境設定ダイアログでも行えます。環境設定ダイアログについては、『6.2.5 Web検索』を参照してください。

7.4.2 キーワードを指定してWeb検索を実行する

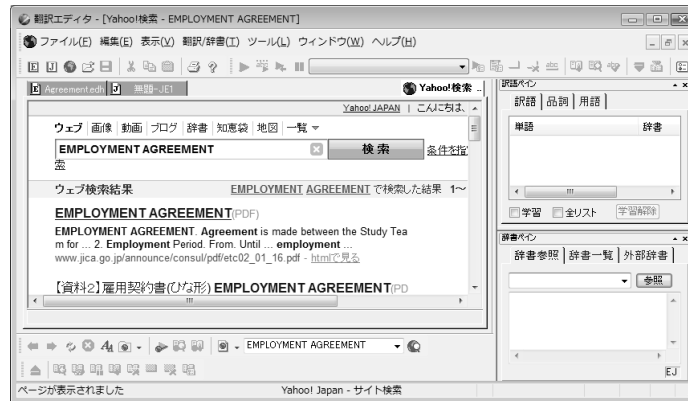
キーワードは翻訳エディタで選択した文字列またはキーワード入力ボックスに直接入力して指定します。

Web検索の手順は以下のとおりです。

手順

1. キーワードを指定します。キーワードの指定には以下の方法があります。
 - 翻訳エディタで文字列を選択する
 - キーワード入力ボックスに文字列を入力する
 両方が指定された場合、翻訳エディタで選択した文字列がキーワードとなります。
2. [編集]－[Web検索]を選択するか、ツールバーの〈Web検索〉をクリックします。

検索結果が表示されます。



● Web検索ページの表示

Web検索結果では、前後のページへ移動したり、フォントサイズを指定することができます。また、表示したページの履歴からページを移動することもできます。

● 履歴ページへ移動する

アクセスしたページのタイトルを保存して、ツールバーの〈履歴リスト〉からページを表示することができます。

をクリックすると履歴が一覧表示されるので、表示するページを選択します。

● 前後のページに移動する

直前に表示したページを再度表示する場合は、ツールバーの〈前に戻る〉をクリックします。

「前に戻る」コマンドを実行する前に表示していたページを再度表示する場合は、ツールバーの〈次に進む〉をクリックします。

● ページの更新

Webページを最新の情報に更新する場合は、ツールバーの〈更新〉をクリックします。

● 中止

Web検索を中止する場合は、ツールバーの〈中止〉をクリックします。

● 文字サイズの指定

Web検索ページの文字サイズを変更する場合は、ツールバーの〈文字のサイズ〉をクリックし、プルダウンメニューからフォントのサイズを選択します。

7.4.3 Web検索の翻訳／辞書

Web検索ページでも、翻訳、辞書参照や辞書登録を実行することができます。

- 翻訳

Webツールバーの〈翻訳〉をクリックすると表示しているWebページを翻訳します。文章を選択している場合は、選択している部分のみ翻訳します。翻訳対象はテキストのみで、翻訳は翻訳エディタで実行されます。

- 辞書参照

辞書引きする語句を選択して、Webツールバーの〈辞書参照〉をクリックします。辞書ペインの「辞書参照」タブに辞書引きの結果が表示されます。

- 辞書登録

辞書登録する語句を選択して、Webツールバーの〈辞書登録〉をクリックします。辞書登録ダイアログが表示され、「見出し語」に選択した語句が代入されます。「訳語」や「品詞」を指定して辞書登録を行ってください。

7.4.4 Web検索ページを開く

URLを指定してWebページを開くことができます。

[ファイル]－[新規作成]－[Web検索サイト]を選択すると、環境設定ダイアログの「Web検索」タブの「サイト」で指定したURLを表示します。

また、URLを指定してページを開く場合は、[ファイル]－[URLを開く]を選択して、URLを開くダイアログのテキストボックスで、URLを指定することができます。

7.5 定義語

「定義語」は、翻訳している文書ごとに名詞に訳語と意味素性を登録する機能です。定義語は学習辞書やユーザー辞書の語句よりも優先して訳出されます。特定の文書において、製品名などの固有名詞の訳や用語の統一を行う場合に使用すると便利です。

[翻訳]－[定義語]を選択すると次のダイアログが表示されます。



- 定義語を使用するように設定する

定義語を使用する場合は、定義語ダイアログの「定義語を使用する」チェックボックスをオンにします。

- 単語の抽出

翻訳している文書から定義語を抽出することができます。

〈単語抽出〉をクリックすると翻訳している文書から定義語を抽出して、定義語ダイアログに代入します。抽出された定義語の訳や意味素性を変更する場合は、見出し語をダブルクリックするか見出し語を選択して〈変更〉をクリックします。定義語の変更ダイアログが表示され、選択した見出し語の情報が表示されるので各項目を変更します。

- 定義語の登録と更新

- 定義語の登録

登録できる定義語は256個です。

〈登録〉をクリックすると、次のダイアログが表示されます。

「見出し語」に名詞を、「訳語」に訳語を入力します。

英→日の場合、見出し語は半角で100文字まで、訳語は全角で50文字まで登録できます。

日→英の場合、見出し語50文字まで、訳語は半角で240文字まで登録できます。「意味素性」では単語の意味合いを指定します。意味素性の指定によりその単語にかかる語句の訳し分けが行われます。意味素性の指定は必須ではありません。

〈登録〉をクリックすると、定義語リストに追加されます。

• 意味素性による訳し分け

意味素性により以下のように訳し分けされます。

たとえば、次の例文を翻訳します。

例文：There is Umi. 翻訳結果：ユミがある。

意味素性を指定して登録すると翻訳結果が以下のとおりになります。

見出し語：Umi

訳語：ユミ

意味素性：人間

翻訳結果：ユミがいる。

• 定義語の変更

登録した定義語の訳語や意味素性を変更することができます。

定義語リストで変更する見出し語をダブルクリックするか見出し語を選択して〈変更〉をクリックします。定義語の変更ダイアログが表示され、選択した見出し語の情報が表示されるので各項目を変更します。

• 定義語の削除

登録した定義語を削除することができます。

定義語リストで削除する見出し語を選択して、〈削除〉をクリックします。削除することを確認するメッセージが表示されるので〈はい〉をクリックします。

● 定義語の検索

翻訳している文書から定義語を検索することができます。

定義語リストで検索する見出し語を選択して、〈文書内を検索〉をクリックします。定義語が見つかると、反転表示されます。

- 定義語に一括で訳語をつける

訳語読み込みファイルを作成して、定義語ダイアログにある見出し語に一括で訳語を付加することができます。

- 訳語読み込みファイルの形式

訳語読み込みファイルは、CSV形式またはTSV形式のテキストファイルで作成します。

CSV形式

見出し語、訳語、意味素性をカンマで区切って並べます。

【記述例】

translation software, 翻訳ソフト, ソフト

TSV形式

見出し語、訳語、意味素性をタブで区切って並べます。ここでは、タブを「→」で表します。

【記述例】

translation software→翻訳ソフト→ソフト

- 訳語読み込みファイルの作成

訳語読み込みファイルは、エディタや表計算ソフトで作成することができます。定義語リストで語句をコピーして他のアプリケーションに貼り付けたり、他のアプリケーションにあるTSV形式のデータを定義語リストに貼り付けたりすることができます。

たとえば、定義語リストでコピーする複数行を選択して〈コピー〉をクリックし、表計算ソフトに貼り付けるとセルごとに見出し語、訳語、意味素性が挿入されます。定義語リストで複数行を選択するには、選択する先頭行でクリックし、Shiftキーを押したまま最後の行をクリックします。または、選択する先頭行でクリックし、Ctrlキーを押したまま次々と行をクリックします。

定義語リストに語句を追加する場合は、TSV形式のテキストをコピーして、定義語ダイアログで〈貼り付け〉をクリックします。

- 一括で訳語をつける

〈訳語読み込み〉をクリックすると訳振りファイル選択ダイアログが表示されるので、ファイルを指定します。定義語リストの見出し語に訳が付加されます。

7.6 頻度リスト出力

頻度リスト出力は、原文に多く含まれる語句のリストをファイルに書き出す機能です。たとえば、複数の翻訳者が1つの文書を分割して翻訳する場合や、社内で特定の語句に対してあらかじめ訳語を決めてから翻訳作業を行う場合は、頻繁に使われる語句を洗い出して訳語を決定してから、翻訳作業を始めれば、翻訳結果が統一され、翻訳業務を円滑に進められます。

頻度リスト出力は、以下の手順で実行します。

手順

1. 頻度リスト出力を実行する文書を翻訳エディタに読み込みます。
2. [ツール]—[頻度リスト出力]を選択します。

次のウィンドウが表示されます。



頻度リスト出力機能は、ダイアログで指定した各項目にしたがって以下のように語句をリストアップします。

• 「単語最小数」と「単語最大数」（英→日のみ）

「単語最小数」と「単語最大数」は、頻度リストに出力する単語の構成単位を指定します。最小数以上、最大数以下で構成される語句がリスト出力する対象語句となります。

• 「頻度最小数」

対象語句の中から「頻度最小数」で指定した回数以上、登場した語句がリストアップされます。

• 「ストップ・ワード・ファイル」

「ストップ・ワード・ファイル」とは、このファイルに含まれる単語が、語句の先頭または最後に含まれる場合、対象語句リストからはずされます。先頭と最後以外で語句の中に含まれる場合は、対象語句リストに残ります。

ストップワードファイルは、一行ごとに1つの語句を書いたテキストファイルです。先頭が"#"で始まる文は、コメントとみなされます。ストップワードに関しては、大文字・小文字を区別しません。たとえば、ストップワードファイルにあるiは、Iとiをあらわします。初期状態でストップワードファイルは、ホームディレクトリの下ej (je) フォルダの中の"stopwords.txt"です。

〈作成〉をクリックすると、「出力ファイル名」で指定したファイルに頻度リストを書き出します。「ストップワードファイル」または「出力ファイル名」の横にあるをクリックすると、ファイルを開くダイアログが表示されるので、適切なファイルを選択できます。

- 頻度リストの条件（日→英のみ）

頻度リストには、漢字または全角カタカナで構成される2文字以上の語句の出現頻度が出力されます。漢字1文字とひらがなで構成される語句は対象となりません。たとえば、「通学する」の「通学」は対象となりますが、「通う」は対象となりません。

- 頻度リストの書式

頻度リストファイルは、以下の書式で作成されます。ここでは、タブを「→」で表します。

単語 → 頻度 → 文番号

頻度の高い順から並びます。

- 頻度リストで対象となる文

文属性が「翻訳対象」に設定されている文は、頻度リストファイルの作成において、対象となります。翻訳対象外の文は翻訳エディタに表示されないのので、対象文は、翻訳エディタに表示されている文章となります。

- 英→日 頻度リストの例

たとえば、以下の文章が翻訳エディタに表示されています。

He has a dream.

She has a dream.

John has a dream.

Sam has a dream.

頻度リスト出力ダイアログで以下のように設定します。

- 単語最小数 1
- 単語最大数 5
- 頻度最小数 3
- 「ストップワードファイル」チェックボックスをオン
ストップワードファイルは、初期状態

以下のような頻度リストが作成されます。

単語	→ 頻度	→ 文番号
dream	→ 4	→ 1,2,3,4
has	→ 4	→ 1,2,3,4
has a dream	→ 4	→ 1,2,3,4

aは、ストップワードファイルに含まれますが、has a dreamでaは語句の先頭でも最後でもない位置にあるので、この語句は対象語句リストに残ります。

● 日→英 頻度リストの例

たとえば、以下の文章が翻訳エディタに表示されています。

私は本棚を買って帰宅する。

彼は本棚を買って帰宅する。

彼女は本棚を買って帰宅する。

鈴木くんは本棚を買って帰る。

頻度リスト出力ダイアログで以下のように設定します。

- 頻度最小数 3
- 「ストップワードファイル」チェックボックスをオン
ストップワードファイルは、初期状態

以下のような頻度リストが作成されます。

単語	→ 頻度	→ 文番号
本棚	→ 4	→ 1,2,3,4
帰宅	→ 4	→ 1,2,3

「買って」は漢字1文字とひらがなで構成されるため、対象語句になりません。

7.7 英文チェック

スペルチェックは、英→日の場合は原文（英文）、日→英の場合は訳文（英文）のスペルミスと考えられる単語を指摘します。

文法チェックは、文法的な誤りや不適当な言い回しを指摘します。

スペルチェックのみ行うのか、文法チェックも同時に行うのか、また、文法チェックのレベルなどは、[翻訳]―[翻訳設定]―[英文チェック]で設定します。

スペル・文法チェックの操作手順は以下のとおりです。

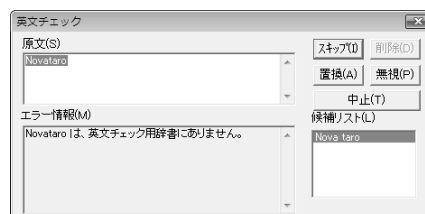
手順

1. 英文チェックを行う文へカーソルを置きます。

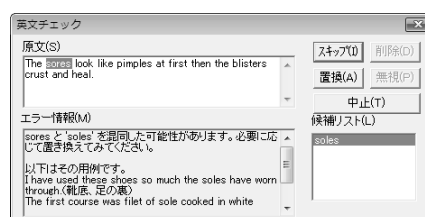
カーソルのある文の先頭から、チェックが実行されます。

2. [ツール]―[英文チェック]を選択します。

スペルミスや文法ミスが見つかると、次のダイアログが表示されます。



スペルミスと判断された例



文法チェックで誤りと判断された例

3. 候補リストで選択されている単語に置き換える場合は〈置換〉を、置換せずにチェックを終了する場合は〈中止〉をクリックします。

● 英文チェックダイアログ

原文

誤りのある文を取り出し、誤りのある箇所を反転表示します。このエリアで直接編集することもできます。

エラー情報

どのようなエラーであるかを表示します。

候補リスト

スペルミスと思われる単語や文法ミスに対して、正しい単語の候補がいくつか表示されます。該当する候補があれば、それを選択し、〈置換〉をクリックします。

スキップ

指摘を無視して次のチェックを行います。

置換／編集

候補リストで選択されている単語に置き換えます。「原文」に直接編集を加えた場合は、〈置換〉が〈編集〉に変わります。

削除

指摘された単語を削除します。

無視

次に同じ単語があっても指摘しないようにします。

中止

チェックを終了します。



英文チェック機能は、あくまでも一般的な英語に対するスペルチェックを行うためのもので、英文チェック用の辞書はTranserの基本語辞書や専門語辞書とは異なる独立した辞書を使用しています。このため、ハイフンを含む複合語や専門用語はスペルミスとして指摘されることがあります。

7.8 翻訳ロックとロック解除

「翻訳ロック」は再翻訳を行いたくない文章に  マークを付け、その文章の翻訳結果を保存するものです。

翻訳結果の訳文を直接編集したり、別解釈コマンドや学習機能を使わずに訳語変更を行って訳文を修正しても、その文章を再翻訳すると、元の翻訳結果に戻ってしまいます。このように翻訳コマンドやすべて翻訳コマンドで再翻訳したくない文章を保護するのが、「翻訳ロック」機能です。

● マウス操作で実行する

ロックしたい文番号の属性エリアにマウスポインタを移動し、ポインタが矢印から鍵の形  に変わったところでマウスをクリックすると属性エリアに  が付き、文がロックされます。 を直接クリックするとマークが消えて文のロックが解除されます。

● メニューから実行する

「翻訳ロック/ロック解除」は、以下の手順で実行します。

手順

1. 翻訳エディタで翻訳ロック/ロック解除する文にカーソルを置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
2. [翻訳]－[翻訳ロック/ロック解除]を選択します。
指定した文または選択した文章が翻訳ロック/ロック解除されます。

7.9 ユーザーロックとロック解除

「ユーザーロック」は再翻訳を行いたくない文章に  マークを付け、その文章の翻訳結果を保存するものです。

ユーザーロックが翻訳ロックと異なる点は、翻訳ロックは、訳文を編集し翻訳が完了したので、再翻訳させないように翻訳ロックをかけるのに対し、ユーザーロックは、訳文が未完成であり修正が必要であるため、再翻訳をさせないようにロックをかけるという点です。

● 翻訳エディタで実行する

ユーザーロックしたい文番号の属性エリアへマウスポインタを移動し、ポインタが矢印から鍵の形  に変わったところでマウスの右ボタンをクリックすると  が付き、文がロックされます。 を直接クリックするとマークが消えて文のロックが解除されます。

- メニューから実行する

以下の手順で実行します。

- 手順**
1. 翻訳エディタでユーザーロック/ロック解除する文にカーソルを置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
 2. [翻訳]－[ユーザーロック/ロック解除]を選択します。
指定した文または選択した文章がユーザーロック/ロック解除されます。

7.10 スクリプト

Transerでは、ファイルを読み込む時、保存する時、また翻訳エディタに読み込んだファイルに対して、スクリプト言語を使用した一括処理を提供しています。

7.10.1 スクリプトのタイプ

スクリプトには、以下のタイプがあります。

- 入力スクリプト

ファイルを読み込む際に、実行可能なスクリプトです。提供されているスクリプトは以下のとおりです。

スクリプト名	説明
1行1文読み込み	Transerの文切り読み込みを行わず、1行が1文として翻訳エディタに読み込みます。
契約前処理読み込み	ファイルを開く際、英→日または日→英用の契約前処理を実行してから、翻訳エディタに読み込みます。

- 出力スクリプト

ファイルを保存する際に、実行可能なスクリプトです。提供されているスクリプトは以下のとおりです。

スクリプト名	説明
1行1文書き出し	翻訳結果を訳文ファイルまたはHTMLファイル（訳文）に保存する際、1文ごとに改行して保存します。
契約後処理出力	ファイルを保存する際、英→日または日→英用の契約後処理を実行してから、ファイルに保存します。

● 操作スクリプト

現在開かれている翻訳エディタに対する操作を行うスクリプトです。提供されているスクリプトは以下のとおりです。

スクリプト名	説明
原文訳文読み込み	原文と訳文を別々のファイルから読み込み、左に原文、右に訳文の対訳を作ります。
フィルタインストール	必要なファイルやフォルダをユーザーのホームディレクトリに用意します。『5.3 フィルタ』参照

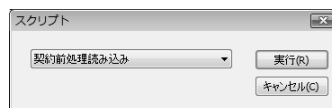
7.10.2 スクリプトの実行

● スクリプトコマンドから実行する

スクリプトコマンドから実行する手順は以下のとおりです。

手順▶ 1. [ツール]―[スクリプト]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



2. ▼をクリックして表示される一覧からスクリプトを選択して、〈実行〉をクリックします。

以降は、メッセージにしたがって、操作してください。

● ダイアログにある「スクリプト」オプションから実行する

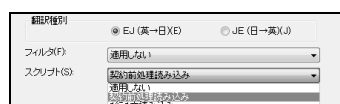
[ファイル]―[開く]、[ファイル]―[カーソル位置に挿入]、[ファイル]―[保存]を選択すると表示されるダイアログにある「スクリプト」オプションから、スクリプトを実行できます。

スクリプトを実行する手順は以下のとおりです。

手順▶ 1. [ファイル]―[開く]などのコマンドを選択します。

コマンドに対応したダイアログが表示されます。

2. スクリプトの右にある▼をクリックして表示されるメニューから、実行するスクリプトを選択します。



スクリプトにしたがって、一括処理が実行されます。



htmlファイル、pdfファイル、doc、docxファイル、rtfファイルなどの場合でも、スクリプトを指定できますが、テキストファイル以外の場合、ファイルに含まれる制御コードやタグなどの影響により、期待した置換が行われない場合があります。この機能は、テキストファイルに使用することをお勧めします。

7.10.3 英→日 前処理と後処理スクリプト

- 契約前処理

英→日用の契約前処理では、契約文の翻訳精度を高めるために以下のような文分割を行います。

- 条項と条項の見出しの分割

条項と条項の見出しを分割します。

たとえば、以下の例文を読み込むとその下のように分割されます。

原文（1文）

Article 1 Definitions

前処理された文（2つの文になる）

Article 1
Definitions

- 但し書の分割

"provided that"などで連結されている但し書きを分割します。

たとえば、以下の例文を読み込むとその下のように分割されます。

原文（1文）

This Agreement shall come into effect on the date of execution, provided that approval by the board of directors must be obtained prior to the execution.

前処理された文（3つの文になる）

This Agreement shall come into effect on the date of execution,
provided that
approval by the board of directors must be obtained prior to the execution.

- **\$付き単語**

いくつかの単語には\$が付加されます。これらの単語は翻訳の際特別に処理されるので、\$を削除しないでください。

\$が付加される単語には、\$said, \$whichなどがあります。



他にも\$が付加される単語があります。\$が付加される単語は、翻訳精度の改良のため予告なく変更されることがあります。

- **契約後処理**

契約後処理では、訳出された日本語を自然な文体に修正します。

たとえば、以下の例文を翻訳します。

原文

All Products sold under this Agreement shall be guaranteed against defects in materials and workmanship for a period of one year from the date of delivery to Buyer.

翻訳結果

本契約に基づき販売されるすべての製品は、買主に納期から1年間、材料および仕上がりで瑕疵に対して保証されるものとする。

後処理あり

本契約に基づき販売されるすべての製品は、買主に納期から1年間、材料および仕上がりで瑕疵に対して保証するものとする。

後処理では、「～される」（保証されるもの）を「～する」（保証するもの）と修正しています。

7.10.4 日→英 前処理と後処理スクリプト

● 契約前処理

日→英用の契約前処理では、契約文の翻訳精度を高めるために以下のような文分割を行います。

・ 列挙記号で文分割

列挙記号の後ろで文分割します。
たとえば、以下の例文を読み込むとその下のように分割されます。

原文（1文）

一、 土地の使用目的は、店舗とする。

前処理された文（2つの文になる）

一、
土地の使用目的は、店舗とする。

・ 文にかかる副詞で分割

文にかかる副詞の後ろで文分割します。
たとえば、以下の例文を読み込むとその下のように分割されます。

原文（1文）

その他、本契約における甲と乙との信頼関係を損なう行為があった場合。

前処理された文（2つの文になる）

その他、
本契約における甲と乙との信頼関係を損なう行為があった場合。

・ \${ }付き単語

いくつかの単語には\$が付加され、{}でくくられます。これらの単語は翻訳の際特別に処理されるので、\${}を削除しないでください。
\${}が付加される単語には、「\${該}」、「\${該当}」、「\${前記}」などがあります。



他にも\${}が付加される単語があります。\${}が付加される単語は、翻訳精度の改良のため予告なく変更されることがあります。

● 契約後処理

契約後処理では、訳出された英語を自然な文体に修正します。

7.11 アップデート

クロスランゲージでは、製品ごとにアップデートプログラムをリリースする場合があります。「アップデートの確認」機能は、ご使用のソフトウェアにアップデートプログラムの適用が必要なのかチェックします。ご使用の製品のバージョンより新しいバージョンのプログラムがある場合は、ダウンロードサイトから、アップデートプログラムをダウンロードしてください。

初期状態では、翻訳エディタの起動時にアップデートプログラムの適用が必要なのかチェックが実行されます。起動時の確認に関しては、頻度を設定することができます。頻度の設定については、後述する『アップデートのお知らせ設定』を参照してください。

アップデートが必要な場合は、アップデートの情報ダイアログが表示されます。



アップデートを実行する場合は、〈ダウンロードページへ〉をクリックします。各種製品のダウンロードページが表示されるので、必要な製品のアップデートを実行します。

● アップデートの確認

アップデートプログラムの有無は翻訳エディタの起動時にチェックすることができますが、次の方法で確認することもできます。

翻訳エディタから実行

[ヘルプ]—[アップデートの確認]を選択します。

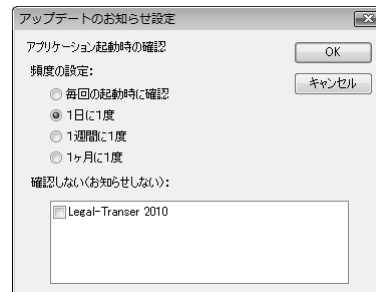
スタートボタンから実行

タスクバーの「スタート」ボタンをクリックして[すべてのプログラム]—[Cross Language]—[Legal Transer 2010]—[アップデート]—[アップデートの確認]を選択します。

● アップデートのお知らせ設定

アップデートの確認を行う頻度を指定することができます。

アップデートの情報ダイアログで〈設定〉をクリックするか、タスクバーの「スタート」ボタンをクリックして[すべてのプログラム]－[Cross Language]－[Legal Transer 2010]－[アップデート]－[アップデートのお知らせ設定]を選択すると、アップデートのお知らせ設定ダイアログが表示されます。



頻度の設定

翻訳エディタの起動時にアップデートの確認を実行する頻度を指定します。

確認しない

アップデートの確認を行わないアプリケーションを指定します。

弊社製品を複数インストールしている場合、処理対照となるアプリケーションが一覧表示されます。確認を行わないアプリケーションのチェックボックスをオンにします。

7.12 ヘルプ

Transerの使いかたに関するオンラインヘルプです。Transerの使用中は、ヘルプを参照することができます。

項目をクリックするか、またはTabキーで項目を選んでEnterキーを押すと、詳細情報が表示されます。

- 目次

ヘルプの「目次」タブを表示します。

- キーワード

ヘルプの「キーワード」タブを表示します。

- 検索

ヘルプの「検索」タブを表示します。

- 製品サポート

弊社ユーザーサポートのWebページを表示します。

- バージョン情報

使用中の翻訳ソフトのバージョン、版權、ホームディレクトリなどを表示します。

第 8 章 翻訳文の作りかた

この章の内容

この章では、Transterを使って翻訳文を作る際に役立つ法則について説明しています。

これらの法則に従って翻訳前にコードを入力しておくことで、翻訳の際により正確な訳文を得ることができます。

8.1 原文編集と制御コード

原文編集とは、翻訳する文書ファイルを読み込む前に、エディタやワープロを使ってTranserが翻訳しやすいように制御コードを入力することです。原文編集を行うことにより、翻訳精度を向上させることができます。ここでは、英→日を例にして説明していますが、日→英でも同じ制御コードを使用できます。



制御コードはすべて半角の英字で入力してください。

8.1.1 ファイルを読み込むときに使われる制御コード

次の制御コードは、テキストファイルを読み込む際に動作します。まずエディタやワープロなどで制御コードを入力し、[ファイル]－[開く]を選択してファイルを読み込んでください。

● 文の強制分割…………… ¥|

箇条書きなどで、1.、(1)、(a)などが先頭にあって、明確にわかる場合は自動的に文（翻訳の単位）を分けます。しかし、次の例のような場合では、明確な目印がないので、¥記号を使って文を分割してください。この記号を入れると、この記号までを1つの文として判定します。

前編集なし：

```
r the file is readable;  
w the file is writable;  
x the file is executable;  
- the indicated permission is not granted.
```

結果：

```
rファイルが、読める；  
wファイルが、書くことができる；  
ファイルが実行可能であることを×印を付ける；  
- 計器に表示された許可は、与えられない。
```

前編集後：

```
r ¥| the file is readable;
w ¥| the file is writable;
x ¥| the file is executable;
- ¥| the indicated permission is not granted.
```

結果：

```
r ファイルは、読める；
w ファイルは、書くことができる；
x ファイルは、実行可能である；
- 計器に表示された許可は、与えられない。
```

● 文の分割抑制…………… ¥_

Transterでは、¥_ 記号を挿入することにより文を分割しないで翻訳エディタへ読み込みます。まずエディタやワープロなどで制御コードを入力し、[ファイル]—[開く]を選択してファイルを読み込んでください。

・ 英→日の場合

通常、英→日では、以下の記号の後に文を分割します。記号はすべて半角です。

```
. (ピリオド)
?
!
: (コロン)
; (セミコロン)
```

上記の記号の前に¥_ があると文分割を行いません。

たとえば、以下の文章を英→日へ読み込みます。

```
You should add Re: to a subject of a reply mail.
You should add Re¥_: to a subject of a reply mail.
```

以下のように文分割されます。

```
1文目 You should add Re:
2文目 to a subject of a reply mail.
3文目 You should add Re: to a subject of a reply mail.
```

・ 日→英の場合

通常、日→英では、以下の記号の後に文を分割します。

半角文字

．（ピリオド）
？
！
：（コロン）
；（セミコロン）

全角文字

・
。
？
！
：
；
｜

上記の記号の前に¥_ があると文分割を行いません。

たとえば、以下の文章を日→英へ読み込みます。

返信メールの件名には、Re:を追加してください。

返信メールの件名には、Re¥_:を追加してください。

以下のように文分割されます。

1文目 返信メールの件名には、Re:

2文目 を追加してください。

3文目 返信メールの件名には、Re:を追加してください。

8.1.2 翻訳エディタで利用できる制御コード

次の制御コードは、ファイルを読み込む前の前編集でも入力できますが、ファイルを読み込んだ後、原文を編集して使用することもできます。
また、フレーズ指定でも同じことができます。



フレーズ指定では品詞句を明確に指定することができるので、この処理はフレーズ指定で行うことをお勧めします。

- 翻訳しない（訳さない）…………… ¥[¥]

1つの文の中で、¥[¥]で囲まれた部分を名詞としてとらえ、そのまま出力します。
製品名、地名などの固有名詞の表現などを囲んでおくとの確な翻訳が行えます。
また、英語のままにしておきたい場合にも使用してください。

原文：Our address is ¥[1-29-11 Takadanobaba, shinjuku-ku¥].

結果：我々の住所は、1-29-11 Takadanobaba, shinjuku-kuである。

- 構文マーク…………… ¥{ ¥}

Transerは文単位で翻訳するので、文の構造を正確に把握することは翻訳の質を決める大きな要素になります。構文を明確にするために、¥{ ¥}を使ってグループとなっている名詞句、動詞句などを指定してください。

以下のとおりに指定します。

• 英→日 名詞にかかる前置詞の範囲

原文 (1) : I bought ¥{two books on the computer technology¥}.

結果 (1) : 私は、コンピュータ・テクノロジーの2冊の本を買った。

原文 (2) : I put ¥{two books¥} on the desk.

結果 (2) : 私は、2冊の本を机に置いた。

(1) の例では、"two books"以下が1つのまとまりなので、"on the computer technology"という前置詞句が"bought"にかかる解釈を捨てる役目をします。(2) の例では、"put"に"on the desk"をかけるために"two books"と"on the desk"の間を¥{ ¥}によって分けています。

ただし、現在、"on the desk"が"put"にかかることを100%保証することはできません。

• 英→日 動詞にかかる前置詞の範囲

原文 (1) : I cooked food and warmed myself with the fire.

結果 (1) : 私は、食物を料理して、火で暖を取った。

原文 (2) : I ¥{cooked food and warmed myself¥} with the fire.

結果 (2) : 私は、火で食物を料理して、体を暖めた。

(2) の例では"with the fire"が"cooked"にも"warmed"にもかかることを指定します。(1) の例では、"with the fire"は"warmed"だけにかかります。

• 英→日 並列の範囲

原文 (1) : I will read books and water flowers.

結果 (1) : 私は、本と水花を読む。

原文 (2) : I will ¥{read books¥} and water flowers.

結果 (2) : 私は、本を読んで、花に給水する。

(1) の例では、"water flowers." "までを含めて"read"の目的語として取っています。(2) の例のように"books"で切れることを指示すると、構文的に正しい解釈がなされます。

8.2 構文解析情報の表示

Transterでは、翻訳の際に行った構文解析の情報を表示することができます。
構文解析では次の情報が表示されます。

原文	単語ごとにスペースで区切られて表示されます。 原文を編集した場合、翻訳時に使用された原文が表示されます。
訳文	原文の下（2行目）に対応する単語ごとに表示されます。 訳文を編集した場合、翻訳時に訳出された訳文が表示されます。
品詞	3行目には、単語ごとの品詞の種類が表示されます。 品詞の種類は一文字で表されます。例：名（名詞）、接（接続詞）。 翻訳時に明確に品詞を指定されない単語には、表示されません。 例：受け身を表すbe動詞。
句	4行目以降には、句の種類が表示されます。 句は、[]で囲まれて、一文字で表されます。 例：[名]（名詞句）、[動]（動詞句）。

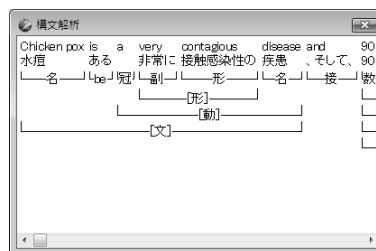


翻訳メモリの検索で訳出された訳文の場合、[構文解析]を選択することはできません。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 構文解析を表示したい文へカーソルを置きます。
2. [ツール]—[構文解析]を選択します。
指定した文の構文解析情報が表示されます。



3. ダイアログ右上の閉じるボタンをクリックすると、閉じます。

8.3 文の解析と括弧の処理について

8.3.1 一般規則

Transerでは、一文ごとに文法規則に従って文の構造をとらえた上で翻訳を行います。そのため、文法的に誤っている原文であったり、ある単語の所定の品詞が辞書に登録されていないと解析に失敗することがあります。

このような場合、句の切れ目を境にして翻訳結果をバラバラに出力し、その目印として段点に英→日では「//」を、日→英では「;(セミコロン)」を付加します。このような記号が出力されている場合は、原文を修正して、解析に失敗する原因を除去してから再翻訳してください。

8.3.2 括弧書きの処理

本文中に（ ）などで囲まれたフレーズが登場したとき、括弧中は本文と無関係として別個に翻訳し、括弧の直前に登場した語の訳語の後に括弧フレーズの翻訳結果を埋込みます。

付録

付録1 Officeの起動時に「セキュリティの警告」

Microsoft Officeのアプリケーションで「セキュリティの警告」が表示される場合があります。Microsoft Officeでは、マクロウィルス対策のために、認証されたマクロでない場合に、この警告を表示するようになりました。この警告を表示させないために以下の手順を試してください。

Microsoft Officeのアプリケーションを起動後、「セキュリティの警告」が表示される場合、「この作成者のマクロを常に信頼する」をオンにし、〈マクロを有効にする〉をクリックすると、以後、「セキュリティの警告」は表示されません。

「この作成者のマクロを常に信頼する」をオンにできない場合は、以下の手順をお試ください。ここではWordで表示された場合について説明していますが、Excel, PowerPointの場合の操作も同じです。

手順

1. 〈詳細〉をクリックします。



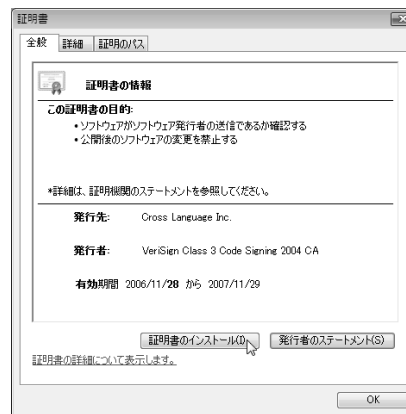
デジタル署名の詳細が表示されます。

2. 〈証明書の表示〉をクリックします。



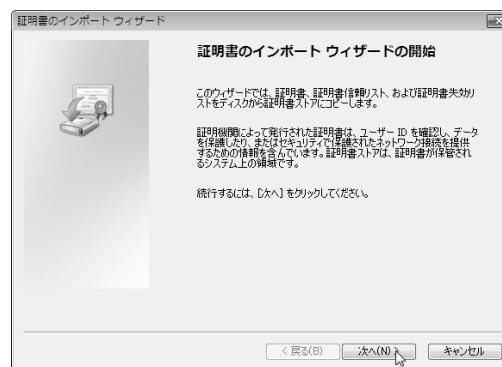
証明書が表示されます。

3. 〈証明書のインストール〉をクリックします。

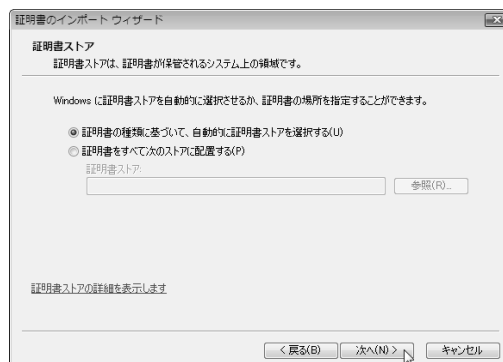


証明書のインポートウィザードが開始されます。

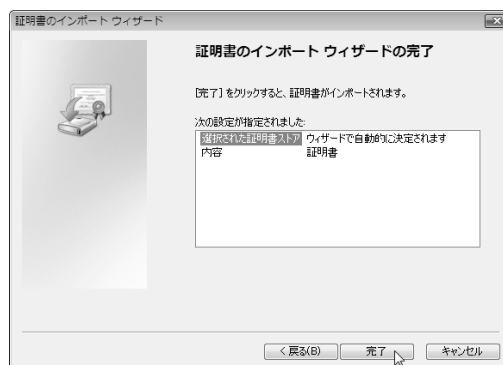
4. 〈次へ〉をクリックします。



5. 「証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」をオンにし、〈次へ〉をクリックします。

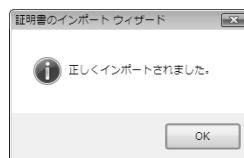


6. 〈完了〉をクリックします。



ルート証明書ストアが表示されます。

7. 正しくインストールされると次のダイアログが表示されます。〈OK〉をクリックします。



8. 証明書ダイアログとデジタル署名の詳細ダイアログを閉じてください。
最初のセキュリティの警告ダイアログを閉じて、Wordを終了してください。
9. Wordを再起動してください。
10. Word起動後、「セキュリティの警告」が表示されますが、「この発行者のマクロを常に信頼する」チェックボックスをオンにし、「マクロを有効にする」をクリックすると完了です。



次回起動から「セキュリティの警告」は表示されなくなります。



セキュリティレベルが「最高」と設定されている場合、Transerが提供するマクロを使用することはできません。Transerが提供するマクロを使用する場合は、セキュリティレベルを「高」以下に設定してください。

付録2 辞書と翻訳メモリの共有

Transterでは、ネットワーク経由でユーザー辞書やユーザー翻訳メモリを共有して利用することができます。辞書や翻訳メモリを共有することにより、翻訳作業をグループで行う場合、用語を統一し訳質を均一化することができます。ここでは、辞書・翻訳メモリを共有するための環境構築や共有辞書・翻訳メモリの更新方法について説明します。以降では共有辞書と共有翻訳メモリを総称して「共有ファイル」と記載します。

付録2.1 共有とは

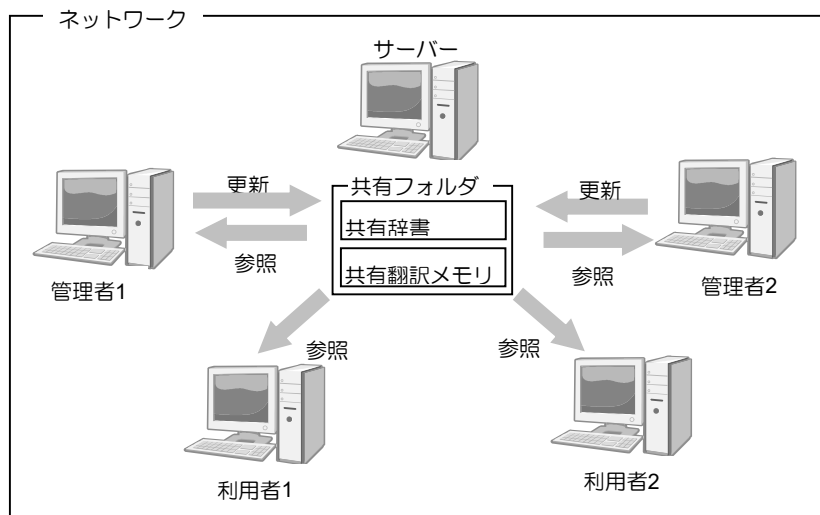
共有とは、ネットワーク上の共有フォルダにユーザー辞書や翻訳メモリを保存し、複数のユーザーが共有して利用することを言います。

- 共有ファイルを利用するための条件

- ネットワークを構築して、すべてのユーザーが参照でき、「管理者」権限を有するユーザーはファイルを更新できる共有フォルダを作成すること
- 利用者はエクスプローラから共有ファイルの保存されているネットワークボリュームにアクセスできること
- Windows Vistaの場合、コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」の「ネットワーク探索」を「有効」と設定すること

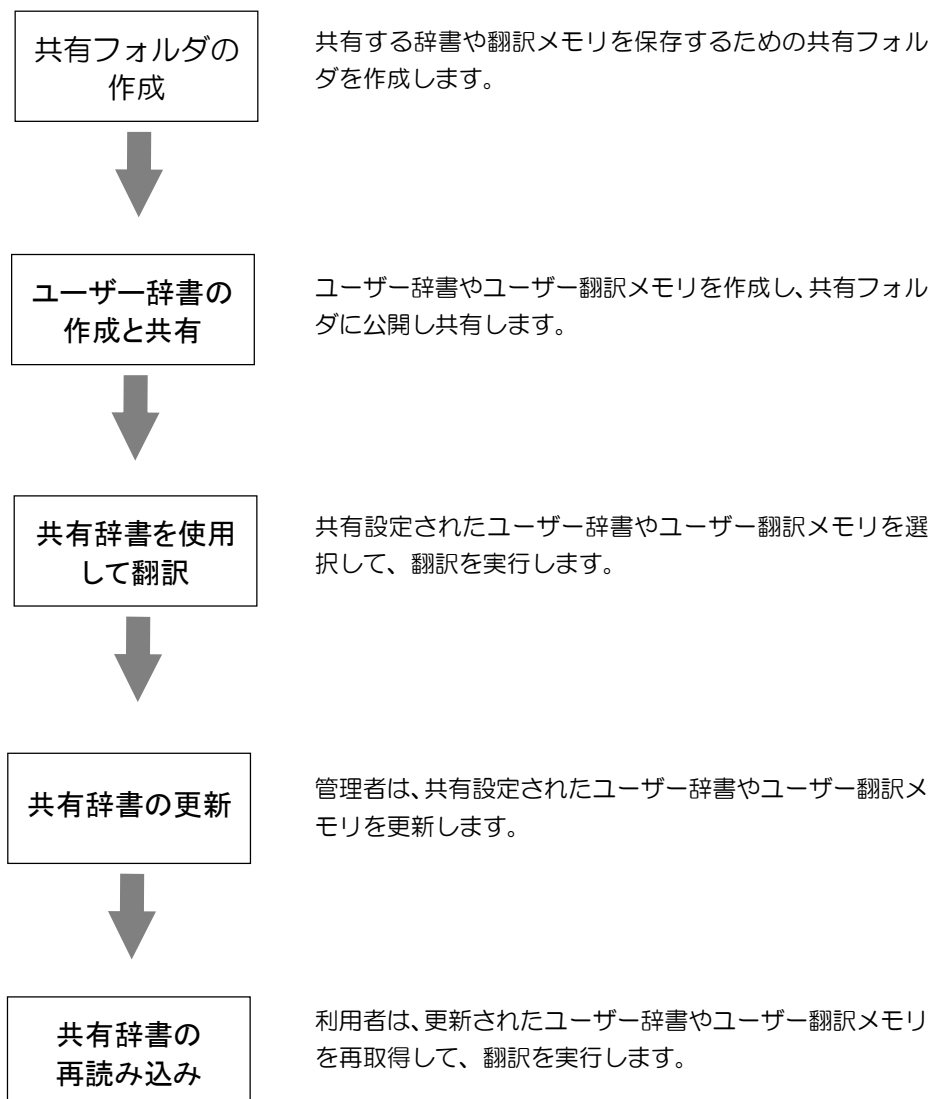
- 共有ファイルの管理者と利用者

共有ファイルには、「管理者」と「利用者」を設定することができます。
「管理者」は共有ファイルを更新したり、翻訳で使用することができます。
「利用者」は共有ファイルを使用して翻訳を実行することができます。
管理者を設定することにより、ファイルを更新できるユーザーを限定し、誤った操作を防ぐことができます。



付録2.2 共有設定の流れ

辞書や翻訳メモリを共有するためには以下の操作が必要になります。



付録2.3 ユーザー辞書・翻訳メモリを共有ファイルとして公開する

ユーザー辞書・ユーザー翻訳メモリを作成し、共有ファイルとして公開する方法について説明します。共有ファイルとして公開することにより他のユーザーが共有して使用できるようになります。



専門語辞書や基本語辞書を共有することはできません。

共有するユーザー辞書・翻訳メモリを作成します。ユーザー辞書の作成については『4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』と『4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を、ユーザー翻訳メモリについては『3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する』を参照してください。

作成した辞書や翻訳メモリを共有ファイルとして公開する手順は以下のとおりです。

以降ではユーザー辞書の手順について説明していますが、ユーザー翻訳メモリにおいても手順は同じです。

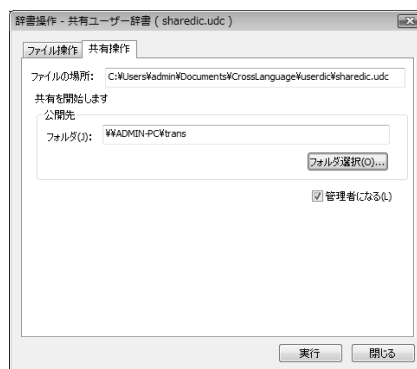
手順

1. [翻訳]－[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックします。

辞書設定ダイアログが表示されます。



2. 共有するユーザー辞書を選択して、〈辞書操作〉をクリックします。
辞書操作ダイアログが表示されます。
3. 「共有操作」タブをクリックします。
4. 「フォルダ」に共有辞書として公開する、共有フォルダを指定します。
〈フォルダ選択〉をクリックして表示されるフォルダの参照ダイアログからフォルダを指定することもできます。
「管理者になる」チェックボックスはオンのままにします。



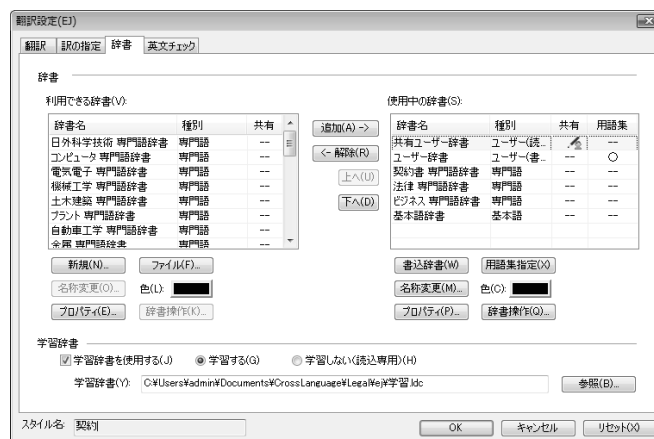
共有フォルダ名を直接入力する場合は、以下のとおりにUNCパスで指定します。

\\<サーバー名>\<共有フォルダ名>

管理者は辞書を更新することができます。

5. 「実行」をクリックします。処理が完了したというメッセージが表示されるので「OK」をクリックします。

これで、ユーザー辞書が共有設定され、「共有」に  と表示されます。



 アイコンは、設定している辞書が共有辞書でこの辞書の管理者権限を有することを示しています。

付録2.4 共有ファイルを使用して翻訳

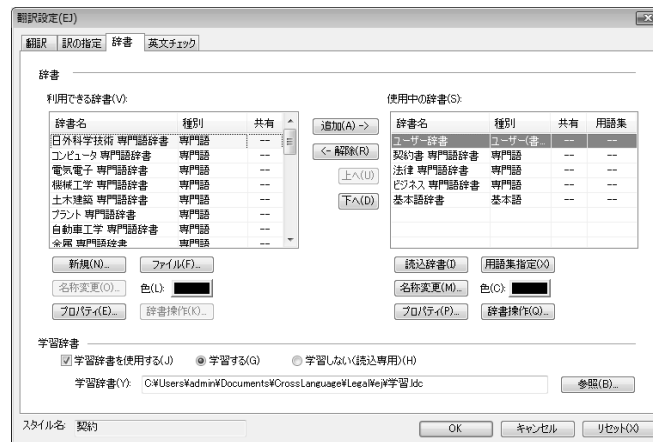
共有ファイルとして公開されているユーザー辞書・翻訳メモリを設定して、翻訳する手順について説明します。

以降ではユーザー辞書を共有設定する手順について説明していますが、ユーザー翻訳メモリにおいても手順は同じです。

手順

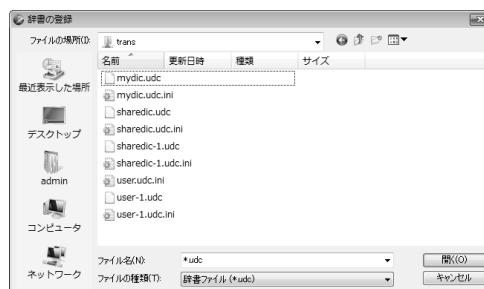
1. [翻訳]－[翻訳設定]を選択して「辞書」タブをクリックします。

辞書設定ダイアログが表示されます。



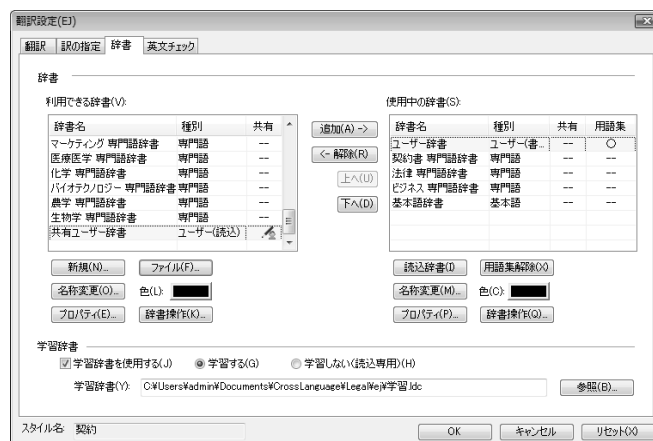
2. 「利用できる辞書」の下部にある〈ファイル〉をクリックします。

辞書の登録ダイアログが表示されます。



3. 共有フォルダへ移動し、共有する辞書ファイルを選択して〈開く〉をクリックします。

辞書設定ダイアログに戻り、選択した辞書が「利用できる辞書」リストに追加されます。



4. 「利用できる辞書」リストにある共有辞書を選択して「追加」をクリックします。

選択した辞書が「使用中の辞書」リストに追加されます。



これで、ユーザー辞書が共有され、「共有」に🔒と表示されます。
🔒アイコンは、設定している辞書が共有辞書でこの辞書の管理者権限を持っていないことを示しています。したがって、この共有辞書を参照することはできますが、更新することはできません。

5. 「OK」をクリックします。

これで、共有辞書が設定されました。

6. 翻訳エディタで原文を入力し、翻訳を実行します。

共有辞書を利用して翻訳が実行されます。

付録2.5 共有ファイルの更新

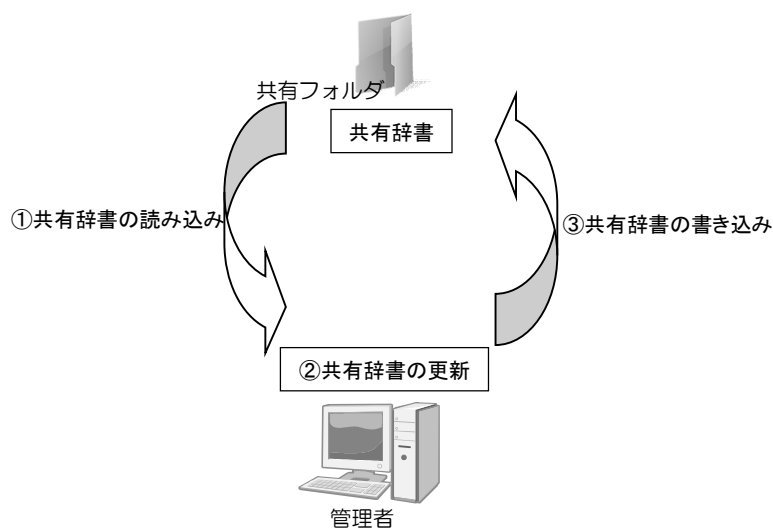
共有ファイルの更新方法は、通常の辞書や翻訳メモリの更新方法と同じです。ユーザー辞書の更新については『4.8 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』と『4.9 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を、ユーザー翻訳メモリについては『3.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する』を参照してください。以降では共有辞書を更新する動作について説明していますが、ユーザー翻訳メモリにおいても手順は同じです。

● 共有ファイルを更新した場合の動作

共有辞書を更新すると、Transerは以下のとおりに動作します。

①辞書の読み込み → ②辞書の更新 → ③辞書の書き込み

- ①共有フォルダから共有ユーザー辞書を読み込みます。
- ②共有ユーザー辞書を更新します。
- ③更新した共有ユーザー辞書を共有フォルダに書き込みます。



付録2.6 共有ファイルの再読み込み

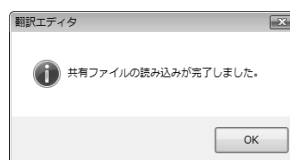
共有ファイルは管理者によって更新されます。共有ファイルが更新された場合、利用者はこれらを再読み込みして、最新の共有ファイルを利用することができます。

再読み込みの手順は以下のとおりです。

手順

1. [ツール]－[共有]－[すべての共有ファイルを再読み込む]を選択します。

共有ファイルが再読み込みされ、次のダイアログが表示されます。



2. 〈OK〉をクリックします。

すべての共有ファイルが再読み込みされ、最新の状態になりました。

3. 翻訳エディタで原文を入力し、翻訳を実行します。

最新の共有ファイルを利用して翻訳が実行されます。

付録2.7 共有ファイルの確認

設定されている共有ファイルを一覧表示することができます。また、特定のファイルを指定して共有フォルダから再読み込みすることができます。

[ツール]－[共有]－[共有ファイルの確認]を選択します。



• 共有ファイルのアイコン

権限に応じて共有ファイルには、以下のアイコンが付与されます。

アイコン	説明
	管理者権限を有する
	管理者権限を持たない
	管理者が設定されていない
	管理者が不明（『付録2.11 注意事項』を参照）

管理者については、『付録2.10 管理者と利用者』を参照してください。

• 共有ファイルの表示

ダイアログ上部にある各ボタンをクリックすると、表示する情報を変更することができます。

〈すべて〉：共有しているすべてのユーザー辞書とユーザー翻訳メモリを表示

〈EJ辞書〉：共有している英日用ユーザー辞書を表示

〈JE辞書〉：共有している日英用ユーザー辞書を表示

〈翻訳メモリ〉：共有しているユーザー翻訳メモリを表示

• リストの更新

共有ファイルが更新されているか確認することができます。

〈リスト更新〉をクリックすると、共有フォルダに保存されているファイルが更新されているか確認します。更新されている場合は、「更新」に「○」と表示されます。

• 共有ファイルの再読み込み

共有ファイルを再読み込みすることができます。

「対象」で、再読み込みを実行する条件を指定します。

リストのファイルすべて

リストに表示されているすべてのファイルが対象

更新されたファイルのみ

共有フォルダをチェックし更新されているファイルが対象

選択されたファイルのみ

リストで選択しているファイルが対象

〈読み込む〉をクリックすると、対象となるファイルが再読み込みされます。

付録2.8 共有ファイルの共有解除

共有している辞書・翻訳メモリの設定を解除することができます。
共有解除した辞書・翻訳メモリは、ホームディレクトリに保存されます。
共有解除の手順は以下のとおりです。

手順

1. 辞書設定ダイアログで共有解除する辞書を選択して、〈辞書操作〉をクリックします。

辞書操作ダイアログが表示されます。

2. 「共有操作」タブをクリックします。
3. 「共有解除」をオンにして、〈実行〉をクリックします。



4. 共有解除を確認するメッセージが表示されるので〈はい〉をクリックします。
5. 共有を解除したというメッセージが表示されるので〈OK〉をクリックします。

辞書設定ダイアログに戻り「共有」に「--」と表示されます。

6. 〈OK〉をクリックして、辞書設定ダイアログを閉じます。

これで、共有設定が解除されました。

共有解除したファイルは、ホームディレクトリに保存されます。

付録2.9 辞書の保存場所の変更と削除

共有ファイルも通常の辞書・翻訳メモリと同様に、コピーの作成、保存場所の移動、削除を実行することができます。

管理者権限を有さない共有ファイルは、コピーすることはできますが、移動と削除を実行することはできません。

手順については、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

共有ファイルを移動／削除すると、他の利用者はこのファイルを共有できなくなるので注意してください。共有ファイルの読み込みに失敗した場合の動作については、『付録2.11 注意事項』を参照してください。

付録2.10 管理者と利用者

共有ファイルには「管理者」と「利用者」権限を付与することができます。
 管理者は、共有ファイルを参照、更新、コピー、移動、削除することができます。
 利用者は、参照、コピーすることができます。
 共有ファイルごとに複数の管理者を設定することができます。

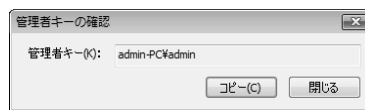
● 管理者の追加と削除

複数の管理者を設定することができます。
 管理者を追加する操作は、管理者権限を有する共有ファイルに対して行えます。
 管理者を追加する場合、管理者となるユーザーの「管理者キー」を取得する必要があります。まず、管理者キーを確認して、管理者の追加を実行します。
 手順は以下のとおりです。

手順

1. 「管理者」に追加するユーザーの環境で[ツール]－[共有]－[管理者キーの確認]を選択します。

管理者キーの確認ダイアログが表示されます。



2. 「管理者キー」を確認します。
 たとえば、〈コピー〉をクリックしてキーをコピーし、メールに貼り付けて管理者へ送信します。

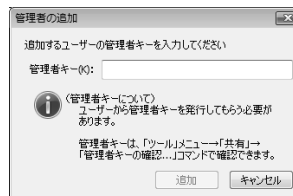
これで、管理者キーを取得することができます。

3. 管理者の環境で、[ツール]－[設定]－[辞書]を選択します。
 管理者を追加する共有ファイルを選択して、〈辞書操作〉をクリックします。

辞書操作ダイアログが表示されます。

4. 「共有操作」タブをクリックします。
5. 「管理者の変更」をオンにして、〈追加〉をクリックします。

管理者の追加ダイアログが表示されます。



6. 「管理者キー」に管理者として追加するユーザーの管理者キーを入力し、〈追加〉をクリックします。

辞書操作ダイアログに戻り、管理者が追加されます。



7. 〈実行〉をクリックします。
8. 管理者が変更されたというメッセージが表示されるので、〈OK〉をクリックします。

これで、管理者が追加されました。

管理者に追加された環境で設定ダイアログを開くと「共有」に🔒アイコンが表示されます。

● 管理者が設定されていない場合

共有ファイルに管理者が設定されていない場合、すべての利用者が共有ファイルを更新することができます。

また、すべての利用者が自分自身を管理者と設定することができます。

自分自身を管理者と設定する場合は、辞書操作ダイアログの「共有操作」タブで、「管理者の変更」をオンにして、〈管理者になる〉をクリックします。

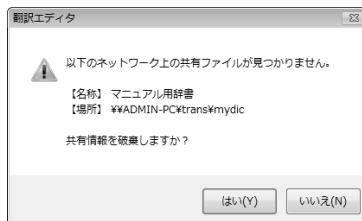
現在の管理者リストに追加されます。これで、管理者と設定されました。

付録2.11 注意事項

共有ファイルを使用して翻訳を実行する場合の注意事項について説明します。

● 共有ファイルの読み込みに失敗した場合

Transerは、起動時や辞書更新の際、設定されている共有ファイルを読み込みます。ネットワークが遮断している、共有フォルダのあるサーバーが起動していない、共有ファイルの保存場所が移動されたなどの理由により、共有ファイルの読み込みに失敗すると、次のメッセージが表示されます。



共有設定を破棄した場合

共有設定を破棄すると共有設定が解除され、ファイルはホームディレクトリに保存されます。

共有設定を破棄しない場合

共有設定を破棄しない場合、辞書設定ダイアログのリストに共有ファイルとして表示されますが、共有ファイルの読み込みや更新はできない状態です。「共有」項目にはアイコンが表示されます。

ネットワーク接続、共有ファイルの保存場所などを確認し、エクスプローラからネットワークボリュームにアクセスできる環境にすると、共有ファイルを更新することができます。

● 共有ファイルを定期的に再読み込みする

グループ内で共有ファイルを使用している場合、すべての利用者が最新の共有ファイルを参照すれば翻訳結果が同一になります。Transerは起動時に共有ファイルを読み込みますが、翻訳作業中に共有ファイルを更新した場合は、グループ内のすべての利用者が共有ファイルを再読み込みするようにしてください。

付録3 HTMLファイルの翻訳

Transerでは、インターネットのホームページで使われているHTML形式のファイルを読み込んで翻訳し、翻訳結果をHTML形式でファイルに出力することができます。

ただし、変換の際にいくつかの制限があります。この章では、HTMLファイルの翻訳の手順と制限について説明します。

付録3.1 HTMLファイル読み込み時の処理

TranserではHTMLファイルのタグ情報を設定に従って読み込みます。基本設定ではタグ情報は次のように分類されます。詳細は、『付録3.7 HTMLファイル読み込み時の基本設定』を参照してください。

- 文切りしないタグ

読み込まれたタグ情報は翻訳時にフレーズに変換されます。翻訳対象になるのはタグ情報に付加されているテキスト部分のみとなります。

- 翻訳しないタグ情報

翻訳しないタグ情報は無視され、付加されているテキストとともに翻訳エディタには表示されません。

- 削除するタグ情報

翻訳結果の表示に影響する可能性のあるタグ情報は、ファイル読み込み時に削除されます。



ヒント

タグに囲まれていない文字列は翻訳対象です。

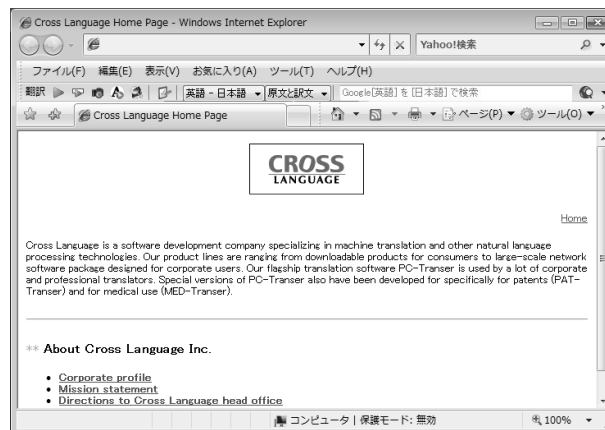
付録3.2 HTMLファイルを開く

あらかじめ、HTMLファイルを作成しておく必要があります。HTMLファイルは、Webブラウザで[ファイル]―[名前を付けて保存]などを実行したり、直接エディタで編集したりして作成されます。詳細はブラウザのマニュアルを参照してください。

HTMLファイルを開くには、[ファイル]―[開く]を選択して、「ファイルの種類」で「HTMLファイル」を選択します。

HTMLファイルを開く際に「フィルタ」と「スクリプト」を指定することができませんが、ファイルに含まれる制御コードやタグなどの影響により、期待した置換が行われない場合がありますので、ご注意ください。

● HTMLファイルの読み込みの例



このHTMLファイルを読み込むと、翻訳エディタは次のように表示されます。

1	Cross Language Home Page	
2	Home	
3	Cross Language is a software development company specializing in machine translation and other natural	

● 翻訳エディタの表示

- 翻訳対象となるタグフレーズが表示される
- 翻訳対象外となるタグ情報はテキストを含め表示されない

付録3.3 タグフレーズ

翻訳エディタではタグ情報を翻訳するとフレーズに変換します。これを「タグフレーズ」といいます。タグフレーズは通常のフレーズ指定と異なり各フレーズが関連付けられたHTMLタグ情報を持っています。

翻訳エディタでタグフレーズは、[ツール]－[環境設定]－[フォントと配色]で設定した色で表示されます。

メモ 読み込み時の表示例（HTMLソース）は記述方法によって異なります。

```
<html>
<head><title>Cross Language Home Page</title></head>
<body>
<p align="center">

<p align="right"><b><a href="home.html">Home</a></b>
<p>Cross Language is a software development company specializing in
machine translation and other natural language processing technologies. Our
product lines are ranging from downloadable products for consumers to
large-scale network software package designed for corporate users. Our
flagship translation software PC-Transer is used by a lot of corporate and
professional translators. Special versions of PC-Transer also have been
developed for specifically for patents (PAT-Transer) and for medical use
(MED-Transer).
<p>
<hr>
<p>
** About Cross Language Inc.
<!-- About Cross Language Inc. -->
<ul>
<li><a href="about/PL.html">Product lineup</a>
<li><a href="company.html">Corporate profile</a>
<li><a href="concept.html">Mission statement</a>
<li><a href="newmap.html">Directions to Cross Language head office</a>
</ul>
</ul>
```

メモ 太字で書かれた部分が翻訳エディタ上に表示されます。

付録3.4 HTMLファイルの翻訳

翻訳の前に文切りがうまく行われているかどうかを確認してください。HTMLファイルではHTMLタグを含め、一文として記述されている部分が分割されている場合があります、そのままでは正しい翻訳結果が得られないことがあります。翻訳エディタに読み込まれた文書を翻訳すると次のようになります。

T	1	Cross Language Home Page	クロスランゲージ・ホームページ
T	2	Home	ホーム
	3	Cross Language is a software development company specializing in machine translation and other natural language	クロスランゲージは、機械翻訳と他の自然言語処理技術を専門としているソフトウェア開発会社である。

タグフレーズを含んだ文でも翻訳後の操作は通常と同じように行うことができます。訳語対応、訳語変更やフレーズ指定などを行って翻訳結果を修正できます。

● タグ情報を含む文の結合

翻訳エディタに読み込まれた文と文の間には、翻訳対象外の翻訳エディタには表示されていないタグ情報が含まれている場合があります。このような文を翻訳エディタで結合すると、間にある翻訳対象外のタグ情報は翻訳対象として結合した文中に表示されるようになります。

付録3.5 タグフレーズの編集

タグフレーズに変換された状態でも、テキスト部分はそのまま編集することができます。テキストに編集を加え、再翻訳してください。

タグ情報を編集する場合は、タグフレーズを解除する必要があります。元に戻す文にカーソルを置き、[フレーズ/語]―[フレーズ解除]を選択します。たとえば、前述の例の文番号8に[フレーズ解除]を実行すると次のようになります。

T	8	About Cross Language Inc.	株式会社クロスランゲージについて
	9	Corporate profile	 会社プロフィール
	10	Mission statement	任務記載

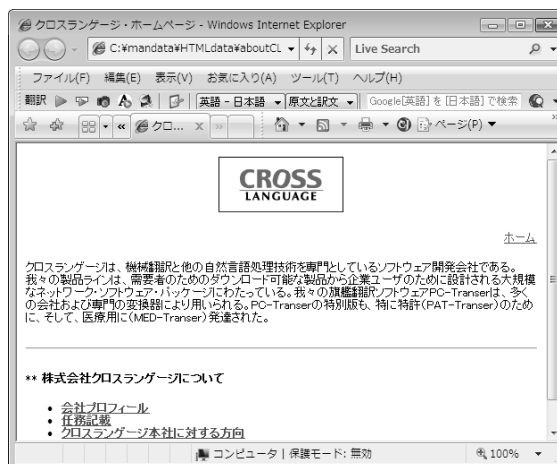
タグ情報およびテキストを編集することができます。再翻訳するとタグフレーズに変換されます。

付録3.6 HTMLファイルの翻訳結果

翻訳や編集が終了したら、[ファイル]－[名前を付けて保存]を選択してHTMLファイルを書き出します。名前を付けて保存ダイアログで「ファイルの種類」に「HTMLファイル（訳文）」を選択して、保存してください。

保存ダイアログにおいて、「フィルタ」と「スクリプト」を指定することができますが、ファイルに含まれる制御コードやタグなどの影響により、期待した置換が行われない場合がありますので、ご注意ください。

保存したファイルをInternet Explorerで開くと次のように表示されます。



翻訳作業中のHTMLファイルは、翻訳ファイルに保存することができます。編集するために再度開く場合は、翻訳ファイルのみが必要です。原文ファイル（最初に読み込んだHTMLファイル）は必要ありません。

● ブラウザ表示

文書を保存する前に翻訳結果を確認することができます。

[表示]－[ブラウザ表示]を選択すると、EJまたはJEタブに表示されている文書をWeb検索画面に表示します。

付録3.7 HTMLファイル読み込み時の基本設定

HTMLファイル読み込み時の処理は設定ファイルに従って行われています。設定ファイルはTransterをインストールしたフォルダの「common」フォルダの下の「dtd」フォルダにある、「html.cat」ファイルです。これを「カタログファイル」といいます。HTMLファイル読み込み時に使用するカタログファイルは「html.cat」です。

HTMLファイル読み込み時には、カタログファイルが必要です。標準で用意されているカタログファイル「html.cat」には、次のように記述されています。

```
DTD    CL_HTML.dtd
REMOVE htmlrmv.tbl
IGNORE htмлignr.tbl
TRANSLATE htмлtran.tbl
```

DTD行以降の優先度は、REMOVE行、IGNORE行、TRANSLATE行の順になります。REMOVE行に記述された設定ファイルとTRANSLATE行に記述された設定ファイルに同じタグの記述がある場合は、REMOVE行の処理が優先されます。REMOVE行、IGNORE行、TRANSLATE行は削除することもできます。DTDに定義されているタグ情報を基に文切りが行われます。

カタログファイルでは、1行に1ファイル名ずつ記述します。先頭に「#」をつけると、コメント行になります。



ヒント

カタログファイルで設定するすべてのファイルは「dtd」フォルダに入れてください。

● DTD行

HTML 4.01に対応したCL_HTML.dtdが設定されています。使用するDTD（Document Type Definition）ファイルのファイル名を記述します。DTDファイルとは、文書構造を定義しているファイルです。ここで指定されるDTDファイルに定義されているタグに従って、HTMLファイルの文切りが行われます。DTD行は、15行までです。

【例】別のDTDファイルを使用する場合、DTD行を次のように記述します。

```
DTD    htмл401.dtd
```

● REMOVE行

初期状態では「htmlrmv.tbl」ファイルが設定されています。このファイルに記述されたタグは、読み込み時に削除されますが、タグを除いたテキスト部分は翻訳エディタに読み込まれます。「名前を付けて保存」で「訳文ファイル」を作成した場合、この設定ファイルに含まれるタグは訳文ファイルに書き出されませんが、タグに囲まれたテキストは翻訳されて訳文ファイルに書き出されます。

● IGNORE行

初期状態では"htmlignr.tbl"ファイルが設定されています。このファイルに記述されたタグは、翻訳対象外のタグ情報として扱われます。タグに囲まれたテキストは、翻訳エディタには表示されません「名前を付けて保存」で「訳文ファイル」を作成した場合、この設定ファイルに含まれるタグに囲まれたテキストは翻訳されずに訳文ファイルに書き出されます。

● TRANSLATE行

初期状態では"htmltran.tbl"ファイルが設定されています。このファイルに記述されたタグは、文切りしないタグ情報として扱われ、テキスト部分は翻訳エディタに読み込まれてフレーズ指定されます。「名前を付けて保存」で「訳文ファイル」を作成した場合、この設定ファイルに含まれるタグと、タグに囲まれたテキストは翻訳されて訳文ファイルに書き出されます。

● テーブル(.tbl)ファイルの書式

各"*.tbl"ファイルは次の書式で記述します。

- 1行に1つのタグを記述する
- 先頭に「#」を付加すると処理されずにコメントとして扱われる



閉じるタグの記述は、DTDの定義において省略が可能である場合にも記述してください。

付録3.8 HTMLファイル読み込み時のエラー

HTMLファイルの読み込み時、初期設定では、CL_HTML.dtdの定義に従ってHTMLタグを判断します。

タグが正常に閉じられていないなど、タグの記述が間違っている場合は、構文解析時にエラーとなり、エラーの内容をファイルへ書き出します。HTMLファイルの読み込みを続行することはできますが、エラーファイルの内容を確認し、HTMLファイルを修正してから再度読み込んでください。エラーファイルはTransterをインストールしたフォルダのej（je）フォルダの下のworkフォルダに作成されます。

【エラー例】

「SGML/HTML構文解析時に問題点が見つかりました。詳細はエラーファイルを参照して下さい。」

【対処法】

HTMLタグの記述に間違いがあるか、必要な記述が抜けている可能性があります。参考までにエラーファイルの例と考えられる要因をいくつかあげます。

error: (xx行目): ‘エラー文字 = xx’: parse error	
<TABLE	タグが閉じられていない（>がない）
	リテラル（"）が足りない（"が足りない）
<http://www.xx.xx>	記述がおかしい（<>内に記述できない特殊キャラクターを使用）



エラー行番号は前後する場合があります。エラー行番号と文番号は一致しません。エラーとなったHTMLファイルは他のエディタで確認してください。

CL_HTML.dtdに定義されていないタグを使用している場合は、エラーが表示されますがそのまま読み込まれます。翻訳エディタには読み込まれないタグ情報などが読み込まれたりしますが、特に問題はありません。このエラーは使用しているタグが定義されているDTDファイルを使用するか、CL_HTML.dtdにタグの定義を追加すれば解消されます。

メモ タグ名が間違っている場合は、定義されていないタグとして扱います。

【エラー例】

「SGML/HTML文書構造に不整合がありました。」

【対処法】

<BADDY>	DTDに定義されていない、タグ名が間違っている（<BODY>）
<BODY><HTML>	DTDの定義に合わない記述（<HTML><BODY>）

付録4 フォルダ構成とホームディレクトリ

Transerでは、英→日、日→英で共通に使用するファイルは同じフォルダに保管します。また、1台のパーソナルコンピュータを複数のユーザーが使用した場合、ユーザーごとに環境を設定できる構成になっています。

● フォルダ構成

初期状態でTranserをインストールすると、次のファイルがフォルダが作成されます。

[Program Files]→[CrossLanguage]→[Legal-TranserV2]

その中に「common」、「bin」、「ej」、「je」、「learn」、「Roboword7」、「support」、「edit_je」の各フォルダが作成されます。

各フォルダには、以下のファイルが保存されます。

● Transerのインストールフォルダ

フォルダ	説明
bin	Transerの実行ファイル、翻訳パレットの実行ファイルなどTranserのシステムファイルが保存されます。
common	英→日と日→英で共通に使用するファイルが保存されます。たとえば、翻訳メモリファイルが保存されています。
ej	英→日用翻訳エンジンや文法ルールが保存されます。
je	日→英用翻訳エンジンや文法ルール保存されます。
learn	練習用のテキストファイルが保存されます。同じファイルが、ホームディレクトリの下のlearnフォルダにも保存されます。
Roboword7	ロボワードに関するファイルが保存されます。
support	製品に関するサポート情報が保存されます。
edit_je	日英翻訳の精度を向上させるための「日英翻訳のコツ」が保存されています。

● [Program Files]→[Common Files]→[CrossLanguage]フォルダ

フォルダ	説明
Addins	Officeアドイン、IEアドイン、メール翻訳がインストールされます。
App	辞書参照用ツール、ワンポイント翻訳、キャプチャ翻訳、PDFダイレクトファイル翻訳がインストールされます。
Lib	各種ライブラリがインストールされます。
Tools	アドイン設定ツールがインストールされます。

- ホームディレクトリ

Transerでは、複数のユーザーが同じパーソナルコンピュータを使用した場合に、個人ごとの環境を構築できるように個人ごとの「ホームディレクトリ」が作成されます。ホームディレクトリの場所は、以下のとおりです。

Windows 7：[ライブラリ]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]

Vista：[ユーザー名]→[ドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]

XP：[マイドキュメント]→[CrossLanguage]→[Legal]

ej, jeフォルダの中には、各ユーザーの学習辞書とスタイルが保管されます。また、ユーザー辞書を新規作成する場合、初期状態ではホームディレクトリの下のej, jeフォルダがファイルの作成場所になります。ホームディレクトリの下のlearnフォルダには、練習用のテキストファイルが保存されています。

- ホームディレクトリの確認

ホームディレクトリの場所は、[ヘルプ]－[バージョン情報]を選択すると、表示されます。

付録5 Transerが作成するファイル

Transerは、翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果をテキストファイルに保存することができます。また、訳語の学習、ユーザー辞書の構築などにおいて辞書ファイルを作成します。

翻訳作業においてTranserが作成するファイルは以下のとおりです。

付録5.1 英→日で作成するファイル

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.edh	翻訳結果など、翻訳情報を保存
対訳ファイル	***_ej.txt	"--/"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存する。
対訳ファイル (カンマ区切り)	***_ej.csv	"原文", "訳文", "記号" 改行の順番でカンマで区切られた対訳文をテキストファイルに保存する。
訳文ファイル	***_j.txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存する。
原文ファイル	***_e.txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存する。
HTMLファイル (訳文)	***_j.html	訳文エリアの訳文のみをHTML形式で保存する。
学習辞書	***.dir ***.key ***.ldc	優先される訳語。「ホームディレクトリ」の下 のejフォルダの中に作成される。
ユーザー辞書	***.dir ***.key	登録した訳語
専門語辞書	***.udc	分野別に専門用語を収録した辞書
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。対訳文は、 文型を含むこともできる。
頻度リスト ファイル	***_freq.txt	原文に多く含まれる語句のリストファイル
未知語リスト ファイル	***.opt	原文に含まれる未知語のリストファイル

● ファイルを翻訳する

たとえばtestというテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、test.edhファイルが作成されます。test.edhファイルをTranserで開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 学習辞書を参照する

翻訳作業中に[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]にある「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにすると、学習辞書が作成されます。
初期状態で学習辞書は、ホームディレクトリの下のejフォルダにある「learn.dir」、「learn.key」、「learn ldc」の3つのファイルから構成されています。



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けると学習辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

学習辞書を作り直す場合は、3つのファイルを削除して英→日を再起動します。新たに学習辞書が作成されます。

または、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]の「学習辞書の場所」で新規作成／変更を行います。

● ユーザー辞書を作成する

英→日では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で新規作成できます。詳細は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで指定したファイル名に".dir"、".key"、".udc"を付加した3つのファイルで構成されます。



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、3つのファイルを削除します。



ヒント

基本語辞書、専門語辞書も翻訳の参照用として使用するファイルですが、追加・更新はできません。

付録5.2 日→英が作成するファイル

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.jdh	翻訳結果など、翻訳情報を保存
対訳ファイル	***_je.txt	"--/"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存する。
対訳ファイル (カンマ区切り)	***_je.csv	"原文", "訳文", "記号" 改行の順番でカンマで区切られた対訳文をテキストファイルに保存する。
訳文ファイル	***_e.txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存する。
HTMLファイル (訳文)	***_e.html	訳文エリアの訳文のみをHTML形式で保存する。
原文ファイル	***_j.txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存する。
学習辞書	***.jld	優先される訳語。「ホームディレクトリ」の下のjeフォルダの中に作成される。
ユーザー辞書	***.idx ***.jdc	登録した訳語
専門語辞書	***.idp ***.idx ***.jdc	分野別に専門用語を収録した辞書
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。対訳文は、文型を含むこともできる。
頻度リスト ファイル	***_freq.txt	原文に多く含まれる語句のリストファイル
未知語リスト ファイル	***.dic	原文に含まれる未知語のリストファイル

● ファイルを翻訳する

たとえば「テスト」というテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、「テスト.jdh」ファイルが作成されます。「テスト.jdh」ファイルをTranserで開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 学習辞書を参照する

翻訳作業中に[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で「学習辞書を使用する」チェックボックスをオンにすると、学習辞書が作成されます。

学習辞書は、ホームディレクトリのjeフォルダにある「learn.jld」というファイルです。学習辞書を作り直す場合は、学習辞書を削除して日→英を再起動します。新たに学習辞書が作成されます。

または、[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]の「学習辞書の場所」で新規作成／変更を行います。

● ユーザー辞書を作成する

日→英では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[翻訳設定]－[辞書]で新規作成できます。詳細は、『4.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで指定したファイル名に「idx」、「jdc」を付加した2つのファイルで構成されます。



これら2つのファイルのうち、どちらかでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、2つのファイルを削除します。



基本語辞書、専門語辞書も翻訳の参照用として使用するファイルですが、追加・更新はできません。

付録6 CROSS OCR

CROSS OCRの機能や操作について説明します。

付録6.1 CROSS OCRの準備

CROSS OCRの特徴、使用する前に必要な準備について説明します。

付録6.1.1 CROSS OCRの概要

「CROSS OCR」は、スキャナから読み込んだ画像を文字認識し、ファイルに保存したり、WordやExcelなどに転送することもできます。ここでは、CROSS OCRの特徴について説明します。

- 言語とコードに対応

CROSS OCRは、日本語と英語の認識に対応しています。内部コードコンバータにより、各言語に対して必要なコードに変換することができます。フォントの種類とフォントサイズも認識します。

- 強力な認識と編集機能

モノクロ、16色のグレイ、256色のグレイ、24bitカラー画像に対応しています。認識結果を内蔵のエディタをはじめ、Word, Excel, Adobe Acrobatなど他のソフトに、テキスト形式（.txt）、リッチテキスト形式（.doc）、Excel形式（.xls）、PDF文書（.pdf）のフォーマットで転送することができます。

- 強力な処理能力

自動領域分割機能を使ってテキスト、テーブルと画像の領域を分けて認識し、認識結果を元のイメージのまま外部エディタに送ることができます。
画像の部分は24bitカラー画像または16色のグレイ画像、256色のグレイ画像のままで外部エディタに送ることができます。
テーブルもそのまま認識して再現することができ、Excelへ送ることができます。

付録6.1.2 認識可能なデータ

CROSS OCRでは、以下の画像データに対応しています。

認識文字解像度	300-400dpi
読み込み画像形式	BMP, TIFF, JPEG, GIF, Portable Network Graphics (png)、Windowsメタファイル (WMF) ・ PCX (マルチページPCXは不可) テキストPDF ・ イメージPDF形式 ・ 透明テキスト付きPDF形式 (pdf)
認識結果の保存 (転送) 形式	Unicodeテキスト形式 (txt)、テキスト形式 (txt)、Word (リッチテキスト) 文書 (doc)、Excelファイル (xls)、PDF形式 (pdf)、透明テキスト付きPDF形式 (pdf)

付録6.1.3 CROSS OCRの起動と終了

CROSS OCRの起動と終了は以下のとおりです。

● CROSS OCRの起動

CROSS OCRは、翻訳パレットの〈OCR〉ボタンをクリックすると起動します。

● CROSS OCRの終了

CROSS OCRを終了するには、[ファイル]ー[アプリケーションの終了]を選択します。

CROSS OCRの閉じるボタン (⌵) をクリックしても、CROSS OCRは終了しません。

付録6.1.4 CROSS OCRの画面



画像ウィンドウ

スキャナから取り込んだ原稿や読み込んだ画像ファイルが表示されます。

認識結果ウィンドウ

文字認識結果の文章が表示されます。

言語設定バー

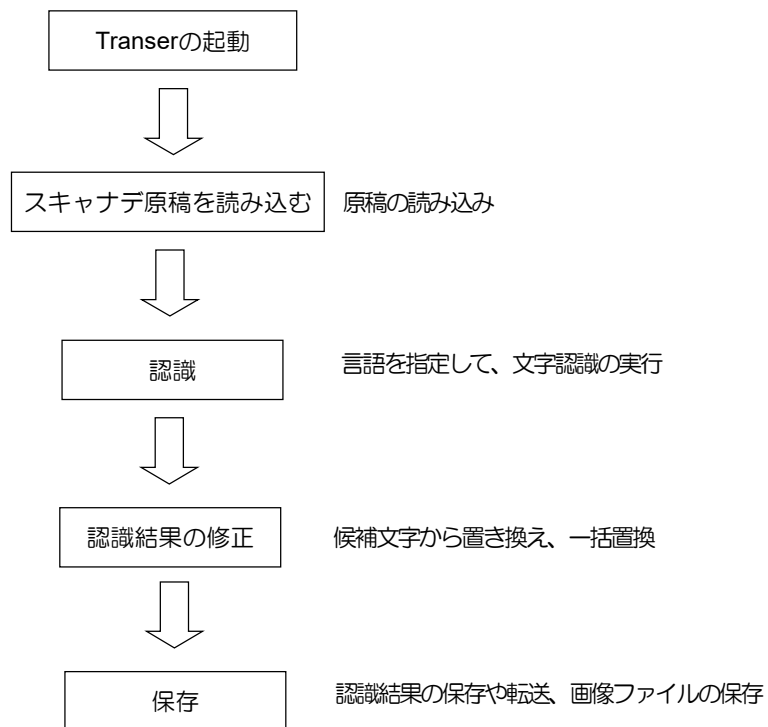
文字認識する領域の言語を指定します。

イメージリストバー

CROSS OCRへ読み込んだ画像ファイルがリストされます。イメージリストバーに表示されている画像ファイルをダブルクリックすると、画像ウィンドウに表示されます。

付録6.1.5 CROSS OCRの操作の流れ

CROSS OCRの基本操作の流れは、以下のとおりです。



付録6.1.6 CROSS OCRをはじめる前に

CROSS OCRを実行する前に、スキャナを接続したり、読み取る原稿を準備する必要があります。ここでは、文字認識を実行する前に必要となる作業について説明します。

● スキャナ接続

CROSS OCRは、32bit版TWAIN規格ドライバに対応しています。ご使用のスキャナに付属しているドライバをインストールして、スキャナを接続し、正常に動作することを確認してください。スキャナの接続については、スキャナに添付されているマニュアルを参照してください。

● 原稿の準備

読み取る原稿は、画質の良い元原稿を使用するようにしてください。たとえば、何度もコピーを取って、文字がにじんだり、かすれたり、ノイズ（ゴミ）の多い原稿、FAXで受信した原稿などは適していません。

新聞の場合は、コントラストを明確にするために、白い用紙にコピーしてからスキャンすることをお勧めします。

また、雑誌の場合、ページを開いてそのままスキャンすると本の厚さによっては、見開き部分の用紙がよれてしまうことがあるので、必要なページをコピーして、コピーした用紙をスキャンしてください。

● スキャナの準備

スキャナの読み取り面（ガラス面）に埃や指紋などがついていると、スキャンした画像に不要なゴミが含まれてしまいます。布などで拭いてきれいにしてください。スキャナの手入れについては、スキャナに添付されているマニュアルを参照してください。

付録6.2 CROSS OCRの基本操作

ここでは、スキャナから読み込んだ画像データに文字認識を実行し、認識結果をファイルに保存するまでの基本的な操作について説明します。各操作の詳細は、『付録6.3 リファレンス』を参照してください。

付録6.2.1 スキャナから原稿の読み込み

スキャナから画像データを読み込む手順は以下のとおりです。

手順

1. CROSS OCRを起動します。
2. スキャナに原稿をセットします。
3. 基本ツールバーの〈画像入力〉アイコンの▼をクリックして表示されるメニューから[スキャナ入力]を選択します。



または、[ファイル]—[スキャナ入力]を選択します。
 スキャナウィンドウが表示されます。



ヒント

スキャナから画像を取り込む際にTWAINドライバ(スキャナ取り込み画面)が起動します。スキャナ取り込み画面は、スキャナのメーカーや機種によって独自のアプリケーションを使用するため異なります。スキャナで取り込む際の操作手順等は、スキャナに付属しているヘルプや取扱説明書を参照してください。

4. 〈プレビュー〉をクリックします。

セットした原稿がスキャナウィンドウに読み込まれます。



ここで、原稿の傾き、かすれなどをチェックします。たとえば、かすれている場合は、色調整機能で白黒のコントラストを強くします。スキャナの使い方については、スキャナに添付されているマニュアルを参照してください。

5. 〈スキャン〉をクリックします。

CROSS OCRに画像が読み込まれます。



● 読み込んだ画像の編集

ノイズが含まれていたり、画像全体が傾いている場合などは、以下の方法で画像を編集します。

手順

1. 傾いた画像を補正します。

基本ツールバーの〈傾・回転〉アイコン  をクリックします。または、[画像の編集]－[画像傾き調節]－[傾き自動調節]を選択します。

自動的に傾いた画像を補正します。

2. 画像にあるノイズを除去します。

[画像の編集]－[画像のフィルタ]を選択します。

画像データにあるノイズ（黒点状の汚れ）は、除去されます。どの程度のノイズを除去するかは、環境設定ダイアログの「領域処理」タブにある「ノイズのサイズ」で指定します。「領域処理」タブについては、『付録6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

3. 画像にあるノイズを手動で消去します。

カーソル操作バーにある消しゴムアイコンを選択するか、または、[画像の編集]－[消しゴムモード]から消しゴムの種類を選択します。

点消しゴム  では点単位で画像を消すことができます。

線消しゴム  では線単位で画像を消すことができます。

長方形消しゴム  では長方形単位で画像を消すことができます。

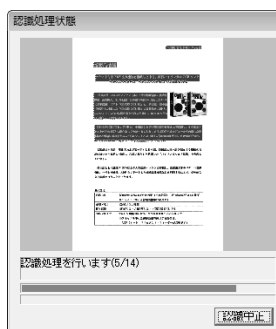
付録6.2.2 文字認識の実行

読み込んだ画像データに文字認識を実行します。

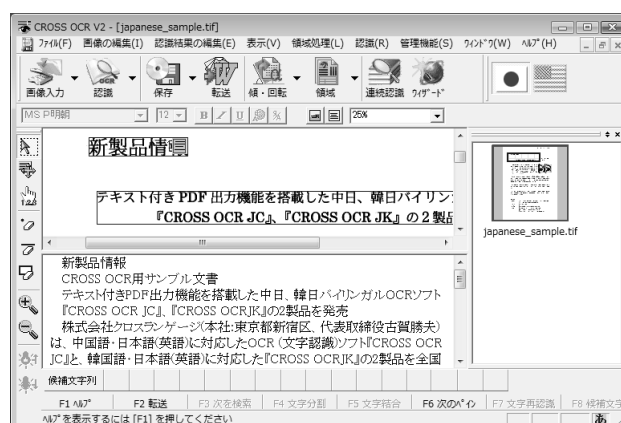
手順

1. 言語設定バーで、画像ファイルの言語を選択します。英語の場合はを、日本語の場合はをクリックします。
2. 基本ツールバーの〈認識〉アイコンをクリックします。または、[認識]―[現在ドキュメントの認識]を選択します。
3. 認識言語を確認するメッセージが表示される場合は、メッセージの内容を確認して、〈はい〉をクリックします。

傾き、認識領域などの自動確認が実行され、認識が開始されます。
認識実行中は、次の進捗状況が表示されます。



認識が終了すると、認識結果が、認識結果ウィンドウに表示されます。



付録6.2.3 認識結果の修正

文字認識の認識結果は、必ずしもすべて正しいとは限りません。

読み込んだ原稿がかすれていたり、つぶれた文字が含まれている場合、認識結果が誤っていることもあります。CROSS OCRには、認識結果を修正するさまざまな機能があります。

● ウィンドウの連動

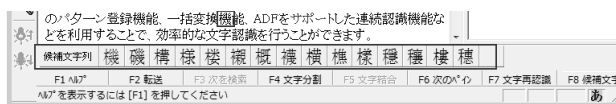
画像ウィンドウと認識結果ウィンドウは連動します。認識結果ウィンドウの任意の場所をクリックすると、画像ウィンドウの文字の背景色が黄色くなり、同時に対応する認識結果ウィンドウの文字が反転表示されます。また、英文の認識の場合、認識結果の単語をダブルクリックすることにより単語単位での確認も可能です。

● 直接文字を入力する

一番簡単な方法は、認識結果ウィンドウに正しい文字を直接入力して修正することです。認識結果ウィンドウで修正の必要な場所をクリックして、正しい文字を入力してください。

● 候補文字から修正する

画像ウィンドウまたは認識結果ウィンドウの任意の文字をクリックすると、ウィンドウ下部の「候補文字」エリアに認識結果に対する候補となりうる文字が表示されます。



「候補文字列」にある文字をクリックすると認識結果と置き換わり、パターンの登録ダイアログが表示されます。パターンの登録ダイアログで〈追加〉をクリックすると、「パターン」の画像が「文字」に入力されている文字として登録されます。〈戻る〉をクリックすると、候補文字で置き換えられた認識結果ウィンドウの文字が元に戻ります。

パターン登録については、『付録6.3.5.6 パターン登録』を参照してください。

付録6.2.4 認識結果の保存

CROSS OCRでは、認識結果の文書をテキスト形式で保存したり、WordやExcelへ転送することができます。

● テキストファイルに保存

認識結果ウィンドウの文書をテキストファイルに保存できます。
基本ツールバーの〈保存〉アイコンをクリックするか、または、[ファイル]—[認識結果の保存]を選択します。



名前を付けて保存ダイアログが表示されるので、「ファイルの種類」で、「テキストファイル」を選択します。「ファイル名」には、適切なファイル名を入力して保存します。

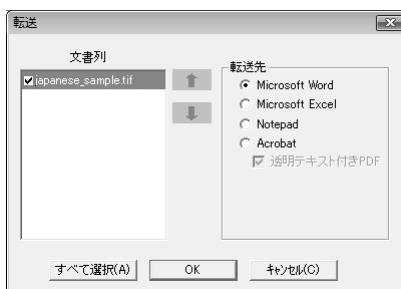
● 認識結果の転送

認識結果ウィンドウの文書をWordやExcelなどに転送できます。この機能を利用するためには、あらかじめ転送先となるアプリケーションをインストールしておく必要があります。

手順

1. 基本ツールバーの〈転送〉アイコンをクリックするか、または、[ファイル]—[認識結果の転送]を選択します。

転送ダイアログが表示されます。



2. 「文書列」から認識結果を転送する画像ファイルのチェックボックスをオンにします。
3. 「転送先」から転送先となるアプリケーションを選択します。

4. 〈OK〉をクリックします。

転送先として指定したアプリケーションが起動し、認識結果が表示されます。
必要に応じて、認識結果を編集したり、保存したりしてください。

付録6.3 リファレンス

ここでは、CROSS OCRの各機能について詳しく説明します。

付録6.3.1 画像の読み込みと編集

ここでは、画像ファイルの読み込みと、文字認識を実行する前に必要となる画像の編集方法について説明します。

付録6.3.1.1 スキャナから原稿の読み込み

スキャナからCROSS OCRへ原稿を読み込む方法を説明します。

スキャナから原稿を読み込む場合は、あらかじめCROSS OCRのインストールされているパソコンへスキャナを接続する必要があります。スキャナの接続については、『付録6.1.6 CROSS OCRをはじめる前に』を参照してください。

● スキャナから読み込み

スキャナから読み込む手順は以下のとおりです。

- 手順** 1. 基本ツールバーの〈画像入力〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[スキャナ入力]を選択します。または、[ファイル]―[スキャナ入力]を選択します。

スキャナウィンドウが表示されます。





ヒント

スキャナから画像を取り込む際にTWAINのドライバ(スキャナ取り込み画面)が起動します。スキャナ取り込み画面は、スキャナのメーカーや機種によって独自のアプリケーションを使用するため異なります。スキャナで取り込む際の操作手順等はスキャナに付属しているヘルプや取扱説明書を参照してください。

2. 〈プレビュー〉をクリックします。

セットした原稿がスキャナウィンドウに読み込まれます。



ここで、原稿の傾き、かすれなどをチェックします。たとえば、かすれている場合は、色調整機能で白黒のコントラストを強くします。スキャナの使い方については、スキャナに添付されているマニュアルを参照してください。

3. 〈スキャン〉をクリックします。

CROSS OCRに画像が読み込まれます。





スキヤナの解像度は、300dp～400dpiに設定することをお勧めします。
CROSS OCRは、モノクロ2値、16階調グレースケール、256階調グレースケール、256色カラー、24bitTRUEカラーイメージをサポートします。

● カラー原稿の読み込み

CROSS OCRは、カラー原稿を読み込むことはできますが、文字認識実行の際、モノクロ画像に変換します。スキヤナから原稿を読み込む場合は、スキヤナ側でプレビューして、画像ファイルをモノクロ2値に変換してから、スキヤンすることをお勧めします。

● 連続してスキヤナから読み込む

スキヤナがオートドキュメントフィーダ（ADF）に対応している場合、連続して原稿を読み込めます。まず、接続しているスキヤナがADFに対応しているか、ご確認ください。



「連続スキャン入力」機能を利用する場合、スキヤナにある自動プレスキャン機能は、OFFにしてください。

連続スキャン入力の手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈画像入力〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[連続スキャン入力]を選択します。または、[ファイル]－[連続スキャン入力]を選択します。

スキヤナウィンドウが表示されます。





ヒント この画面は、接続しているスキャナにより異なります。

2. 〈スキャン〉をクリックします。

ADFに設定された原稿が次々とスキャナへ入力され、CROSS OCRへ読み込まれます。CROSS OCRのイメージリストバーには、読み込んだ原稿ごとに画像ファイルが作成され、追加されます。

● スキャナの選択

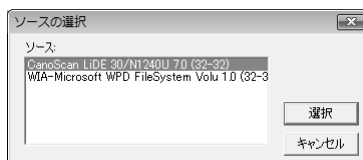
複数のスキャナと接続している場合、CROSS OCRで使用するスキャナを指定する必要があります。スキャナの指定はCROSS OCRの終了後にも記憶されるので、次回以降のスキャナ入力でこの操作は不要です。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈画像入力〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[スキャナ選択]を選択します。または、[ファイル]―[スキャナの選択]を選択します。

スキャナの選択ダイアログが表示されます。



2. 使用するスキャナを選択して〈選択〉をクリックします。

これで、以降のスキャナ入力時、選択したスキャナを使用します。

付録6.3.1.2 画像ファイルの読み込み

CROSS OCRでは、スキャナから原稿を読み込む以外にも、画像ファイルを読み込む方法があります。

画像ファイルの読み込み方法は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈画像入力〉アイコン  をクリックします。または、[ファイル]―[画像ファイルを開く]を選択します。ファイルを開くダイアログが表示されます。



2. ファイル名をダブルクリックする、または、ファイル名を選択して、〈開く〉をクリックすると、画像ファイルが読み込まれます。



● 複数の画像ファイルを同時に読み込む

ファイルを開くダイアログで、複数の画像ファイルを選択して、一度に読み込むことができます。

1. Ctrlキー＋クリック

指定するファイル名にマウスのポインタを置いてCtrlキーを押したままクリックします。ファイル名が選択されて反転表示します。この操作を繰り返して複数のファイルを選択して〈開く〉をクリックすると、選択されているファイルが読み込まれます。

2. Shiftキー＋クリック

指定する複数のファイルが連続して表示されている場合の方法です。指定するはじめてのファイル名をクリックして反転表示させます。次に、最後のファイル名をShiftキーを押したままマウスでクリックすると間のファイルがすべて選択されて反転表示します。〈開く〉をクリックすると選択されているファイルが読み込まれます。

● プレビュー

このチェックボックスがオンの場合、ファイルを開くダイアログで選択した画像ファイルのプレビューがダイアログ下部に表示されます。



「プレビュー」チェックボックスがオンの場合にプレビューが表示されない画像ファイルは、読み込むことができません。

画像ファイルのサイズによっては、プレビュー表示までに時間がかかる場合があります。

同時に複数の画像ファイルを選択した場合、プレビューは表示されません。

- **自動傾斜判断**

このチェックボックスがオンの場合、選択した画像ファイルをCROSS OCRへ読み込み後、自動的に画像の傾きをチェックして補正します。

- **ページの指定**

複数ページから構成される画像ファイル、たとえば、複数ページのPDFファイルやマルチページTIFFファイルを開く場合、読み込むページを指定することができます。ページの指定では、1-3のようにハイフンでつなげて範囲を指定することもできます。

複数ページを読み込むと、元のファイル名に連番を付与して、イメージリストバーに追加します。

- **PDFファイルの読み込み**

ここでは、PDFファイルを読み込んだ場合の動作について説明します。

- **テキストPDFファイルの読み込み**

テキストを含むPDFファイルを開くと、自動的に領域設定が実行されます。必要に応じて、手動で認識領域を設定してください。

- **パスワードを設定したPDFファイルの読み込み**

PDFファイルにファイル保護のためのパスワードが設定されている場合、開くことができません。このような場合は、いったんAdobe Acrobatに読み込み、文書のセキュリティを解除してから、CROSS OCRへ読み込んでください。

付録6.3.1.3 画像の編集

CROSS OCRへ読み込んだ画像ファイルは、原稿の状態によっては、かすれていたり、ノイズ（ゴミ）が多く含まれていたり、傾斜している場合があります。文字認識を実行する前に、画像ファイルを編集することにより認識率を高めることができます。ここでは、画像ファイルの編集方法を説明します。

● 画像の回転

読み込んだ画像ファイルを90° または、180° ずつ回転させることができます。手順は以下のとおりです。

- 手順**▶ 1. 基本ツールバーの〈傾・回転〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[自動回転]、[左90° 回転]、[右90° 回転]、[180° 回転]のいずれかを選択します。または、[画像の編集]―[画像の回転]―[自動回転]、[左90° 回転]、[右90° 回転]、[180° 回転]のいずれかを選択します。
- 選択した角度で画像ファイルが回転します。自動回転の場合は、CROSS OCRが文字の向きを判断して、回転させます。

● 画像の傾き補正

読み込んだ画像ファイルが全体的に傾いている場合、CROSS OCRの判断で自動的に傾きを補正したり、手動で角度を指定して補正できます

・ 傾き自動調節

手順は以下のとおりです。

- 手順**▶ 1. 基本ツールバーの〈傾・回転〉アイコン  をクリックします。または、[画像の編集]―[画像傾き調節]―[傾き自動調節]を選択します。
- 傾いた画像が自動的に補正されます。

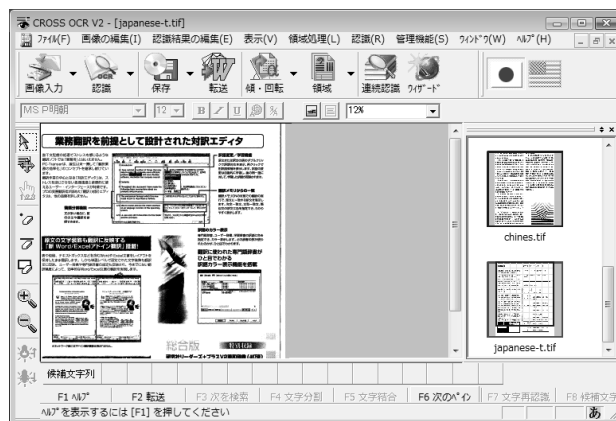
・ 傾き手動調節

手順は以下のとおりです。

- 手順**▶ 1. 基本ツールバーの〈傾・回転〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[画像傾き手動調節]を選択します。または、[画像の編集]―[画像傾き調節]―[傾き手動調節]を選択します。
- マウスポインタが  に変わります。
2. 原稿の傾いている方向へマウスカーソルをドラッグします。
- マウスポインタの移動に合わせて緑色の直線が引かれます。



3. 原稿の傾きに合わせて、ボタンを離します。
指定した角度に合わせて画像全体が傾きます。



画像の編集を元に戻す場合は、Ctrl+Zを押すか、または、[画像の編集]—[元に戻す]を選択します。

・傾き調節インタフェース

手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈傾・回転〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[傾き調節インタフェース]を選択します。または、[画像の編集]―[画像傾き調節]―[傾き調節インタフェース]を選択します。

次の傾き補正ダイアログが表示されます。



2. 各項目は以下のとおりです。

範囲

傾き補正を適用する範囲を指定します。

モード

「自動」がオンの場合、始点と終点が緑の矩形になっている直線が消え、範囲や調整角度は無視され、システムによって傾きが補正されます。

「手動」がオンの場合、始点と終点が緑の矩形になっている直線をドラッグして、原稿の傾きに合わせて、ドロップします。

左右（上下）調整

「モード」が「手動」の場合、傾きを調整する直線の方角を指定します。

左（右）角度

傾きを調整する直線の角度が表示されます。

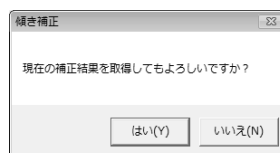
ズーム

画像の表示倍率を指定します。

〈プレビュー〉

各項目の設定にしたがって、傾きの補正を実行します。

傾き補正の実行結果を取得するかを確認するメッセージが表示されます。



〈はい〉をクリックすると、補正結果が傾き補正ダイアログに表示されます。

〈復元〉

実行した傾き補正を元の状態に戻します。

● 画像のノイズ消去

画像データにあるノイズ（黒点状の汚れ）は、以下の手順で除去することができます。

手順

1. [画像の編集]—[画像のフィルタ]を選択します。

どの程度のノイズを除去するかは、環境設定ダイアログの「領域処理」タブにある「ノイズのサイズ」で指定します。「領域処理」タブについては、『付録 6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

● 画像のトリミング

読み込んだ画像ファイルの必要な部分だけ残して、その他の部分を消去できます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. カーソル操作バーの〈領域選択〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが  に変わります。
2. マウスをドラッグして、原稿の残す部分を囲みます。



3. [画像の編集]－[画像のトリミング]を選択します。

選択した部分だけが残ります。



● 画像の消去

画像の消去は「消しゴム」機能を利用します。消しゴムには以下の3種類があります。

- 点消しゴム：点で消去する
- 線消しゴム：線で消去する
- 長方形消しゴム：矩形で消去する

• 点消しゴム

点消しゴムの操作方法は以下のとおりです。

- 手順**
1. カーソル操作バーの〈点消しゴム〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが選択した消しゴムのアイコンに変わります。
 2. 画像ウィンドウで消去する部分でドラッグします。
マウスでなぞられた部分が消去されます。

• 線消しゴム

線消しゴムの操作方法は以下のとおりです。

- 手順**
1. カーソル操作バーの〈線消しゴム〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが選択した消しゴムのアイコンに変わります。
 2. マウスポインタをドラッグすると直線が引かれ、ボタンを離すと直線の部分が消去されます。

・長方形消しゴム

長方形消しゴムの操作方法は以下のとおりです。

- 手順**
1. カーソル操作バーの〈長方形消しゴム〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが選択した消しゴムのアイコンに変わります。
 2. マウスポインタをドラッグすると矩形が描画され、ボタンを離すと矩形に含まれた部分が消去されます。

● 画像の白黒反転

CROSS OCRは、画像ファイルを白地に黒文字として文字認識を実行します。画像に白抜き文字が含まれている場合は、白黒反転させてから文字認識を実行してください。
手順は以下のとおりです。

- 手順**
1. カーソル操作バーの〈領域選択〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが  に変わります。
 2. マウスをドラッグして、白黒反転させる部分を囲みます。
 3. [画像の編集]－[画像の白黒反転]を選択します。
選択した部分の白黒が反転します。

● 画像のDPI拡大

画像ファイルを拡大します。



ヒント

画像ファイルの解像度が200DPI以下の場合、この機能を実行してから認識を行うと、認識率が高くなる場合があります。

手順は以下のとおりです。

- 手順**
1. [画像の編集]－[画像のDPI拡大]を選択します。
処理の進捗を示すダイアログが表示され、完了すると、画像が拡大して、画像ウィンドウに表示されます。

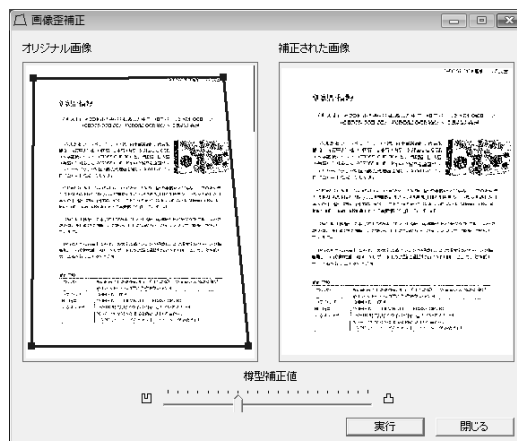
● 画像歪補正

画像ファイルの歪みを補正します。
手順は以下のとおりです。

手順

1. **【画像の編集】－【画像歪補正】**を選択します。

画像歪補正ダイアログが表示されます。



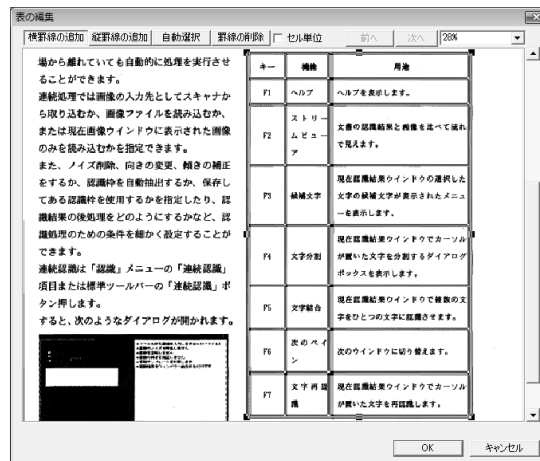
2. 「オリジナル画像」で、補正する領域を指定します。
青い矩形の頂点をドラッグアンドドロップして、領域枠の大きさを指定します。
3. 樽型補正值のつまみを左右にスライドさせて、補正值を指定します。
補正值にしたがって、「補正された画像」に補正後の画像イメージが表示されます。
4. **〈実行〉**をクリックします。
補正值にしたがって、補正が実行されます。
補正が終了すると、変更・修正ダイアログに戻り、補正された画像が表示されます。

● 表編集

表の罫線の追加と削除を行います。
手順は以下のとおりです。

手順 1. [画像の編集]—[表編集]を選択します。

表の編集ダイアログが表示され、表の罫線が赤色で表示されます。



● 罫線の追加

横方向の罫線を追加する場合は〈横罫線の追加〉、縦方向の罫線を追加する場合は〈縦罫線の追加〉、横と縦の両方の罫線を追加する場合は〈自動選択〉をクリックします。マウスポインタに合わせて、縦、または横の直線が表示されます。表内でマウスボタンをクリックした位置に罫線が追加されます。

● 罫線の削除

罫線を削除する場合は〈罫線の削除〉をクリックします。マウスポインタが、 に変わります。任意の罫線をクリックすると、罫線が削除されます。

● セル単位

このチェックボックスがオンの場合、罫線の編集範囲がセルの範囲内に限定されます。

● 前へ、次へ

ページ内に複数の表がある場合、このボタンをクリックできます。各ボタンをクリックすると、前の表、または、次の表が編集対象となります。

付録6.3.2 画像の領域解析

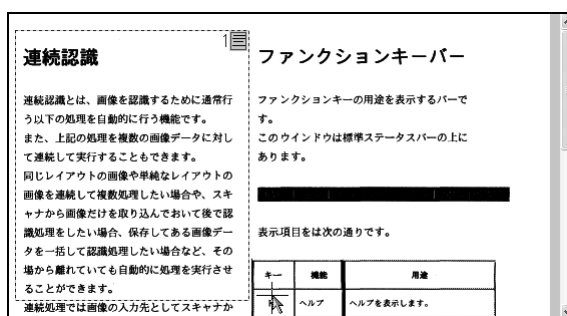
ここでは、画像のレイアウト解析（領域解析）の方法について説明します。

付録6.3.2.1 手動で領域を設定する

CROSS OCRには、自動的に領域を認識する機能がありますが、レイアウトが複雑であったり、ノイズを多く含む場合に、手動で認識領域を設定することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. カーソル操作バーの〈領域選択〉アイコン  をクリックします。
マウスポインタが  に変わります。
2. マウスの左ボタンを押したまま移動し、任意の場所でボタンを離すと破線の矩形で囲まれます。



これで領域が選択されました。

付録6.3.2.2 自動領域解析

画像ウィンドウに表示されている画像ファイルの領域を自動的に解析します。

手順

1. 基本ツールバーの〈領域〉アイコン  をクリックします。または、[領域処理]―[領域解析]―[現在ドキュメント]を選択します。

領域の傾きの自動調節が実行され、領域が解析されて、領域ごとに破線の矩形で囲まれます。



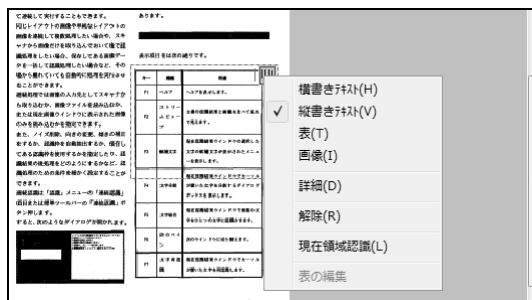
ヒント

初期状態で自動領域解析を実行した場合、領域の傾き補正も同時に実行されます。この作業を同時に行う／行わないの設定は、環境設定ダイアログの「領域処理」タブで指定します。「領域処理」タブについては、『付録6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

付録6.3.2.3 領域のプロパティ

領域ごとに属性情報を設定できます。手順は以下のとおりです。

- 手順**
1. 領域の右上にある〈領域のプロパティ〉アイコン  をクリックします。
領域のプロパティダイアログが表示されます。



2. 各項目をクリックするとプロパティが変更されます。

横書きテキスト

選択領域が横書き文章の場合に指定します。

縦書きテキスト

選択領域が縦書き文章の場合に指定します。

表

選択領域が表の場合に指定します。

画像

選択領域が画像の場合に指定します。

詳細

選択領域の詳細な属性設定を行う領域設定ダイアログが表示されます。このダイアログについては、『付録6.3.2.6 領域設定』を参照してください。

解除

領域の選択状態を解除します。領域解除を実行すると領域を囲んでいた破線の矩形が消去されます。

現在領域認識

選択領域の文字認識を実行します。

表の編集

表の罫線の編集を行えます。

付録6.3.2.4 テンプレートファイルの読み込みと保存

文書のレイアウト情報が同じ文書画像については、そのレイアウト情報を保存し繰り返し利用することができます。このレイアウト情報ファイルを「テンプレートファイル」といいます。

領域情報にはその領域に対応する属性も保存されるので、領域属性もそのまま再生できます。同じレイアウトの画像データを複数処理する場合は、領域情報を保存しておくことで作業を効率的に行えます。

● テンプレートファイルの作成

テンプレートファイルの作成方法は以下のとおりです。

手順

1. 認識領域と領域属性を設定します。
2. [ファイル]―[テンプレートファイルの保存]を選択します。
名前を付けて保存ダイアログが表示されます。
3. テンプレートファイルのファイル名を指定します。拡張子には、".lrf"が指定されます。
4. 〈保存〉をクリックします。
領域情報を保存したテンプレートファイルが作成されました。

● テンプレートファイルの読み込み

テンプレートファイルの読み込み方法は以下のとおりです。

手順

1. テンプレートを適用する画像ファイルを画像ウィンドウへ表示します。
2. [ファイル]―[テンプレートファイルを開く]を選択します。
ファイルを開くダイアログが表示されます。
3. テンプレートファイルを指定して、〈開く〉をクリックします。
画像ウィンドウに領域枠が表示され、その領域に対応する領域属性も設定されます。このとき、すでに設定されていた領域はすべて消去されます。

付録6.3.2.5 認識領域の編集

認識領域は指定してからも移動、サイズ変更、消去などを行います。
指定された領域では、ウィンドウ上での操作と同様に、マウスでドラッグして大きさを変更したり、移動したりすることができます。

● 領域をアクティブにする

領域の移動、サイズの変更などを行うためには、編集対象となる領域枠をアクティブにする必要があります。領域内をクリックすると、その領域がアクティブになり、枠線が破線で表示されます。アクティブな状態から抜けるには、他の領域をクリックするか、画像ウィンドウ内でどの領域にも属さない場所をクリックします。

● 認識領域の移動

マウスカーソルをアクティブな領域内に置くと、マウスポインタが  に変わります。ドラッグすると、枠が移動します。

● 領域枠のサイズ変更

アクティブな領域において領域枠の上下、左右、四隅にマウスカーソルを合わせてドラッグすると、枠の高さ、幅、全体の大きさを変更することができます。マウスカーソルをアクティブな枠の上下の横線に置くと、マウスポインタが  に変わります。ドラッグすると、枠の高さを変更できます。

マウスカーソルをアクティブな枠の左右の縦線に置くと、マウスポインタが  に変わります。ドラッグすると、枠の幅を変更できます。

マウスカーソルをアクティブな枠の四隅のいずれかに置くと、マウスポインタが  または  に変わります。ドラッグすると、枠の隅の位置を変更できます。

● 領域の消去

消去する領域をアクティブにした後、Delキーを押すと領域が消去します。
すべての領域指定を解除する場合は、[領域処理]－[すべての領域解除]を選択します。

● 領域の統合

複数の領域をひとつに統合することができます。
統合する領域が含まれるようにマウスでドラッグして領域を指定し、[領域処理]－[領域統合]を選択します。その領域に完全に含まれた領域が、ひとつに統合されます。

● 認識の順序変更

手作業または自動領域解析機能で指定した個々の領域には、認識処理時の処理順番を示す番号が割り振られ、〈領域のプロパティ〉アイコン  の前に表示されます。

手作業で指定した場合は指定した順番に、自動領域解析機能を使用した場合はシステムが自動的に番号を割り振られます。

通常は自動的に割り振られた順番で処理を行えばよいのですが、あとから領域を削除・追加したり、処理順序を変更した方が文書のつながりがよくなるような場合は、領域の順序を変更します。

手順は以下のとおりです。

手順

1. カーソル操作バーの〈領域順序〉アイコン  をクリックするか、[領域処理]－[領域の順序変更]を選択します。

マウスポインタが  に変わります。

2. 領域内をクリックすると、順番に番号が振り直されます。



ヒント

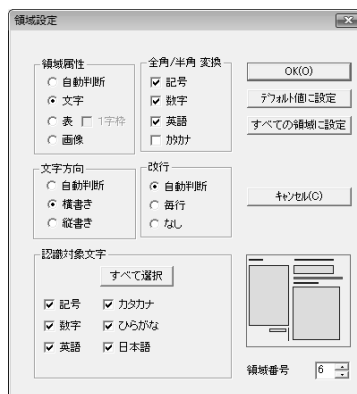
初期状態で領域の順番は、各領域のプロパティアイコンの前に表示されます。番号の表示／非表示は、環境設定ダイアログの「領域処理」タブで指定します。「領域処理」タブについては、『付録6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

付録6.3.2.6 領域設定

領域の属性は領域設定ダイアログで領域ごとに指定できます。
手順は以下のとおりです。

手順

1. カーソル操作バーの〈領域選択〉アイコン  をクリックして、マウスポインタを  にします。
2. 画像ウィンドウ上の任意の場所で、マウスをダブルクリックします。または、[領域処理]－[領域設定]を選択します。
領域設定ダイアログが表示されます。



3. 各項目を設定して、〈OK〉をクリックします。

● 領域属性

選択された領域の内容が文字、画像、表のどれであるか、または自動的に判断するかを設定します。

● 全角／半角変換

全角から半角へ変換する文字の種類を指定します。たとえば、「数字」チェックボックスをオンにすると、認識後、数字は半角で出力されます。

● 文字方向

選択された領域が横書き文書であるか縦書き文書であるか、または自動的に判断するかを設定します。

● 改行

画像文書での改行に対し、認識結果に改行記号を追加するかどうか、または自動的に判断するかを設定します。

- 認識対象文字

ここで指定した記号と文字のみについて認識を行います。
日本語を認識する場合は、「ひらがな」と「カタカナ」チェックボックスもオンにしてください。



認識対象文字を誤って設定すると文字認識に時間がかかり、認識率も下がるので、適切に設定してください。

- 〈デフォルト値に設定〉

表示している領域設定ダイアログの設定値がデフォルト値として設定されます。
以降、指定された領域の属性には、このデフォルト値が採用されます。

- 〈すべての領域に設定〉

表示している領域設定ダイアログの設定値が、画像ウィンドウ上のすべての領域に設定されます。

付録6.3.3 文字認識

ここでは、CROSS OCRで行える文字認識機能について説明します。

付録6.3.3.1 認識

文字認識を実行する前に、読み込んだ画像ファイルの編集、領域の解析などは前章を参照して行ってください。その後、文字認識を実行します。

- 画像ウィンドウに表示している画像ファイルの認識

画像ウィンドウに表示している画像ファイルの文字認識を実行します。

手順

1. 言語設定バーで、画像ファイルの言語を選択します。

メモ 認識可能な言語はOCRにより異なります。

日本語：  英語： 

2. 基本ツールバーの〈認識〉アイコン  をクリックします。または、[認識]—[現在ドキュメントの認識]を選択します。

認識が開始され、進捗状況が表示されます。

認識が終了すると、認識結果が認識結果ウィンドウに表示されます。

● アクティブな領域の認識

アクティブな領域のみの文字認識を実行します。

手順

1. 文字認識を実行する領域をアクティブにします。
2. 基本ツールバーの〈認識〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[現在領域の認識]を選択します。または、[認識]―[現在領域の認識]を選択します。

認識が開始され、進捗状況が表示されます。

認識が終了すると、認識結果が認識結果ウィンドウに表示されます。

● 言語設定

言語の指定は、[認識]―[言語設定]を選択して表示される次のダイアログでも指定できます。



言語を選択して、〈OK〉をクリックすると、認識対象となる言語が設定されます。

付録6.3.3.2 バイリンガル認識

CROSS OCRでは、複数の言語が混在する画像ファイル、たとえば、英語と日本語が含まれている場合は、言語ごとに領域を指定し、領域ごとに認識対象文字を指定して、「バイリンガル認識」を実行できます。バイリンガル認識ということで、すべての言語を認識対象文字に指定すると、認識に時間がかかるばかりでなく、認識率の低下にもつながります。認識対象文字は適切に指定してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 言語設定バーで、画像ファイルに含まれているいずれかの言語を選択します。

日本語：  英語： 

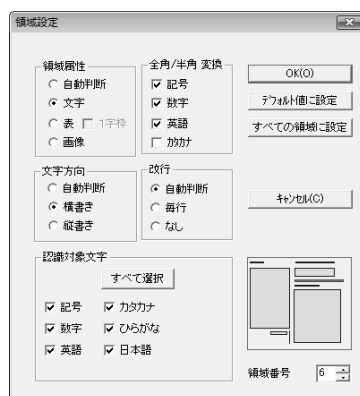
2. 基本ツールバーの〈領域〉アイコン  をクリックするかまたは、手動で、認識する領域を囲って指定します。

領域ごとに破線の矩形で囲まれます。

3. 手順1で設定したものと異なる言語の領域に対して認識対象文字を設定します。

言語を指定する領域をダブルクリックします。

領域設定ダイアログが表示されます。



4. 「認識対象文字」を適切に設定します。
5. 手順3と4を繰り返して認識対象文字を設定します。
6. 基本ツールバーの〈認識〉アイコン  をクリックします。または、[認識]—[現在ドキュメントの認識]を選択します。
7. 言語モードを確認するメッセージが表示されるので、〈はい〉をクリックします。

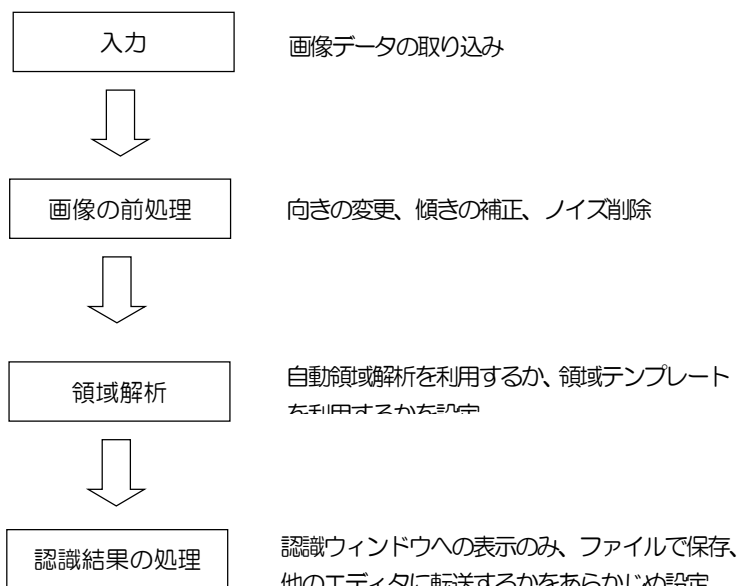
認識が開始され、進捗状況が表示されます。

認識が終了すると、認識結果が認識結果ウィンドウに表示されます。

付録6.3.3.3 連続認識

CROSS OCRでは、複数の画像ファイルを連続して認識し、認識結果を他のアプリケーションへ転送したり、ファイルへ保存したりできます。

連続認識の流れは以下のとおりです。



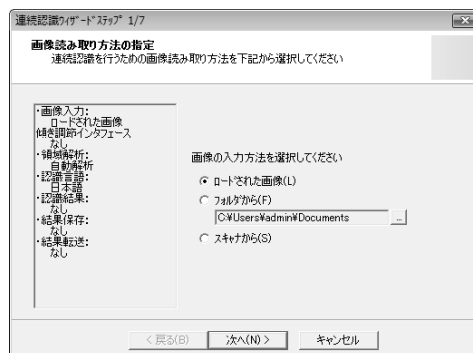
連続認識機能は、レイアウトや認識対象文字が同一の画像ファイルを次々と読み込み認識する場合に適しています。

連続認識の手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈連続認識〉アイコン  をクリックします。または、[認識]－[連続認識]を選択します。

画像読み取り方法の指定ダイアログが表示されます。



2. 画像の入力方法を指定します。

ロードされた画像

イメージリストバーに表示されているすべての画像ファイルが認識対象となります。

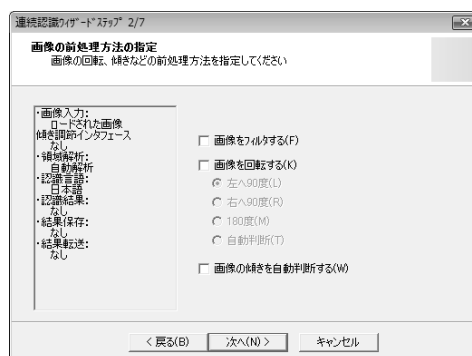
フォルダから

下部に表示されているフォルダに保存されているすべての画像ファイルが認識対象となります。フォルダを変更する場合は、をクリックして表示されるダイアログからフォルダを指定します。

スキャナから

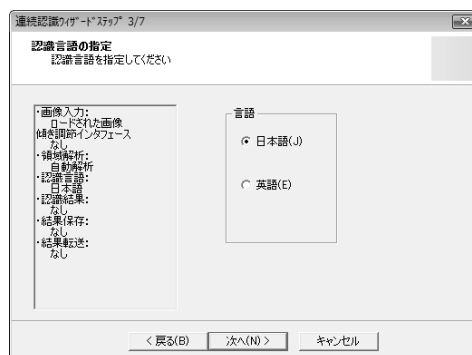
接続しているスキャナから原稿を読み込みます。

3. 〈次へ〉をクリックすると画像の前処理方法の指定ダイアログが表示されます。



4. 読み込んだ画像ファイルに合わせて、適切な編集処理を選択し、〈次へ〉をクリックします。

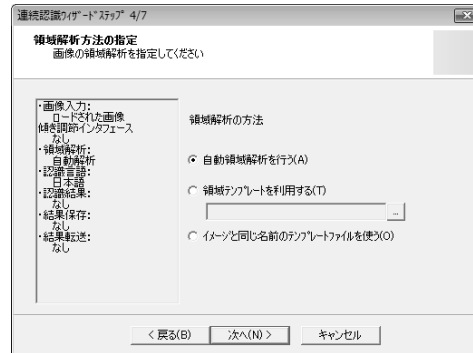
認識言語の指定ダイアログが表示されます。



5. 認識言語を選択し、〈次へ〉をクリックします。

メモ 認識可能な言語はOCRにより異なります。

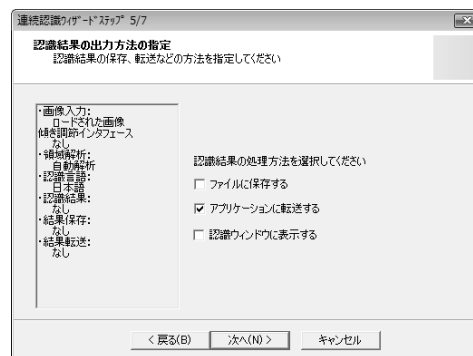
領域解析方法の指定ダイアログが表示されます。



6. 領域解析の方法を選択し、〈次へ〉をクリックします。

テンプレートを利用する場合は、あらかじめテンプレートファイルを作成する必要があります。テンプレートの作成については、『付録6.3.2.4 テンプレートファイルの読み込みと保存』を参照してください。

領域解析方法の指定ダイアログが表示されます。



7. 認識結果の処理方法を指定します。

ファイルに保存する

認識結果をファイルに保存します。

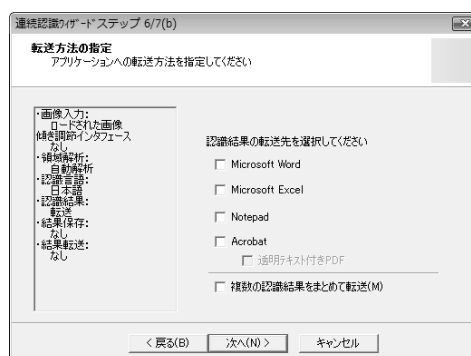
保存方法の指定ダイアログが表示されます。



アプリケーションに転送する

認識結果を他のアプリケーションへ渡します。

転送方法の指定ダイアログが表示されます。



認識結果ウィンドウに表示する

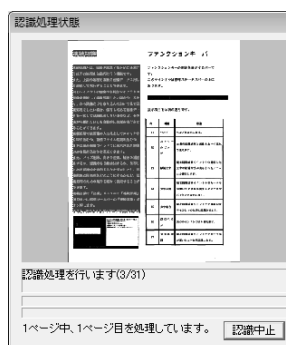
認識結果を認識結果ウィンドウへ表示します。

8. 「次へ」をクリックするとここまで指定した設定値が表示されます。



9. 内容を確認して、正しい場合は、「完了」をクリックします。

文字認識が開始され、作業の進捗をあらわす次のダイアログが表示されます。



認識結果の処理方法によっては、フォルダやファイル名の入力が必要になるので、適切に指定してください。

認識が完了すると、転送方法で指定した形式で認識結果が表示されます。

付録6.3.3.4 認識ウィザード

CROSS OCRには、画像の読み込みから領域認識、文字認識、認識結果の保存または転送という、一連の作業を習得するための認識ウィザードが用意されています。

次の手順で認識ウィザード起動します。

手順

1. 基本ツールバーの〈認識ウィザード〉アイコン  をクリックします。または、[ファイル]—[認識ウィザード]を選択します。

認識ウィザードダイアログが表示されます。



2. 〈次へ〉をクリックします。

以降は、表示されるダイアログにしたがって操作するだけで、CROSS OCRの基本的な操作を実感できます。

付録6.3.3.5 印刷

CROSS OCRでは、認識結果の文書と画像ウィンドウに表示されている画像ファイルを印刷したり、プレビューできます。

● プリンタの設定

使用するプリンタの機種、用紙のサイズ、印刷の向きなどを設定します。この設定内容は保存されるので、変更がない限り再度設定する必要はありません。

手順

1. [ファイル]－[プリンタの設定]を選択します。

プリンタの設定ダイアログが表示されます。



2. 必要な項目を設定したら、〈OK〉をクリックします。

プリンタの設定ダイアログの詳細は、Windowsのマニュアルを参照してください。

● 印刷

CROSS OCRでは、認識結果の文書または画像ウィンドウに表示されている画像ファイルを印刷できます。

メモ この機能は、認識結果ウィンドウに文章が入力されている場合に選択できます。文字認識実行前であったり、編集により認識結果ウィンドウが空の場合には選択できません。

次の手順で認識ウィザード起動します。

手順

1. 文字認識実行前、または、認識結果ウィンドウが空の場合は、文字認識を実行します。

2. 印刷を実行するウィンドウをクリックします。

画像ウィンドウに表示されている画像を印刷する場合は、画像ウィンドウを、認識結果ウィンドウに表示されている文章を印刷する場合は、認識結果ウィンドウをクリックして、カーソルを置きます。

3. [ファイル]－[印刷]を選択します。

印刷ダイアログが表示されます。



この画面は、接続しているプリンタにより異なります。

4. 「プリンタの設定」から使用するプリンタを選択して、〈印刷〉をクリックします。

印刷が実行されます。

● 印刷プレビュー

CROSS OCRでは、認識結果の文書を印刷前にプレビューで確認できます。

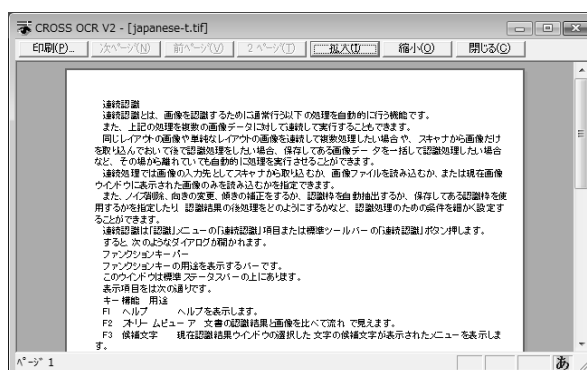
メモ この機能は、認識結果ウィンドウに文章が入力されていて、カーソルが認識結果ウィンドウにある場合に選択できます。

次の手順で認識ウィザード起動します。

手順

1. 文字認識実行前、または、認識結果ウィンドウが空の場合は、文字認識を実行します。
2. 認識結果ウィンドウをクリックして、カーソルを置きます。
3. [ファイル]－[印刷プレビュー]を選択します。

印刷プレビューが表示されます。



印刷

このボタンをクリックすると、印刷ダイアログが表示されます。

拡大、縮小

これらのボタンをクリックすると、プレビュー画面を拡大／縮小します。プレビュー画面の任意の位置をクリックしても、拡大／縮小が実行できます。

次ページ、前ページ

これらのボタンをクリックすると、前後のページへ移動します。

2ページ

このボタンをクリックすると、同時に2ページを表示します。

閉じる

このボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。プレビュー画面右上の閉じるボタンをクリックしても画面を閉じます。

付録6.3.4 保存と転送

画像データと認識結果はいろいろなファイル形式で保存したり、他のアプリケーションへ渡すことができます。

付録6.3.4.1 認識結果の保存

認識結果は、一般テキスト文書はもちろん、リッチテキスト形式、Adobe AcrobatのPDF形式、テキスト形式など、いろいろなタイプの文書に変換および保存することができます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈保存〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[認識結果の保存]を選択します。または、[ファイル]―[認識結果の保存]を選択します。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



「ファイル名」には、文字認識を実行した画像ファイル名に.txtという拡張子が付与されています。「保存する場所」には、読み込んだ画像ファイルの保存場所が表示されます。

2. 適切なファイル名を入力して〈保存〉をクリックします。

これで、認識結果が保存されました。

● ファイルの保存形式

CROSS OCRでは、以下の保存形式をサポートしています。

- Unicodeテキスト形式 (.txt)
- テキスト形式 (.txt)
- Word (リッチテキスト) 形式 (.doc)
- Excel形式 (.xls)
- Adobe AcrobatのPDF形式 (.pdf)
- 透明テキスト付きPDF形式 (.pdf)

● 画像領域を含むページをExcelで保存する場合の制限

画像領域を含む大量ページをExcelで保存することはできません。Excelで画像領域を含むページの保存は、10ページまで可能です。

付録6.3.4.2 認識結果の転送

転送機能は、認識結果を他のアプリケーションへコピーまたは移動する機能です。

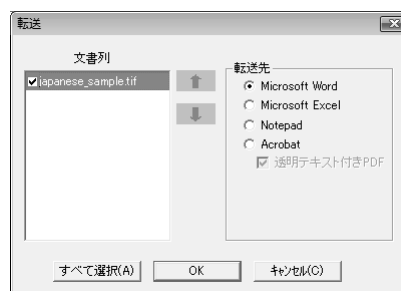
認識結果をWordやExcelなどの外部アプリケーションへ転送して効率的に文書編集をしたり、Adobe Acrobatなどへ転送することができます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈転送〉アイコン  をクリックします。または、[ファイル]―[認識結果の転送]を選択します。

転送ダイアログが表示されます。



2. 「文書列」から認識結果を転送する画像ファイルのチェックボックスをオンにします。
3. 「転送先」から転送先となるアプリケーションを選択します。
4. 〈OK〉をクリックします。

転送先として指定したアプリケーションが起動し、認識結果が表示されます。必要に応じて、認識結果を編集または保存してください。

● 転送先と認識結果のファイル形式

転送可能なアプリケーションと転送の際のファイル形式は以下のとおりです。

- Microsoft Word（リッチテキスト）（.doc）
- Microsoft Excel（.xls）
- Notepad（.txt）
- Adobe Acrobat（.pdf）



ヒント 表領域の認識結果は、転送先のアプリケーションへ表として入力されます。

● バイリンガル認識結果の転送

バイリンガル認識結果をAdobe Acrobatへ転送すると、言語設定バーで指定した言語と異なる言語の認識結果は文字化けします。たとえば、英語と日本語が含まれている画像ファイルにおいて、言語設定バーで英語を指定して、日本語の領域に対しては認識対象文字を日本語に設定して文字認識を実行、認識結果の転送を行うと、日本語の部分は文字化けします。

● 画像領域を含むページをExcelに転送する場合の制限

画像領域を含む大量ページをExcelに転送することはできません。Excelで画像領域を含むページの転送は、10ページまで可能です。

付録6.3.4.3 画像ファイルの保存

CROSS OCRでは、イメージリストバーに表示されている画像ファイルを保存できます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 基本ツールバーの〈保存〉アイコン  の▼をクリックして表示されるメニューから[現在画像]を選択します。または、[ファイル]―[画像ファイルの保存]を選択します。



2. 適切なファイル名を入力して〈保存〉をクリックします。

これで、認識結果が保存されました。

● 画像ファイルの保存形式

CROSS OCRでは、以下の保存形式をサポートしています。

- bmp
- tif
圧縮タイプを選択できます。
- jpg
グレースケール画像、カラー画像を保存できます。

付録6.3.5 認識結果の編集

この章では、文字認識結果が誤っていた場合の修正方法、認識結果ウィンドウにある文字の編集方法について説明します。

付録6.3.5.1 候補文字に置き換える

文字認識の認識率は、スキャナから読み込む原稿の状態、ファイル化されている画像ファイルの状態などにより、誤認識する場合があります。

CROSS OCRでは、文字認識の実行結果を認識結果ウィンドウに表示すると同時に、認識結果の文字ごとに候補となる複数の「候補文字」のデータを保持します。認識結果が誤っている場合でも候補文字中に正しい文字があれば、簡単に修正することができます。



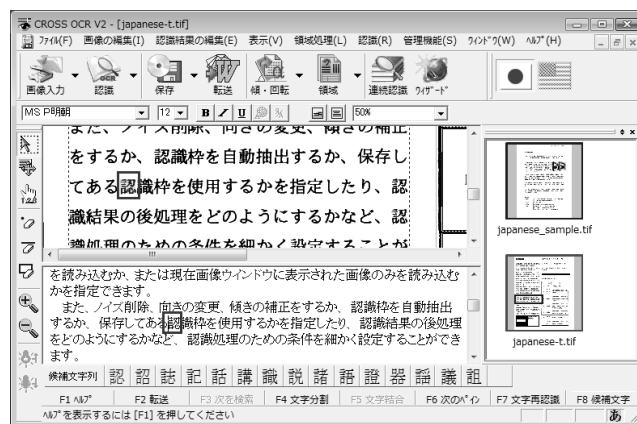
ヒント

PDFファイルのテキスト部分には、候補文字が表示されません。

候補文字を利用した修正方法は以下のとおりです。

● 候補文字バーから選択

- 手順 ▶ 1. 認識結果ウィンドウのカーソル位置に対応して、候補文字バーに候補文字が表示されます。カーソルを移動すると、それに連動して候補文字が次々と表示されます。



2. 候補文字バーに正しい文字がある場合は、その文字をクリックします。ここでは、「し」を「L」と認識していますので、候補文字バーの2番目にある「し」をクリックします。

候補文字バーで選択した文字が、認識結果ウィンドウの文字と置き換わります。

環境設定ダイアログの「その他」タブで「候補文字置き換え時にパターン登録機能を起動」チェックボックスがオンの場合、パターンの登録ダイアログが表示されます。必要に応じて、パターン登録を実行してください。パターン登録については、『付録6.3.5.6 パターン登録』を参照してください。

● 候補文字の置き換えを元に戻す

環境設定ダイアログの「その他」タブで「候補文字置き換え時にパターン登録機能を起動」チェックボックスがオンの場合、認識結果ウィンドウの文字を候補文字と置き換えると、パターン登録ダイアログが表示されます。

パターン登録ダイアログでは、「文字」に選択した候補文字が、「パターン」には、画像データが表示されます。



パターン登録ダイアログの「戻る」をクリックすると、候補文字で置き換えられた認識結果ウィンドウの文字が元に戻ります。

パターン登録については、『付録6.3.5.6 パターン登録』も参照してください。

付録6.3.5.2 文字分割

文字間が狭かったり、均等でないと画像ファイルの認識の際、複数の文字が一字として認識されてしまうことがあります。このような場合は、画像ファイル上の文字を分割して一字ずつ認識させることができます。

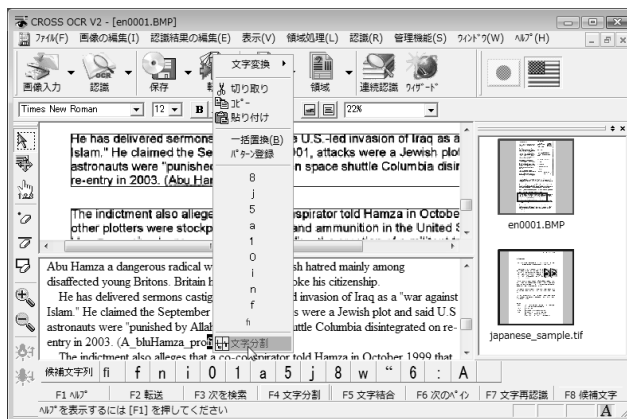
手順は以下のとおりです。

手順

1. 認識結果ウィンドウで文字分割する文字へカーソルを置いて、マウス右ボタンをクリックします。

候補文字ダイアログが表示されます。

この例では、「fi」が認識できず空白になっています。



2. 候補文字ダイアログの「文字分割」を選択します。または、[認識結果の編集] - [文字の分割]を選択します。

文字分割ダイアログが表示されます。



ダイアログの説明

マウスカーソルと候補文字ダイアログ上に表示される赤い境界線が、連動しています。

上段中央に画像ウィンドウで1文字として認識された領域、左に境界線の左部分、右に境界線の右部分が表示されます。

下段では、各々、左部分と右部分に対応した認識結果が表示されます。

ダイアログを閉じる場合は、Escキーを押します。

3. 文字を分割します。

縦方向に分割する場合

中央の画像においてマウスカーソルを下部で左右に移動すると、画像は縦方向に分割されます。



横方向に分割する場合

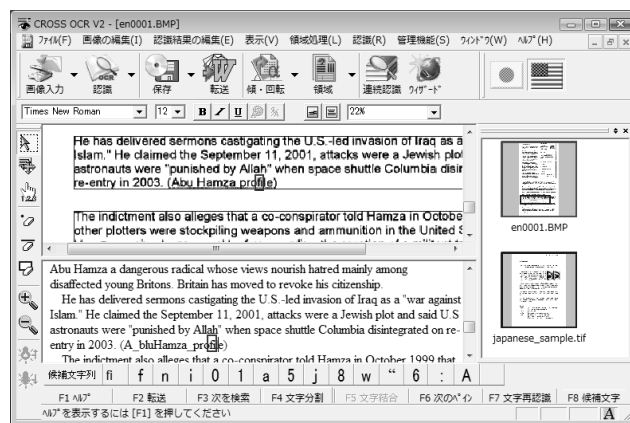
中央の画像においてマウスカーソルを中央部で上下に移動すると、画像は横方向に分割されます。



4. マウスを移動して、認識結果の文字が正しいことを確認し、クリックします。



この例の場合、「r」と「y」で分割します。



複数の文字が1文字に認識されたり、1文字が2つの文字に分けて認識される場合は、画像ファイルの文字の幅を適切に調整します。文字の幅は、設定ダイアログの「領域処理」タブで設定します。設定ダイアログについては、『付録6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

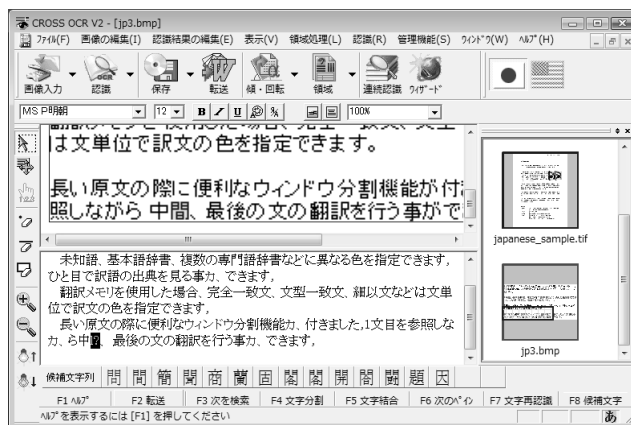
付録6.3.5.3 文字結合

ひとつの文字が複数の文字として認識された場合は、1文字として認識するように、文字を結合できます。

手順は以下のとおりです。

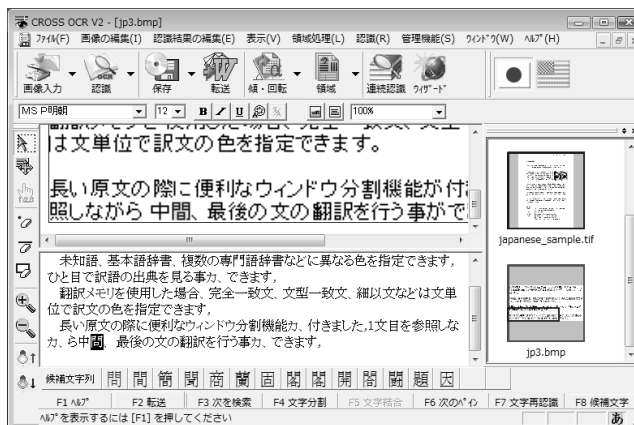
- 手順** 1. 認識結果ウィンドウで文字結合する文字をマウスでドラッグして選択します。

この例では、「間」が「!？」と認識されたので「!」と「？」を選択します。



2. [認識結果の編集]—[文字の結合]を選択します。

文字が結合されて、その認識結果が、認識結果ウィンドウに表示されます。



● 文字結合して候補文字から選択

認識結果ウィンドウで複数文字を選択すると、候補文字バーの結果も変更されます。たとえば、上記の例では、手順1で「言」と「R」を選択したときに、候補文字に「訳」が表示されています。ここで、候補文字にある「訳」をクリックして、認識結果ウィンドウの結果と置き換えることもできます。



ヒント

複数の文字が1文字に認識されたり、1文字が2つの文字に分けて認識される場合は、画像ファイルの文字の幅を適切に調整します。文字の幅は、設定ダイアログの「領域処理」タブで設定します。設定ダイアログについては、『付録6.3.6.3 領域処理タブ』を参照してください。

付録6.3.5.4 一括置換

パターンが似ている文字を検索し、一括で修正する機能です。この機能を利用すると修正作業を効率的に行うことができます。



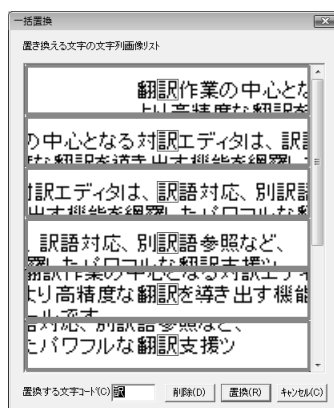
ヒント

PDFファイルのテキスト部分に、一括置換を実行することはできません。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 認識結果ウィンドウで修正する文字にカーソルを置きます。
2. [認識結果の編集] - [一括置換] を選択します。
一括置換ダイアログが表示されます。



「置き換える文字の文字列イメージリストバー」には、認識結果ウィンドウで選択した文字に対応したパターンと似通ったパターンがリストされます。「置換する文字コード」には、認識結果として認識結果ウィンドウに表示された文字が表示されます。

- 一括置換の対象とする画像のみをイメージリストバーに残します。イメージリストバー上で、処理対象としない画像をクリックして選択し、〈削除〉をクリックします。または、対象外とする画像をダブルクリックします。

選択した画像がリストからはずされます。

- 「置換する文字コード」に置き換える文字を入力して、〈置換〉をクリックします。

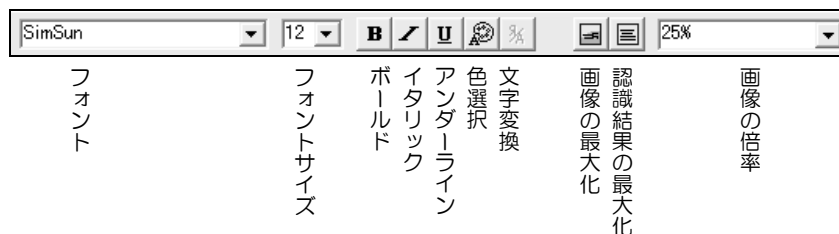
認識結果ウィンドウで対応する文字が「置換する文字コード」で指定した文字に置き換わります。

付録6.3.5.5 その他の編集機能

認識結果ウィンドウでは、通常のエディタのように文字列のカット&コピー、検索・置換などを行えます。ここでは、認識結果ウィンドウで行える文字編集機能について説明します。

● フォント設定バーの利用

フォント設定バーには、次の機能が登録されています。



認識結果ウィンドウで編集する文字列を選択して、フォント設定バーの機能を選択します。フォント設定バーの各機能は以下のとおりです。

フォントの変更

フォントボックスの▼をクリックして表示されるフォント一覧から選択します。ここで、表示されるフォントリストは、言語設定により異なります。

フォントのサイズ

フォントサイズボックスの▼をクリックして表示されるフォントサイズの一覧から選択します。

文字タイプ

ボールド（太字）、イタリック（斜体）、アンダーライン（下線）から選択します。

文字の色指定

この項目をクリックすると、パレットが表示されるので、文字色を指定します。

文字変換

英数字の表記方法を指定します。

最大化

画像の最大化は画像ウィンドウのみを表示、認識結果の最大化は認識結果ウィンドウのみを表示します。

ズーム

画像の倍率ボックスの▼をクリックして表示される倍率リストから倍率を選択します。

あるいは、テキストボックスに数字を入力して倍率を指定することもできます。

● 検索

認識結果ウィンドウにある文字列を検索できます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 検索を開始する位置へカーソルを置きます。
2. [認識結果の編集]－[文字列検索]を選択し、検索ダイアログを表示します。



3. 「検索する文字列」に検索語を入力します。
4. 〈次を検索〉をクリックすると、検索が開始され、見つかった語が反転表示されます。
同じ文字列を続けて検索するには、〈次を検索〉を繰り返しクリックします。



ヒント

検索ダイアログを閉じた後で、同じ文字列を続けて検索するには、[認識結果の編集]－[次を検索]を選択してください。

● 切り取り、コピー、貼り付け、元に戻す

認識結果ウィンドウにある文字列を編集できます。

[切り取り]は、選択した範囲を切り取って、その内容をクリップボードに保管します。

[削除]は、選択した範囲を切り取りますが、その内容をクリップボードに保管しません。

[コピー]は、選択した範囲の内容をクリップボードに保管します。
 [貼り付け]は、クリップボードの内容をカーソル位置に挿入（貼り付け）します。
 貼り付けは、[切り取り]、[コピー]などのコマンドにより、クリップボードにデータが保管されている場合のみ実行することができます。
 [元に戻す]は、切り取り、貼り付けで行った文の編集を元の状態に戻します。
 [切り取り]、[コピー]、[貼り付け]は、次の手順で行います。

手順

1. 編集する文字列の先頭から最後までドラッグして選択します。

編集の対象として指定された文字列が反転表示されます。

2. 【認識結果の編集】－[切り取り]、[コピー]、[削除]、または[貼り付け]を選択します。



ヒント

誤って[切り取り]した場合は、[元に戻す]を選択すると直前の文に戻ります。

付録6.3.5.6 パターン登録

「パターン登録」とは、凝ったデザインの活字や、特殊な書体の文字、記号に対して、画像データとそれに対応する文字を登録して、認識できるようにするための機能です。かすれた文字やつぶれた文字をパターン登録しても認識されません。



ヒント

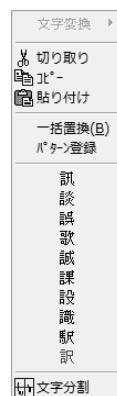
PDFファイルのテキスト部分に、パターン登録を実行することはできません。

パターン登録の手順は以下のとおりです。

手順

1. 認識結果ウィンドウで誤った文字を選択し、マウス右ボタンをクリックします。

候補文字ダイアログが表示されます。



2. 「パターン登録」をクリックします。

パターンの登録ダイアログが表示されます。



「パターン」には、手順1で選択した文字に対応した画像データが表示されています。

3. 「文字」に画像データに対応した文字を入力して〈追加〉をクリックします。
登録できるのは、1文字のみです。



文字パターンが登録され、「文字」に入力した文字が、認識結果ウィンドウの文字と置き換わります。

付録6.3.6 環境の設定

この章では、CROSS OCRの環境の設定について説明します。環境を適切に設定すると、領域の解析や認識率のアップにつながるばかりでなく、認識結果の表示を見やすいフォントにしたり、結果の修正作業も円滑に進められるようになります。

付録6.3.6.1 環境設定ダイアログ

[管理機能]－[環境設定]を選択すると、認識結果の画面表示、領域の調節、認識方法などの環境設定ができます。

環境設定ダイアログには、設定内容を切り替えるためのタブがあります。



各タブをクリックして適切な環境設定を行います。

〈OK〉をクリックすると、設定内容が適用されます。

〈リセット〉をクリックすると、すべての項目の設定が初期状態に戻ります。

付録6.3.6.2 表示タブ

「表示」タブでは、画像ウィンドウと認識結果ウィンドウでの、表示方法を指定します。「表示」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- 表示倍率増減幅

カーソル操作バーの〈拡大〉アイコン 、〈縮小〉アイコン  ボタンをクリックした時の画像の表示倍率の増減値を設定します。

- 初期表示倍率

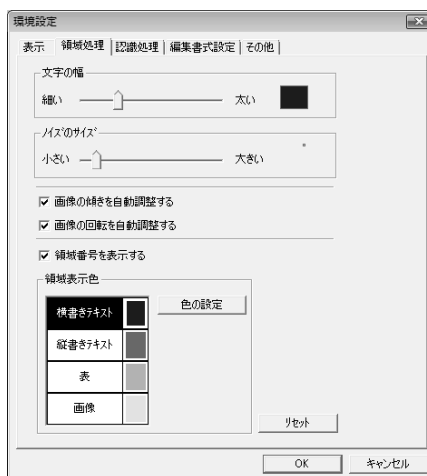
最初に画像を読み込む時の表示倍率を設定します。
「全体」を選択すると、画像サイズがウィンドウサイズに合わせて表示されます。
「ページ幅を基準に」を選択すると、画像の幅がウィンドウの横幅に合わせて表示されます。
「ページ高さを基準に」を選択すると、画像の高さがウィンドウの縦幅に合わせて表示されます。
この他に表示倍率を%で指定できます。

- 認識後倍率

認識実行後の画像表示倍率を設定します。設定方法は「初期表示倍率」と同じです。

付録6.3.6.3 領域処理タブ

「領域処理」タブでは、領域解析を行う際の前稿の状態を指定します。「領域処理」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 文字の幅

文字の縦横比率を設定します。

「文字の幅」スライダーのハンドルを動かして認識用文字画像の縦横比率を調節します。比率の調整は右端にある矩形で表示されます。

一般的に、英語のような西欧言語に対しては縦の方向に長く、日本語のような東洋言語に対しては正方形になるように調節します。

● ノイズのサイズ

ノイズの大きさを設定します。

「ノイズのサイズ」スライダーのハンドルを動かして画像データから除去するノイズ（黒い点状の汚れ）の最大サイズを設定します。

[画像の編集]－[画像のフィルタ]を選択すると、ここで設定したサイズより小さい黒い点状の汚れは認識しません。

● 画像の傾きを自動調整する

このチェックボックスがオンの場合、領域解析の際、画像の傾きの自動調整を行います。

● 画像の回転を自動調整する

このチェックボックスがオンの場合、領域解析の際、画像の回転の自動調整を行います。

- 領域番号を表示する

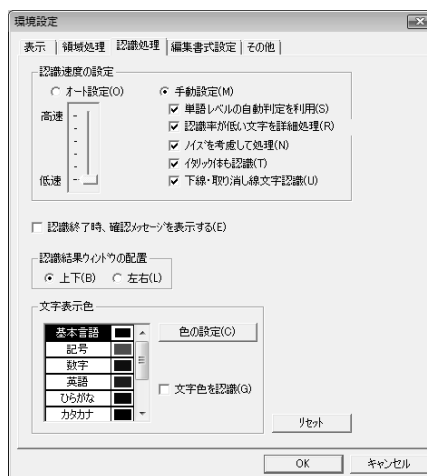
このチェックボックスがオンの場合、〈領域のプロパティ〉アイコン  の前に認識順序の番号が表示されます。

- 領域表示色

選択された領域の属性にしたがって個別に色を指定します。
ここでは、横書き、縦書き、表、画像の色を領域別に指定します。
色を変更する場合は、各項目の横にある矩形をダブルクリックするか〈色の設定〉をクリックすると表示される、色の設定ダイアログで色を指定します。

付録6.3.6.4 認識処理タブ

「認識処理」タブでは、領域解析を行う際の前稿の状態を指定します。「認識処理」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- 認識速度の設定

認識時に行う処理について指定します。

- オート設定

「オート設定」をオンにして、スライドバーのハンドルを上下に動かして処理を指定します。「低速」に設定すると時間はかかりますが、認識率は上がります。

- 手動設定

この項目をオンにした場合、以下の設定を行えます。

単語レベルの自動判定を利用

このチェックボックスがオンの場合、文字認識時、システムが保持している辞書を参照して文字の並び（スペルチェック）を解析し、誤認識を検出します。

認識率が低い文字を詳細処理

このチェックボックスがオンの場合、認識できない画像パターンに対して、いくつかのパターンと比較して認識結果を出力します。

ノイズを考慮して処理

原稿にノイズが多い場合に、このチェックボックスをオンにします。

イタリック体も認識

原稿にイタリック体が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

下線・取り消し線文字認識

原稿に下線・取り消し線文字が含まれている場合に、このチェックボックスをオンにします。

● 認識終了時に確認メッセージを表示する

このチェックボックスがオンの場合、認識が終了した際、終了を知らせるメッセージが表示されます。

● 認識結果ウィンドウの配置

認識結果ウィンドウの配置を指定します。

「上下」をオンにすると、画像ウィンドウと認識結果ウィンドウが上下に配置されます。

「左右」をオンにすると、画像ウィンドウと認識結果ウィンドウが左右に配置されます。

● 文字表示色

認識結果の各文字の文字色を指定します。

色を変更する場合は、各項目の横にある矩形をダブルクリックするか〈色の設定〉をクリックすると表示される、色の設定ダイアログで色を指定します。

● 文字色を認識

このチェックボックスがオンの場合、認識元の文字の色で、認識結果の文字を表示します。

付録6.3.6.5 編集書式設定タブ

「編集書式設定」タブでは、認識した文書に対して、言語、文字コード、フォント、フォントサイズを指定します。「編集書式設定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- 言語

言語を指定します。

- 編集コード

「言語」の文字コードを指定します。

- 標準編集フォント

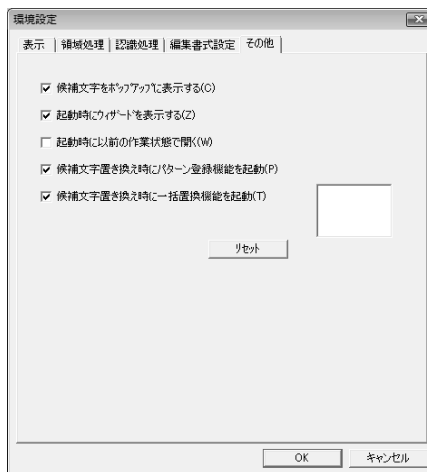
認識結果ウィンドウで使用するフォントを指定します。

- フォントサイズ

認識結果ウィンドウで使用するフォントのサイズを指定します。

付録6.3.6.6 その他タブ

「その他」タブでは、起動時や認識結果の編集の際の処理をどのように行うかを指定します。「その他」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- 候補文字をポップアップに表示する

認識結果ウィンドウ上の文字を右クリックすると表示されるポップアップメニューに、その文字に対応する候補文字を表示するか、しないかを指定します。

- 起動時にウィザードを表示する

起動直後に認識ウィザードを起動するか、しないかを指定します。

- 起動時に以前の作業状態で開く

前回終了したときの状態、たとえば、イメージリストバーや認識結果を保持して起動するのか、初期状態で起動するかを指定します。

- 候補文字置き換え時にパターン登録機能を起動

認識結果ウィンドウ上で候補文字バーを利用して候補文字の置換を行った場合、パターンの登録ダイアログを開くか、開かないかを指定します。

- 候補文字置き換え時に一括置換機能を起動

認識結果ウィンドウ上で候補文字バーを利用して候補文字の置換を行った場合、同じ文字を一括置換するか、しないかを指定します。

- リッチテキストの領域構造を優先する

認識結果を認識結果ウィンドウに出力する際、文書の構造を可能な限りそのまま出力するようにします。

付録7 エラーメッセージ

ここでは、Transerが表示するエラーメッセージについて列挙します。

エラーメッセージ	意味
翻訳情報が一致しません。再翻訳をしてください。	原文か訳文の一部を直接編集すると整合性がなくなり訳語の対応や訳語変更ができないことがあります。
ロックされています。	文番号にロックがかかっていて再翻訳できない状態です。ロックを解除すると再翻訳ができます。
対応する単語がありません。	to不定詞のto、「て、に、を、は」などの助詞には、対応する単語がないことがあり、この場合訳語変更ができません。
この単語の品詞変更はできません。	品詞によって変更がきかないものがあります。
この単語の訳語変更はできません。	単語によって訳語変更ができないものがあります。
HTMLタグフレーズは解除するとタグ情報が無くなります。解除しますか？	HTMLファイルを翻訳中、タグ部分にフレーズ指定を行うと元のファイル形式が崩れることがあります。
このHTMLタグフレーズの種別は変更できません。	HTMLファイル内のタグ部分はフレーズ指定されていますが、この種別を変更することはできません。
翻訳サーバーが使用中です。終了できません。	ファイルの翻訳中に別のファイルの翻訳を行おうとしている可能性があります。同時に2つのファイルを翻訳することはできません。
1文の文字数が翻訳制限値(1024バイト)を超えています。	1文が1024バイト以上の文は、適切な場所で文を分割して再翻訳してください。
IDS 41090	翻訳時に設定時間をオーバーしました。
TIME_OUT_ERROR	一定の翻訳時間をオーバーしました、設定を変更することができます。
活用型の推定ができませんでした。	辞書登録する場合は、見出し語には原形を入力してください（例）走っている→走る

エラーメッセージ	意味
翻訳エンジンが起動できません。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動とTranserの再起動をお試しください。
内部的なエラーが起きました。(エンジンのプログラムIDの取得に失敗) ユーザサポートまでご連絡ください。	本書巻末に記載されているユーザサポートご連絡ください。
翻訳エンジンの起動に失敗しました。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動とTranserの再起動をお試しください。
翻訳エンジンモジュールが見つかりません。	何らかのトラブルによりアプリケーションの起動に失敗しています。OSの再起動とTranserの再起動をお試しください。
書込み辞書として使うにはツールメニューの辞書変換で旧辞書変換を実行する必要があります。	V3.5以前のユーザー辞書は設定できません。
構文解析に失敗しました[1]	複雑な文や長文の解析に失敗することがあります、文を短く分割して再翻訳してください。
構文解析に失敗しました[2]	複雑な文や長文の解析に失敗することがあります、文を短く分割して再翻訳してください。
構文解析に失敗しました[3]	翻訳に時間がかかりすぎてスキップしました。文を短く分割して再翻訳してください。
辞書が壊れています	ユーザー辞書が壊れている可能性があります。
翻訳実行中のウィンドウが終了するか中止するまで現在のウィンドウで翻訳することはできません	2つの翻訳エディタで翻訳中に別のエディタをアクティブにするとこのメッセージが表示されます。

付録8 インストール時のエラーについて

弊社製品のインストール時にエラーが発生した場合の対処法について、下記、弊社ホームページに情報が掲載されています。

<http://www.crosslanguage.co.jp/support/etc/install.html>

必要に応じて、参照してください。

索引

1

1行1文貼り付け 42

C

CROSS OCR 355, 424
 CROSS OCRの概要 424
 CROSS OCRの画面 426
 CROSS OCRの起動 425
 CROSS OCRの基本操作 428
 CROSS OCRの終了 425
 CROSS OCRの準備 424
 CROSS OCRの操作の流れ 427
 CROSS OCRをはじめる前に 428
 CSV 270, 368
 CSV形式 143, 153
 Ctrl+End 33
 Ctrl+Home 33

D

docxファイルを開く 293
 docファイルを開く 293

E

Excelの翻訳 90
 Excelを利用したユーザー辞書の作成 278

H

HTMLファイル 300, 420, 422
 DTD行 415
 IGNORE行 416
 REMOVE行 415
 TRANSLATE行 416
 タグフレーズ 412
 タグフレーズの編集 413

テーブル(.tbl)ファイルの書式 416
 ファイルを開く 293
 開く 411
 読み込み時のエラー 417
 読み込み時の基本設定 415
 読み込み時の処理 410
 翻訳 410, 413
 翻訳結果 414

I

Internet Explorer 8のアクセラレータで翻訳
 81
 Internet Explorerアドイン翻訳 26, 78

M

Microsoft Officeアドイン翻訳 88
 Microsoft Officeの起動と翻訳 88

N

NOTの訳 321
 ntm形式ファイル 151

O

OCR 355
 OCR設定 358
 OCRボタン 8, 345
 Officeのセキュリティの警告 392
 Outlook Expressアドイン翻訳 93

P

PDFダイレクトファイル翻訳 96
 制限事項 98
 設定 96
 無効 97
 有効 97
 PDFファイルの読み込み 441
 491

pdfファイルを開く	294
postfilter.txt	302
PowerPointの翻訳	91
prefilter.txt	302

T

Tabキー	33
Tab区切り	271
TMX形式ファイル	144, 152
TMXファイルのインポート	149
Transer画面の表示	40
Transerの起動	6
Transerの機能	4
Transerの終了	9
Translation Manager/2	144
TSV	270, 368
TSV形式	143, 153

W

Web検索	333, 363
ウィンドウ	334
翻訳/辞書	335
履歴	334
Webページの翻訳	78
Windowsメールアドイン翻訳	93
Wordの翻訳	27, 89

あ

アクセラレーターキー	341
インポート	342
エクスポート	342
キーの一覧表示	342
キーの割り当て	341
キーの順番を変更する	342
ファイル保存	342
無効にする	341
アクティブな領域の認識	457
アップデート	380

アップデートのお知らせ設定	381
アップデートの確認	380
アドイン	
無効	87
有効	87
アドイン設定	88
アドイン翻訳	
Excel	90
Internet Explorer	26, 78
Microsoft Office	88
PowerPoint	91
Word	27, 89
メール翻訳	93
アプリケーションの終了	9

い

一文の長さ	297
一文翻訳	38, 54
一括設定	337
一括置換	476
一括登録	271
一括登録でエラーがあった場合	275
一括フレーズ指定	69
一括翻訳	55
一致率	138
意味素性	188, 228
色の設定ダイアログ	329
印刷	18, 307, 310, 464
フォント	309
フッタ	308
ヘッダ	308
印刷種類	308
間隔	309
境界線を描画する	308
文番号を描画する	308
余白	309
印刷種類	308
印刷プレビュー	310, 465
印刷	465
閉じる	466

インストール時のエラー	490
インポート	142, 337
TMXファイルのインポート	149
手順	147
対訳ファイルの作り方	144
翻訳メモリのマージ	150
インポートできるファイルの種類	142

う

ウィンドウの連動	433
ウィンドウメニュー	40
受け身	76, 212
受身にする	320
上書き保存	299

え

英語のまま	387
英→日が作成するファイル	420
英⇄日変換	284
英文チェック	323, 372
英文字	318
エクスポート	152, 337
手順	153
エクスポートできるファイルの種類	152
エディタの書式	330
エラー	490
エラー情報ファイル	288
エラーメッセージ	488

お

大きいボタン	339
オート設定	484
大文字を小文字にして訳す	314
同じ未知語は検索しない	162
オフィスの起動と翻訳	88
オプション翻訳	73, 75, 316, 323
オリジナル文	52

か

カーソル位置以降を翻訳	55
カーソル位置に挿入	295
カーソルの移動	33
解除	451
回転	442
外部辞書	160
書込み用ユーザー辞書	168
書込み用ユーザー翻訳メモリ	118
学習解除	59, 62
学習機能	59
学習辞書	420, 422
学習辞書の新規作成	173
学習辞書の場所	173
学習辞書を使用する	17, 173
学習辞書を使わない	60, 62
学習辞書を読み込み専用で使用する	60
学習する／しない	173
格助詞の登録	266
簡易登録	266
拡大	466
拡張子から自動判別	292
カジュアル	324
箇条書き翻訳	74
カスタマイズ	338, 341
数の訳	322
画像	451
画像のDPI拡大	447
画像の回転	442
画像の回転を自動調整する	483
画像の傾き補正	442
画像の傾きを自動調整する	483
画像の消去	446
画像の白黒反転	447
画像のトリミング	445
画像のノイズ消去	445
画像のフィルタ	431, 445

画像の編集	442
画像ファイルの保存	468
画像ファイルの保存形式	469
画像ファイルの読み込み	438
画像ファイルを開く	438
画像歪補正	448
数えられる名詞の登録	238
カタカナの訳	
長音	318
連結文字	318
片側改行挿入	43, 146
傾き自動調節	442
傾き手動調節	442
傾き調節インタフェース	444
括弧書きの処理	390
画面配置情報のリセット	336
カラー原稿の読み込み	437
カレント文の選択	102
簡易登録	182, 231
間隔	309
環境設定ダイアログ	481
環境の設定	311
冠詞の訳指定	317
冠詞推定	322
完全一致文検索	101
カンマ区切り	271
管理者	407

き

キーボード	36
キーボードから入力して翻訳	37
キーワード検索	101, 111
機械翻訳	105, 141
記号	319
起動時に以前の作業状態で開く	487
起動時にウィザードを表示する	487
起動時の共有ファイルの読み込み	336
機能の実行	34

494

基本語辞書の語数	156
逆翻訳	332, 362
キャプチャ翻訳	8, 81, 344, 347
中止	348
認識可能な文字	349
認識言語	349
編集	349
翻訳言語の指定	348
境界線を描画する	308
強制的に機械翻訳を実行	105
共有とは	396
共有設定の流れ	398
共有ファイル	
アイコン	405
確認	404
管理者	407
共有解除	406
共有辞書を使用して翻訳	401
更新	403
再読み込み	404, 409
削除	406
読み込み失敗	409
保存場所の変更	406
切り取り	42, 478

く

空行	296
空白	297
句読点	318
クリック	32

け

罫線の削除	449
罫線の追加	449
罫線を表示する	330
契約前／後処理	377, 379
形容詞＋that節	218
形容詞＋to不定詞句	215
形容詞＋疑問節	219

形容詞＋前置詞句.....	214
形容詞＋動名詞.....	217
形容詞＋名詞.....	216
形容詞の簡易登録.....	213
形容詞の登録.....	213, 254
「～が～と」の登録.....	256
「～が～に」の登録.....	255
簡易登録.....	254
限定用法.....	257
後置修飾.....	257
形容詞をタグにした文の登録.....	130
形容動詞の登録.....	254
消しゴム.....	446
消しゴムモード.....	431
言語.....	486
原稿の準備.....	428
言語設定.....	358, 457
現在領域認識.....	451
検索.....	45, 478
検索エンジン.....	333
削除.....	334
追加.....	334
変更.....	334
検索オプション.....	136
検索結果の表示順位.....	139
作成者.....	139
登録日時.....	139
文書名.....	139
検索結果表示.....	139
登録情報.....	139
訳文.....	139
検索モード.....	136
限定詞.....	61
限定用法.....	257
原文エリア.....	13
原文ファイル.....	300, 420, 422
原文編集.....	384

こ

合成語を分割して訳す.....	315
後置修飾.....	257
構文解析情報の表示.....	389
構文マーク.....	387
候補文字	
ポップアップに表示する.....	487
置き換えを元に戻す.....	472
置き換え時パターン登録.....	487
置き換え時一括置換.....	487
候補文字ダイアログから選択.....	471
候補文字に置き換える.....	469
候補文字バーから選択.....	470
個人名の登録.....	243
コピー.....	42, 478
コマンドタブ.....	340
コメント.....	140
固有名詞の簡易登録.....	227
固有名詞の登録.....	227, 242
固有名詞を英語のまま表示する.....	315
コロソ.....	296

さ

最近使ったファイルを読み込む.....	293
再翻訳.....	54, 71, 72
作成者.....	139, 140
作成するファイル.....	420

し

辞書	
コピー.....	168
移動.....	168
削除.....	168
辞書名.....	168
優先順位.....	169
辞書共有.....	396
辞書参照.....	92, 157
辞書参照ツール.....	8, 81, 344, 351

参照する辞書	352
辞書設定ダイアログから指定する	174
辞書ソース出力	277
辞書ソースをユーザー辞書へ一括登録	271
辞書ソースをユーザー辞書へ追加登録	271
辞書登録	17
辞書登録ダイアログ	
リセットボタン	186, 235
活用形	184, 233
見出し語	183, 232
削除ボタン	184, 234
参照ボタン	184, 233
詳細登録ボタン	185, 234
先頭に追加	185, 234
登録ボタン	184, 233
登録内容	186, 235
品詞	184, 232
閉じるボタン	185, 234
訳語	183, 232
訳削除ボタン	185, 235
訳置換ボタン	185, 234
辞書の一覧	159
辞書の構成	156
辞書の表示色	171
辞書のプロパティを表示する	172, 270
辞書の見かた	159
辞書の優先順位	169
辞書引き	92
辞書変換	284
辞書変換でエラーがあった場合	285
辞書変換の制限	286
システム共通	335
シソーラス	63
「～している」の訳	321
自動傾斜判断	441
自動登録	141
自動バックアップ	335
自動判別	69, 141
自動領域解析	450
従属接続詞	184

従属接続詞の簡易登録	223
従属接続詞の登録	223
終了時にロバワードも終了する	356
縮小	466
主語がないとき	320
主語を補う	75, 320
主語を省略する	76, 321
手動設定	484
手動で領域を設定する	450
詳細	451
詳細登録	182, 231
常駐機能	359
ショートカットメニュー	35
初期表示倍率	482
書式	330
書式バーの利用	477
助動詞の訳指定	317
助動詞の訳	318
新規ウィンドウの表示方法	336
新規作成	294, 339
新規文書の作成	294

す

数字	318
数字と日付を自動的に置きかえる	137
スキャナから原稿の読み込み	428, 435
スキャナから読み込み	435
スキャナ接続	428
スキャナ選択	438
スキャナ入力	428
スキャナ入力	435
スクリプト	291, 301, 375
英→日前／後処理	377
出力スクリプト	375
操作スクリプト	376
日→英前／後処理	379
入力スクリプト	375
スクリプトの実行	376

スクリプトのタイプ.....	375
スタートメニュー.....	9
スタイルの構成.....	312
スタイルの選択.....	312
スペースや句点などの違いを無視する	137
すべて選択	44
すべて翻訳	55
すべてリセット.....	337
全てを置換	47
スペルチェック.....	323, 372
スライド翻訳.....	88

せ

制御コード	384
制限	
1文の長さ	297
英⇄日辞書変換.....	286
翻訳メモリのタグ.....	127
生成情報	125
生成情報を含む文型の登録.....	133
性の指定	243
セキュリティの警告.....	392
接続詞の訳指定.....	317
設定情報	337
設定情報のリセット.....	337
設定ダイアログ	
Web検索.....	333
システム共通.....	335
フォントと配色.....	328
ブックマーク.....	331
一括設定	337
英文チェック.....	323
逆翻訳	332
書式	330
訳振り	332
節や文をタグにした文の登録.....	132
セミコロン	296
セル単位	449
全角	137, 318

全角カタカナ.....	37, 294
全角の文末記号.....	298
全角／半角変換.....	455
選択状態	34
選択範囲を翻訳した場合のレイアウト..	80
前置詞の訳指定.....	317
前置詞の簡易登録.....	224
前置詞の登録.....	224
先頭に追加.....	185, 234
専門語辞書.....	156, 420, 422
専門語辞書自動選択.....	175
専門語辞書の設定.....	174
専門語辞書の優先順位.....	177
全リスト	58

そ

挿入	42, 43, 295
挿入位置	33
属性エリアを表示する.....	330
その他	360
その他タブ.....	487
その他の色.....	329
その他の設定.....	357
その他の編集機能.....	477
その他の訳指定.....	317

た

大、小文字を区別しない.....	137
タイトル翻訳.....	73
代名詞の訳指定.....	317
対訳ファイル.....	300, 420, 422
カンマ区切り.....	300, 420, 422
記号 H.....	301
記号 M.....	301
対訳ファイルで使用する記号	301
対訳ファイルの挿入.....	296
対訳ファイルを開く	293

タグ	22, 124
タグ解除	127
タグの指定	127
タグの対応	126
タグ名	124
縦書き	455
縦書きテキスト	451
タブ区切り	271
ダブルクリック	32
単位の簡易登録	226
単位の登録	226
単語の対応	15
単語の登録	17

ち

置換	46
直接文字を入力する	433

つ

追加登録	239
通常翻訳	74, 76
ツールの設定	357
ツールバー	35
ツールバーカスタマイズ	338
ツールバータブ	338
ツールバーの削除	339
ツールバーの新規作成	339
ツールヒントを表示	339
次を検索	45
常に所有格と訳す	316
常に複数扱いにする名詞の登録	241

て

である調で訳す	315
定義語	291, 366
テキストファイルの翻訳	13
デスクトップのショートカット	6

498

ですます調で訳す	315
転送先	468
テンプレートファイルの保存	452
テンプレートファイルの読み込み	452

と

同義語	63
動詞+that節	208
動詞+to不定詞句	209
動詞+間接目的語+直接目的語	199
動詞+疑問節	211
動詞+形容詞補語	198
動詞+前置詞句	194
動詞+動名詞	210
動詞+副詞	195
動詞+副詞+前置詞句	196
動詞+副詞+目的語	201
動詞+名詞補語	197
動詞+目的語	193
動詞+目的語+that節	206
動詞+目的語+to不定詞句	207
動詞+目的語+形容詞補語	205
動詞+目的語+前置詞句	200
動詞+目的語+分詞補語	204
動詞+目的語+名詞補語	203
動詞にかかる前置詞	388
動詞の簡易登録	192
動詞の登録	192, 247
「～が～と～する」の登録	252
「～が～に～を～する」の登録	250
「～が～を～する」の登録	248
簡易登録	248
受動態の登録	253
動詞を修飾	225
動詞をタグにした文の登録	129
登録確認画面を表示しない	141
登録情報	139, 140
登録内容に対する自動処理	230

「登録内容」の直接編集.....	229
登録日時	139, 140
閉じる	9
ドラッグ	33
トリプルクリック.....	32

な

長い文章を節・区ごとに区切って訳す	315
名前を付けて保存.....	19, 299

に

日→英が作成するファイル.....	422
入力	37
人間翻訳	141
認識	456
認識ウィザード.....	463
認識可能なデータ.....	425
認識結果ウィンドウの配置.....	485
認識結果の修正.....	433
認識結果の転送.....	434, 467
認識結果の保存.....	434, 466
認識後倍率	482
認識終了時確認メッセージを表示.....	485
認識処理タブ.....	484
認識速度の設定.....	484
認識対象文字.....	456
認識の順序変更.....	454
認識領域	358
認識領域の編集.....	453

の

ノイズのサイズ.....	483

は

バージョン情報.....	357, 382, 419
配色	328

バイリンガル認識.....	458
バイリンガル認識結果の転送	468
パスワード設定されたPDFファイル.....	441
パターン登録.....	479
貼り付け	42, 43, 346, 478
パレットの設定.....	356
反意語	63

ひ

否定語	191, 220, 222, 229
表451	
表示件数	138
表示するボタン.....	356
表示タブ	482
表示倍率増減幅.....	482
表示メニュー.....	40
標準編集フォント.....	486
表の編集	451
表編集	449
開く	13, 438
品詞変更	61
頻度リスト出力.....	369
頻度リストファイル.....	420, 422

ふ

ファイル	
ファイル名.....	290
開く	13, 290
保存	19, 299
翻訳	13
ファイルの共有.....	399
ファイルの形式.....	468
ファイルの保存形式.....	467
ファイル翻訳.....	64
ファイルを開く際の注意.....	293
フィルタ	291, 300, 302
ファイルの読み込み.....	303
ファイルの保存.....	304

新規作成	305
フィルタファイルの準備	302
フィルタファイルの書式	305
フォーマル	324
フォルダ構成	418
フォント	309, 328, 360
フォントサイズ	486
副詞詳細登録	260
副詞の簡易登録	221
副詞の登録	221, 259
簡易登録	259
詳細登録の各項目	260
訳語に否定の意味を含める	260
訳語を修飾語の直後	263
訳語を修飾語の直前	262
訳語を文頭	264
訳語を文末	265
副詞をタグにした文の登録	131
複数の翻訳メモリをひとつにまとめる	150
複数の訳語の登録	239
ブックマーク	49, 181, 331
追加	50
分類	49
ブックマークエリアを表示する	330
フッタ	308
ブラウザ表示	414
フラットボタン	339
プリンタの設定	307, 464
フレーズ解除	69
フレーズ指定	67, 71, 72
フレーズ指定のルール	67
フレーズ種別	68
フレーズ種別の確認	69
フレーズの色	328
フレーズ変更	68
フレーズ翻訳	67
プレビュー	440
付録	391
文切りの基準	296, 298

文型一致文検索	101, 111, 136
文型とタグ	123
文型の登録	133
文型を登録した場合の登録文	126
文書の挿入	295
文書の入力	290
文書翻訳	55
文書名	139, 140
文の終わり	296
文の基準	296, 298
文の区切り	296, 298
文の結合	39
文の入力	37
文の分割	39
文の分割抑制	385
文番号エリアを表示する	330
文番号ジャンプ	48
文番号をゼロ詰で表示する	330
分番号を描画する	308
文法チェックのレベル	324

ハ

並列の範囲	388
ページ指定	441
ページ設定	308
別解釈	77
翻訳ロック	77
ヘッダ	308
ヘルプ	9, 88, 182, 231, 382
編集コード	486
編集書式設定タブ	486

ホ

ホームディレクトリ	418
ホームページの翻訳	26, 78
ホームページの翻訳検索	82
ホームページ翻訳	

Internet Explorer 8のアクセラレータで翻訳	81	インポート	142
制限事項	86	インポートできるファイルの種類	142
選択した文章の翻訳	80	エクスポート	152
翻訳ツールバー	78	エクスポートできるファイルの種類	152
ホームページ翻訳の設定	85	キーワード検索	111
保存	19, 299	コメント	140
ボタンの設定	356	スペースや句点などの違いを無視する	137
翻訳	54	タグ	124
翻訳エディタ	7, 345	タグの制限	127
翻訳結果が正しくない場合	80	タグの対応	126
翻訳結果の保存	19	タグを外す	110
翻訳言語の切り替え	89	タグ解除	127
翻訳言語リストの取得	78	タグ指定	127
翻訳検索	82	タグ名	124
翻訳検索の設定	84	ユーザー翻訳メモリの作成	115, 117
翻訳辞書の参照	157	ユーザー翻訳メモリの選択	115
翻訳しない	68, 387	リストからはずす	117
翻訳種別	291	一括登録	134
翻訳設定	313	一致率	138
翻訳設定ダイアログ	313	完全一致文の登録	123
英日翻訳	314	環境設定	136
英日用訳の指定	317	基本操作	102
日英翻訳	320	強制的に機械翻訳を実行	105
翻訳ツールバーの表示	78	形容詞をタグにした文の登録	130
翻訳できないケース	55	結果表示エリアから貼り付け	114
翻訳に関する設定	312	検索オプション	136
翻訳の流れ	12	検索モード	136
翻訳パレット	344	検索結果の貼り付け	113
翻訳パレットの起動	8, 344	検索結果の表示	113
翻訳パレットの終了	9, 344	検索結果の表示順位	139
翻訳ファイル	19, 300, 420, 422	検索結果表示	139
翻訳ファイルの保存	19	作成者	140
翻訳フラグ	122, 141	使用する翻訳メモリを選択する	116
機械翻訳	141	書き込み用ユーザー翻訳メモリ	118
自動判別	141	数字と日付を自動的に置きかえる	137
人間翻訳	141	制限	113
翻訳文の作りかた	383	生成情報	125
翻訳メモリ		生成情報を含む文型の登録	133
		節や文をタグにした文の登録	132
		対訳文の検索	111
		対訳文の削除	122
		対訳文の登録	22, 105, 121
		大、小文字を区別しない	137

登録	120
登録している対訳文を一覧表示	114
登録確定画面を表示しない	141
登録情報	140
登録日時	140
動詞をタグにした文の登録	129
表示件数	138
副詞をタグにした文の登録	131
文型とタグ	123
文型を登録した場合の登録文	126
文型一致文検索	111, 136
文書名	140
保存場所	115
翻訳エディタとの連携	102
翻訳エディタへ反映	114
翻訳フラグ	113, 141
翻訳メモリとは	100
翻訳メモリの名前を変更する	119
名詞をタグにした文の登録	128
訳文を確定するとき自動登録	141
訳文生成方法	316, 322
訳文入力エリアから貼り付け	114
類似文検索	112
例文	124
翻訳メモリ共有	396
翻訳メモリの準備	336
翻訳メモリのマージ	150
翻訳メモリの優先順位	118
翻訳メモリペイン	
表示	102
名称	102
翻訳メモリを使った翻訳	20
翻訳ロック	374
翻訳ロック解除	374

ま

マウス	
クリック	32
ダブルクリック	32
ドラッグ	33
トリブルクリック	32
ポイント	32

操作	32
マウスカーソル位置の訳語対応強調	330
前／後処理	377, 379
前処理貼り付け	43
前を検索	45

み

見出し語	183, 232
未知語	322
未知語検索	161
未知語リスト出力	163
未知語リストファイル	420, 422
未知語をローマ字にする	322

め

名詞＋to不定詞句	190
名詞＋前置詞句	189
名詞詳細登録	236
名詞にかかる前置詞	388
名詞の簡易登録	187
名詞の登録	187, 236
冠詞情報を付加	245
簡易登録	236
個人名	243
固有名詞	242
助詞「で」の指定	244
助詞「に」の指定	244
詳細登録の各項目	236
常に複数扱いにする名詞	241
数えられる名詞の登録	238
性の指定	243
複数の訳語の登録	239
名詞を修飾	224
名詞をタグにした文の登録	128
命令文を平叙文として訳す	315
メール翻訳	93
設定	95
メニュー	34

も

目的語がないとき.....	321
目的語を補う.....	321
文字結合.....	475
文字色を認識.....	485
文字認識の実行.....	432
文字の幅.....	483
文字表示色.....	485
文字分割.....	472
文字方向.....	455
文字列の選択.....	33
元に戻す.....	42, 478

や

訳語対応.....	15, 56, 330
訳語の学習.....	16, 17
訳語ペインの操作.....	58
訳語ペインの「品詞」タブの操作.....	62
訳語変更.....	15, 57
訳語を学習しない品詞.....	60
訳の指定方法.....	317
訳振り.....	332, 361
訳文.....	139
訳文エリア.....	14
訳文生成方法（優先順）.....	316, 322
訳文の色.....	328
訳文の保存.....	20
訳文ファイル.....	20, 300, 420, 422

ゆ

ユーザー辞書.....	420, 422
Excelを利用したユーザー辞書の作成.....	278
テキストファイルに変換.....	277
一括登録.....	270
簡易登録.....	182, 231
記号.....	187
見出し語、訳語が記号を含む場合.....	187
語数.....	156

作成.....	165
辞書ソースから一括登録.....	271
辞書ソースから追加登録.....	271
辞書のプロパティを表示する.....	172, 270
辞書の表示色.....	171
辞書の名前を変更する.....	170
辞書登録ダイアログ.....	183, 231
書き込み可能なユーザー辞書.....	168
詳細ダイアログ.....	235
詳細登録.....	182, 231
詳細登録モード.....	186
新規に作成する.....	167
選択.....	165
単語を登録する.....	17, 182, 231
登録用ユーザー辞書.....	168
変換.....	270
翻訳で使わないように設定する.....	167
用語の表示.....	178
ユーザー辞書ブラウザ.....	268
ユーザー定義.....	319
ユーザー翻訳メモリ.....	115
新規に作成する.....	117
登録用ユーザー翻訳メモリ.....	118
翻訳メモリの名前を変更する.....	119
ユーザーロック.....	374
優先順位.....	169

よ

用語集.....	178
用語の抽出.....	180
横書き.....	455
横書きテキスト.....	451
余白.....	309
読込専用学習辞書.....	173

り

リセット.....	186, 230, 235, 313, 327
リッチテキストの領域構造を優先.....	487
略語.....	319
領域	

アクティブ	453
サイズの変更	453
移動	453
順序変更	454
消去	453
統合	453
領域処理タブ	483
領域精度	358
領域設定	455
領域属性	455
領域のプロパティ	451
領域番号を表示する	484
領域表示色	484

る

類似文検索	101, 112

れ

例文	124

連語の扱い	163
連続してスキャナから読み込む	437
連続スキャン入力	437
連続する文章の翻訳	55
連続認識	459
連体助詞の登録	267
簡易登録	267

ろ

ロック	374
ロック解除	374
ロボワード辞書検索	8, 344, 352
ロボワードスピーチ	8, 344, 354
ロボワードワンタッチ翻訳	8, 344, 353

わ

ワークシート翻訳	88
ワンポイント翻訳	8, 81, 344, 350

Legal Transer 2010 for Windows

ユーザーズ・ガイド

〈ユーザーサポート〉

株式会社クロスランゲージ ユーザーサポート
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-20-9 西早稲田オーシャンビル7F
TEL 03-3208-7671 FAX 03-5287-7585
E-mail : support@crosslanguage.co.jp
祝祭日を除く月曜日～金曜日10:00-12:00 13:00-17:00

発行日	2009年 9月 （初版）
編集／発行	株式会社クロスランゲージ 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-20-9 西早稲田オーシャンビル7F
ホームページ	http://www.crosslanguage.co.jp/
サポートページ	http://www.crosslanguage.co.jp/support/